



筑波大学

University of Tsukuba

学群スタンダード

筑波

スタンダード

TSUKUBA STANDARDS
for Undergraduate Schools and Colleges

学群スタンダード

人間としての可能性を 知の拠点 TSUKUBA で拓く

建学の理念を踏まえて、学士課程における教育の目標とその達成方法及び教育内容の改善の方策を含む教育の枠組みを明らかにし、学位の質の保証と持続的向上を目指す本学の教育宣言として広く社会に公表します。

建学の理念

筑波大学は、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的とする。

従来の大学は、ややもすれば狭い専門領域に閉じこもり、教育・研究の両面にわたって停滞し、固定化を招き、現実の社会からも遊離しがちであった。本学は、この点を反省し、あらゆる意味において、国内的にも国際的にも開かれた大学であることを基本的性格とする。

そのために本学は、変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ、多様性と柔軟性を持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発する。更に、これらの諸活動を実施する責任ある管理体制を確立する。

IMAGINE THE FUTURE.

筑波大学は「新構想大学」と呼ばれ、「開かれた大学」を開学の理念として生まれました。旧来の大学のありかたを反省し、「学際」そして「国際」化への「改革」を掲げた、原点もアイデンティティもここに 있습니다。その後の時代の流れを見れば、この理念の予見したものが、いかに先進的であったかがわかります。学際化、リベラルアーツ教育、産業と学問の連携、国際交流、留学生の受け入れなど、ことごとく時代の求めるところとなってきました。私たちは、この理念の先進性、先見性を誇りに思うべきです。

あえていうならば、私たちは「伝統校」「名門校」の称号よりも、新しい、開かれた「先端校」「先進校」の理念を選んだのです。東京高等師範学校、東京教育大学という伝統の誇りはいまでも私たちの内にありますが、東京を離れ筑波に地を得たとき、誓ったものは新しい「改革」と「挑戦」の理念でした。「筑波」とは地名ではなく、その理念の代名詞だと思ふべきです。改革者は改革をやめず、開拓者は開拓をやめません。つねに、開かれてあること。みずからの改革をつづけ、時代の矢印となること。筑波大学が目指すナンバーワン、オンリーワンとは、最も「未来志向」の大学であること、ではないでしょうか。世界と未来に向いたTSUKUBA CITYの中核として。医学・体育・芸術もあり、肉体性と感性の領域まで含む人間理解と人材育成を目指す、真の意味での総合大学=UNIVERSITYとして。

筑波大学とは「未来へのフロントランナー」である、と、あらためて確認して、この新しい伝統のバトンを、絶えることなくリレーしていきたいと思ひます。

筑波スタンダードとは何か

筑波スタンダードは本学による教育宣言です。学士課程のスタンダード(平成20年3月公表)と大学院のスタンダード(平成23年6月公表)の2種類があり、各課程で筑波大学が何を目指し、その目標をどうやって達成するかを明らかにし、本学が保証する教育の質を広く社会に公表するものです。質を維持するだけでなく、それをたえず改善し、持続的に向上させるツールとして、筑波スタンダードは学内でも重要な役割を果たしています。

「学位プログラム」の意義

学位プログラムとは、学士・修士・博士といった学位の水準と学問分野に応じて達成すべき能力を明示し、その能力を学生が修得できるように体系的に設計された教育プログラムのことです。学部等の教育組織に教員が固定される従来型のシステムでは、個々の教員が提供する授業の総和としてプログラムが組まれるため、社会の要請や学生のニーズよりも教員の事情が優先されがちでした。それに対し、学位を国際的互換性のある能力の証明と位置づけた上で、学位に相応しいプログラムにするために学内外の組織の枠を越えて教員が集まり、学生視点での教育内容を提供するのが学位プログラムです。学位プログラムを中心とした教育システムとすることにより、学生にとっても社会にとっても、大学の教育目的、教育内容、教育成果が見えやすくなります。

筑波スタンダードと学位プログラム

本学は開学以来、従来の学部とは異なる「学群・学類」を置き、学生の教育のための組織と教員の研究のための組織を分離した体制の下で学士課程の教育を実施してきました。この教育システムにより、一つの組織内で閉じることなく、教育の必要性に応じて全学から担当教員を配置することを可能としています。これは、学位プログラムの考え方を体現した教育システムと言えます。さらに2011年度には、新たな教員組織(系)を設置する組織改革を行い、大学院も含めて学位プログラムに適した運営基盤を整えました。そして今回の筑波スタンダードでは、すべての教育組織において、学位ごとの「学位授与の方針」と「教育課程編成・実施の方針」、およびその質を保証する方策を明示しました。

これらは、本学の建学の理念に基づく一貫した取組です。今後も、国際的互換性と協働性を備えた教育システムとして全学的に学位プログラム制を確立すべく、教職員一同、さらなる教育改革に邁進する所存です。

筑波大学長 永田恭介

学士課程の教育目標

世界に通用する知性・人間性・逞しさを備えた
グローバル人材の育成に向け、以下の教育目標を掲げる

■ 本質を究める確かな基礎力と柔軟な思考力に
裏打ちされた創造性を養う

■ 国際的な活躍の礎となる
豊かな教養とコミュニケーション力を育む

■ 芸術やスポーツに親しみ、
優れた文化的営みに感動する力を養う

■ 自然と人間を慈しみ、
積極的に社会に貢献する態度を育む

■ 生涯を通して学び、
自律的に自己を成長させ続ける力を養う

学生本位の教育システムによる学位の質保証

学位プログラム、適切な学修プロセス、責任ある教育実施体制により、学位の質を保証します

学位プログラムの構築

筑波大学は、グローバル社会で活躍できる人材の育成に向けて5つの教育目標を定めるとともに、教育目標を達成するために学士課程のすべての学生が修得すべき具体的な知識・能力等として、6項目の汎用コンピテンスを定めています。(表1)

筑波大学の学士課程では、これらの知識・能力等を学生が確実に身に付けられるよう、全学的な教育の枠組みとして、共通教育と各学群・学類の専門教育を有機的に連携させた教育システムを構築しています。

また、各学群・学類は、学生の卒業後の活躍の場や姿のイメージを具体化した上で、汎用コンピテンスに加えてどのような専門的知識・能力等を養うか(学位授与の方針)、それを達成するためのカリキュラムをどのように編成し実施するか(教育課程編成・実施の方針)、その教育に相応しい入学者としてどのような資質や志を持った人材を求めるか(入学者受入れの方針)という3つの方針とともに、恒常的な教育改善の仕組みを明確化して、体系的な教育を実施します。

このように学位授与に至る道筋として、3つの方針を明確化する考え方は学位の質を保証する上で極めて重要であり、それをさらに推し進めた教育システムが学位プログラムです。筑波大学は、学生本位の視点に立って、学生の学修成果を保証する学位プログラムを構築します。

適切な学修プロセス

学位の質を保証するためには、体系的なプログラムの整備とともに、単位制度の実質化や厳格な成績評価等により、学生が適切な学修プロセスを経るよう指導することが必要です。

各学群・学類及び共通科目等の実施組織は、各授業科目により修得する知識・能力等とその過程(授業

の事前・事後の学修を含む)を学生に明示し、計画的に授業を展開します。各授業科目における学生の到達度の判定にあたっては、明確な成績評価基準の下で厳格な成績評価を行います。

シラバス(授業計画)の充実やグレード・ポイント・アベレージ(GPA:履修科目の成績の平均値)の活用、大学院生によるティーチング・アシスタントの効果的な配置等により、学生の学修プロセスを国際標準に準拠させていきます。

責任ある教育実施体制

教育の基本方針や教育改革に関する基本計画の策定、教養教育、学生生活支援、障害学生支援、キャリア支援等については、全学的な組織を設置して、企画立案と実施の総括を行います。

各学群・学類においても、教育・学生支援に関する様々な業務を組織的に遂行する体制を整備し、責任をもってその実施にあたります。

また、全学的な学生組織と概ね20人の少人数クラス制により、学生の意見反映や学修全般に関するきめ細かな指導を担保します。

汎用コンピテンス(学士課程)	
コミュニケーション能力	母語や外国語を適切に用いるとともに、各種メディアを利用したプレゼンテーション等を行うコミュニケーション能力
批判的・創造的思考力	一般的・専門的知識の体系的理解をベースに批判的・創造的に思考する能力
データ・情報リテラシー	様々な事象や情報を数量的手法やコンピュータ等を用いて適切に解析・処理する能力
広い視野と国際性	自身の専門に留まらず文化・社会と自然・物質に関して幅広く理解し、異文化を理解・尊重する能力
心身の健康と人間性・倫理性	芸術やスポーツへの理解と実践等を通して心と身体の健康を保ち、人間性と倫理性を有する市民としての責任を自覚して実践する能力
協働性・主体性・自律性	チームワークやリーダーシップを通して様々な物事に対処し自己を管理しながら自律的に学び続け行動する能力

表1 汎用コンピテンス(学士課程)

TSUKUBA 方式によるグローバル人材の育成

「学生本位の視点」「国際的視点」「未来の視点」に立って、世界に通用する知性・人間性・逞しさを育てます

■ 学生本位の視点

筑波大学の学士課程のカリキュラムでは、全学修期間を通して、確かな専門性とそれを支える豊かな教養を養います。そのために教養教育と専門教育を二分せず、学生の履修上の観点から、両者を統合したカリキュラムを編成・実施します。学位に応じて学生の学修成果を保証する教育システムとして、学位プログラム制を構築します。

教育の実施に当たっては、教員と学生・学生同士が相互に作用し合うアクティブ・ラーニングを重視し、学生の主体的・能動的な学修を促します。課外においても、各種課外活動団体の支援に加えて、本学独自の「T-ACT」システムにより、学生の自発的な活動をサポートします。また、全学的な学生組織により、学生と教職員が協働して教育・学生生活の充実・改善に取り組めます。

■ 国際的視点

学生が世界に目を向け、グローバル社会で活躍できる資質を身に付けるための仕組みや環境の整備をあらゆる面にわたって強力に推進します。

各々の専門分野において国際性に富んだ質の高い教育を実施するとともに、グローバル人材としての基礎的素養を培う「グローバル科目群」の設定や海外留学支援策の充実・強化により、「世界を学びの場」とする学修環境を構築します。

また、世界の様々な国からの留学生と日本人学生が、国籍や文化、専門分野の区別なく日常的に接し協働する学修スペースの配置や、多言語で交流できるカフェの開催などにより、本学のモットーである「国際性の日常化」を体現するキャンパス環境を構築します。

さらに、国境を越えて教育の質を保証していくために、国際的な通用性・互換性のある教育システムの構築に先導的に取り組みます。

■ 未来の視点

変化の激しいグローバル社会において未来を切り拓く力を育成するために、産業界等と連携した教育を積極的に実施します。各界のリーダーによる講義や、様々なフィールドにおける実習・インターンシップ等の実践的な科目を通じて、社会の課題の本質を捉え未来を洞察する力を養います。

学生のキャリア形成支援は入学時からスタートします。学生が自分の将来と大学における学修を結び付けて考えるためのキャリア関連科目や本学独自の「つくばキャリアポートフォリオ」等により、学生のキャリア形成を体系的に支援します。

このように、学生が社会の未来と自分の将来を重ね合わせながら、問題意識と高いモチベーションをもって学修を進めることにより、個性と自立を基軸として社会に主体的に貢献する力を育成します。

世界に通用する知性・人間性・逞しさを備えたグローバル人材

国際的視点

「世界を学びの場」とする学修環境
「国際性の日常化」を
体現するキャンパス環境
国際的互換性のある教育システム

学生本位の視点

学生の学修成果を保証する
学位プログラム制の構築
学生の主体的・能動的学修
学生と教職員の協働

未来の視点

産業界等と連携し、グローバル社会において
未来を切り拓く力を育成
社会の未来と学生自身の将来を
重ね合わせたキャリア形成

TSUKUBA 方式によるグローバル人材の育成

学士課程における新教育理念

専門分野の学びとしての垂直展開と教養涵養のための水平展開

Ⅰ 理念

本学では開学以来、「共通科目」に加えて、他組織開設の専門科目等を履修する「関連科目」を置いて、他学群・学類の専門性を統合した教養教育を通じ、広い学問的視野に基づく高度な問題解決能力を持つ学生を養成してきました。

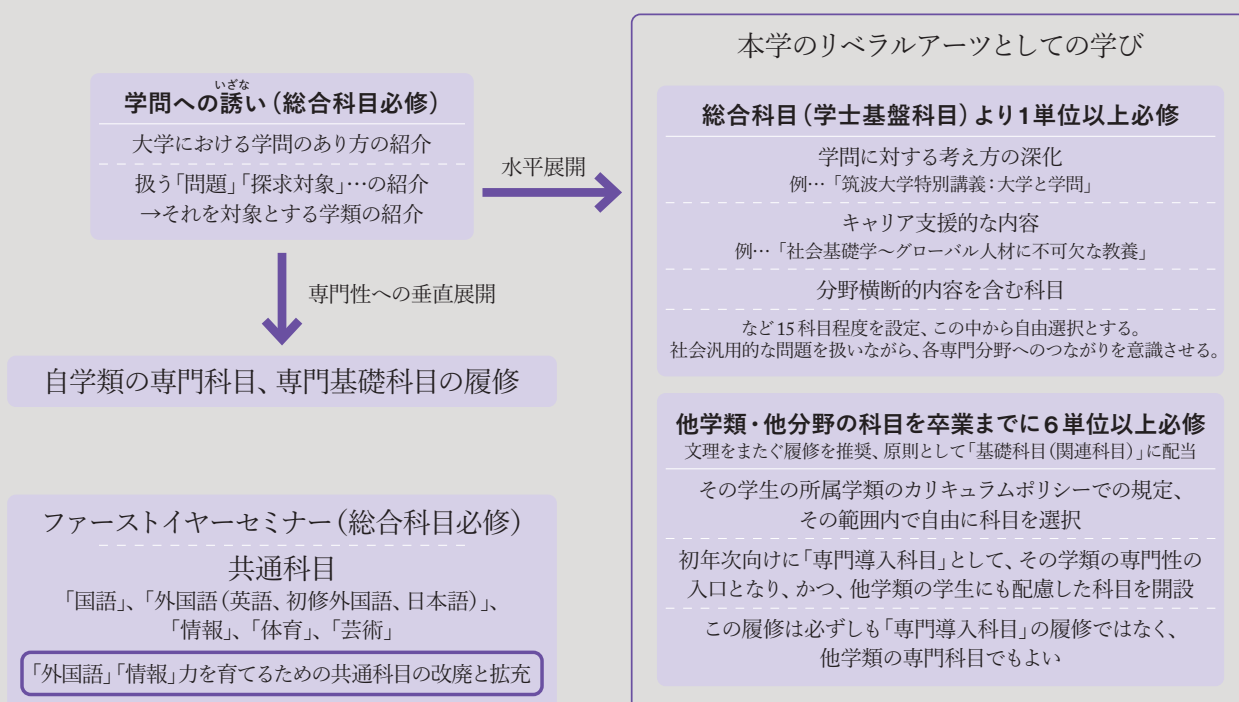
この精神を踏襲し、さらに専門智と汎用智が涵養されて総合智を身につけることができることを理念とする教育体系を構築しました。図のように、自らの専門性を深める学びを垂直的な学びの展開ととらえ、本学のリベラルアーツとしての学びは水平的な学びの展開ととらえます。この両者をともに実践できる教育体系を実現できることを理念としています。

Ⅱ 理念を実現するために

この水平と垂直の要(かなめ)に、「学問への誘い^{いざな}」を総合科目(必修)として開設し、この履修を通じて大学における学問のあり方や扱う問題、探求対象をまず学びます。一方、学問に対する考え方の深化や、グローバル

人材に不可欠な教養、あるいは分野横断的な内容を含む総合科目(学士基盤科目)の中から自由に選択して履修することで、社会にある様々な探求対象と学問分野のつながりを理解します。また、各学類・専門学群が開設する「専門導入科目」の履修は、その科目を開設した組織に所属する学生にとっては専門の基礎を学ぶものとなり、それ以外の学生にとっては自分が専門とする分野とは異なる分野の学びとするしくみを整えています。各教育組織がそのカリキュラムポリシーに基づき、水平・垂直ともに体系的な履修を促すことで、学士課程において一貫した教養教育と高度で深い専門教育をより充実したものにします。これにより、複数分野から学生各自が自分の専門性を発見するための能力を涵養し、さらに、様々な学問分野の中で自分の主たる専門分野の位置づけを説明できる広い視野を持つ人材を養成します。

この理念の実践を更に推し進め、2021年度からは「総合学域群」を新たに設置しました。総合学域群では、入学して1年間様々な学問分野に触れた上で所属する学群・学類を選択することができます。



全学的な教学マネジメントの実現

モニタリングとプログラムレビューを中核とする内部質保証の確立により教育の継続的な改善を推進します

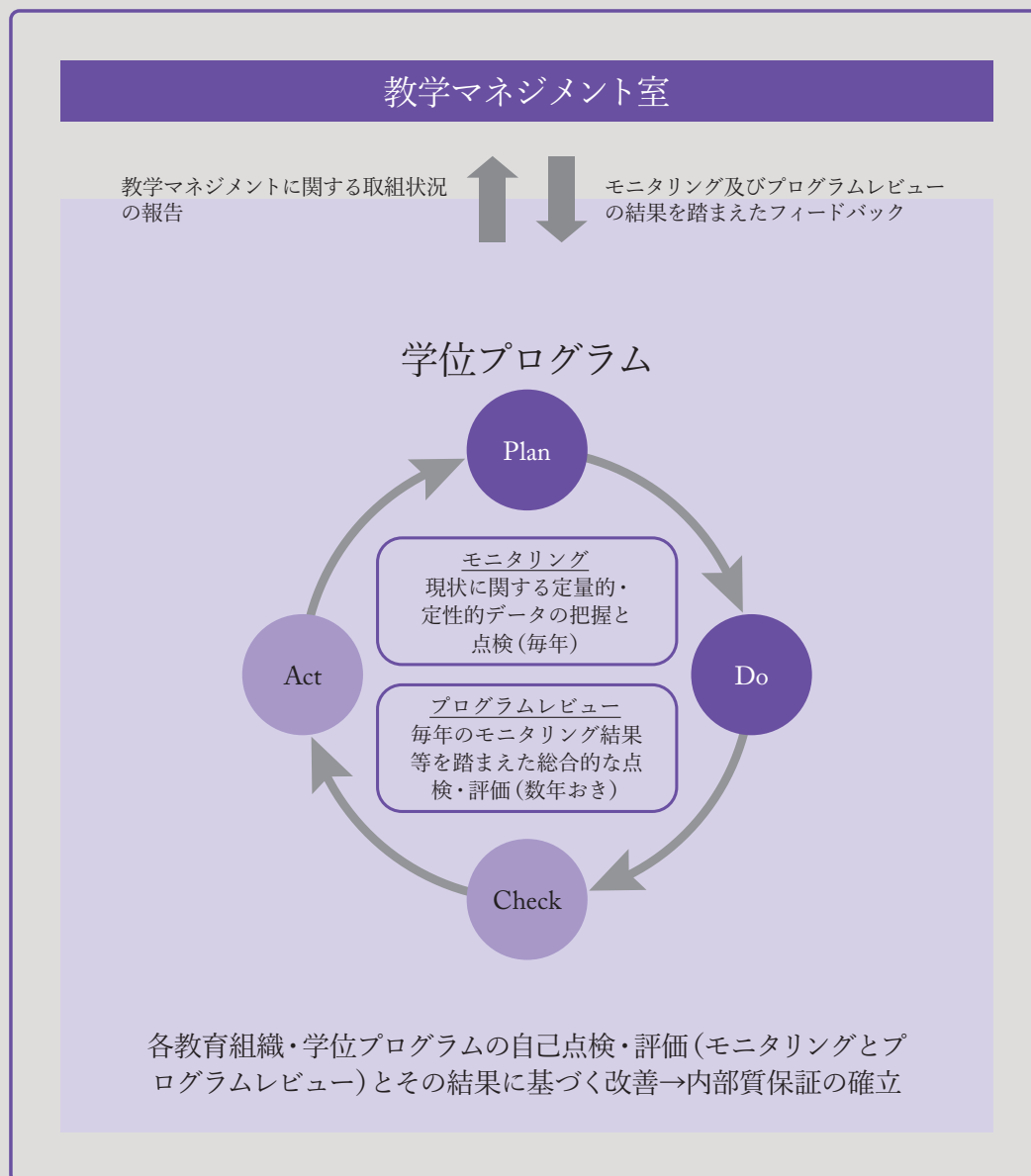
■ 全学的な教学マネジメントによる PDCA サイクルの推進

改組再編後の学位プログラムの教育の質を持続的に保証・向上させていくため、教学マネジメント室を設置し、全学的な教学マネジメントを実現します。

教学マネジメント室では、学位プログラムのモニタリング(毎年の自己点検)とプログラムレビュー(機関別

認証評価の7年サイクルに合わせて数年おきに実施する総合的な点検・評価)の取組を中核としつつ、学位プログラムの新設又は改組等に伴う質保証の審査、体系的なファカルティ・ディベロップメントの推進及び高等教育に関する調査研究などを行い、内部質保証の確立と高度化を図ります。

モニタリングとプログラムレビューによる内部質保証の確立(イメージ図)



全 体 目 次

学長からのメッセージ	3
学士課程の教育目標／達成に向けた方針	4

教養教育

Liberal Arts Education

10

総合学域群

School of Comprehensive Studies

24

学群・学類

Undergraduate Schools and Colleges

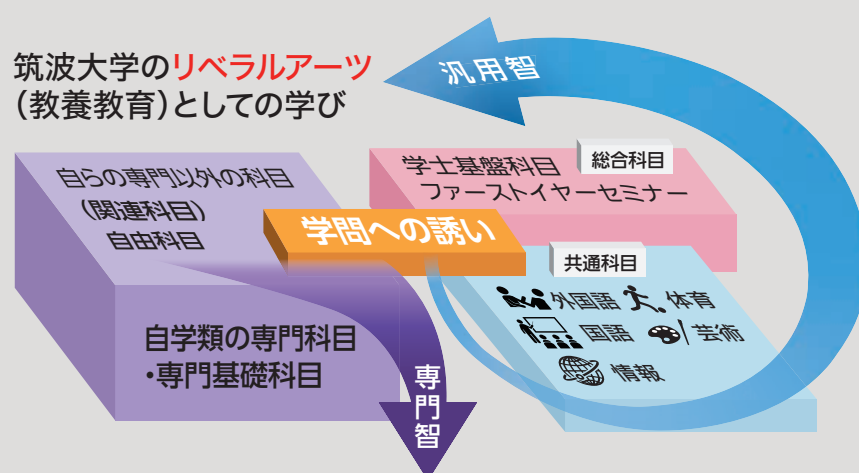
26

筑波大学の総合智教育と教養教育

本学は、高度に専門的な知識「専門智」と、それを活かす多様で学際的な知識の修得で得られる総合的な知的基盤に加え、倫理観や人間性、論理性、国際性、コミュニケーション力、豊かな心身基盤、マネジメント・企画調整力などの「汎用智」がバランスよく培われた高度な知的人材を育て上げるための教育体系を「総合智教育」と定めています。この体系による教育により、国際化や科学技術の進展など激しい変化に対応できる統合された智の基盤を涵養します。各自が専攻する専門分野にとらわれることなく、共通に求められる知識、思考法等の知的技法、人間としてのあり方や生き方に関する深い洞察、及び現実を正しく理解する力の獲得はまた、各自の専門分野を掘り下げる原動力となるはずです。

本学では、様々な学問分野への造詣や社会汎用的な問題を学問分野に還元してゆく視座を総合科目により醸成するとともに、自らの専門以外の専門科目の履修を促すしくみを全学的に組み込みます。これを本学におけるリベラルアーツの学びとしてとらえ、さらに、全学共通的に学ぶ外国語や情報、体育、国語、芸術を含めて本学の教養教育と位置付けます。各学類・専門学群で開設される専門基礎科目や専門科目の学びがその専門性への垂直的展開とすれば、本学におけるリベラルアーツの学びは教養教育の水平的展開といえます。この両者を車の両輪とするカリキュラムを全学的に構築しています。

学生一人ひとりの関心と必要に応じた、様々な学類・専門学群の開設科目の履修を含む学生自身による自由な履修設計を通して、専門性を深める教育と教養を育む教育により得られた知識が学生自身の内に融合され、総合智として広い学問的視野に基づく高度な問題解決能力を備えることができます。



教育の質を保証する仕組み

本学の総合知教育を推進し、その質を高めていくために、全学的組織として総合知教育推進委員会を設置しています。共通性の高い汎用知の醸成にかかわる学群共通科目や総合科目の企画・編成・継続的改善を行い、専門知の涵養をになう各学群・学類との有機的連携を強化しながら、バランスのとれた総合知の醸成を展開します。

教養教育の中の共通科目の位置付け

筑波大学における共通科目は、専門分野に関する知識の修得において基礎的な技能となる表現能力、構成能力、およびコミュニケーション能力の養成を通して、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的としています。とくに学問上の枠組みにとらわれない普遍的な内容の構成に配慮しながら、大学生として相応しい学術的・学際的な素養が身につくような科目体系を構築しています。

総合科目

Multidisciplinary Subjects

■ 教育目標 ■

初年次から高年次まで、大学という新しい学修環境に
適応し、協働しながら自律的にキャリアを形成すること
を目指します。さらに、自然と人間、多様な社会と文化
に関わる幅広い学問分野に触れて、既存の枠組みを超
えたこれからの社会に必要な知の基盤を学び、人間と
しての真のあり方や生き方に対する深い洞察力、世界
を正しく捉える能力の獲得を目指します。

■ 教育内容 ■

初年次生が、大学という新しい学修環境に適応し、自
律的にキャリア形成を始めることを支援する少人数編
成科目、さらに高年次にわたって、学問のあり方や自身
との関わりについて、幅広く多様な視点から考えること
により、専門分野へ進むための確かな知的基盤を整え
る多様な科目があります。

ファーストイヤーセミナー

20名前後の新入生と担任教員1名で構成するクラス
を単位として、春ABモジュールに開講する科目です。
履修計画やキャリア形成、メンタルヘルスなど学修面・
生活面の両面から大学生活に適應できるよう支援する
とともに、学生と教員及び学生間のコミュニケーション
を図ります。

学問への誘い^{いざな}

大学における学問分野の成り立ちや広がり、他の学問
との関係性について具体的な問題から解き明かす科目
です。自ら専攻しようとする専門分野の意義や、それら
専門分野の学群・学類での位置付けについても理解を
深めます。

学士基盤科目

大学での自身の学びを、俯瞰的に捉えて動機づけられ

るように、広く社会や世界の視座からの多様な考え方・
生き方に触れる科目群です。この科目を履修すること
で、自らの学問的基盤を整えます。この科目群には、学
問に対する多様な考え方ができるように、キャリア支援
的な内容、分野横断的な内容、自己分析や自己の確立
を促す内容、社会生活への適應性を涵養する内容を
含みます。

■ 教育方法の特徴 ■

■ファーストイヤーセミナーでは、少人数クラスに分かれ、
担任教員を中心として初年次学生向けのガイダンス及
びケアを手厚く行っています。

■学問への誘い^{いざな}では、大学の学問の広さ深さが実感で
きて、学生の専門分野の選択や履修計画の参考になる
ように、本学独自に編集したガイドブックを使用します。

■学士基盤科目では、世界の第一線で活躍中の学内外
の研究者・著名人によるリレー講義科目、OB・OGを
招いて社会体験を踏まえじっくり語り合う科目、本学の
伝統に密着した科目など、多様なスタイルの科目群か
ら選択して履修することができます。

■manabaやティーチング・アシスタントを活用するなど
多様な授業方法を実践し、全学を先導する教育を行っ
ています。

達成すべき水準

協働性・主体性・自律性

ファーストイヤーセミナーを通じて学生と教員、学生間のコミュニケーションを図り、チームワークとリーダーシップの重要性を理解します。

広い視野と国際性

学問への^{いざな}誘い・学士基盤科目では、自然と人間、社会と文化にかかわる幅広い知識・考え方に触れることにより、自分が専攻する分野の相対的な位置づけを認識し、俯瞰的な視野と学際的なものの見方、国際性及び社会適応性を身につけます。

教育の質の保証

履修指導の充実

本学の教養教育の理念・目標を理解した上で履修できるように、履修指導を行います。具体的には、入学式後に開催される学類・学群ごとのオリエンテーションの中で総合科目について丁寧な履修ガイダンスを実施します。

「総合科目」専門部会

総合科目のあり方、科目の内容や成績評価のガイドラインについて検証します。

FDの実施

筑波大学FD 委員会の一環として、授業評価アンケートを実施し、その結果を各担当教員へフィードバックすることで、自己点検を実施するとともに総合科目の改善等を図ります。

総合科目 合計3単位以上必修

ファーストイヤーセミナー

1単位必修

学問への^{いざな}誘い

1単位必修

学士基盤科目

1単位以上必修

体育

Physical Education

教育目標

本学の体育(筑波体育)は、最新のスポーツ科学を基にした多様なスポーツ実践を通して、生涯スポーツに向けたスポーツ技術の修得、健康・体力を維持増進するための知識と実践力、社会人としてのフェアな考え方、他者理解とコミュニケーションについて学ぶことにより、『健やかな身体・豊かな心・逞しい精神』の育成を目指します。修得される汎用コンピテンスとして、「心身の健康と人間性・倫理性」、また、「協働性・主体性・自律性」が挙げられます。

教育内容

カリキュラムは、基礎体育(1年)、応用体育(2年)、発展体育(3年)と学年に応じて学修目標を設定しています。授業は、実技を中心としていますが、健康、体力、スポーツの意義などについて講義も実施しています。

実技

実技は、個人スポーツ、球技スポーツ、武道、アウトドアスポーツ、ダンスなど多彩な科目を開設しています。

また、健康・体力づくりに関する実技として、フィットネストレーニング、リフレッシュ体操やジョグ&ウォークなどを開設しています。

講義

生涯にわたってスポーツを楽しむという観点から、健康・体力づくりに関する問題やスポーツの意義、及びスポーツを楽しむためのスポーツ技能の修得法などについて学びます。

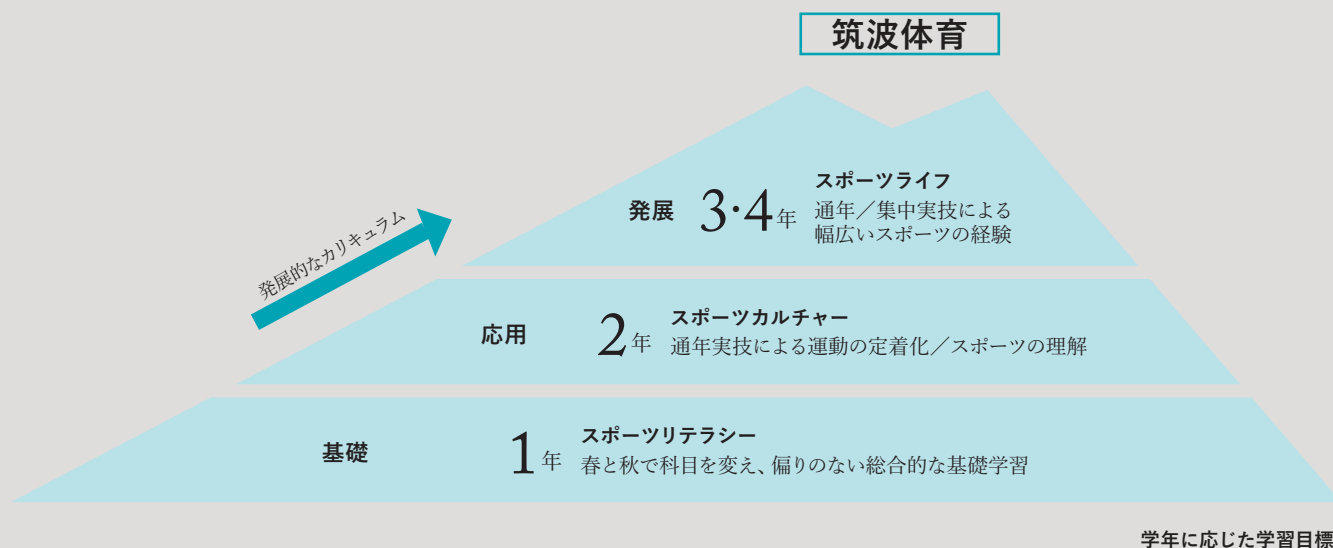
教育方法の特徴

本格的なスポーツ施設での授業

公式大会の開催が可能な陸上グラウンド、人工芝のサッカー場やテニスコート、学内を囲むように整備されたジョギングコースなどの16の屋外施設と中央体育館、温水プールなどの25の屋内施設を用いています。

多彩な授業科目

テニス、バレーボール、バスケットボール、サッカーなどのポピュラーなスポーツはもちろんのこと、トランポリン



などを行う器械運動、気功や呼吸法を学ぶボディ・ワーク、つくばマラソンで完走を目指すジョグ&ウォーク、けがなどを抱えた学生に対応したトリム運動、護身術としても活用できる柔道や空手など、科目数は30数種目に及びます。

豊富なシーズンスports科目の展開

スノーボード、スキー、ウインドサーフィン、スキンドайビングなど、季節に応じた集中科目を開講しています。

スペシャリストによる授業

授業は科目に精通した専門家が担当しています。オリンピックや世界選手権などでメダルを獲得したスペシャリストをはじめ、それぞれのスポーツでトップクラスの専門家が授業を行います。

教育の質の保証

■ 学生による授業評価を体育科目独自に行っています。評価の高かった教員の授業について教員相互の研修を実施しています。

■ 学外の第三者による定期的な評価を受け、それに対する改善策を講じています。

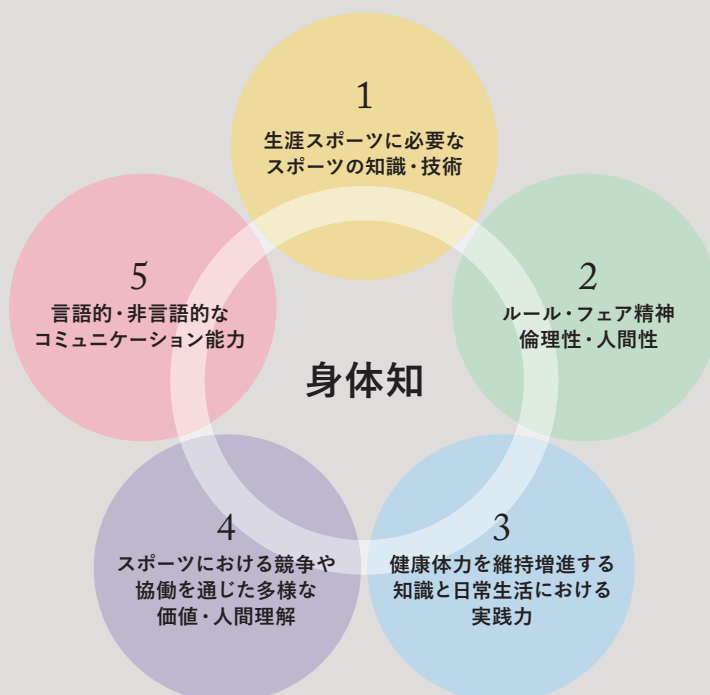
■ 安全配慮が必要な授業や補助を必要とする授業では、教員とティーチング・アシスタントが一体となって授業を実施しています。

■ 体育スポーツ局(旧体育センター) Webサイトでシラバスを公開し、学生がいつでも授業に関する情報を入手できるようにしています。

■ 大学体育のカリキュラムについて、国内外の調査などを行い、新たな視点からカリキュラムモデルに関する研究を積み重ねています。

達成すべき水準

筑波体育で修得する5つの身体知



外国語

Foreign Languages

教育目標

研究型大学である本学の理念に照らし、まず第1に、学術研究の活動で外国語を駆使できるようになることを目指します。2点目として、複数の外国語を学ぶことで、文化・社会・価値観の多様性を知り、複眼的な視点からの思考力を育てます。3点目として、外国語運用能力を総合的に伸ばすことで、実社会での活動に役立つコミュニケーション能力と異文化対応力の向上を図ります。

教育内容

第1外国語、第2外国語として「英語」、「初修外国語」（ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語）を学びます。また英語プログラム等で学ぶ留学生や帰国生のために「日本語」を開設しています。

英語

学術研究の活動で英語を駆使できるよう、英語「を」学ぶのではなく、英語「で」学ぶことを念頭に置いた教育が行われます。

■ 必修科目

学群・学類の専門英語への橋渡しとなる「一般学術目的の英語 English for General Academic Purposes」として English Reading Skills と English Presentation Skills を学びます。前者では学術的な著作を精読し、学術英語の基本語彙や表現を学び、後者では学術的な発信活動に必要な英語運用能力の基礎を学びます。

■ 選択・自由科目

学生の多様なニーズにあわせて、発信能力の向上を目的とする科目(English Academic Writing, English Academic Presentation 等)や留学等に関連する科目が設けられています。

初修外国語

未知の外国語学習を通じて世界の文化と社会の多様性を学びながら、複眼的思考力・異文化理解力の育成と当該外国語の運用能力の伸長に資する教育が行われます。

■ 必修科目

「基礎〇〇語」では、当該初修外国語の基礎的な文法や表現を学び、「〇〇語圏の言語と文化」では、当該言語のしくみや特性のみならず、その社会的・文化的な側面についても学びます。

■ 選択・自由科目

中上級レベルを目指す学生のための初修外国語科目（「応用〇〇語講読」、「応用〇〇語作文」等）が開設されています。

日本語

留学生や帰国生に対して習熟度別に日本語科目を開設しています。留学生の多様な学修ニーズに合った、外国語としての日本語教育が行われます。

■ 入門・初級科目

日本で生活するための日本語を学びます。

■ 中・上級科目

読む・書く・聞く・話すの4技能ごとに、学習目的に応じて履修ができます。

■ キャリア支援科目

学生が自身の進路を主体的に選択できるように支援するための日本語力を学びます。

教育方法の特徴

■ オンライン教材やeラーニング教材を活用した授業を積極的に展開しています。

■ アカデミックライティングサポートデスク (Academic Writing Support Desk) を設置し、英語のアカデミックライティングスキルの向上を支援しています。

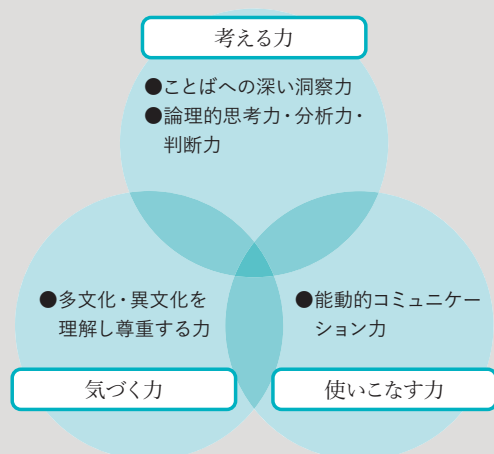
■ 英語と初修外国語では、海外の提携大学等において3～4週間程度の海外語学研修を実施し、現地での言語文化体験型の外国語教育にも力を入れています。

■ 留学や外国語検定試験の受験、外国語によるボランティア活動等に対して「優れた外国語活動」認定書を発行し、授業外の学生の自主的な外国語の学習や活動を支援しています。

■ 達成すべき水準 ■

英語

一般学術目的の英語を基盤として修得する3つの力



初修外国語

■ 必修科目の履修を通じて培う能力・資質

・基礎的な文法知識、発音や会話能力等の初歩的な言語運用能力

■ 2年次生以降の科目履修を通じて培う能力・資質

・4技能(読む・書く・聞く・話す)の基礎的な運用能力

・複眼的思考力、異文化理解力、言語や文化の多様性を尊重する態度

・学術研究の活動で当該初修外国語を活用する能力

日本語

■ 科目履修を通じて培う能力・資質

・日本語で専門的に研究するための日本語運用能力

・日常生活に必要な日本語運用能力

・日本での就職に要する日本語運用能力等

■ 教育の質の保証 ■

■ シラバスを公開し、授業内容と成績評価の基準を明示しています。

■ 学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を教員にフィードバックし、授業の改善に役立てています。

■ 外国語教育FD研修会を毎年実施し、教育の質の向上に向けた取り組みを行っています。

■ 英語では、学群1年次と3年次にTOEIC® Listening & Reading IPテストを実施し、経年的に学生の英語力を把握するとともに、その分析結果をカリキュラム開発等に利用しています。

情報

Information Literacy

教育目標

情報社会に生きる社会人として必要な、コンピュータとインターネットに関する基礎知識と社会における位置づけを理解するとともに、情報社会を支えるデータの活用に関する基本的な考え方を修得するための以下の4項目を目標とします。

■ 情報社会において必要とされる倫理感を身につけ、インターネットサービスの利用に不可欠な情報リテラシーを修得すること

■ コンピュータやインターネットを用いた自分の行動に責任をもてる能力を養成すること

■ コンピュータ、アプリケーションソフト、インターネットサービスを使う状況になっても独力で使いこなせる能力を身につけること

■ データを適切に収集および管理し、収集したデータを、データ分析に役立てる能力を修得すること

教育内容

「情報」の授業は「情報リテラシー」講義・演習と「データサイエンス」の三科目から構成されます。

講義はコンピュータによる情報処理やインターネットの基本概念を、演習はコンピュータを利用した基礎的な情報利用・共有・発信技術の修得を通じて上記の教育目標を達成します。

「データサイエンス」では、講義による統計学・データ工学の基礎の修得と演習によるデータサイエンスの実践の反復を通じて上記の教育目標を達成します。

教育方法の特徴

■ 情報リテラシー（講義）および情報リテラシー（演習）は以下の項目を標準学修項目としています。各学群・学類のニーズに合わせて、以下の標準学修項目を基準に具体的な学修内容を調整しています。講義は情報の基礎概念を中心とした know-why を、演習は情報の利用・共有・発信技術を中心とした know-how を学びます。

情報リテラシーの標準学修項目

情報リテラシー（講義）

情報倫理・情報セキュリティ

情報の表現と計算

プログラムとアルゴリズム

コンピュータの仕組み

インターネットの仕組み

大規模データ処理

情報リテラシー（演習）

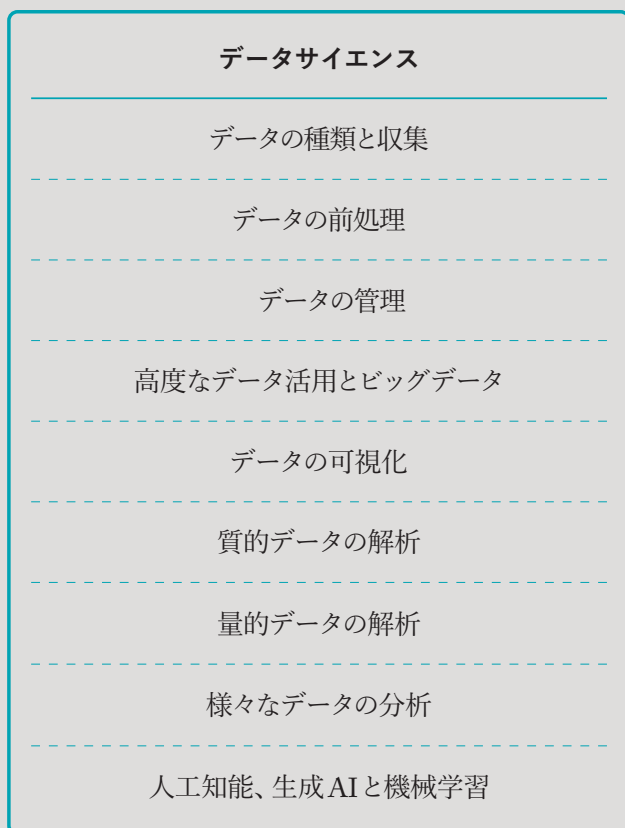
文書作成

情報発信・情報共有

プレゼンテーション

■ データサイエンス（演習）は以下の項目を標準学修項目としています。各学群・学類のニーズに合わせて、以下の標準学修項目を基準に具体的な学修内容を調整しています。

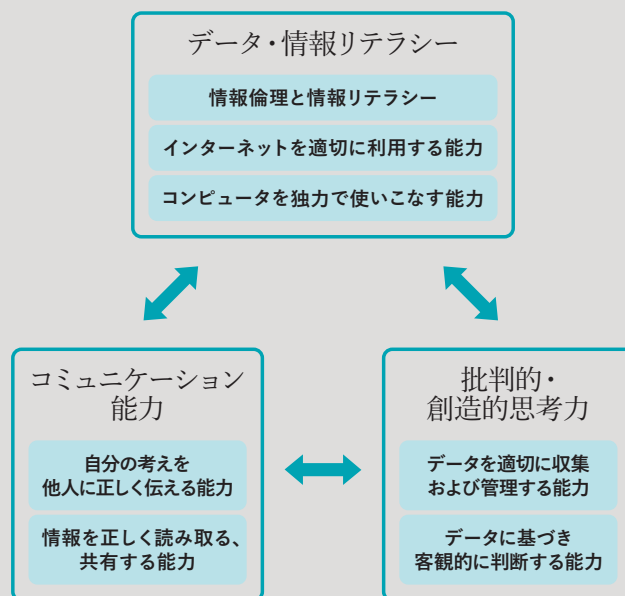
データサイエンスの標準学修項目



情報理工学位プログラム等の大学院生がティーチング・アシスタントとして授業に加わり、教員の指導の補助をきめ細やかに行います。

達成すべき水準

「情報リテラシー」および「データサイエンス」を通じて、「データ・情報リテラシー」、「批判的・創造的思考力」および「コミュニケーション能力」の三つの汎用コンピテンスに関わる基礎能力を修得します。



教育の質の保証

情報リテラシーとデータサイエンスの標準学修項目を基本として、各学類・学群のニーズに合わせて授業内容と進度を調整します。

授業アンケートを実施し、その結果を各教員にフィードバックし授業改善を行います。

教員懇談会を実施し、授業における問題点、課題を討議・共有することで授業改善を行います。

「情報」専門部会(各学群選出の代表教員から構成)において、授業改善について議論し、これを実際の授業にフィードバックします。

国語

Japanese

教育目標

国際化社会及び知識基盤社会を生きぬいていくためには、母語である日本語についての正しい知識を修得し、適切に用いて他者との意思の疎通を円滑にはかれる能力や、多様な情報を基に自己の考えを明確に表現し伝達する能力が必要です。共通科目「国語」では、大学での学修や社会人として活躍するために必須となる、このような日本語運用能力を修得することを目標としています。

教育内容

基礎的な内容から発展的な課題に対応した「国語Ⅰ」「国語Ⅱ」を設けています。

授業は、40人程度を1クラスとし、きめ細かな指導を行う配慮をしています。

必修科目に指定する学群・学類では、その特色に配慮した授業を提供しています。(例) インフォームドコンセントにおけることば(医学・看護)・コーチとことば(体育)

必修科目に指定していない学群・学類では、自由科目とし、専門分野の異なる学生同士が学べる環境を用意しています。

国語Ⅰレポート(論文)作成の基礎

レポート作成の出発点として、問題意識・独創性・書き手の心得・客観的に論述する姿勢・表現に必要な基礎的知識を学び、実践的トレーニングを行います。

論文の発想、独創性、問題意識、主題の意義・価値などを理解する。

資料の調査・収集・整理・検討を通して、問題点を整理する。

推敲を行い、相互批評を通して、文章の善し悪しを学

ぶ。

国語Ⅱ「国語Ⅰ」の応用・発展

「国語Ⅰ」を基に、自立的な書き手としての意識を高めます。

問題意識を明確にして、仮説を設定する。

目的に応じた文献の検索方法、情報整理の仕方を理解する。

先行研究を批判的に読み、主題との関連性を検討し、論拠を検証する。

対人関係を考慮した表現ができるよう、敬語・手紙文を学び、実践する。

教育方法の特徴

演習型の教育方法を取り入れています。

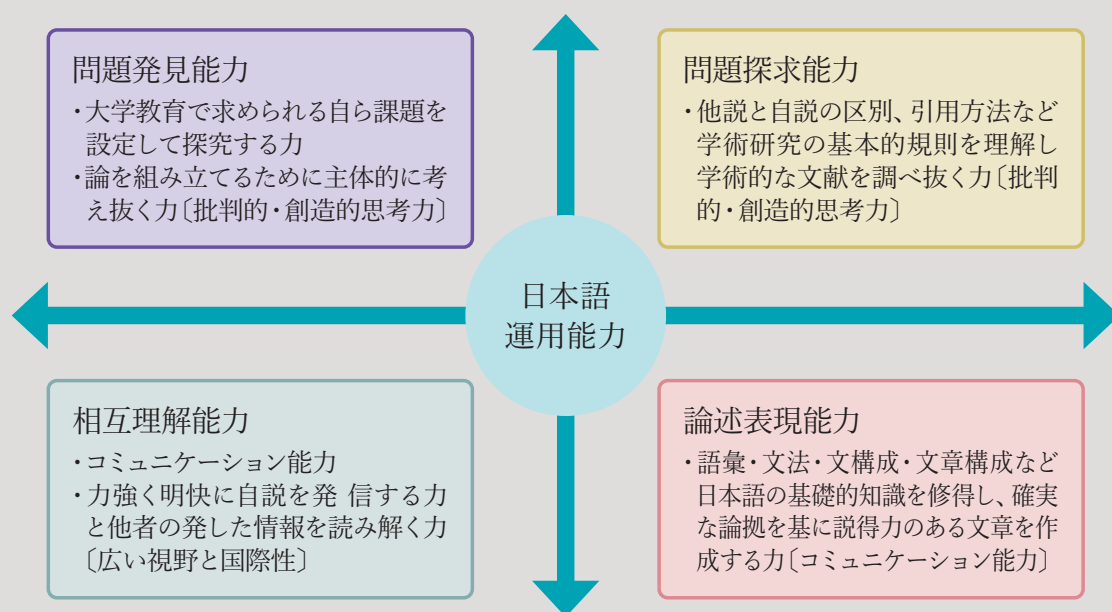
実際に文章を作成したり、スピーチしたり、学生同士が相互に批評し合いながら、日本語運用能力の向上を目指します。

教員の専門性を活かした教育を行っています。

日本語学・国語教育学など、日本語の専門家が授業を担当し、それぞれの専門性も活かした授業内容を工夫しています。

達成すべき水準

4つの能力達成



教育の質の保証

シラバスを公開し、各教員の専門性を活かした特色のある授業内容、成績評価の基準を明示しています。

TWINS*による授業評価や教員が独自にアンケート調査を行うなど、授業改善へ向けてのフィードバック体制を十分に整えています。

学群・学類の特色などを考慮し、実態に応じた授業内容となるよう、定期的に話し合いの場を設定、前向きに授業の質の向上を目指しています。

* TWINS (Tsukuba Web-based Information Network System) は、オンライン教育情報システムです。

芸術

Art and Design

教育目標

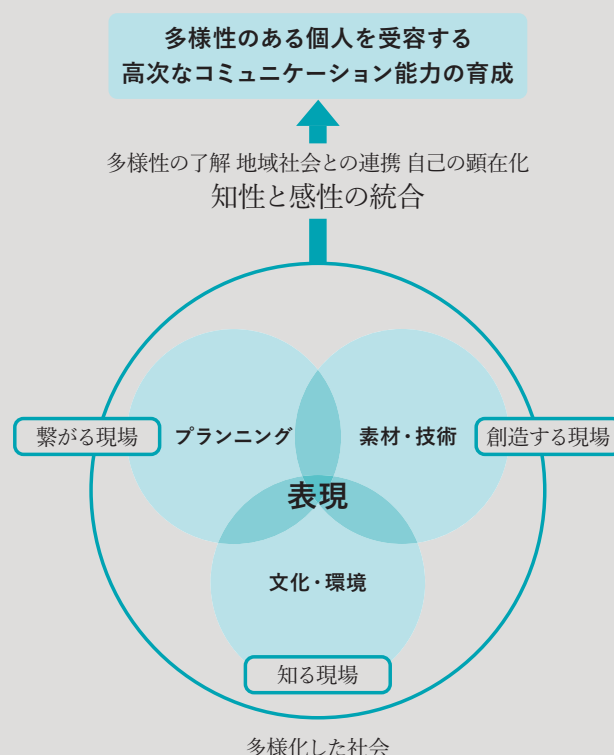
筑波大学は、芸術の専門家を育成する教育・研究組織を有する日本で唯一の国立大学法人の総合大学です。芸術専門学群が提供する教養教育は、この特色を活かして芸術に関する幅広い知識を学び、美的感性をみがき、表現する喜びを経験するだけではなく、グローバルな社会において多様性のある個人や価値観を受容し、自己の考えを発信することのできる高次なコミュニケーション力を育みます。知性と感性を統合して、自己を表現するとともに他者の考えを許容するバランス感覚の備わった人間力を育むことが共通科目「芸術」の教育目標です。

教育内容

教養教育としての芸術教育は、芸術表現に関する伝統や技術・素材を実践的に学ぶことで、異なる文化や社会的価値観の背景への理解を促します。

絵を描くことや美術館めぐりをするなど、芸術の制作や鑑賞の楽しさを自ら体験することが、人間が人間らしく生きる上でいかに大切なものであるかを理解し、その楽しさを生涯かけて探究する為の具体的方法や基礎知識を学びます。また、多様化した地域社会との関わりを模索し、あらゆる社会的基盤を整備する上での芸術の重要性を認識し、文化芸術振興のために行動する市民となることを目指します。

芸術の教育



教育方法の特徴

社会の一線で作家・研究者として活躍している教員が、芸術に関する「体験的知識」の授受や「作品創造」の為の技術や表現の指導、社会での「実地体験」をとおして、受講生が自らの個性や資質を深く考える契機となるよう指導します。

芸術専門の学生が学ぶ環境と同じ工房・実習室で学びます。芸術の専門を学ぶ学生と共に制作やプロジェクトを行うことで、共に学びあうことによる相互教育効果が活かされます。

制作系科目…創造する現場での表現する喜び

美術・デザインに関する素材、技法、表現について学びます。作品を実際に制作するために必要な素材・画材や道具の基本的名称や取り扱い方、モチーフ・描く対象の選択やテーマ・作品の主題の設定、作品制作の開始から完成までの流れ、制作の各段階に応じて必要となる技法の特徴、造形感覚の練磨、形態把握や色彩表現、制作の心構え等、制作に必要な基礎的知識と基本概念について学びます。

油彩画実習、日本画実習、塑造実習、書(A・B・C)

絵本制作

問題解決型科目…繋がる現場としての社会での実地体験

地域社会での美術・デザインによる問題解決型授業を行います。アートとデザインによるプロジェクトを実際に組織し、社会に対してアートとデザインができることを学びます。

大学を開くアート・デザイン プロデュース演習(1・2・3)

達成すべき水準

芸術文化の理解と深化

芸術表現は、それが生み出される時代と社会的背景に大きく影響されます。作家を受容する地域、人を育み芸術が育まれる土壌としての文化を理解し、感覚による評価だけでは得られない表現の奥行きを理解します。

技術・素材との実践的経験

対象の観察や素材の理解から表現の可能性を自ら発見することに取り組みます。表現活動を通して自己の内面にある考えや思いを表出させ、作品を媒体としたコミュニケーションが実現できることを理解します。

意思を具体化する方法の獲得

問題解決型授業では、社会での実地体験において表現や試みを実現させるためのプランニングを実践することが芸術の活用に繋がることを理解します。

教育の質の保証

■ 自身の達成感とともに客観的・相対的な自己評価の場を提供することによって教育の質を保証します。授業の具体的成果である作品等に対して自己評価するとともに、講評会等において担当者が具体的に批評し、個々の持つ課題を明確にして次の目標を設定するように促します。

■ 科目ごとに授業アンケート等を実施して現状把握に努めながら、学生個々の試行のプロセスにも目を向け、その疑問に答える場を提供します。

■ 芸術専門学群のカリキュラム委員会において、アンケート等を参考に授業改善について議論し、授業担当者にフィードバックします。

総合学域群

School of Comprehensive Studies

総合学域群とは

総合学域群には、総合選抜で入学した学生が所属します。総合選抜は、学類・専門学群の枠を越えて、文系、理系Ⅰ、理系Ⅱ、理系Ⅲという区分だけで選抜する、本学では新しい入試の方式です。

総合学域群には、選抜区分に対応した3つの類(第1類、第2類、第3類)があり、総合選抜により入学した学生は、いずれかの類に所属します。学生は1年次にさまざまな専門分野を学修した上で進みたい専門を見つけ、2年次以降は学類・専門学群に所属します。これを「移行」と呼びます。どの学類・専門学群に移行するかは、本人の志望と、入学後の成績や適性に基づいて決まります。文系、理系といった入試の際の選抜区分に関わらず、総合学域群からは、体育専門学群及び学際サイエンス・デザイン専門学群を除くどの学類・専門学群にも移行する道があります。

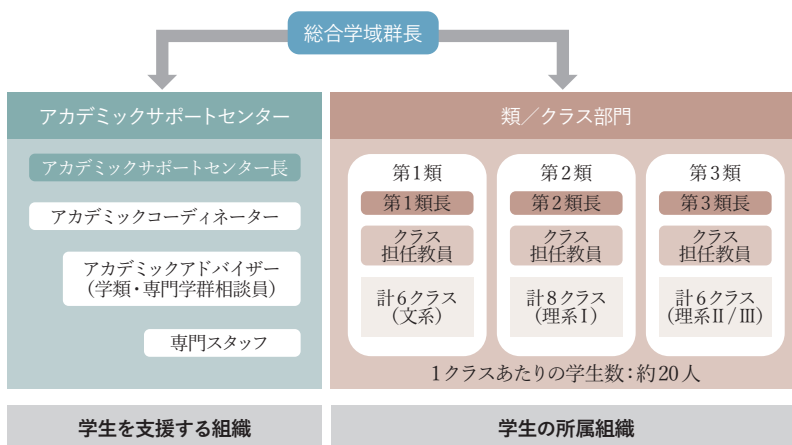
総合学域群

School of Comprehensive Studies

教育上の目的

総合学域群は、文系又は理系の区分のみを定めて行う入学者の選抜(総合選抜)による入学者が2年次に学類や専門学群に移行するまでの間、所属する組織です。総合学域群は、履修計画を中心に様々な修学支援を行うことを通じて、学生が幅広い視野から文理の区別にとらわれない学問的発想を磨き、そこから自らの関心に適した専門分野を選択することに資すること、さらに、こうした学びを通じて、将来のキャリアを主体的に切り拓く力を涵養する一助になることを教育上の目的としています。

総合学域群組織概念図



求める人材

総合選抜においては、大学において学問的な俯瞰をしながら専門分野を定め、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力に裏打ちされた多様な知的好奇心と旺盛な学習意欲を有する人材を求めます。そのために入学前に、高等学校までの基礎学力をまんべんなく身につけると共に、自分の知的好奇心を自由に深めていく柔軟な知性と感性を備えた人材を求めます。

入学後の履修

総合学域群の学生は、総合科目、外国語、情報などの共通科目と、学類・専門学群が開設する専門導入科目を中心に履修します。1年次はまだ学類・専門学群に所属していませんが、それらが編成する教育課程の一部を履修します。

総合学域群の学生が全学共通の必修科目以外で具体的にどの科目を履修するかは、学生本人の関心や、どの学類・専門学群を2年次以降の移行志望先とするかにより大きく異なります。各学問分野の入門的な科目となっている専門導入科目は、移行志望先を決めるのに重要な役割を果たします。

移行手続き

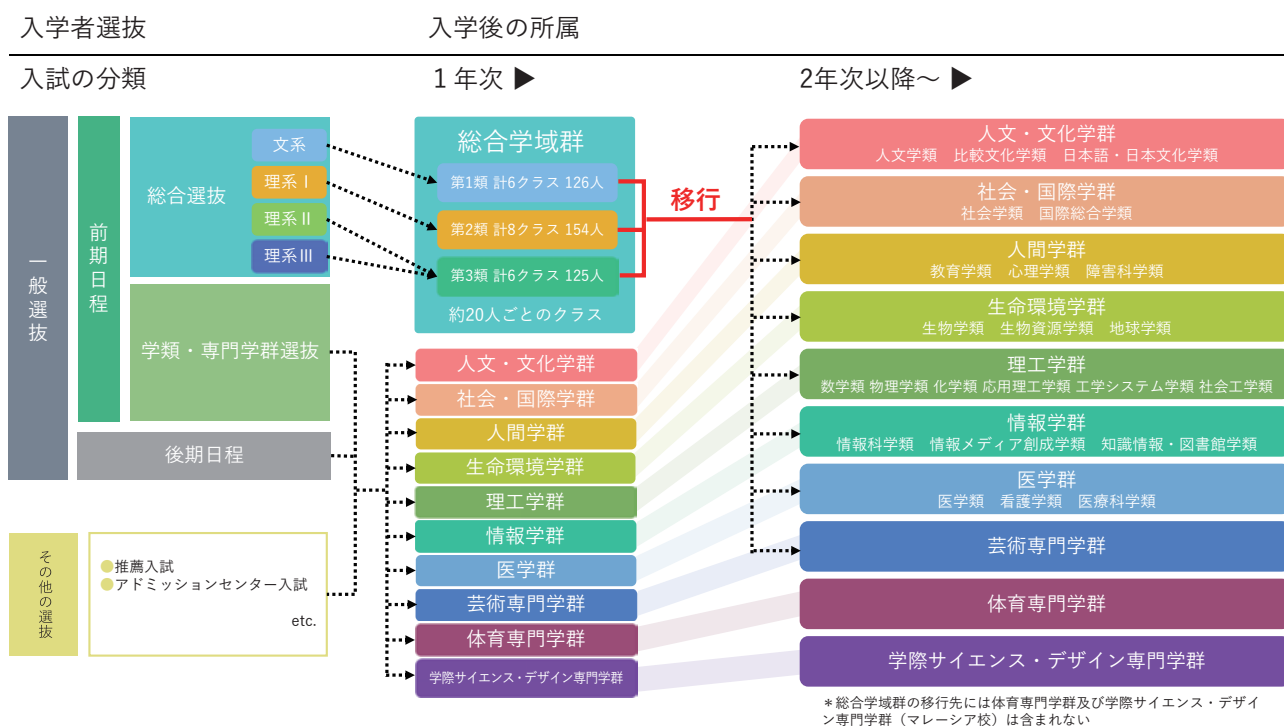
1年次の3月に、2年次以降に所属する学類・専門学群が決まります。移行先は、学生が設定する志望順位と、学類・専門学群ごとに設定される受入順位の組み合わせによって決定されます。

学生が志望できる学類・専門学群の数には制限がありませんが、志望先によって指定科目の履修が必要となる場合があります。

各学類・専門学群の受入順位は、各学生が履修した科目の成績を総合した成績点と、英語外部試験や適性試験といった成績点以外の要素も加味して決定されます。また、特定の選抜区分で入学した学生を優先して受け入れる学類もあります。

サポート体制

総合学域群の学生を支援するアカデミックサポートセンターを設けています。クラス担任だけでなく、アカデミックサポートセンターの教員や専門スタッフが、学生一人ひとりの履修計画や進路選択をサポートします。



人文・文化学群

School of Humanities and Culture 28

人文学類

College of Humanities 29

比較文化学類

College of Comparative Culture 34

日本語・日本文化学類

College of Japanese Language and Culture 39

社会・国際学群

School of Social and International Studies 45

社会学類

College of Social Sciences 46

国際総合学類

College of International Studies 62

人間学群

School of Human Sciences 71

教育学類

College of Education 72

心理学類

College of Psychology 76

障害科学類

College of Disability Sciences 81

生命環境学群

School of Life and Environmental Sciences 92

生物学類

College of Biological Sciences 93

生物資源学類

College of Agro-Biological Resource Sciences 97

地球学類

College of Geoscience 103

理工学群

School of Science and Engineering 107

数学類

College of Mathematics 108

物理学類

College of Physics 112

化学類

College of Chemistry 116

応用理工学類

College of Engineering Sciences 120

工学システム学類

College of Engineering Systems 125

社会工学類

College of Policy and Planning Sciences 129

総合理工学位プログラム

Bachelor's Program in Interdisciplinary Engineering 133

情報学群

School of Informatics 137

情報科学類

College of Information Science 138

情報メディア創成学類

College of Media Arts, Science and Technology 144

知識情報・図書館学類

College of Knowledge and Library Sciences 149

医学群

School of Medicine and Health Sciences 153

医学類

College of Medicine 154

看護学類

College of Nursing 159

医療科学類

College of Medical Sciences 166

体育専門学群

School of Physical Education,
Health and Sport Sciences 172

芸術専門学群

School of Art and Design 177

学際サイエンス・デザイン専門学群(マレーシア校)

School of Transdisciplinary Science and Design
(University of Tsukuba, Malaysia) 182

グローバル教育院

School of Integrative and Global Majors 187

地球規模課題学位プログラム

Bachelor's Program in Global Issues 188

人文・文化学群

School of Humanities and Culture

人文学類

College of Humanities

学士(人文学) ■ Bachelor of Arts

比較文化学類

College of Comparative Culture

学士(比較文化) ■ Bachelor of Arts

日本語・日本文化学類

College of Japanese Language and Culture

学士(文学) ■ Bachelor of Arts

学士(日本語教育) ■ Bachelor of Arts in Japanese Language Education

人材養成目的

人文系と文化系の多様な学問領域における古今東西の高度な専門知識のみならず、豊かな教養、国際的視野、優れたコミュニケーション能力を身につけ、異文化および自国文化に対する深い理解力を持つ、グローバル社会の中で真に活躍できる人材を養成します。

人文学類

College of Humanities

学士(人文学)

■ Bachelor of Arts

人材養成目的

「人間とは何か」という問いを根底におき、人間存在とその諸活動の所産としての文化全般について主体的に考察しうるとともに、グローバル化が進展する世界における諸問題に積極的に関与し発言しうる、真に教養ある人材を養成します。

求める人材

人文系の学問に必要な論理的な思考力と表現力を十分に持つと同時に、世界の多様な文化や歴史に対して開かれた関心を持ち、自律的な学習と批判的な考察を通して問題を自ら発見し解決していく能力と意欲を有する人材。

卒業後の進路

卒業生の約7割は、企業・教員・公務員など国内外で広く活躍しています。約3割は大学院に進学しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…人文社会科学研究群、人間総合科学研究群、生命環境科学研究群、システム情報工学研究群

■他大学大学院…北海道大学、東北大学、東京大学、慶應義塾大学、明治大学、立教大学、京都大学、チューリッヒ大学

就職先の例

学校教員

■公立…青森県、秋田県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、富山県、高知県、長野県

■私立…つくば秀英高等学校、常磐大学高校

官庁・自治体・独立行政法人等

厚生労働省、文部科学省、農林水産省、国土交通省、宮内庁、茨城県、山形県、埼玉県、東京都、千葉県、長野県、徳島県、札幌市、つくば市、横浜市、川崎市、名古屋市、東京大学、筑波大学、国土地理院、北海道博物館、門司税関、森林総合研究所

企業・団体

■マスコミ・出版…朝日新聞社、読売新聞社、茨城新聞、小学館集英社プロダクション

■情報・通信…日本アイ・ビー・エム、NTTドコモ、NTT西日本、丸紅ITソリューションズ、マイナビ、共同通信社、日本郵便、セガ

■金融・保険…野村證券、三菱UFJ信託銀行、常陽銀行、千葉銀行、オリックス生命保険、損保ジャパン、住友生命保険、太陽生命保険

■機械・化学・エネルギー・製造…トヨタ自動車、小松製作所、日産化学、日本精工、中部電力パワーグリッド、富士電機、ユニクロ、ニトリ、ぺんてる、大日本印刷

■運輸…JR東日本、日本交通、NEXCO東日本、全日本空輸、京王電鉄、関東鉄道

■建設・不動産…長谷工リアルエステート、旭化成不動産レジデンス、ダイワハウス工業、オープンハウス

■食品・化粧品…敷島製パン、UCC上島珈琲、久光製薬

■商社・流通…三菱商事、イオンリテール、良品計画、セブン-イレブン・ジャパン

■教育…四谷大塚、河合塾、日本入試センター、茨進個別指導学院、トライグループ

■サービス…有限責任監査法人トーマツ、東急ホテルズ、楽天グループ、富士通Japan、吉本興業、星野リゾート、ドトールコーヒー

教育の質の保証と改善の方策

■定期的な試験・レポートと授業アンケートの実施により、教育目標の達成度について教員と学生が双方向に評価し、教育力を向上するよう努めています。

■クラス連絡会を通じて学生・教員間の意見交換を行うことにより、教育の質の持続的改善を図るシステムを確立しています。

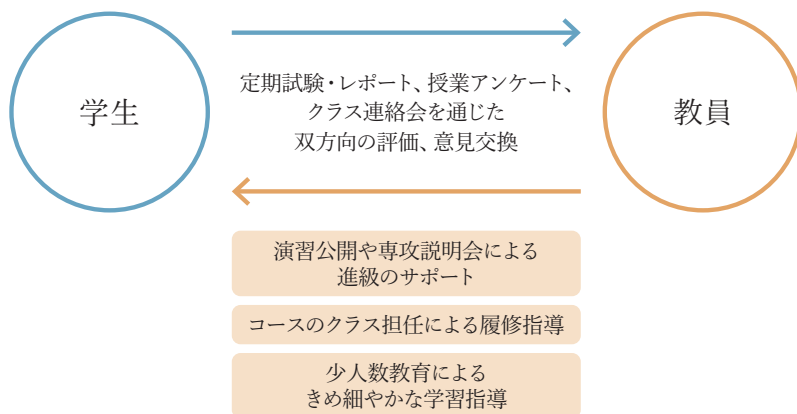
■1・2年生のために、演習公開や専攻説明会を実施し、3年次での専攻・コースへの進級が円滑に進むようサポートしています。

■1人の教員が1年次から4年次までを通して担当するクラス担任制と並行して、3年次以降は、11コース毎にクラス担任が設けられており、コースのクラス担任が専攻に即した履修指導を行っています。

■演習授業や卒業論文指導では、少人数の学生を対象に、個々の学修の進展状況を十分に把握し、それに応じたきめ細かい指導を行っています。

■実習授業では、報告書を作成するなどして成果を地域社会へ還元し、その評価を授業の改善に生かすことに努めています。

教育力向上への取組



学士(人文学)

Bachelor of Arts

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(人文学)の学位を授与します。

■ 専門的能力…人文系の諸学問分野の専門的知識と固有の方法論とを修得し、それに基づいて自らの取り組む問題に関する文献や原資料を調査・収集・分析することを通して、実証的に自身の考えを構築し、不断に更新していくことができる。

(関連するコンピテンス: 哲学の理解、史学の理解、先史学・考古学の理解、民俗学・文化人類学の理解、言語学の理解、資料読解・分析力 ディスカッション力、情報収集力・状況対応力、論理構成力・研究力)

■ コミュニケーション能力…外国語やコンピュータを的確に駆使しながら、他者に自らの考えを論理的に伝達するとともに、他者の考えを十分に理解し、対話を通じて相互に了解可能な共通認識に到達することができる。

(関連するコンピテンス: 資料読解・分析力 ディスカッション力)

■ 想像力…「人間とは何か」という問いに根差して知性と感性を磨き、人間存在とその諸活動の所産としての文化全般に鋭い洞察を加え、現代世界の諸課題の発見と解決に果敢に挑戦し、人類の未来へとまなざしを向けることができる。

(関連するコンピテンス: 情報収集力・状況対応力)

教育課程編成・実施の方針

学士(人文学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

哲学、史学、考古学・民俗学、言語学という四つの主専攻を置き、各主専攻には専門分野毎にコース(全体として11コース)を設け、1年次から卒業まで段階的に専門知識を深く身につける充実した学修カリキュラムを提供しています。また、各授業は基本的に春学期と秋学期で完結するカリキュラムとし、在学中の海外留学などに柔軟に対応できるようにしています。

順次性に関する方針

教育課程前半では、専門分野に関する基礎的な能力を育てつつ、「総合智教育」の理念に基づいて豊かな教養の涵養を重視します。教育課程後半では専門分野に関する洞察をより深め、卒業研究につながる教育内容を提供します。

■ 1年次には「専門導入科目」などを通じて、人文科学一般に関する広い知識を伝えるとともに、各種の共通科目によって主体的な思考の基礎となる教養を育てます。それと並行して「専門基礎科目」を通じて専門を学ぶための基礎を養います。

■ 2年次から3年次に主専攻・コースを選択し、各分野の研究の方法論を身に付け、問題解決能力を高めます。同時に、現代世界の諸問題に対する人文学的視点の重要性を意識させるとともに、実習授業など

で直接的に社会との連携や対話を深めます。さらに、演習授業では、教員・学生間の対話を通して自己発信能力を向上させます。また、早くから「人間とは何か」という問いに立脚した卒業研究に向けての問題意識を高めます。こうして身につけた幅広い教養と専門的能力に基づき、4年次で卒業論文を作成させます。

実施に関する方針

学生の志望を尊重し、主専攻・コースは主体的に選択させます。教員が学生の学修状況を詳しく把握し、学修の進展に応じて適切な課題を与えることが可能な少人数教育を重視しています。また、多くの教室では映像や音声メディアも駆使した授業

を受けられる設備が整っていると同時に、PCサテライトを利用して学修する環境も整えています。

学修成果の評価に関する方針

それぞれの授業科目では、教員が厳正な教育評価を実施します。2年次末には、各コースが指定している専門基礎科目が履修されているかを確認し、その結果に基づいてコースへの所属を決定します。4年次には、12月に提出される卒業論文の内容とそれについての口頭試問の結果を総合的に評価し、学類が定める学位授与の方針における目標に到達しているか判断します。

主専攻・コースの構成

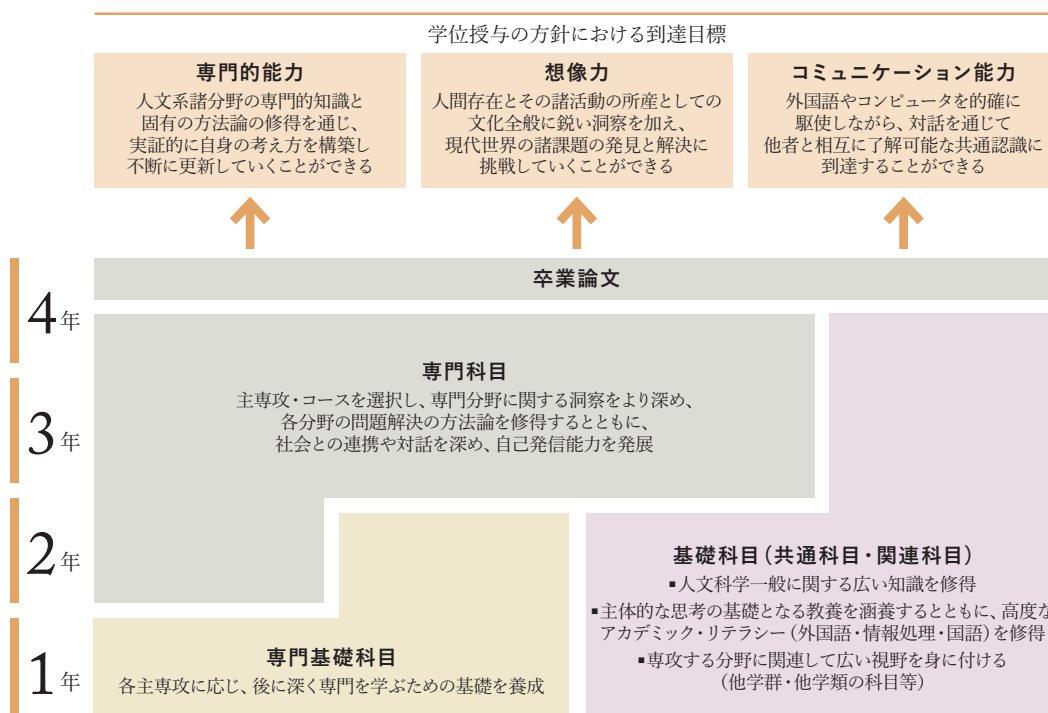
哲学主専攻
哲学・倫理学
宗教学

史学主専攻
日本史学
ユーラシア史学
歴史地理学

考古学・民俗学主専攻
先史学・考古学
民俗学・文化人類学

言語学主専攻
一般言語学
応用言語学
日本語学
英語学

育成する能力とカリキュラムの構造



学士（人文学）

Bachelor of Arts

特色

一定の範囲内で、他コースや他主専攻、他学類の授業も履修し、幅広い視野を身につけられるような教育課程を編成しています。また、在学中に最低二つの外国語を重点的に学び、幅広いコミュニケーション能力を身に付けることができるようにしています。さらに、留学先で履修した授業の単位の認定が可能です。

人材養成目的

人文系と文化系の多様な学問領域における古今東西の高度な専門知識のみならず、豊かな教養、国際的視野、優れたコミュニケーション能力を身につけ、異文化および自国文化に対する深い理解力を持つ、グローバル社会の中で真に活躍できる人材を養成します。

比較文化学類

College of Comparative Culture

学士(比較文化)

■ Bachelor of Arts

人材養成目的

人類が築いてきた様々な文化を、「学際性」と「現代性」という問題意識のもとに比較・検討し、それを通じてひとつの学問分野に閉ざされることのない、開かれた知と批判的思考力を持った人材を育成します。また、国際的なコミュニケーション能力によって、グローバル化する社会に求められる問題解決能力と交渉力を備えた人材を育成します。

求める人材

■ 自らの問題意識を出発点として、さまざまな学問領域に関心を寄せながら、文化・社会について広く柔軟に学ぶ意欲を持つ人。

■ 異文化理解に裏付けられたグローバル・コミュニケーション能力を身につけようとする人。

■ 海外経験・社会経験などを通じて得た問題意識を学問的に深めたい人。

卒業後の進路

卒業生の約8割は、企業・教員・公務員など国内外で広く活躍しています。約2割は大学院に進学しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…人文社会科学研究群、生命地球科学研究群、人間総合科学研究群

■他大学大学院…東京大学、一橋大学、東京外国語大学、北海道大学、名古屋大学、金沢大学、京都大学、大阪教育大学、早稲田大学、ブリティッシュ・コロンビア大学、啓明大学

就職先の例

企業・団体

■マスコミ・出版…NHK、共同通信社、日本テレビ、福井放送、東北新社、角川書店、新潮社、中央出版、宝島社、帝国書院、朝日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、中国新聞社、信濃毎日新聞、電通アドギア、博報堂プロダクツ、第一法規

■金融・保険…三菱東京UFJ信託銀行、常陽銀行、筑波銀行、福島銀行、群馬銀行、愛媛銀行、東京海上日動火災保険、三井住友海上火災保険、三井生命、アメリカンファミリー生命保険

■商社・流通…三菱商事ファッション、イオンリテール、野村総研、住友商事、ローソン、三越伊勢丹、ZOZO、東京流通センター、住友倉庫、伊藤忠エネクス、ユニクロ、ワーク

■運輸・旅行…日本航空、全日本空輸、東日本旅客鉄道(JR東日本)、富士急行、首都高速道路、クラブツーリズム、エイチ・アイ・エス、プリンスホテル、日本交通、九州旅客鉄道

■情報・通信…日本IBM、楽天、NTTドコモ、NTT東日本、日本郵便、日本マイクロソフト、ソニーミュージックグループ

■サービス…ニチイ学館、ユーキャン、リクルートジョブズ、サンリオ

■食品…味の素ゼネラルフーズ、江崎グリコ、カルビー、サントリーホールディングス

■機械・電機…大林組、川崎重工業、三井住友建設、スズキ、日立建機、JFEスチール、JX日鉱日石エネルギー、ダイキン、パナソニック

■医薬品…アステラス製薬、塩野義製薬、ジョンソン・エンド・ジョンソン、富山めぐみ製薬

学校教員

■公立…茨城県、埼玉県、静岡県、山梨県、新潟県、愛媛県、鹿児島県

官庁

外務省、財務省、海上自衛隊、東京消防庁

自治体

東京都、茨城県、埼玉県、千葉県、静岡県、長野県、富山県、群馬県、鹿児島県、長崎県、いわき市、石岡市、ひたちなか市、つくば市、守谷市、流山市、横浜市、神戸市、松江市

他

東京大学、北海道大学、広島大学、東洋大学、全国共済農業共同組合連合会(JA共済連)、日本芸術文化振興会(国立劇場)、日本新聞協会

教育の質の保証と改善の方策

■すべての授業に関して学生による授業評価アンケートを行い、これを確実に担当教員にフィードバックし、授業改善に反映させます。

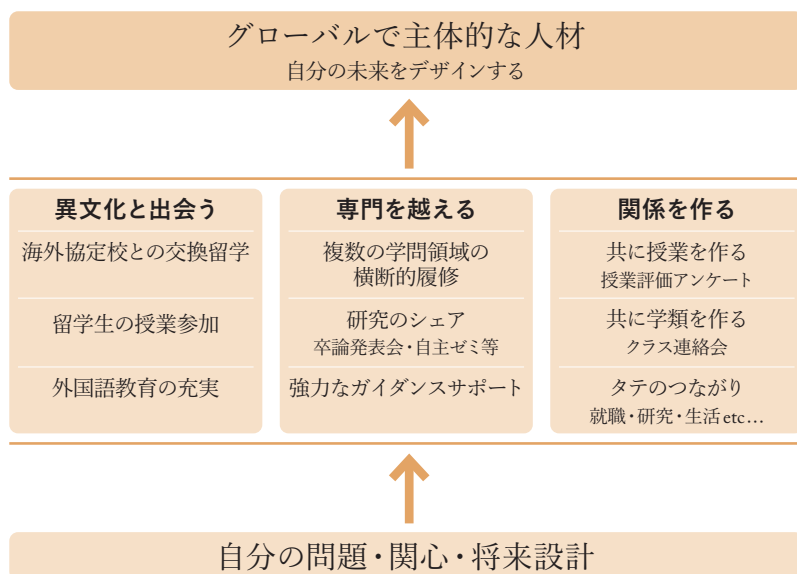
■卒業論文の作成の過程を大切に、卒業論文中間発表会、口頭試問などを充実させることで、卒業後のキャリアに資する実質ある指導を行います。

■大学院留学生TAや卒業生社会人が授業づくりに参画することを推奨し、開かれた学習環境の構築に取り組むとともに、これを通じて授業の改新に努めます。

■学類生がカリキュラムを最大限に活用できるよう、各学年ごとにきめ細かいガイダンスを実施します。

■担任制度を充実させ、必要に応じた担任の適切な助言を通じて、健やかで実質ある学習をサポートします。

教育の質の保証と育成する人材像



学士（比較文化）

Bachelor of Arts

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（比較文化）の学位を授与します。

■ ひとつの学問領域に留まることのない、複眼的な知力と逞しい問題解決能力を備えている。

（関連するコンピテンス：文化事象の理解力、文化的課題への対応力）

■ 文献資料のみならず多様なメディアやフィールドを広く調査し、批判的に情報を解釈する能力を備えている。

（関連するコンピテンス：文化事象の理解力、文化的現象の分析力）

■ 独創的な着眼点、徹底した資料収集、堅実で粘り強い文献読解、卓抜な構成力、論理的一貫性などを有した、高度な論文執筆能力を備えている。

（関連するコンピテンス：文化事象の理解力、文化的現象の分析力）

■ 自国の文化伝統を踏まえつつ、グローバル化する社会の文化的多様性を理解する姿勢と教養を備えている。

（関連するコンピテンス：文化的課題への対応力、国際的な主体性）

■ グローバル化する社会に貢献できる国際的なコミュニケーション能力を備えている。

（関連するコンピテンス：国際的なコミュニケーション能力）

■ 多様な文化的環境に主体的に働きかけ、チームワークのもとで活動を遂行する能力を備えている。

（関連するコンピテンス：国際的なコミュニケーション能力、国際的な主体性）

教育課程編成・実施の方針

学士（比較文化）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

複数の学問領域を横断的に履修できる学際的で柔軟性に富む編成に留意し、学生ひとりひとりの問題意識とキャリア展望に対応する教育課程の構築を心がけます。また、国際的なコミュニケーション能力や異文化理解力を身につけるために、授業を含めた様々な機会を数多く提供するように努めます。

順次性に関する方針

■ 1年次は主として入門的・概論的な科目や、共通科目の外国語を必修としています。各領域では文献研究やフィールドワークなどの前提となる学問の基礎的方法を身につける6領域に関する比較文化研究、概括的な知識を学ぶ概論科目を提供し、複数の学問の基礎知識を広く身につけることを目指します。1年次末に、1年次ガイダンスを実施の上、1年次研究計画案を提出させ、2年次以降の専門的な学習についての指導を行います。

■ 2年次は興味のあるいくつかの領域の専門導入基礎演習および専門科目を履修するとともに、今日のグローバル社会に求められる国際コミュニケーション能力を確実に身に付けるために、中級の専門外国語科目を学びます。また2年次後半では、より専門的に深く学ぶために、どの領域・コ

ースに属すかについて考えます。2年次ガイダンスを実施し、2年次研究計画案を提出させ、領域やコースの選定に向けての指導を行います。

■ 3年次は領域・コースの所属を確定し、そこで提供されている専門科目や卒業論文基礎演習を本格的に履修します。3年次ガイダンスを実施し、3年次研究計画案を提出させ、教員との緊密な交流の中で卒業論文に向けて自分自身の研究課題を深めていきます。引き続き上級の専門外国語を履修します。

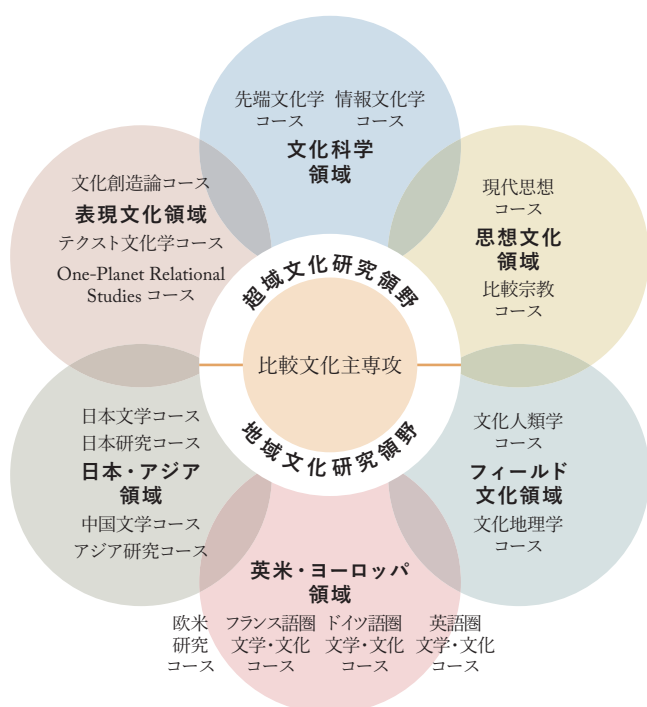
■ 4年次は卒業論文の制作を軸に、一つのテーマを巡って様々な文献の精読、フィールドワーク、ディスカッションを行います。

教員との議論を通じて論理性を鍛えていきます。卒業論文中間発表会を実施し、卒業論文の進捗状況についてアセスメントと指導を行います。

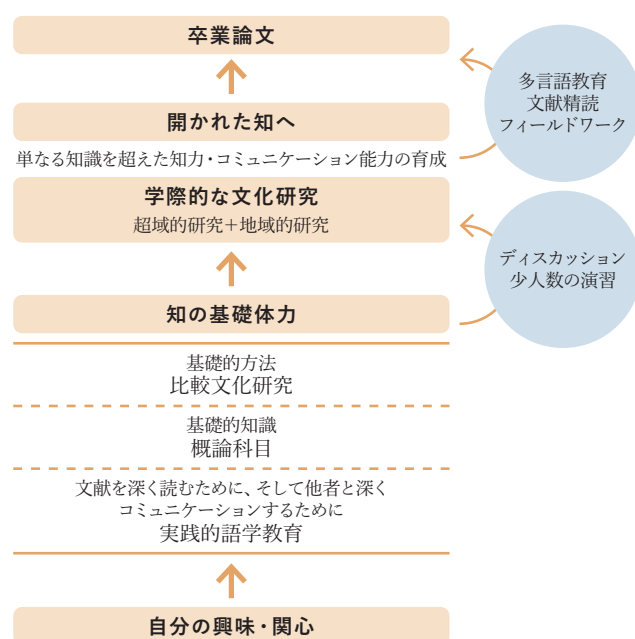
実施に関する方針

「地域文化研究」、「超域文化研究」という2つの「領野」の下に、複数の地域や学問分野を包含した6領域を設定し、学際的な文化研究の履修が可能となるように配慮するとともに、単なる知識の修得を超えた知力・コミュニケーション能力の育成と、演習形式の授業を重視します。外国語では、英語はディベートや論文指導も含む多様な内容の授業を展開し、英語以外にドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、

比較文化学類のコスモス



育成する能力とカリキュラムの構造



学士（比較文化）

Bachelor of Arts

中国語に加え、朝鮮語、さらにはギリシャ語、ラテン語、インド古典語など、多数の外国語の授業を提供し、少人数での実践的な語学教育を行います。

学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、担当教員が厳正な教育評価を実施します。

4年次末には、単位取得状況、卒業論文口頭試問の結果、ならびに各コンピテンスが身についているかを学修成果として総合的に評価し、卒業判定を行います。

特色

「国際性の日常化」を重視し、大学院留学生がTAとして積極的に授業に参画します。さらに正規カリキュラムにはない言語を大学院留学生TA主導の課外活動として修得することが可能です。これらを含む留学生との交流の場が豊富に設けられます。

人材養成目的

人文系と文化系の多様な学問領域における古今東西の高度な専門知識のみならず、豊かな教養、国際的視野、優れたコミュニケーション能力を身につけ、異文化および自国文化に対する深い理解力を持つ、グローバル社会の中で真に活躍できる人材を養成します。

日本語・ 日本文化学類

College of Japanese Language and Culture

学士(文学)

■ Bachelor of Arts

学士(日本語教育)

■ Bachelor of Arts in Japanese Language Education

人材養成目的

日本における言語・文化事象を総合的に捉え、グローバルな視点で理解する力を養います。これにより、多文化共生社会を見据えたうえで、異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる文化の創造者たる人材を養成します。

求める人材

旺盛な知的好奇心を持ち、日本語や日本文化、さらに多文化共生社会のあり方に対する明確な問題意識とそれに対応した能力を有する人材を求めています。

卒業後の進路

卒業生の約2割は大学院に進学しています。大学院修了者も含め、企業、教員、公務員、海外大学での日本語教員など、国内外で広く活躍しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…人文社会ビジネス科学学術院(人文社会科学研究群)、人間総合科学学術院(人間総合科学研究群)、理工情報生命学術院(生命地球科学研究群)

■他大学大学院…東北大学、京都大学

■海外大学院…グラスゴー大学(英国)、ノーザンプトン大学(英国)

就職先の例(大学院修了者を含む)

企業・団体

■マスコミ・出版…リクルート、小学館、学研ホールディングス、光村教育図書、ぎょうせい、凸版印刷、NHK、朝日新聞

■金融・保険…みずほフィナンシャルグループ、りそなホールディングス、三菱UFJ信託銀行、横浜銀行、三井生命保険、住友生命保険

■情報・通信…NTTコミュニケーションズ、NECソフト、NTTデータシステム技術、日本ソフトウェアエンジニアリング、郵便局

■商社・流通・小売…丸紅、小林製薬、ニトリホールディングス、三越、丸井グループ、ローソン、マルハニチロ、ユニクロ、ENEOS

■運輸・旅行…全日本空輸、日本航空、東海運、関東鉄道

■機械・電機・金属…日立製作所、ヤマハ発動機、シマノ、三井金属鉱業、神戸製鋼、パナソニック

■住宅・建設…一条工務店、YKKAP

学校教員

■公立…山形県、茨城県、栃木県、千葉県、東京都、静岡県、三重県、広島県、愛媛県、沖縄県

■私立…山梨学院大学附属高等学校、千葉明德高等学校、麗澤瑞浪高等学校

大学教員

■国内…筑波大学、京都大学、名古屋大学、埼玉大学、東京海洋大学、群馬大学、熊本大学、北海道教育大学、国際教養大学、早稲田大学、青山学院大学、筑波学院大学、学習院女子大学、二松学舎大学、千葉経済大学

■海外…静宜大学(台湾)、慈済大学(台湾)、大連大学(中国)、興信大学(韓国)、リュブリャーナ大学(スロベニア)、カターニャ大学(イタリア)、ボアジチ大学(トルコ)、プーラ大学(クロアチア)

官庁・自治体・独立行政法人

文部科学省、厚生労働省、茨城県、東京都、埼玉県、群馬県、愛媛県、佐賀県、茨城県警、つくば市、さいたま市、甲斐市、鎌倉市、静岡市、焼津市、環境再生保全機構、東京税関

教育の質の保証と改善の方策

■学生の学修成果とその達成度を適正に評価できるよう学類では、成績評価ガイドラインを定め、ウェブサイトで公開しています。成績評価基準を明確にして、学生と教員がともに学修の成果を振り返ることで、適切な指導につなげています。

■学生による授業評価を行うとともに、それに基づき全教員が「授業改善計画書」を作成し、公開しています。この一連のプロセスにより、カリキュラムおよび授業内容の向上のための継続的なフィードバック体制を作っています。

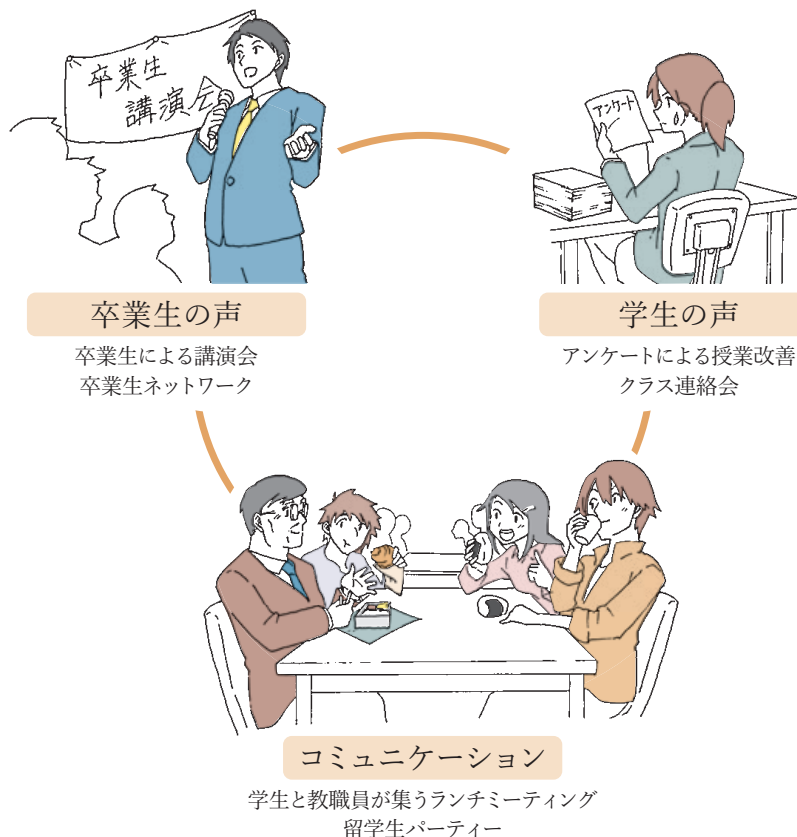
■学類の諸活動や教育成果などを、ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどの媒体を通して、外部に向けて積極的に発信しています。

■定期的に行うクラス連絡会、学類独自のランチミーティングなどを通して、学生・教員間の積極的な意見交換を図っています。

■少人数という本学類の特色を活かして学生・教員間の緊密な交流を行い、実習や卒論ゼミなどにおいて、きめ細かい指導を実施しています。

■1人の教員が1年次から4年次までを一貫して担当するクラス担任制により、個々の学生の学業と生活を継続的に支援しています。

質の高い教育を支える学生・教職員間の緊密な交流



イラスト…橋元大野君(日本語・日本文化学類生)の原図をもとに一部改変

学士(文学)

Bachelor of Arts

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)および本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力(専門コンピテンス)を身につけ、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(文学)の学位を授与します。

■ グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識(言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学など)と分析能力とを修得している。

(関連するコンピテンス:1. 言語事象を構造的に分析する力、2. 言語事象を社会・人間との関わりで捉える力、3. 文化事象をテキスト内在的に捉える力、4. 文化事象を社会・人間との関わりで捉える力)

■ 異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる異文化間課題解決能力および社会的実践力を身につけている。

(関連するコンピテンス:5. 異文化間課題解決能力、6. 社会的実践力)

教育課程編成・実施の方針

学士(文学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

すべての学生が言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関する知識を幅広く学ぶように一専攻制を採用しています。また、知識教育だけでなく、実習やインターンシップを通して学ぶ実践性を重視した授業科目を提供しています。

さらに、海外で学ぶ国際研修、留学生とともに調査・研究を行う協働授業、留学生をサポートするためのチューター制度を通して、現地・現場はもちろん、日常の学習の場を通して多文化共生のあり方を理解できるよう教育課程を編成しています。

順次性に関する方針

■ 1年次…共通科目および他学類のカリキュラムから幅広く専門基礎科目を履修することで、広い視野のなかで、自らの専門分野を発見し位置づけます。

■ 2年次…専門科目を通して、言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関するバランスのとれた知識の獲得を目指します。さらに、実習、留学生との合同授業、国際研修などの実践的な科目を通して、異言語・異文化との接触の中で、自国語・自文化に対する問題意識を醸成します。同時に、専門英語などを通して、研究および発信ができる外国語力(特に英語力)を身につけます。

■ 3年次…演習などのより専門的な科目を履修しながら、卒業研究のテーマ設定に向けて、総合的かつより高度な知識と研究方法を身につけます。さらに、実習などの実践的な科目において、問題意識を深め、課題解決のための応用力・実践力を向上させます。

■ 4年次…卒業論文執筆を通して、全人格的・総合的な分析能力を高め、問題発見、解決能力の統合をめざします。

実施に関する方針

■ 学年別説明会を開催し、カリキュラムに関して定期的な全体指導を行います。

■ 3年次に総合演習を設けて、専門科目の学修から卒業論文作成への架け橋となるような指導を行います。複数教員によるグループ指導によって各教員の専門性を生

かしつつ総合的な研究指導を行うとともに、卒業論文作成で学生に求められる個別能力の強化を目指して、チュートリアル指導も提供します。

■ 海外で実施する国際研修やインターンシップ、国内で行うフィールド実習、さらに情報リテラシーなどの授業を通して、実践的な場面でのコミュニケーション能力や課題解決能力の獲得をめざします。

学修成果の評価に関する方針

直接評価と間接評価を組み合わせ、授業形態に応じた評価方法を定めることで、学生の能力と主体性を多角的に評価します。また、年次ごとに学生の修得したコンピテンスを把握し評価することで、学生の学修計画の改善に役立てます。

育成する能力とカリキュラムの構造

		1年	2年	3年	4年
専門科目	総合的な分析能力と問題発見、解決能力の統合			総合演習導入、総合演習 I,II	卒業論文演習 I,II、卒業論文
	多様な背景の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる能力			国際・協働科目群 共同研究、対話実習、教育実習、フィールド実習、国際研修、インターンシップ、ほか	
専門基礎科目	グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識			日本語科目群 日本語の音声・音韻、日本語の文法、日本語の語彙、日本語の談話、日本語の語用論、言語と文化、ほか	
				多文化共生・日本語教育科目群 日本語教育文法論、日本語技能指導論、日本語教育心理学、日本語教育史、海外の日本語教育と日本学、多文化の中の日本、ほか	
科目基礎				日本文化科目群 近代日本の文化交流、日本の宗教と芸能、国語科教育と文学、中国文学と日本文学、世界文学と日本文学、表象文化論、ほか	
				人文学類、比較文化学類、社会学類社会学主専攻の専門科目	
科目基礎	日本語や日本文化、多文化共生社会のあり方に対する基礎的な知識と明確な問題意識の醸成		日本語教育学特別演習、海外語学研修		
			専門英語 A,B,C		
科目基礎	広い視野からの専門分野の発見と位置づけ		日本語・日本文化研究法、概論科目、人文学類、比較文化学類、社会学類社会学主専攻の専門基礎科目		
			学際科目(専門導入科目): 共生のための社会言語学、共生のための日本語教育、共生のための人類学、共生のための歴史学、日本文学と文化		
科目基礎			共通科目		
			関連科目		

学士（日本語教育）

Bachelor of Arts in Japanese Language Education

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）および本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力（専門コンピテンス）を身につけ、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（日本語教育）の学位を授与します。

■ グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識（言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学など）と分析能力とを修得している。

（関連するコンピテンス：1. 言語事象を構造的に分析する力、2. 言語事象を社会・人間との関わりで捉える力、3. 文化事象をテキスト内在的に捉える力、4. 文化事象を社会・人間との関わりで捉える力）

■ 異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる異文化間課題解決能力および社会的実践力を身につけている。

（関連するコンピテンス：5. 異文化間課題解決能力、6. 社会的実践力）

■ 専門知識に基づき、地域社会のリーダーとなって、企業活動・市民活動をけん引することのできるリーダーシップ力を身につけている。

（関連するコンピテンス：7. リーダーシップ力）

教育課程編成・実施の方針

学士（日本語教育）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

すべての学生が言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関する知識を幅広く学ぶように一専攻制を採用しています。また、知識教育だけでなく、実習やインターンシップを通して、実践力・リーダーシップ力を育成する授業科目を提供しています。

さらに、海外で学ぶ国際研修や、多様な言語・文化的背景を持つ学生とともに調査・研究を行う協働授業を通して、多文化共生のあり方を理解できるよう教育課程を編成しています。

順次性に関する方針

■ 1年次…入学後半年間は集中日本語教育を受け、その後は、共通科目および他学類のカリキュラムから幅広く専門基礎科目を履修することで、広い視野のなかで、自らの専門分野を発見し位置づけます。

■ 2年次…専門科目を通して、言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関するバランスのとれた知識の獲得を目指します。さらに、実習や国際研修などの国内外での学修活動を通して、より広い視野の中で、日本語・日本文化に対する問題意識を醸成します。同時に、専門英語などを通して、研究および発信ができる外国語力（特に英語力）を身につけます。

■ 3年次…演習などのより専門的な科目を履修しながら、卒業研究のテーマ設定に向けて、総合的かつより高度な知識と研究

方法を身につけます。さらに、「Japan-Expert インターンシップ」等の実習を通して問題意識を深め、課題解決のための応用力・実践力・リーダーシップ力を向上させます。

■ 4年次…卒業論文執筆を通して、全人格的・総合的な分析能力を高め、問題発見、解決能力の統合をめざします。

実施に関する方針

■ 日本語教育コーディネーターを配置し、学修等について支援します。さらに、学年別説明会を開催し、カリキュラムに関して定期的な全体指導を行います。

■ 3年次に総合演習を設けて、専門科目の学修から卒業論文作成への架け橋となるような指導を行います。複数教員によるグルー

プ指導によって各教員の専門性を生かしつつ総合的な研究指導を行うとともに、卒業論文作成で学生に求められる個別能力の強化を目指して、チュートリアル指導も提供します。

■ 実習やインターンシップの説明会を行うなど学生への情報提供に努め、参加費用のための奨学金の獲得にも力を入れています。

学修成果の評価に関する方針

直接評価と間接評価を組み合わせ、授業形態に応じた評価方法を定めることで、学生の能力と主体性を多角的に評価します。また、年次ごとに学生の修得したコンピテンスを把握し評価することで、学生の学修計画の改善に役立てます。

育成する能力とカリキュラムの構造

		1年		2年		3年		4年	
		秋	春	秋	春	秋	春	秋	春
専門科目	総合的な分析能力と問題発見、 解決能力の統合					総合演習導入、総合演習Ⅰ,Ⅱ			
	多様な背景の人たちと課題を共有し、 ともに解決していくことのできる能力					卒業論文演習Ⅰ,Ⅱ、卒業論文			
	グローバルな視点から 日本における言語・ 文化事象を総合的に 捉えるための専門知識					Japan-Expert インターンシップ			
専門基礎科目	日本語や日本文化、多文化共生社会の あり方に対する基礎的な知識と 明確な問題意識の醸成					国際・協働科目群 共同研究、対話実習、フィールド実習、国際研修、インターンシップ、ほか			
						日本語科目群 日本語の音声・音韻、日本語の文法、日本語の語彙、日本語の談話、 日本語の語用論、言語と文化、ほか			
						多文化共生・日本語教育科目群 日本語教育文法論、日本語技能指導論、日本語教育心理学、日本語教育史、 海外の日本語教育と日本文学、多文化の中の日本、ほか			
						日本文化科目群 近代日本の文化交流、日本の宗教と芸能、国語科教育と文学、 中国文学と日本文学、世界文学と日本文学、表象文化論、ほか			
						人文学類、比較文化学類、社会学類社会学主専攻の専門科目			
科基礎	大学の授業で対応可能な日本語能力の習得、 広い視野からの専門分野の発見と位置づけ					日本語教育学特別演習			
						専門英語 A,B,C			
						日本語・日本文化研究法、Japan-Expert総論、概論科目、 人文学類、比較文化学類、社会学類社会学主専攻の専門基礎科目			
						学際科目(専門導入科目)： 共生のための社会言語学、共生のための 日本語教育、共生のための人類学、共生 のための歴史学、日本文学と文化			
						(集中日本語授業)、共通科目			
						関連科目			

社会・国際学群

School of Social and International Studies

社会学類

College of Social Sciences

学士(社会学) ■ Bachelor of Arts in Sociology

学士(法学) ■ Bachelor of Laws

学士(政治学) ■ Bachelor of Arts in Political Science

学士(経済学) ■ Bachelor of Arts in Economics

学士(国際社会科学) ※社会国際学教育プログラム(英語プログラム) ■ Bachelor of Arts in International Social Sciences

国際総合学類

College of International Studies

学士(国際関係学) ■ Bachelor of Arts in International Relations

学士(国際開発学) ■ Bachelor of Arts in International Development

学士(国際社会科学) ※社会国際学教育プログラム(英語プログラム) ■ Bachelor of Arts in International Social Sciences

人材養成目的

社会科学分野を基本としつつ環境学や情報学等の分野も加えた総合的な知の体系と、専門性に裏付けられた方法論を身に付け、グローバル化する社会で生起する複雑な諸問題を的確に理解し、分析する能力を備え、社会の要請に柔軟かつ独創的に対応できる人材を育成します。

社会学類

College of Social Sciences

学士(社会学)

■ Bachelor of Arts in Sociology

学士(法学)

■ Bachelor of Laws

学士(政治学)

■ Bachelor of Arts in Political Science

学士(経済学)

■ Bachelor of Arts in Economics

学士(国際社会科学) ※社会国際学教育プログラム(英語プログラム)

■ Bachelor of Arts in International Social Sciences

人材養成目的

社会学・法学・政治学・経済学の専門知識を集中的に深める教育を提供するだけでなく、各分野の基礎知識を総合的に修得するための横断的な教育も併せて実施することで、社会科学全般のジェネラルな視点に裏打ちされた高い専門性を発揮しうるグローカル(グローバル+ローカル)志向の人材養成を目指します。

求める人材

社会科学を総合的に学習するために必要な基礎学力と、グローバル化する社会の様々な事象への関心や洞察力・分析力を併せ持つ人材。

卒業後の進路

卒業生の約8割は企業・官公庁など国内外で広く活躍しています。約1割は大学院に進学しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…人文社会科学研究群、人間総合科学研究群、生命地球科学研究群

■他大学大学院…東京大学、一橋大学、東北大学、京都大学、大阪大学、九州大学、神戸大学、名古屋大学、早稲田大学、慶応義塾大学、ウィスコンシン大学、サセックス大学、ESSEC Business School、ハワイ大学

就職先の例

企業・団体

■マスコミ・出版…読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞、産業経済新聞、北日本新聞、NHK、TBS、テレビ朝日、福岡放送

■金融・保険…三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、りそな銀行、常陽銀行、ゆうちょ銀行、山口銀行、アフラック生命保険、第一生命、東京海上日動火災保険、日本生命保険、住友生命保険、損害保険ジャパン日本興亜、野村證券、みずほ証券

■商社・流通…住友商事、伊藤忠商事、丸紅、日新商事、イオンリテール、昭和シェル石油、ニトリ、ローソン

■運輸・旅行…JR東日本、JTB、全日空、日本航空、スカイマーク、星野リゾート、エイチ・アイ・エス、東日本高速道路、つくばエクスプレス

■情報・通信…ソフトバンク、KDDI、日立ソリューションズ、富士通

■コンサル…アクセンチュア、野村総研、博報堂、大和総研、富士通総研、電通テック、デロイトトーマツ

■食品…日本ハム、丸美屋食品

■機械・電機・建設・電力…日立製作所、ソニー、三菱重工業、三菱電機、積水ハウス、富士重工業、スズキ、デンソー、ヤマハ、三井ホーム、鹿島建設、北陸電力、九州電力

官庁・自治体

総務省、厚生労働省、経済産業省、外務省、国土交通省、農林水産省、防衛装備庁、警察庁、警視庁、人事院、国立国会図書館、東京高等裁判所管轄裁判所、東京地方裁判所、東京家庭裁判所、さいたま地方裁判所、長野家庭裁判所、東京都、埼玉県、茨城県、静岡県、群馬県、大阪府、千葉県、つくば市、横浜市、名古屋市、さいたま市、千葉市、川口市、川崎市

独立行政法人・教育研究機関等

海洋研究開発機構、高エネルギー加速器研究機構、筑波大学、千葉大学、宇都宮大学、科学技術振興機構、国立印刷局、高齢・障害・求職者雇用支援機構、日本司法支援センター、早稲田アカデミー、学研エデュケーション

教育の質の保証と改善の方策

授業評価の実施

学類として統一的な評価項目による授業評価を行うとともに、その結果を担当教員にフィードバックし、各自の授業内容の改善に役立てています。また、統一的評価にそぐわない科目については、各教員が独自に受講学生のアンケートを行っています。

社会科学の理論と実務の相互関係を学ぶ

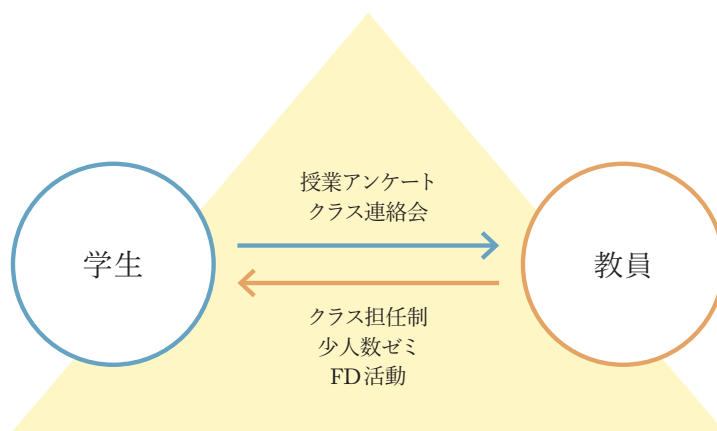
■演習・調査実習や社会調査法を毎年開講することで、卒業論文作成に必要な社会調査の技法を習得する機会を確保しています。

■法務の現場を見る機会として、裁判所、証券取引所、刑務所などの見学を毎年行っています。

■模擬法廷を利用した実践的な授業や、経済理論の実験に重点をおく演習科目を開講しています。

■経済の実務を学ぶため、地域の工場見学、日本銀行・証券取引所の見学を随時実施しています。

教育力向上への取組



学士(社会学)

Bachelor of Arts in Sociology

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づき、必要とされる知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、かつ社会・国際学群社会学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(社会学)の学位を授与します。

■ 社会学・社会科学を広く学びつつ、多様な社会学各論の視座や方法を関連づけて理解し、複雑化する現代社会を多角的な視点でとらえることができること。

(関連するコンピテンス:社会科学の基礎、社会科学の素養)

■ 既存の社会制度や慣習にみられる「常識」を改めて対象化して問題化し、これを分析する能力や社会のあるべき姿を総合的に構想する力を習得していること。

(関連するコンピテンス:社会問題の発見、社会的事象の理解・分析、社会問題の解決)

■ 社会的な事象を社会的に記述し、問題提起していくコミュニケーション能力を身につけていること。

(関連するコンピテンス:社会科学的な表現・議論、実社会での応用)

教育課程編成・実施の方針

学士(社会学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

社会学・法学・政治学・経済学が同じ学類の中に存在するという最大の特長を生かし、社会科学を総合的に学ぶことによって、広い視野と総合性を習得できるようにします。そのうえで、社会学に関する次のような力を育てることを方針とします。

■ 社会学的な関心や視座に関する知識の習得と、調査・分析する力や理論的な記述・表現する力など社会学的な実践力の習得をめざし、順序性に配慮して編成します。

■ 学生の主体的な取り組みを促すために、各自の興味関心に即して問題意識を育み、それに基づく学習ができるよう、自由な科目選択の可能性に配慮します。

順次性に関する方針

■ 1年次では、社会学的知識の基礎に関する科目(専門基礎科目)を配置します。また社会科学に関する基礎的知識と広い視野を養うことができる法学・政治学・経済学の専門基礎科目を開設しています。

■ 2～3年次では、専門基礎科目群に並行して、広範囲にわたる社会学的諸テーマのそれぞれに関する専門科目群、社会学の研究法に関する科目群を配置します。少人数による演習や実習は、それらを自ら実践することを目指します。いずれも学生の関心にあわせて選択できるように配慮しま

す。

■ 4年次には、引き続き社会学的知識に関する専門科目群、社会学的な実践に関わる演習や実習、卒業論文演習などの科目を配置し、卒業論文においてそれらを融合した集大成の作品にすることを目指します。

実施に関する方針

■ 社会制度や慣習をめぐる「常識」を相対化できる資料、教材の開発をします。

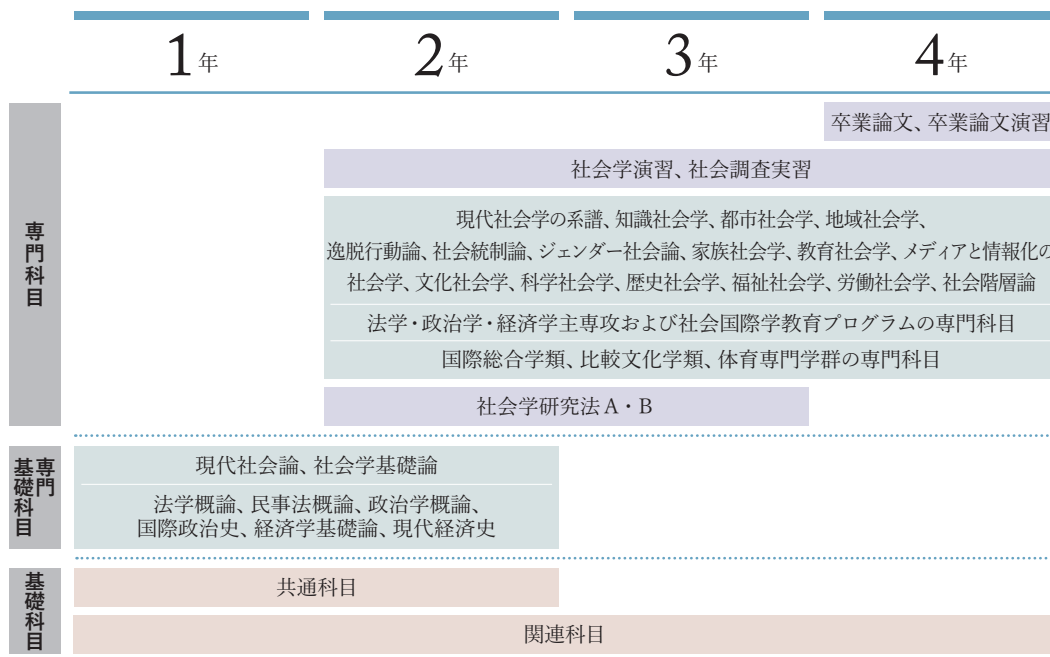
■ 個人の関心を尊重した課題の設定や資料の収集、分析の実践を行います。

■ 調査実習の実施や、講義におけるゲスト・スピーカーの活用など地域や現場との連携を図るとともに、理論と社会事象の統合を行います。

学修成果の評価に関する方針

社会学主専攻の学修成果の評価は、教育課程編成・実施の方針に基づき、各授業科目の到達目標に達したかを、各教科のシラバスに記載されている評価方法によって適正に行う。特に、社会学主専攻では学生が自主的な研究テーマ・課題を設定し卒業論文を執筆する。「卒業論文演習」科目の評価、及び論文の完成度の評価において、学位授与の方針で定められた学修の目標及び水準に達したと承認された場合に、社会学の学位を授与する。卒業論文執筆の過程では、卒業論文の中間報告会を開催し、指導教員を含む複数の教員による評価や助言を通して、論文の高い水準を保証できる

育成する能力とカリキュラムの構造



社会的な分析力・構想力・コミュニケーション力の習得

社会学的方法・視座、多角的な視点の習得

専門性と社会性を支える豊かな教養を育む

学士（社会学）

Bachelor of Arts in Sociology

システムを実施している。以上、段階を追って編成された各過程科目の評価と、集大成としての卒業論文の公正な評価によって、学生は学問的かつ汎用的な高い水準の能力を修得することになる。

学士（法学）

Bachelor of Laws

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ社会・国際学群社会学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（法学）の学位を授与します。

■ 法の役割と存在意義に関する深い考察を通して、社会の在り方に対する関心を持ち続け、広い視野で問題を解決する能力を獲得する。
（関連するコンピテンス：社会科学の基礎、社会科学の素養、社会問題の解決）

■ 法学の専門知識に関し、憲法・民法・刑法等に代表される基本的な法の概念から演繹して現実社会の事象を理解できる体系的理解力と論理的思考力を獲得する。
（関連するコンピテンス：社会的事象の理解・分析）

■ 自ら発信しまた受信する、双方向の法的コミュニケーション能力を身に付ける。
（関連するコンピテンス：社会科学的な表現・議論）

■ 社会事象の中に法的な問題点を発見する力と、問題の核心を捉える洞察力を修得する。
（関連するコンピテンス：社会問題の発見、実社会での応用）

教育課程編成・実施の方針

学士（法学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

法的な判断能力—リーガルマインド—の基層となるべき、幅広い柔軟な社会科学の素養を身に付ける機会を提供するとともに、法学の学問的特性を踏まえた段階的な学習と、実践的な知識の習得を可能とするような教育課程とします。

順次性に関する方針

■ 1年次には、法学の基礎になる概念と知識を会得するために不可欠な専門基礎科目として法学概論と民事法概論を置き、必修としています。さらに、社会科学全般に関する幅広い知識と素養を得るための社会学・法学・政治学・経済学の「専門基礎科目」を開設しています。

■ 1年次・2年次には、3年次に法学主専攻に進学するために必要な基本科目として、主要3分野（憲法・民法・刑法）の中から「憲法Ⅰ・Ⅱ」「民法総則」「刑法総論」を配置しています。

■ 2年次・3年次には、主要3分野のそれ以外の科目や、商法、会社法、行政法等の科目を配置します。

■ 3年次・4年次には、民事訴訟法、刑事訴訟法、法哲学等の科目や、より専門性の高い科目、さらには少人数での討議や教員との対話を通じた学習に重点を置いた演習科目を配置し、それまでに培った法学の基

学士（法学）

Bachelor of Laws

本的な理解の上に、法的知識の応用力の獲得と、特定のテーマについての調査・分析の方法への習熟や法的なコミュニケーション能力の習得を目的とします。

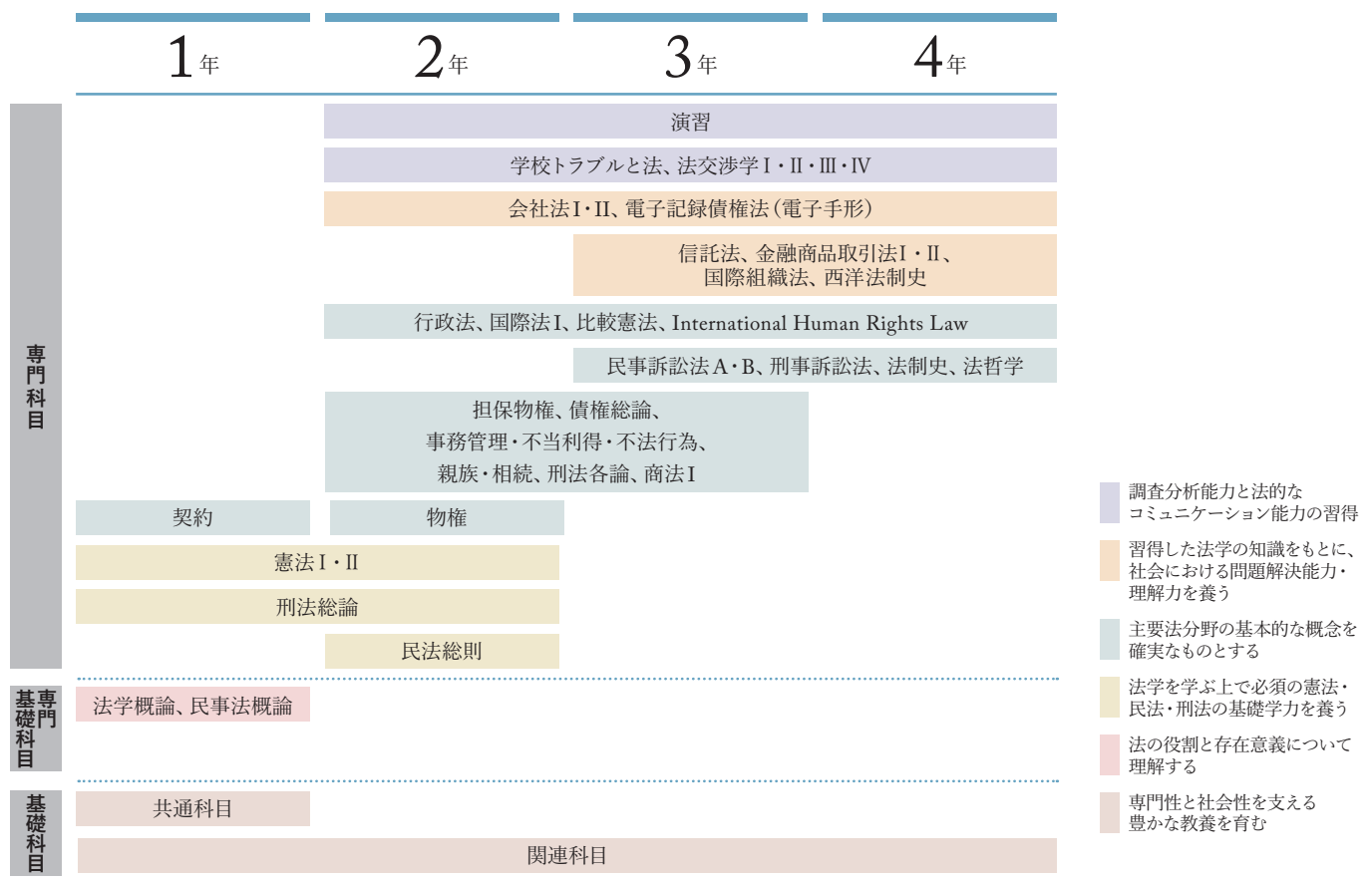
実施に関する方針

■ 学士（法学）として必須の基本的な法理論と知識の習得に加えて、現在および将来に想定される社会問題にも対処できる人材を養成するにあたり、学生が法学の学習に興味を抱くような手法を取り入れます。

■ 模擬法廷を利用した具体的かつ臨場感のある授業、裁判所等の施設の見学、社会と法とのつながりを実感できる最新の資料や映像を用いた資料の利用や作成、そして特色ある演習の充実を図ることにより、上記方針の実現を目指します。

■ 他大学との合同ゼミや国内外の主要大学が参加するイベントへの出場を通じて、習得した知識とコミュニケーション能力とを総合的に発揮する場を提供します。

育成する能力とカリキュラムの構造



学修成果の評価に関する方針

法学主専攻を担当する教員が開設する授業科目では、基本的にシラバスに沿った方法により、各教員が厳正・公正な成績評価を行なっています。期末考査や中間考査はもとより、授業における教員からの質問に対する学生の発言や、演習での学生同士のディスカッションも重視し、答案用紙からだけでは読み取りにくい、所謂リーガルマインドの習得程度やディプロマ・ポリシーで想定しているコンピテンスの獲得のチェックを行なうように努めています。卒業論文は必修科目ではありませんが、卒業論文提出希望者には、中間発表の場を設け、指導教員を含めた法学主専攻担当教員が立ち会い、大学での学びの集大成となる論文完成に向けた各種アドバイスや、多方面からの質疑応答を行なうことにしています。なお、適切な教育内容であることの検証に役立てるため、ほぼ全ての科目において、授業アンケートを実施しています。

学士（政治学）

Bachelor of Arts in Political Science

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ社会・国際学群社会学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（政治学）の学位を授与します。

■ グローバル化・複雑化・多様化する政治現象を、それを取り巻く現代社会の諸現象と関連づけて学際的・総合的に理解する能力を修得している。

（関連するコンピテンス：社会科学の基礎、社会科学の素養、社会的事象の理解・分析）

■ 政治学の専門知識を体系的に理解し、政治現象を批判的・多角的に分析・考察する能力、混迷する社会における政策課題を発見し、政治学の立場からその解決法を導き出す能力を修得している。

（関連するコンピテンス：社会的事象の理解・分析、社会問題の発見、社会問題の解決）

■ 政治学の専門知識に基づく分析・考察を文章・口頭によって論理的に表現し、相互に議論する能力を身に付け、社会各界や自己が所属する組織・集団をリードする力を備えている。

（関連するコンピテンス：社会科学的な表現・議論、実社会での応用）

■ 政治的・社会的な問題に対して、公共性に立脚した自律的な市民としての責任感や倫理観を身に付けている。

（関連するコンピテンス：社会問題の発見、社会問題の解決、実社会での応用）

教育課程編成・実施の方針

学士（政治学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

社会学類では、社会科学における学際性と各主専攻の持つ専門性をバランスよく修得することを求めています。政治学主専攻は、広い視野と総合性、政治学の高い専門性を兼ね備え、公共性を身に付けた自律した市民を育成するため、政治学の基礎から専門・応用に至る段階的な教育課程を編成します。

具体的には、グローバル化・複雑化する政治現象を、それを取り巻く現代社会の諸現象と関連づけて学際的・総合的に理解する能力を修得するために、社会学・法学・経済学が同じ学類の中に存在するという最大の特長を生かし、社会科学を総合的に学ぶ教育課程を実施します。また政治学の専門知識を体系的に理解し、政治現象を批判的・多角的に分析・考察する能力、混迷する社会における政策課題を発見し、政治学の立場からその解決法を導き出す能力を修得するために、「政治学概論」と「国際政治史」を基礎とし、政治学の諸領域をより専門的に扱う科目群を学ぶ教育課程を実施します。政治学の専門知識に基づく分析・考察を文章・口頭によって論理的に表現し、議論する能力を身に付け、社会各界や自己が所属する組織・集団をリードする力を身に付けるために、

「政治学入門演習」「演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」を実施します。

順次性に関する方針

■1年次には、政治学を学ぶために不可欠な理論・思想・歴史を講義する専門基礎科目を置き、必修とします。また社会に対する基礎的知識と広い視野を養うことができる社会学・法学・政治学・経済学の専門基礎科目を開設します。

■2年次は、政治学の諸領域についての専門的知識を修得します。また「政治学入門演習」で政治学の基礎を演習形式で学び、「政治学外書講読」で政治学を英語でも理解できるようにします。

■3年次は、政治学の専門的知識をより深く修得し、「演習Ⅰ・Ⅱ」で自己の研究テ

マを深めます。4年次は、「演習Ⅲ・Ⅳ」で自己の研究テーマについて追究し、卒業論文またはゼミ論文として完成させます。

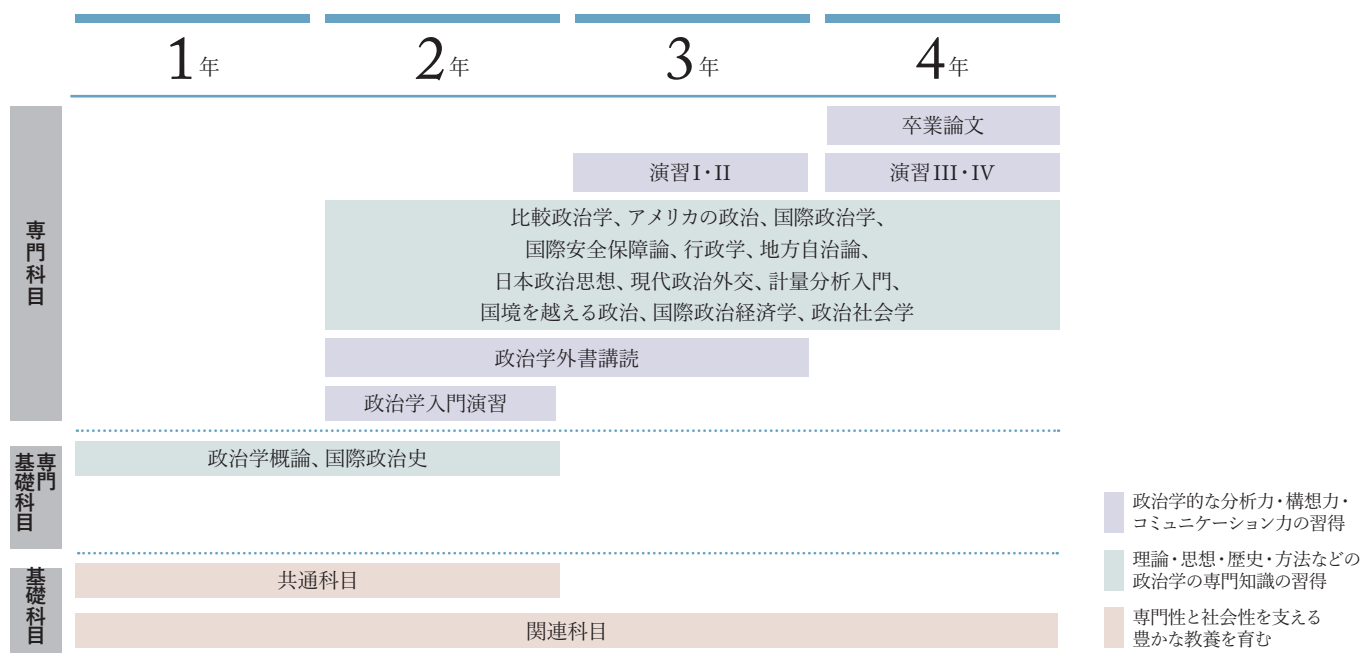
実施に関する方針

社会学類政治学主専攻が提供する講義科目は、原則として2単位・学期完結で実施します。「演習Ⅰ～Ⅳ」は、少人数によって実施し、2人以上の教員の演習科目を履修します。

学修成果の評価に関する方針（政治学）

政治学主専攻の学修成果の評価は、教育課程編成・実施の方針に基づき、履修学生が、講義および演習科目において設定されている到達目標を達成しているか、各教科のシラバスに記載されている評価方法を通じて適正に実施しています。特徴

育成する能力とカリキュラムの構造



学士（政治学）

Bachelor of Arts in Political Science

としては、3、4年次に2つ以上の演習を履修し、同時期に、複数の教員からの指導を受けることのできるカリキュラムを提供しています。選択科目である卒業論文については、原則として1人の教員が審査を担当していますが、演習を通じて実質的な集団指導を行っています。

学士（経済学）

Bachelor of Arts in Economics

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ社会・国際学群社会学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（経済学）の学位を授与します。

■ 経済分析に必要な技術的能力を修得していること。ミクロ経済学、マクロ経済学など、経済学の基礎となる科目、さらに経済数学や計量経済学など、理論と実証分析に必要となる手法を学ぶ科目を履修して、分析のための技術・知識を修得すること。

（関連するコンピテンス：社会科学の基礎、社会科学の素養、社会的事象の理解・分析、社会科学的な表現・議論）

■ 経済学の専門知識を体系的に身につけていること。専門科目の選択履修により、経済学のより深い専門的な知識を修得すること。

（関連するコンピテンス：社会的事象の理解・分析、社会問題の解決）

■ 経済理論と歴史・現状に関する知識を合わせた総合的な分析能力を身につけていること。現代経済史、地域経済論、日本経済論などの履修によって、経済問題に対する幅広い理解を体得すること。

（関連するコンピテンス：社会科学の基礎、社会科学の素養、社会問題の発見、社会的事象の理解・分析、社会科学的な表現・議論）

■ 経済問題、社会問題に対する広い関心と洞察力を備えていること。演習科目の履修によって、経済学のツールを社会の諸問題に適用する能力を獲得すること。

（関連するコンピテンス：社会科学の素養、社会問題の発見、社会的事象の理解・分析、社会問題の解決、社会科学的な表現・議論、実社会での応用）

教育課程編成・実施の方針

学士（経済学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

社会科学諸分野の基礎的学習の上に、経済学を主専攻として選択する学生については、経済学の論理的思考法に基づいて経済、社会の諸問題を考察し、その処方箋を考えることのできる力の育成を目指しています。まず、経済学を専門とするために必要となる経済学基礎論、現代経済史などの専門基礎科目と、専門科目であるゲーム理論入門を置き、それらの履修に続いて、2年次以降、さらに専門性を高めた科目（ミクロ経済学、マクロ経済学、実証分析入門、経済数学、地域経済論その他の専門科目）を選択させます。また1年次から高校レベル数学の経済学への応用の仕方を基礎経済数学（専門科目）によって育成し、順次、大学数学の応用まで段階的に教育していきます。これらの講義科目と並行して、教員と少人数で主体的な学習をする場として経済学演習科目を開設し、専門的な文献を読み込むこと、あるいは実験や視察研修に参加することを通して、授業で学んだ知識をさらに深め、応用する力を強化する機会を設けています。卒業論文は必修ではありませんが、自主的な研究課題にチャレンジすることで、4年間の学習で身に付けた経済学の知識をさらに深化させ、先端的な研究レベルの学問に取り組む機会として、推奨しています。

学士（経済学）

Bachelor of Arts in Economics

順次性に関する方針

2年次終了時の主専攻分野の決定で「経済学」を選択する学生は、専門基礎科目のうち、「経済学基礎論」と「現代経済史」の履修が必修です。このほか、経済学の思考法の理解を確実なものとするために、経済理論（ミクロ、マクロなど）、経済数学、実証分析、経済史などが選択専門科目として提供されており、2年次以降、順次選択して履修します。

1、2年次の学習で得た、経済学の基礎的な知識や思考法の理解に基づいて、3、4年次では、より高度な専門知識を習得し、応用力を養うことを目指します。応用科目（公共経済学、産業組織論、情報と契約の経済学、地域経済論、日本経済論など）の履修によって、経済学の理論を現実社会

の諸問題に応用する力を身につけます。

実施に関する方針

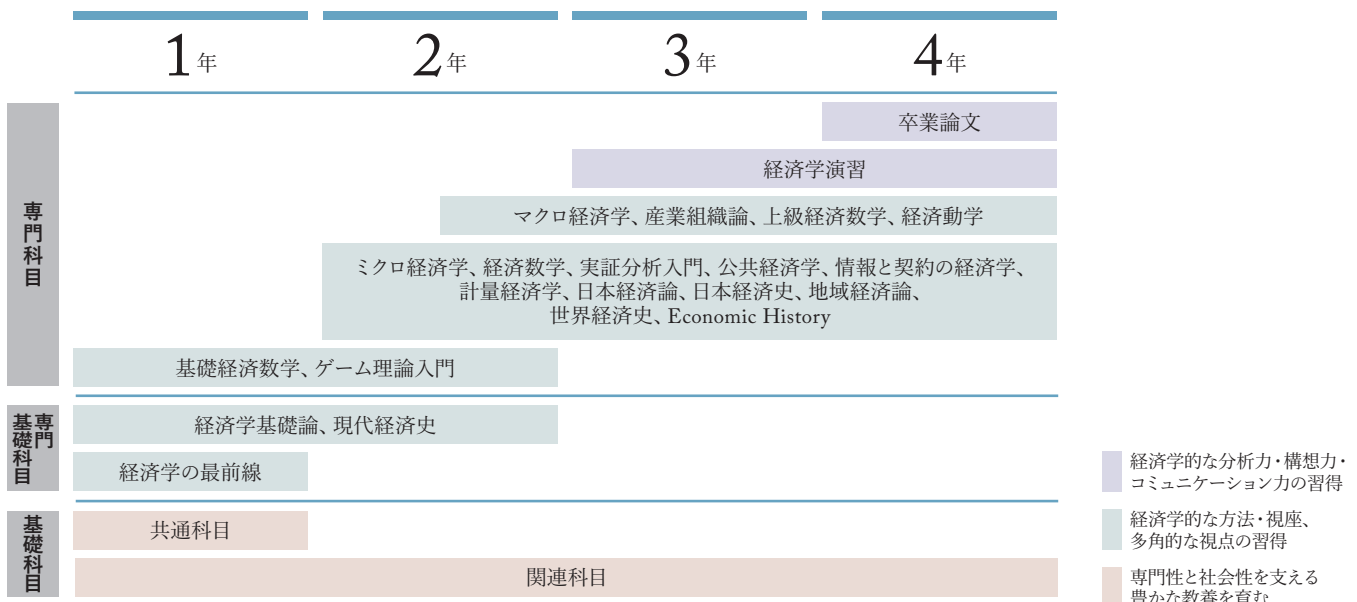
講義科目として開講される専門科目に加え、学生の主体的な学習を促し、各教員の専門的な知識を深く学ばせるため、演習科目を設置しています。

演習科目では、企業経営者の話を聞いたり、地域経済に関する実態調査を行ったりして、社会のなかの生きた経済学を学ぶ機会を提供しているものもあります。経済実験、ゲーム理論実験という理論を体感することができる演習科目もあります。

さらに、英語による経済学の学習能力を高めるために、英語による講義（Economic History など）を開講しています。

希望する学生には、卒業論文執筆の指導を行います。

育成する能力とカリキュラムの構造



学修成果の評価に関する方針

経済学主専攻では、卒業論文は選択科目の一つとして位置づけられています。評価は、指導教員(1名)が行います。卒業論文のタイトルの決定期限は5月で、社会学類教員会議で報告されます。

「経済学演習」を除く大多数の授業科目において授業評価アンケートを実施しています。

学士（国際社会科学）※社会国際学教育プログラム（英語プログラム）

Bachelor of Arts in International Social Sciences

学位授与の方針

Bachelor of Arts in International Social Sciences is granted to those who are admitted having gained the knowledge and ability (Generic Competences) based on the curriculum targets stipulated for the University of Tsukuba's undergraduate degree programs and have reached the following achievement targets in their learning outcomes based on the educational purpose for the Undergraduate Program of International Social Studies.

Understanding International Relations

In addition to its specialized fields, students will gain broad knowledge on international studies in general and various research methods.

Multidisciplinary Knowledge

Students are provided with skills and knowledge through the perspectives from different fields of social sciences, mainly economics, political science, sociology, and law.

Data analysis & application for social science research

Students are trained to mobilize, organize, analyze, and interpret data and information in social science research.

Fundamentals of negotiation skills

Students are given opportunities to develop the skills to engage in mutually beneficial negotiation on issues of local and international importance and context.

Policy-related fundamental skills

These courses are oriented towards practices of policy making design and implementation.

教育課程編成・実施の方針

The curriculum is organized based on the following policies.

General policy

This program's general policy is to provide students with tools to understand international issues in the globalized world through a multidisciplinary perspective, encompassing areas such as economics, political science, sociology, and law.

Sequential course structure

The curriculum allows the student to obtain knowledge in a gradual and structured way, through general foundation subjects in a first stage, foundation subjects for major and major subjects later. Finally, students write the graduation thesis as a synthesis of their academic development.

Implementation policy

Through a broad perspective on global issues, the educational philosophy of the program aims to develop students' ability to think about these issues in a multidisciplinary way, both from a theoretical standpoint and in solving practical problems based on empirical data.

To achieve this goal, educational resources include classes that promote the debate of ideas and a multidisciplinary curriculum centered on Economics, Sociology, Law,

Cross-cultural awareness skills

These courses offer fundamental knowledge to rise students' awareness on different cultures and perspectives that will encourage a broader understanding of local and global cultural landscapes.

■ Project analysis and completion skills

Students undertake research projects and seminars to design, research, and present important themes in social sciences. In the process, they create and present their graduation thesis in order to contribute to the production of socially relevant and meaningful knowledge.

■ Host culture integrative skills

By living and studying in Japan, students obtain a unique opportunity to engage, understand and contextualize the Japanese culture and its contribution to global welfare and society.

Interactive applied competence

Courses that provide opportunities for students to apply their skills and knowledge in practical contexts, allowing them to shape their capacity to solve and prevent problems in society.

and Political Science.

Students' participation in events such as the National Model United Nations in Washington, DC, and joint workshops involving high schools in Japan has fostered their ability to debate international issues and connect with the local community within the context of the country's internationalization.

Through internships, students have played a highly dynamic role, taking part in programs in Japan and countries such as India, Mongolia, China, and Ethiopia, in institutions ranging from international organizations to private companies. Topics addressed include issues such as child welfare promotion, food security, financial management, marketing and green energy. All these activities aim to equip students as global human resources who will undoubtedly contribute positively to solving current and future international challenges.

Policy for evaluation of learning outcomes

In accordance with the program policy and guidelines, periodic assessments of students are applied, as well as the assessment of the graduation thesis. In relation to courses, quality is guaranteed through systematic evaluations.

人材養成目的

社会科学分野を基本としつつ環境学や情報学等の分野も加えた総合的な知の体系と、専門性に裏付けられた方法論を身に付け、グローバル化する社会で生起する複雑な諸問題を的確に理解し、分析する能力を備え、社会の要請に柔軟かつ独創的に対応できる人材を育成します。

国際総合学類

College of International Studies

学士(国際関係学)

■ Bachelor of Arts in International Relations

学士(国際開発学)

■ Bachelor of Arts in International Development

学士(国際社会科学) ※社会国際学教育プログラム(英語プログラム)

■ Bachelor of Arts in International Social Sciences

人材養成目的

グローバリゼーションとともに複雑化する国際的な諸問題に対して、問題の本質を発見する洞察力と情報分析能力を身に付け、先見性と独自性に富む解決策を他者に伝えるコミュニケーション能力を備えた、文理融合型の実践的な人材を養成します。

求める人材

経済活動や環境問題は国境を越えて展開します。そこには、絶対的に正しいものではありません。既成観念にとらわれず、多様な価値観の存在を想像しながら、ものごとを観察し、何が問題かを見分け、何をどうすればいいのか、筋道をたてて考え、それを周りに説明でき、理解者を増やしていく意欲・チャレンジ精神をもつ人材が望まれます。

卒業後の進路

卒業生の約8割は、企業・官公庁など国内外で広く活躍しています。約2割は大学院に進学しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…人文社会科学研究群、システム情報工学研究群

■他大学大学院…東北大学、東京大学、東京工業大学、一橋大学、京都大学、海外の大学

就職先の例

企業・団体

■マスコミ・出版…朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞、北海道新聞、中日新聞、NHK、日本テレビ、リクルート 他

■金融・保険…三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行、みずほフィナンシャルグループ、日本政策投資銀行、野村証券、大和証券 他

■商社・流通…三井物産、住友商事、伊藤忠商事、三菱商事、双日、イオン 他

■運輸・旅行…JR東日本、日本貨物鉄道、日本通運、中部国際空港、H.I.S 他

■情報・通信…NTTコミュニケーションズ、日本マイクロソフト、インテル、日本IBM 他

■サービス…野村総合研究所、リクルートエージェント、ヒルトン大阪 他

■機械・電機…本田技研工業、三菱重工業、川崎重工業、スズキ、マツダ、パナソニック、東芝、富士通、沖電気工業、キヤノン 他

■住宅・不動産…ミサワホーム、三菱地所リアルマネジメント、東急不動産 他

学校教員

■公立…茨城県、千葉県、東京都、静岡県 他

官庁・自治体

外務省、経済産業省、厚生労働省、農林水産省、防衛省、警察庁、東京国税局、青森県、宮城県、茨城県、東京都、千葉県、長野県、兵庫県、佐賀県、栃木県警、静岡県警、東京消防庁、つくば市、山梨市、四日市市、広島市 他

独立行政法人等

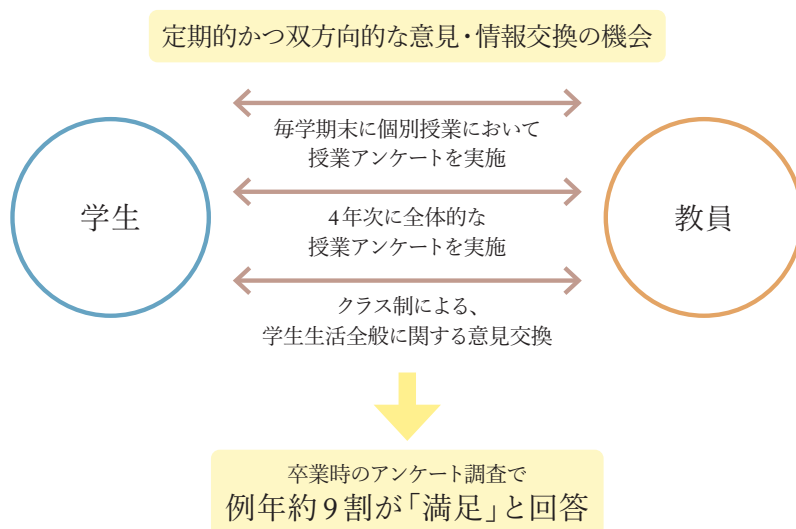
国際交流基金、国際協力機構、日本貿易振興機構 他

教育の質の保証と改善の方策

■授業評価として、毎学期末にすべての授業について授業評価アンケートを実施しています。クラス制をとり、学生生活全般に関して、学生と教員が定期的に意見交換することにより、教育環境の改善に努めています。卒業時に行っている学類独自のアンケート調査では、例年約9割が「満足」と回答しています。

■国際総合学類の特徴として、海外での様々な分野の活動に関心を持つ学生が極めて多く、例年約5割の在学生在が交換留学や海外研修により国外で学んでいます。こうした学生の海外志向に応えるために、国際総合学類では、独自の海外研修企画や国連ボランティア事業、インターンシップへの参加を単位化したり、欧米やアジア、中南米、北アフリカ等の大学と単位の交換協定を締結して、学生の留学希望を制度的に支援しています。

教育力向上への取組



学士（国際関係学）

Bachelor of Arts in International Relations

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（国際関係学）の学位を授与します。

■ 国際政治学、国際法、経済学、言語学、文化人類学等の各領域の専門的知識と、ITスキルに裏打ちされた多角的な方法論を踏まえた、文理融合型の学際的見識を修得している。

（関連するコンピテンス：国際学（国際関係）の理解、国際学（国際開発）の理解）

■ 最新の世界事情を歴史的・文化的背景を踏まえて理解し、基本的な解決策を提示する国際ガバナンスのプロセスを理解している。

（関連するコンピテンス：国際学（国際関係）の理解、国際学（国際開発）の理解）

■ 国際学ゼミナールの議論と卒業論文の研究を通して、高度の論理的思考力と多様な価値観を前提とした表現力を習得している。

（関連するコンピテンス：国際学（国際関係）の分析能力、国際学（国際関係）の論理的表現能力、国際学（国際開発）についての分析能力、国際学（国際開発）についての論理的表現能力）

■ 「ヒアリング力」、「交渉力」、「提案力」、「前向きな姿勢」、「向上心」といった基本的なヒューマン・スキルと、コンピューターによる分析・表現・プレゼンテーションのテクニカル・スキルを身に付けている。

（関連するコンピテンス：国際学（国際関係）の分析能力、国際学（国際関係）の論理的表現能力、国際学（国際開発）についての分析能力、国際学（国際開発）についての論理的表現能力）

教育課程編成・実施の方針

学士（国際関係学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

現在の国際問題は経済や文化と深く関係しており、その解明は政治学的なアプローチだけでは不十分です。国際関係学主専攻では、政治学、国際法、経済学、文化人類学、言語学などの分野を横断する学際的教育により、ガバナンス志向的な問題解決の能力を有するグローバル人材を養成することを目標としています。国際開発学主専攻と共通する領域もありますが、より社会科学の側面から国際社会で発生する様々な問題を捉え分析してゆく学問体系を持ちます。教育課程は基本的に、国際開発学主専攻との共通点の多い専門基礎科目から、より専門性の高い国際関係学分野に固有の科目及びゼミナールへと、知見を掘り下げていくという観点から編成されています。

順次性に関する方針

■ 1年次…基本的な学問分野の学習

必修の専門導入科目「国際学Ⅰ～Ⅳ」を通じて、国際関係の基礎とグローバルな視野、広範な教養を身につけます。基礎的な社会・人文科学、及び環境学、情報学といった複数のディシプリンを俯瞰することで、自分が得意とし、将来的に深く学んでいきたい主専攻と専門分野を決めていくステップとなります。同時に、英語を中心とし

た語学力とコミュニケーション能力を強化します。

■ 2年次…学際的な分析法の習得

主に選択の基礎科目を学び、国際的な比較や歴史的な背景を考察すると同時に、環境学・情報学との融合領域に対する知見や分析方法の習得を通じて、学際的な素養と国際問題への洞察力を涵養します。さらに、語学はスキル・手段であるという認識を確立した上で、広い視野、価値観の相対性を前提とした、真のコミュニケーション能力を強化します。

■ 3年次…課題解決的、及び理論的な研究
国際関係学主専攻科目の学習を通じて、隣接分野の動向も踏まえた、具体的な解決策の構築に寄与する理論的知見を習得します。急速に変動し複雑化する国際状況に対応して「何が問題であるか」を突き

とめる問題解決へと立ち向かう鋭い問題意識とバランスのとれた国際感覚を身につけます。

■ 4年次…国際的に通用する説得的な政策の研究

少人数の国際学ゼミナールへの参加と卒業論文の執筆を通じて、4年間の研究成果を構築します。独創的な問題設定を行い、論理立てて分析・実証し、自らのガバナンス力を高めることで、国際的に活躍できるグローバル人材を目指します。

実施に関する方針

学習モチベーション形成のために、諸外国の研究者や政治家を招いて国際問題に関するシンポジウムや討論会を開催します。これらの機会を通じ、学生が日常的に国際化を意識できる学習環境を創出できるよう

育成する能力とカリキュラムの構造

4年	独創的な問題設定を行い、 論理立てて分析・実証
3年	具体的な解決策の構築に寄与する 理論的知見を習得
2年	学際的な素養と国際問題への 洞察力を涵養 コミュニケーション能力の一層の強化
1年	国際関係の基礎とグローバルな 視点、広範な教養を身につける 同時に、語学力と コミュニケーション能力を強化



学士（国際関係学）

Bachelor of Arts in International Relations

に努めています。

学修成果の評価に関する方針

学位授与の方針における到達目標を踏まえ、汎用コンピテンスとともに、国際関係学についての理解や分析能力、論理的表現力に関して、試験、レポート、独立論文、卒業論文などにより、習熟度を評価します。

学士（国際開発学）

Bachelor of Arts in International Development

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（国際開発学）の学位を授与します。

■ 経済開発、社会開発等の社会科学、または情報学、環境学等に関する専門的方法論を駆使しうる、文理融合型の学際的見識を修得している。

（関連するコンピテンス：国際学（国際開発）の理解、国際学（国際関係）の理解）

■ グローバル・コミュニケーションの基盤としてのITスキルを持ち、国際交流基盤の成り立ちを理解している。

（関連するコンピテンス：国際学（国際開発）の理解、国際学（国際関係）の理解）

■ 国際学ゼミナールの議論と卒業論文の研究を通して、高度の数理的でないし論理的思考力と実践的な技法を習得している。

（関連するコンピテンス：国際学（国際開発）の分析能力、国際学（国際開発）の論理的表現能力、国際学（国際関係）についての分析能力、国際学（国際関係）についての論理的表現能力）

■ 「ヒアリング力」、「交渉力」、「提案力」、「前向きな姿勢」、「向上心」といった基本的なヒューマン・スキルと、コンピューターによる分析・表現・プレゼンテーションのテクニカル・スキルを身に付けている。

（関連するコンピテンス：国際学（国際開発）の分析能力、国際学（国際開発）の論理的表現能力、国際学（国際関係）についての分析能力、国際学（国際関係）についての論理的表現能力）

教育課程編成・実施の方針

学士（国際開発学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

国際開発学主専攻は、国際関係学主専攻と共通する側面もありますが、より社会・数理工学的側面から国際社会で発生する様々な問題を捉え分析してゆく学問体系を持ちます。国際社会のあり方に関する様々な視点を踏まえて、開発を巡る実践的な知識と技術を身に付けたグローバル人材を養うことを目標としています。教育課程は基本的に、国際関係学主専攻との共通点の多い専門基礎科目から、より専門性の高い国際開発学分野に固有の科目及びゼミナールへと、知見を深めていくという観点から編成されています。

順次性に関する方針

■ 1年次…基本的な学問分野の学習

必修の専門導入科目「国際学Ⅰ～Ⅳ」を通じて、国際関係の基礎と、環境・情報・土木・都市分野の広範な教養を身につけます。これらの領域の基礎的な複数のディシプリンを俯瞰することで、自分が得意とし、将来的に深く学んでいきたい主専攻と専門分野を決めていくステップとなります。同時に、英語を中心とした語学力とコミュニケーション能力を強化します。

■ 2年次…学際的な分析法の習得

主に選択の基礎科目を学び、現代社会における開発に関わる諸現象について、分

学士（国際開発学）

Bachelor of Arts in International Development

析・評価・マネジメントの技法を習得するとともに、ITの理論と技術を習得します。語学はスキル・手段であるという認識を確立した上で、広い視野、価値観の相対性を前提とした、真のコミュニケーション能力を強化します。

■3年次…課題解決的、及び理論的な研究
国際開発学主専攻科目の学習を通じて、インターネットに代表される国境を越えて発展するITについて学ぶと同時に、開発学的なアプローチに基づくモデル化の技法を習得し、国際交流の基盤における問題発見と解決に関する目的意識を養います。

■4年次…国際的に通用する実証的な技法の研究
少人数の国際学ゼミナールへの参加と卒業論文の執筆を通じて、4年間の研究成

果を構築する。独創的な問題設定を行い、論理立てて分析・実証し、自らの技法を高めることで、国際的に活躍できるグローバル人材を目指します。

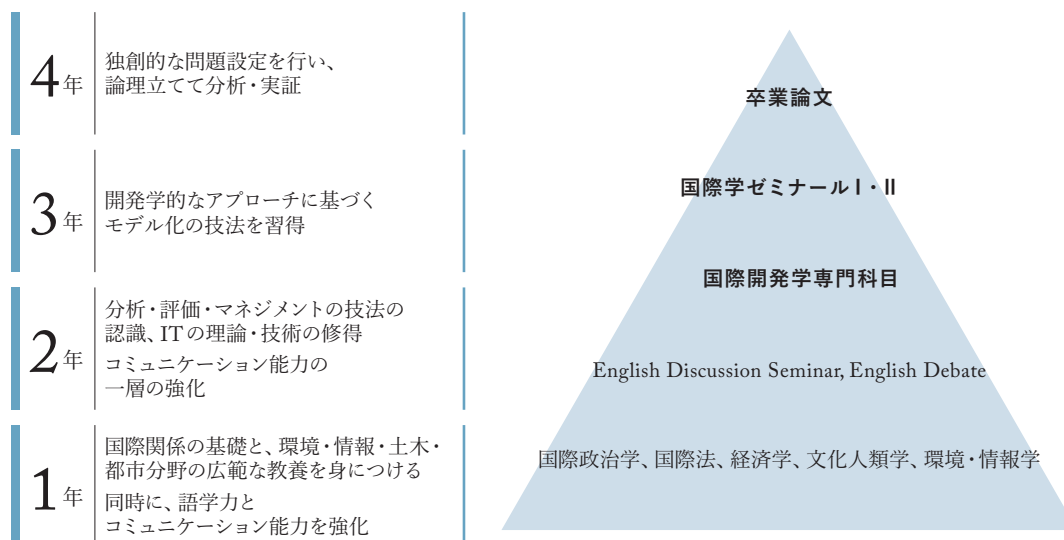
実施に関する方針

学習モチベーション形成のために、諸外国の研究者や政治家を招いて国際問題に関するシンポジウムや討論会を開催します。これらの機会を通じ、学生が日常的に国際化を意識できる学習環境を創出できるように努めています。

学修成果の評価に関する方針

学位授与の方針における到達目標を踏まえ、汎用コンピテンスとともに、国際開発学についての理解や分析能力、論理的表現力に関して、試験、レポート、独立論文、卒業論文などにより、習熟度を評価します。

育成する能力とカリキュラムの構造



学士（国際社会科学）※社会国際学教育プログラム（英語プログラム）

Bachelor of Arts in International Social Sciences

学位授与の方針

Bachelor of Arts in International Social Sciences is granted to those who are admitted having gained the knowledge and ability (Generic Competences) based on the curriculum targets stipulated for the University of Tsukuba's undergraduate degree programs and have reached the following achievement targets in their learning outcomes based on the educational purpose for the Undergraduate Program of International Social Studies.

Understanding International Relations

In addition to its specialized fields, students will gain broad knowledge on international studies in general and various research methods.

Multidisciplinary Knowledge

Students are provided with skills and knowledge through the perspectives from different fields of social sciences, mainly economics, political science, sociology, and law.

Data analysis & application for social science research

Students are trained to mobilize, organize, analyze, and interpret data and information in social science research.

Fundamentals of negotiation skills

Students are given opportunities to develop the skills to engage in mutually beneficial negotiation on issues of local and international importance and context.

Policy-related fundamental skills

These courses are oriented towards practices of policy making design and implementation.

教育課程編成・実施の方針

The curriculum is organized based on the following policies.

General policy

This program's general policy is to provide students with tools to understand international issues in the globalized world through a multidisciplinary perspective, encompassing areas such as economics, political science, sociology, and law.

Sequential course structure

The curriculum allows the student to obtain knowledge in a gradual and structured way, through general foundation subjects in a first stage, foundation subjects for major and major subjects later. Finally, students write the graduation thesis as a synthesis of their academic development.

Implementation policy

Through a broad perspective on global issues, the educational philosophy of the program aims to develop students' ability to think about these issues in a multidisciplinary way, both from a theoretical standpoint and in solving practical problems based on empirical data.

To achieve this goal, educational resources include classes that promote the debate of ideas and a multidisciplinary curriculum centered on Economics, Sociology, Law,

学士（国際社会科学）※社会国際学教育プログラム（英語プログラム）

Bachelor of Arts in International Social Sciences

■ Cross-cultural awareness skills

These courses offer fundamental knowledge to rise students' awareness on different cultures and perspectives that will encourage a broader understanding of local and global cultural landscapes.

■ Project analysis and completion skills

Students undertake research projects and seminars to design, research, and present important themes in social sciences. In the process, they create and present their graduation thesis in order to contribute to the production of socially relevant and meaningful knowledge.

■ Host culture integrative skills

By living and studying in Japan, students obtain a unique opportunity to engage, understand and contextualize the Japanese culture and its contribution to global welfare and society.

■ Interactive applied competence

Courses that provide opportunities for students to apply their skills and knowledge in practical contexts, allowing them to shape their capacity to solve and prevent problems in society.

and Political Science.

Students' participation in events such as the National Model United Nations in Washington, DC, and joint workshops involving high schools in Japan has fostered their ability to debate international issues and connect with the local community within the context of the country's internationalization.

Through internships, students have played a highly dynamic role, taking part in programs in Japan and countries such as India, Mongolia, China, and Ethiopia, in institutions ranging from international organizations to private companies. Topics addressed include issues such as child welfare promotion, food security, financial management, marketing and green energy. All these activities aim to equip students as global human resources who will undoubtedly contribute positively to solving current and future international challenges.

Policy for evaluation of learning outcomes

In accordance with the program policy and guidelines, periodic assessments of students are applied, as well as the assessment of the graduation thesis. In relation to courses, quality is guaranteed through systematic evaluations.

人間学群

School of Human Sciences

教育学類

College of Education

学士(教育学) ■ Bachelor of Arts in Education

心理学類

College of Psychology

学士(心理学) ■ Bachelor of Arts in Psychology

障害科学類

College of Disability Sciences

学士(障害科学) ■ Bachelor of Arts in Disability Sciences

学士(特別支援教育学) ■ Bachelor of Arts in Special Education

学士(社会福祉学) ■ Bachelor of Science in Social Work

人材養成目的

人間と人間がかかわる社会・自然に関する幅広い興味と関心を基盤にしつつ、人間の発達や支援に関して科学的に分析・理解する態度と専門的な知識や技能を身につけ、これらの態度・知識・技能を活用して、人が抱える様々な問題へ主体的かつ創造的に対処することで、人間社会に広く貢献することができる人材を養成します。

教育学類

College of Education

学士(教育学)

■ Bachelor of Arts in Education

人材養成目的

人間形成、学校教育開発、教育計画・設計、地域・国際教育にかかわる教育学の専門的知識・技能を活用し、学校、自治体、民間機関、国際機関など様々な分野で貢献できる人材、研究能力を有する人材を養成します。

求める人材

人間社会が形成してきた文化や教育・学習活動に対する幅広い関心と高い問題意識を抱き、学問的に深めたいという志を持ちながら、自主的に学び、考え、科学的、論理的、かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。

卒業後の進路

卒業生の約4割は大学院に進学しています。大学院修了者も含め、国内外で広く活躍しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…教育学学位プログラム(国際教育サブプログラム、次世代学校教育創成サブプログラム、教育基礎科学サブプログラム)

■他大学大学院…北海道大学、東京大学、お茶の水女子大学、東京学芸大学

就職先の例

企業・団体

■マスコミ・出版…共同通信社、日本文教出版、早川書房、リクルート、テレビ長崎

■教育…ベネッセコーポレーション、学究社、秀英予備校、新教育総研、ステップ、富山育英センター、東進ハイスクール

■金融・保険…三菱東京UFJ銀行、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、常陽銀行、野村証券、第一生命保険

■商社・流通…三井物産、住友商事、伊藤忠商事、セブン-イレブン・ジャパン、ニトリ、しまむら、日本コープ共済生活協同組合連合会

■サービス…NRIデータ・i テック、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、キャノンマーケティングジャパン、パソナ

■運輸・旅行…全日本空輸、名古屋鉄道、JR東日本

■建設・不動産…積水ハウス、レオパレス21

■福祉…日本赤十字、社会福祉法人筑波会、筑波愛児園

学校教員

■公立…茨城県、東京都、千葉県、岐阜県、静岡県、愛知県、滋賀県、大阪府、兵庫県、広島県、福岡県、鹿児島県、横浜市

■私立…麗澤中学校・高等学校、東洋英和女学院中学部・高等部

官庁・自治体

法務省、自衛隊、福島県、茨城県、東京都、千葉県、愛知県、富山県、大阪府、茨城県警、つくば市、柏市、横浜市、四日市市、大阪市

独立行政法人等

日本貿易振興機構、筑波技術大学

教育の質の保証と改善の方策

■専門基礎科目「学校の経営・制度・社会」では、学類ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会が毎年授業アンケートを実施し、その結果を次年度の内容・方法に反映させています。

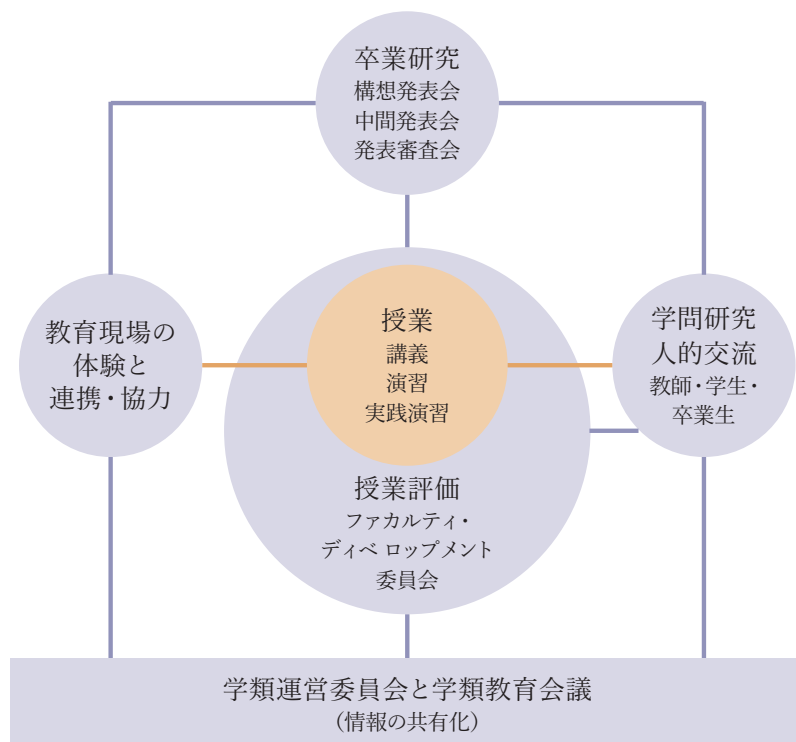
■学校の教員や社会教育施設の専門家を招聘するとともに、教育現場を訪問することによる教育現場との連携・協力を行います。

■定期的な卒業研究指導と厳格な評価を行うために、年間を通して、卒業研究のための構想発表会、中間発表会、発表審査会を全教員の参加の下に開催し、卒業研究の質的保証を行っています。

■毎年3月に、教員と大学院生と学士課程の学生とが一堂に会して、ペスタロッチ祭を大学会館国際会議室で開催し、第Ⅰ部では教員と大学院生(ときには学外から招聘した講師)による研究発表、第Ⅱ部では懇親会を行い、研究上の疑問や質問に答える場を設けるとともに、教育学関係のさまざまな学生と教員との人間的なつながりの場としています。

■教育活動を継続的に改善するために、学生の学習指導・生活指導にかかわる情報を教員間で幅広く共有化するとともに、FD委員会の活動を充実させています。

教育力向上への取組



学士（教育学）

Bachelor of Arts in Education

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群教育学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（教育学）の学位を授与します。

■ 教育学の基礎としての人間に関する総合的な知と教養を備えている
（関連するコンピテンス：人間科学の理解力）

■ 教育に対する幅広い学識を修得し、体系的な見方・考え方ができる
（関連するコンピテンス：教育学の基礎的体系的知識、教育学における総合的思考力）

■ 教職などの専門職に採用される水準の教育専門家的資質・能力を備えている
（関連するコンピテンス：教育学的実践力）

■ 教育学の理論と実践に関して、大学院に進学できる水準の基礎的研究能力を備えている
（関連するコンピテンス：教育学に関する先導的発信力）

教育課程編成・実施の方針

学士（教育学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

教育学を構成する様々な研究領域のつながりを考えて、教育学の総合性に対応した4つの系列（人間形成系列、教育計画・設計系列、学校教育開発系列、地域・国際教育系列）を設けています。学生はこれらの系列を指針としながら科目を選択的に履修しますが、将来の目的に合わせて特に関心のある系列を1つ選び、その系列の授業については集中的な履修を行うことが推奨されています。また、2年次になると、小学校教員免許状の取得を希望する学生は「初等教育学コース」に所属し、そうでない学生は「教育学コース」に所属することになります。

順次性に関する方針

■ 1年次…「基礎科目（共通科目・関連科目）」と「人間学群コア・カリキュラム」を履修し、教育学に加えて心理学と障害科学の基礎を学び、人間・社会・自然に関する幅広い興味と関心を育てながら、教育学の基礎としての人間に関する総合的な知と教養を培います。

■ 2年次…研究力を高めるために、「教育学研究法」を履修します。また各系列科目の概論的な講義を受講し専門性の幅を広げるとともに、「教育インターンシップ基礎論」「教育インターンシップ実践演習」を履

修します。

■3年次…系列ごとに設けられた「演習」及び「探究」を履修して専門知識の体系性を完成させるとともに、「教育学実践演習」を履修し、「卒業研究」の準備段階とします。それによって、教育に対する幅広い学識と体系的な見方・考え方を培います。

■4年次…原則として5月と10月に開催される2回の卒業研究指導会(構想発表会と中間発表会)で発表し、そこでの指導を踏まえて、4年間の学習の成果を「卒業論文」としてまとめます。

実施に関する方針

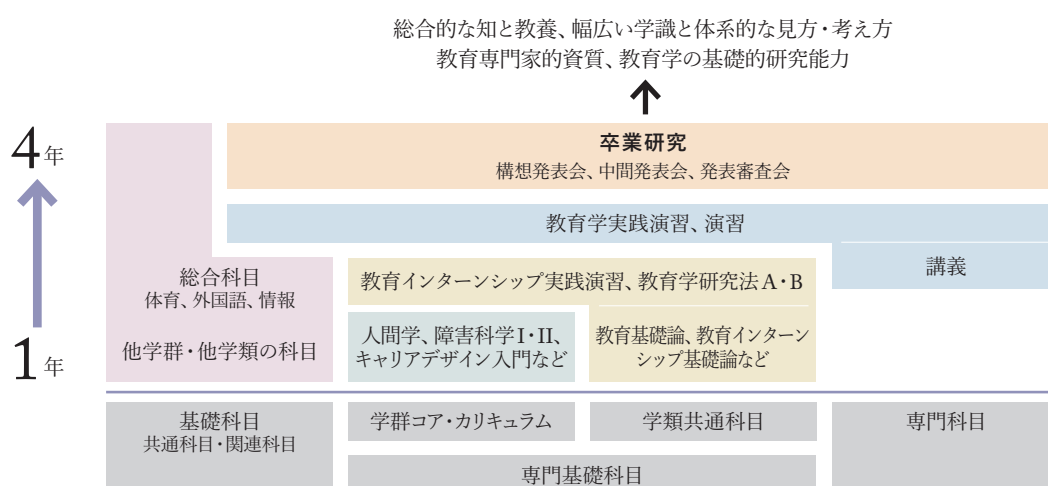
2つのコースと4つの系列を準備し、個人の専門的な研究関心を深めることと同時に、教育学という総合的な学問を様々な観点から学べるようにしています。さらに、小学校の教員免許状をはじめ、中学校(社会科)や高等学校(地理歴史と公民)の教員

免許状、および社会教育主事の資格に必要な科目も用意されています。

学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、教育課程編成・実施の方針に基づいてシラバスに記載された方法によって公正かつ厳格に成績評価を行います。とりわけ、卒業研究は4年間の学修成果の集大成として重視し、2名の査読者による論文の審査を行うとともに、口頭での概要説明及び質疑応答を全員に義務づけ、それらの総合的な結果に基づいて評価を行います。また、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に則して教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法によって実施されているかを検証するため、教育インターンシップ実践演習や卒業研究等の一部科目を除く大多数の授業科目において授業評価アンケートを実施します。

教育学類履修モデル



人材養成目的

人間と人間がかかわる社会・自然に関する幅広い興味と関心を基盤にしつつ、人間の発達や支援に関して科学的に分析・理解する態度と専門的な知識や技能を身につけ、これらの態度・知識・技能を活用して、人が抱える様々な問題へ主体的かつ創造的に対処することで、人間社会に広く貢献することができる人材を養成します。

心理学類

College of Psychology

学士(心理学)

■ Bachelor of Arts in Psychology

■ 人材養成目的 ■

人間のこころと行動に関する幅広い興味や関心を基盤とし、それらを科学的・実証的に分析し理解する姿勢を育みます。そして、専門的な知識や技能を備え、実践的な課題に主体的かつ創造的に取り組む力を養い、国際的に通用する知性、人間性、そして柔軟性と逞しさを兼ね備えた人材の育成を目指します。

■ 求める人材 ■

人間のこころと行動に高い関心と興味を持ち、さらには、人間を深く理解しようとする探究心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。

卒業後の進路

卒業生の約6割は、企業・官公庁など国内外で広く活躍しています。約4割は大学院に進学しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…人間総合科学研究群
■他大学大学院…東北大学、京都大学、東京大学、東京学芸大学、お茶の水女子大学

就職先の例

企業・団体

■出版…東洋経済新報社、中央出版
■教育…ベネッセコーポレーション、秀英予備校、アイディアヒューマンサポートサービス
■金融・保険…野村証券、アメリカンファミリー生命保険、明治安田生命保険、三井住友海上火災保険、常陽銀行、沖縄銀行
■商社・流通…三井物産、セブソーイレブソ・ジャパン、ユニクロ、良品計画、ニトリ
■情報・通信…NTTドコモ、日立ビジネスソリューション、ディー・エヌ・エー
■医療・福祉…星総合病院、メディポリス医学研究財団、ニチイ学館、社会福祉法人梓友会、社会福祉法人三篠会、全国自立援助ホーム連絡協議会
■運輸・旅行…全日本空輸、首都高速道路、日本自動車連盟
■電機…京セラ、日本ヒューレット・パカード

学校教員

■公立…群馬県、神奈川県、島根県

官庁・自治体

法務省、法務省東京矯正管区、水戸地方検察庁、八王子少年鑑別所、関東地方更生保護委員会、国土交通省航空保安大学校、茨城県、栃木県、群馬県、東京都、新潟県、奈良県、つくば市、横浜市、名古屋市、広島市、福岡市

独立行政法人等

理化学研究所、防災科学技術研究所、日本学生支援機構、日本芸術文化振興会、勤労者退職金共済機構

教育の質の保証と改善の方策

少人数クラス

50名の定員を2クラスに分け、同一の教員が4年間クラス担任として学生の学修および生活を指導していきます。少人数のクラス制度を活用して、学生の要望に配慮した教育と指導を行っています。

ファカルティ・ディベロップメント (FD)

3つのポリシーの検証、シラバスの内容確認、成績評価の方針設定、成績評価分布の検証などに関するFDを実現しています。

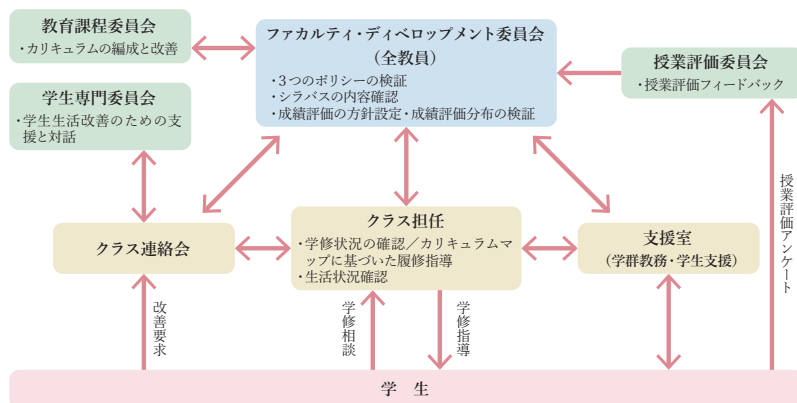
国際基準への配慮

心理学概論では世界的に評価の高いスタンダードな英文のテキストの最新版を用い、さらに海外の大学の実験実習授業を参考にするなど、心理学教育の国際基準に配慮した授業を行っています。

同窓会「心友会」からのフィードバック

1929年の東京文理科大学開学以来の歴史を持つ同窓会「心友会」の会員を中心とし、社会で活躍する卒業生の意見を定期的に聴取し、教育の質の維持とさらなる改善に役立てています。

教育力向上への取組



学士（心理学）

Bachelor of Arts in Psychology

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群心理学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（心理学）の学位を授与します。

■ 心理学に関する専門的知識と心理学の方法論を活用して適切にデータを収集し、科学的に分析することができる
（関連するコンピテンス：人間観察力、行動分析力）

■ 自己理解と他者理解に基づき、他者と協同して、課題解決を図ることができる。
（関連するコンピテンス：人間観察力、心理学的支援力）

■ 人間と社会の多様な現象を実証的に探求し、問題に対処していく実践的な志向性が身についている。
（関連するコンピテンス：心理学的問題解決実践志向、実証的な志向性に基づく探究心）

■ 国際社会における多様性と多文化共生について心理学的視点から理解し、相互互恵的関係を形成できるコミュニケーション能力を備えている。
（関連するコンピテンス：普遍性と多様性の理解）

教育課程編成・実施の方針

学士（心理学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

授業科目を心理学に関する知識の獲得、研究方法の習得、発表と討論、実習という4カテゴリに分類した上で、心理学の代表的な分野をすべて網羅した幅広い心理学教育を基礎から行い、卒業研究の完成へと導きます。

順次性に関する方針

以下のステップを踏んで基礎的分野から応用・実践的分野まで幅広い心理学教育を行います。

■ 1年次…心理学概論および心理研究方法により心理学の基本的知識を学び、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ・同実習により心理学の基礎的分析技法を習得します。

■ 2年次…基幹となる専門科目群を幅広く学修し、心理学の専門的知識の深化をはかります。心理学実験では基礎的研究技法を習得します。心理学英語セミナーでは英語論文の講読を通して心理学研究の専門知識や方法論、心理学論文執筆の基本的なルールなどを習得します。

■ 3年次…講義・演習科目を中心として心理学に関する高度な専門知識を修得します。また、心理学研究実習Ⅰでは十分な先行研究の理解に基づいて実験・調査研究を行い、データ収集能力と科学的分析能力、そして討論ができる能力を実践的に身

につけます。3年次の終わりには卒業研究セミナーを履修し、本格的に卒業研究の準備を始めます。

■ 4年次…卒業研究を通じて、論理的思考力、洞察力、創造力を培います。特に、卒業論文の制作過程では、自らの研究を論理的に構築し、課題を深く探究する力を養います。また、最終発表会における発表や質疑応答を通じて、応答力や議論を深める能力を熟成させ、効果的なコミュニケーション力を身につけます。

実施に関する方針

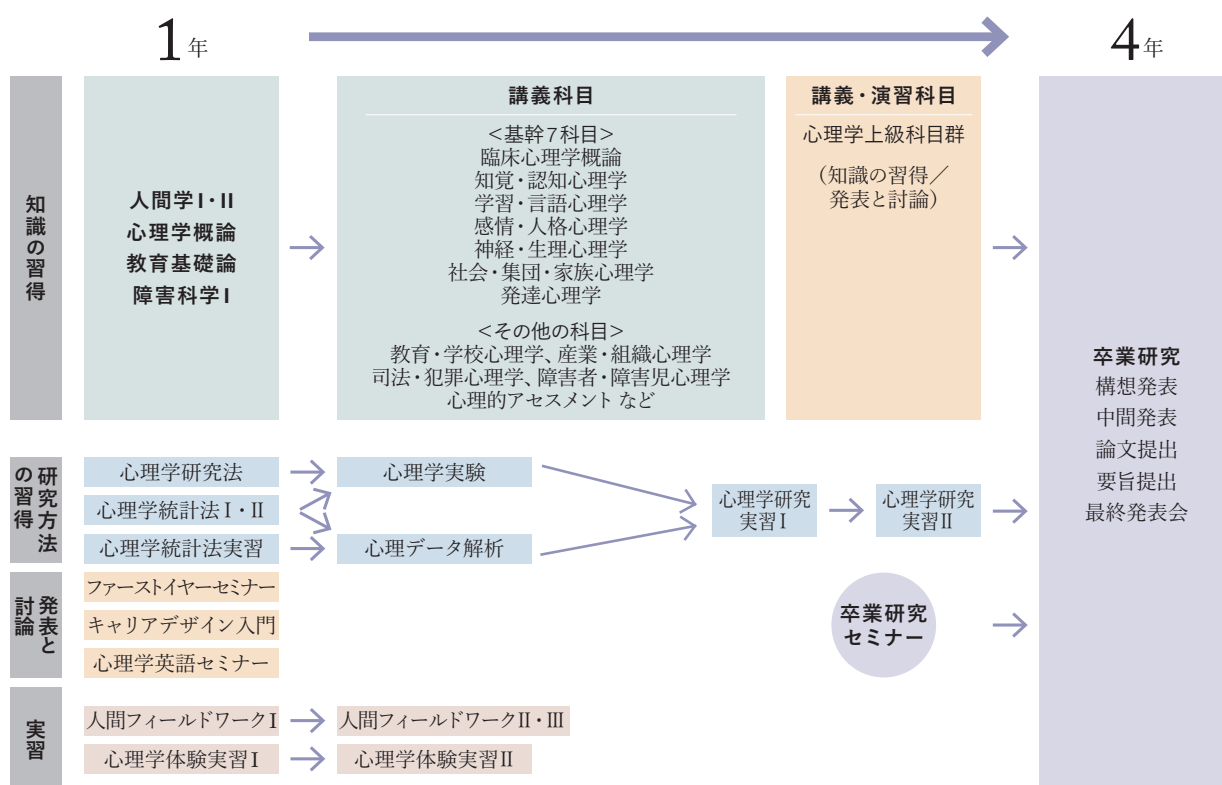
履修規程に準拠し、心理学を幅広く学修することを保証します。学生自らが先行研

究に関する文献研究と実験・調査研究を行う科目を設け、主体的な学修を促します。心理学研究実習Ⅰ・Ⅱおよび卒業研究により、教員や大学院生と共に最新の心理学研究を直に学ぶ機会を与えます。

学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、教育課程編成・実施の方針に基づいてシラバスに記載された方法によって公正かつ厳格に成績評価を行います。とりわけ、卒業研究は4年間の学修成果の集大成として重視し、2名の査読者による論文の審査を行うとともに、口頭での概要説明及び質疑応答を全員に義務づけ、それらの総合的な結果に基づい

育成する能力とカリキュラムの構造



学士（心理学）

Bachelor of Arts in Psychology

て評価を行います。また、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に則して教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法によって実施されているかを検証するため、すべての授業科目において授業評価アンケートを実施します。

その他特筆すべき特色

- 海外への留学を積極的に勧め、グローバルな人材の育成に努めます。
- 講義とグループディスカッションに加え、「人間学群」の専門性と関連の深い職種・進路先からの外部講師を招聘し、学生自身のキャリアデザインについて考える機会を与えます。
- 座学に加えて、様々な実習を通して実践力・応用力を向上させ、知識の定着化・有用化の機会を与えます。

人材養成目的

人間と人間がかかわる社会・自然に関する幅広い興味と関心を基盤にしつつ、人間の発達や支援に関して科学的に分析・理解する態度と専門的な知識や技能を身につけ、これらの態度・知識・技能を活用して、人が抱える様々な問題へ主体的かつ創造的に対処することで、人間社会に広く貢献することができる人材を養成します。

障害科学類

College of Disability Sciences

学士(障害科学)

■ Bachelor of Arts in Disability Sciences

学士(特別支援教育学)

■ Bachelor of Arts in Special Education

学士(社会福祉学)

■ Bachelor of Science in Social Work

人材養成目的

乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身につけ、共生社会の創造に貢献する、国際的に通用する能力をもつ人材を養成します。

求める人材

人の障害や障害をめぐる様々な事象についての関心と問題意識、さらには、人間を深く理解しようとする探求心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。

卒業後の進路

卒業生の約6割は、企業・教員・公務員など国内外で広く活躍しています。約4割は大学院に進学しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…障害科学学位プログラム、ニューロサイエンス学位プログラム

■他大学大学院…京都大学、お茶の水女子大学、立命館大学、上智大学

就職先の例

企業・団体

■福祉…LITATICO、パーソルダイバース、全国社会福祉協議会、高齢・障害・求職者支援機構・障害者職業センター、ニチイ学館、社会福祉法人福祉楽団、社会福祉法人南風会

■サービス…日本総合研究所、PwCコンサルティング、野村総合研究所、共同通信社、リクルート、横浜DeNAベイスターズ

■金融・保険…かんぽ生命保険、JCB、常陽銀行、群馬銀行

■情報・通信…日本エンタープライズ、日本GPSソリューションズ、インフォテック朝日、ソフトバンク

■流通・飲食店…そごう・西武、スターバックスコーヒージャパン

■運輸…全日本空輸、JALエクスプレス

学校教員

■公立…北海道、青森県、福島県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、長野県、長崎県、三重県

官庁・自治体

法務省、法務省大阪矯正管区、中部地方更生保護委員会、東京都、神奈川県、茨城県、埼玉県、横浜市、さいたま市

教育の質の保証と改善の方策

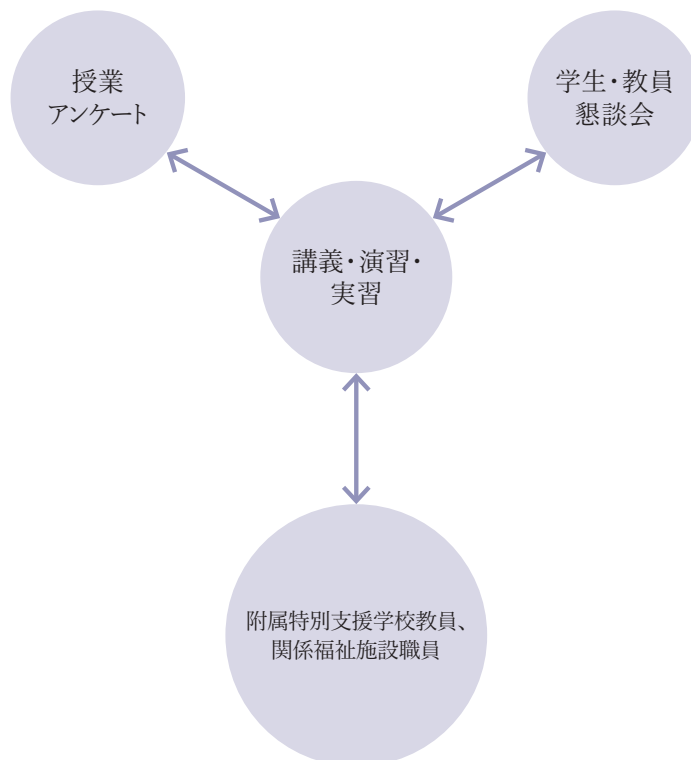
■授業アンケートを実施し、その結果を次年度の内容・方法に反映させています。

■年2回、障害科学類の全学生・全教員参加の懇談会を実施し、学習上の疑問や質問に答える場を設けるとともに、学年間の学生、教員のつながりも深める場としています。

■演習・実習の活動内容を含む授業では、附属特別支援学校教員などの現職専門家等の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を積極的に導入しています。

■全教員による卒業研究指導として、デザイン発表会、中間発表会、最終発表会を開催し、学生の研究能力の向上を図るとともに、卒業研究の質的保証を行っています。

教育力向上への取組



学士（障害科学）

Bachelor of Arts in Disability Sciences

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群障害科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（障害科学）の学位を授与します。

■ 障害科学の全体的な理念・概念を理解し、障害科学に関連した障害教育、障害心理・生理、障害福祉についての基礎的知識と技能を修得している

（関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識、障害科学における実践力）

■ 障害科学に関連した問題を志向し、その問題を解決する能力と科学的思考力を持ち、専門研究を展開できる基礎的能力を修得している

（関連するコンピテンス：障害科学における分析的思考力）

■ 障害科学に関連したリーダーシップにつながる基礎的能力を備えている

（関連するコンピテンス：障害科学における実践力、障害科学に関する先導的発信力）

■ 障害科学に関連した英語等外国語力を修得している

（関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学に関する先導的発信力）

教育課程編成・実施の方針

学士（障害科学）に関して、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

学類の基本的な履修形態として、障害や障害者に関する幅広い知識を身につける「障害科学履修モデル」を設定しています。障害科学の全体的な理念・概念の理解を基に、障害科学が包含する特別支援教育、障害心理・生理、障害福祉等の全領域に関して、視覚障害学、聴覚障害学、言語障害学、運動障害学、健康・高齢障害学、知的・発達・行動・情緒障害学の基礎的な知識や技能を修得します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎を修得します。

順次性に関する方針

■ 1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える

「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により障害科学の基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」において実践現場を見学・参観し、障害科学探求のモチベーションを高めます。また、「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して専門分野を知ること、障害科学を全体的に理解します。

■ 1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える

障害別の「障害児の心理・生理・病理」、「障害児教育総論」、「社会福祉原論」等で各

専門の基礎を学び、「心理学統計法Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」を通して研究方法の基礎を学びます。「キャリアデザイン入門」、「人間フィールドワーク」等を通じて、自らの学修の方向性と卒業後の進路を考えます。

■ 3～4年次…障害科学の研究・実践技術の修得

障害科学に関する専門知識や技能を修得し、大学院進学に備えます。「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や障害科学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。

実施に関する方針

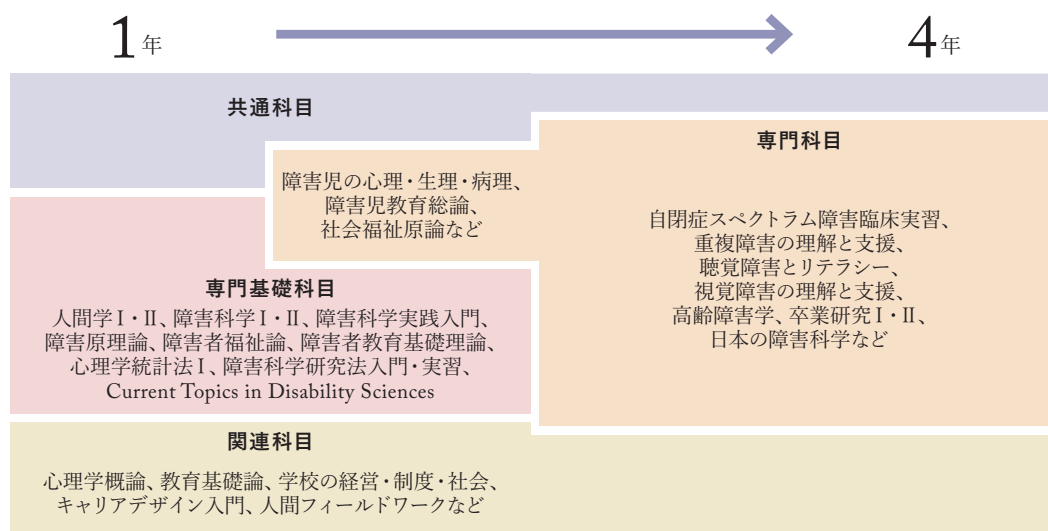
障害科学履修モデルに基づいて、履修規程で卒業に必要とされる単位を修得することにより、障害科学を幅広く学修します。

演習・実習の活動内容を含む授業では、主体的な学修のために参加型の形態をとる一方、附属特別支援学校教員・福祉施設などの現職専門家や大学院生の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。

学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、教育課程編成・実施の方針に基づいてシラバスに記載された方法によって公正かつ厳格に成績評価を行います。とりわけ、卒業研究は4年間の学修成果の集大成として重視し、指導教員と副指導教員による論文の指導と審査を行うとともに、口頭での概要説明及び質疑応答を全員に義務づけ、それらの総合的な結果に基づいて評価を行います。また、

障害科学履修モデル



学士（障害科学）

Bachelor of Arts in Disability Sciences

学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に則して教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法によって実施されているかを検証するため、卒業研究等の一部科目を除く大多数の授業科目において授業評価アンケートを実施します。

特色

■「障害学生支援技術」等で障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援の活動に参加しています。

■海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定します。

学士（特別支援教育学）

Bachelor of Arts in Special Education

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群障害科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（特別支援教育学）の学位を授与します。

■ 特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担うことのできる専門的知識や技術を修得し、特別支援教育学に関連した生理学・心理学についての基礎的理解を備えている

（関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識）

■ 教職などの専門職に採用される水準の能力を備えている

（関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学における実践力）

■ 特別支援教育学に関連した問題を志向し、その問題を解決する能力と科学的思考力を持ち、専門研究を展開できる基礎的能力を修得している

（関連するコンピテンス：障害科学における分析的思考力）

■ 特別支援教育学に関連したリーダーシップにつながる基礎的实践能力を修得している

（関連するコンピテンス：障害科学における実践力、障害科学に関する先導的発信力）

■ 特別支援教育学に関連した英語等外国語力を修得している

（関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学に関する先導的発信力）

教育課程編成・実施の方針

学士（特別支援教育学）に関して、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担う専門家の養成を目指す「特別支援教育学履修モデル」を設定しています。特別支援学校教諭一種免許状に対応した豊富な科目群を設け、広い教養と深い専門性を身につけます。5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）の全てを担当できる特別支援学校教諭免許状を取得することもできます。

順次性に関する方針

■ 1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える

「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により特別支援教育学の基礎をなす基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」では附属特別支援学校などの実践現場を見学・参観し、モチベーションを高めます。「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して特別支援教育学の基礎を理解します。

■ 1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える

障害別の「障害児の心理・生理・病理」、「障害児教育総論」等で各専門の基礎を学び、障害別の「指導法」等から基礎的方法論を学びます。「心理学統計法Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」を通して研究方法の基礎を学修します。「キャリアデザイン入

学士（特別支援教育学）

Bachelor of Arts in Special Education

門」、「人間フィールドワーク」等を通じて、学修の方向性と卒業後の進路を考えます。

■ 3～4年次…特別支援教育学の研究・実践技術の修得

特別支援学校教諭免許状取得に必要な専門科目において、専門的な知識と実践技術、技能を修得します。「特別支援教育実習」（附属特別支援学校での教育実習など）を通じて基礎的实践能力を身につける一方、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や特別支援教育学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。

実施に関する方針

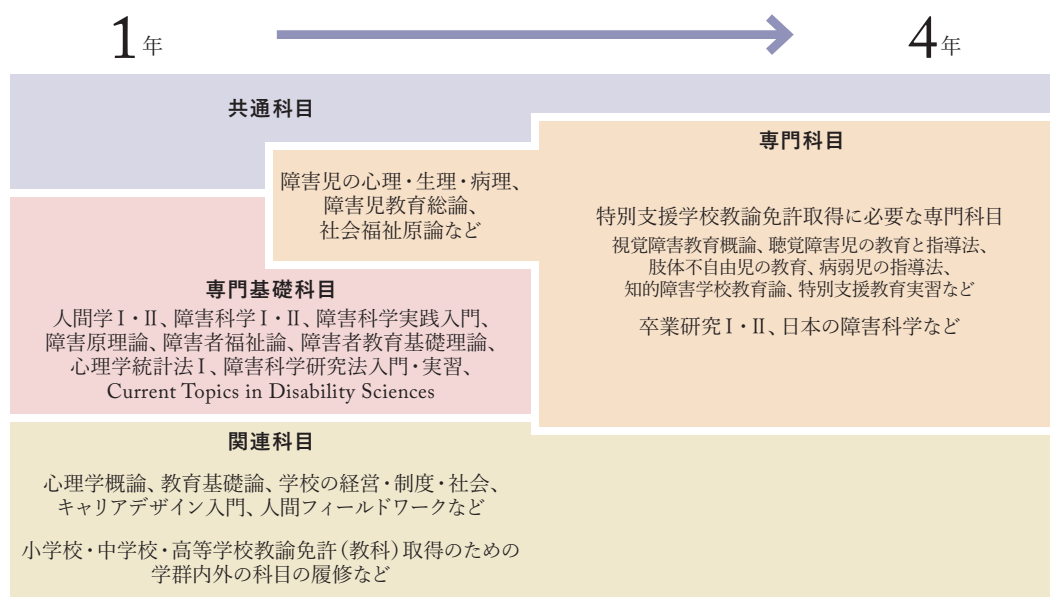
特別支援教育学履修モデルに基づいて、履修規程で卒業に必要とされる単位を修

得し、あわせて小、中または高の教職課程の単位を修得することにより、特別支援学校教諭免許取得が可能です。演習・実習系の授業では、主体的な学修のために参加型の形態をとる一方、附属特別支援学校教員などの現職専門家や大学院生の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。

学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、教育課程編成・実施の方針に基づいてシラバスに記載された方法によって公正かつ厳格に成績評価を行います。とりわけ、卒業研究は4年間の学修成果の集大成として重視し、指導教員と副指導教員による論文の指導と審査を

特別支援教育学履修モデル



特色

■ 海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定します。

学士（社会福祉学）

Bachelor of Science in Social Work

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ人間学群障害科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（社会福祉学）の学位を授与します。

■ ノーマライゼーションという福祉理念を実現するための施策や援助方法を理解し、社会福祉学に関連した生理学・心理学・教育学についての基礎的理解を備えている

（関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識）

■ 社会福祉士国家試験に合格する水準の能力や福祉行政などの専門職に採用される水準の能力を備えている

（関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識、障害科学における実践力）

■ 社会福祉学に関連した理論と実践について、包括的かつ科学的に探究し実践できる専門的知識や技術、研究能力を修得している

（関連するコンピテンス：人間科学の理解力、障害科学の基礎的知識、障害科学における分析的思考力）

■ 社会福祉学に関連したリーダーシップにつながる基礎的実践能力を修得している

（関連するコンピテンス：障害科学における実践力、障害科学に関する先導的発信力）

■ 社会福祉学に関連した英語等外国語力を修得している

（関連するコンピテンス：障害科学の基礎的知識、障害科学に関する先導的発信力）

教育課程編成・実施の方針

学士（社会福祉学）に関して、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

社会福祉学を探究するとともに、社会福祉士を目指す「社会福祉学履修モデル」を設定しています。現代の社会福祉が対象とする高齢者、障害児者、及び、家庭養育環境や発達に伴う生活問題を抱えた子どもたちについて、ノーマライゼーションという福祉理念を実現するための施策や援助方法を、包括的かつ科学的に学修します。また、従来の社会福祉学の枠組を越えて、「障害」をめぐる教育や医療・リハビリテーションとの連携について、社会福祉の現場実習を含めて融合的に学修します。

順次性に関する方針

■ 1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える

「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により社会福祉学の基礎をなす基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」では実践現場を見学・参観し、モチベーションを高めます。「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して社会福祉学の基礎を理解します。

■ 1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える

社会福祉士国家試験受験資格に対応した指定科目を中心に、「社会福祉原論」、「医学概論」、「高齢者福祉論」等で専門基礎を、「相談援助の理論と方法」、「相談援

助の基盤と専門職」で基礎的方法論を学びます。「心理学統計法Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」、「社会福祉調査論」では研究方法の基礎を学びます。「キャリアデザイン入門」、「人間フィールドワーク」等を通じ、学修の方向性と卒業後の進路を考えます。

■ 3～4年次…研究・実践技術の修得

「ソーシャルワーク演習」等の専門科目において、専門的な知識と実践技術、技能を演習形式で学びます。「ソーシャルワーク実習」等において基礎的实践能力を身につける一方、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や障害福祉学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。

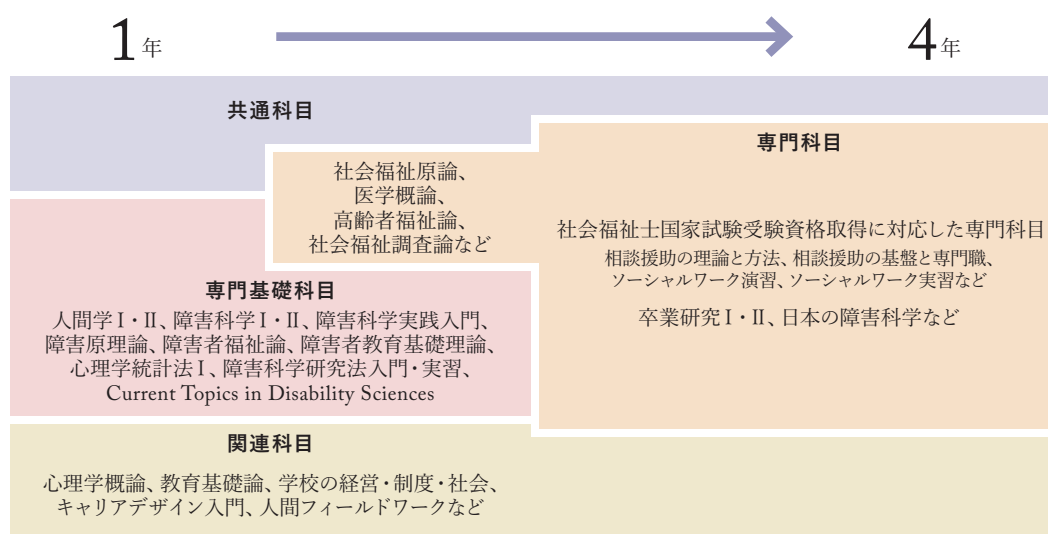
実施に関する方針

社会福祉学履修モデルに基づき、履修規程で卒業に必要とされる単位を修得することにより、社会福祉士国家試験受験資格取得が可能です。授業は参加型の形態をとる一方、福祉施設などの現職専門家等の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。

学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、教育課程編成・実施の方針に基づいてシラバスに記載された方法によって公正かつ厳格に成績評価を行います。とりわけ、卒業研究は4年間の学修成果の集大成として重視し、指導教員と副指導教員による論文の指導と審査を

社会福祉学履修モデル



学士（社会福祉学）

Bachelor of Science in Social Work

行うとともに、口頭での概要説明及び質疑応答を全員に義務づけ、それらの総合的な結果に基づいて評価を行います。また、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に則して教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法によって実施されているかを検証するため、卒業研究等の一部科目を除く大多数の授業科目において授業評価アンケートを実施します。

特色

■「障害学生支援技術」等で障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援の活動に参加しています。

■海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定します。

生命環境学群

School of Life and Environmental Sciences

生物学類

College of Biological Sciences

学士(理学) ■ Bachelor of Science

生物資源学類

College of Agro-Biological Resource Sciences

学士(生物資源学) ■ Bachelor of Bioresource Science

学士(農学) ■ Bachelor of Agricultural Science

地球学類

College of Geoscience

学士(理学) ■ Bachelor of Science

人材養成目的

人間を含む多様な生物の生命現象、それを支える地球環境、さらには生物資源の保全や持続的活用の方法を総合的に理解し、豊かな人間性と問題発見・解決能力を有する、国際的視野に立って活躍できる未来創造型の人材を育成します。

生物学類

College of Biological Sciences

学士(理学)

■ Bachelor of Science

人材養成目的

生物界のシステム、生体機能のメカニズム、生命現象の本質、生物学の研究方法及び先端研究の意義を理解し、生物と関わる幅広い学問分野でグローバルに活躍する研究者、教育者、技術者、企業人など、先端科学と社会の接点となる人材を育成します。

求める人材

生き物や生物学が好きで、自然科学と語学の基礎学力をもち、広範で多様な生命現象に対して強い好奇心と探究心をもつ、創造的能力が豊かな人材。

卒業後の進路

生物学の発展を推進する人材はもとより、生物学を基礎として他の諸科学との学際的領域で活躍する人材を輩出しています。卒業生の約8割が生命地球科学研究群等の大学院に進学し、その後、研究者、教育者、企業人、理科教員、先端科学と社会の接点となる人材として活躍しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…生命地球科学研究群、人間総合科学研究群

■他大学大学院…東京大学、京都大学、大阪大学、総合研究大学院大学、インペリアル・カレッジ・ロンドン

就職先の例

企業・団体

■医薬品・化粧品…エーザイ、大塚製薬、武田薬品、サノフィ・アベンティス

■情報・通信…グーグル、楽天、NTTデータビジネスシステムズ、パナソニックシステムソリューションズジャパン、全日空システム企画、日本ノーベル、大塚商会

■流通・飲食店…そごう・西武、ファミリーマート、サイゼリア

■食品・飼料…日本ハム、共同飼料

■銀行・信託…みずほフィナンシャルグループ、群馬銀行

■運輸・建設…全日本空輸、三田エンジニアリング

■教育…ベネッセコーポレーション

学校教員

■公立…茨城県、東京都、神奈川県、静岡県

■私立…橘学苑

官庁・自治体・独立行政法人等

愛知県、沖縄県警、南アルプス市、物質・材料研究機構、東京大学、神戸大学

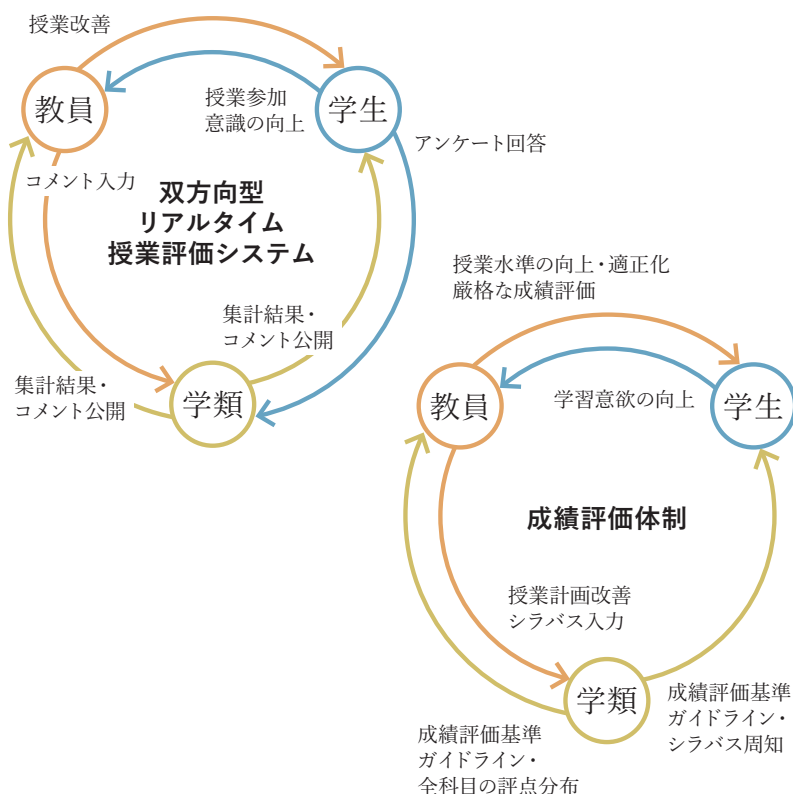
教育の質の保証と改善の方策

■成績評価基準ガイドラインとシラバスをあらかじめ全学生に周知させることにより、学生の学習意欲向上を図ると同時に、達成すべき水準の向上を目指しています。ガイドラインでは達成目標に到達した学生をB評価とし、特に優れた者をA・A+評価としています。

■各科目の課題設定が適切であったかを検証するため、生物学類開設の全科目の評点分布一覧をオンライン学務システムTWINSを活用して作成し、全教員で共有するとともに、上記ガイドラインに合わない科目に関しては担当者から理由・意見を聴取することで、学類全体として適切な成績評価体制を確立しています。

■生物学類開設の全科目に関して、学生による授業評価を、全学および生物学類の選択式設問に加え、自由記述の充実した内容で「TWINS双方向型リアルタイムシステム」を利用して実施し、学生の意見を授業に反映させます。また、全科目で、学生からの評価・意見と、それに対する教員からのコメントを公開し、随時カリキュラム委員会及び学類長が指導を行なうことで、学類全体の教育の質を改善しています。

生物学類の授業水準評価と授業改善



学士（理学）

Bachelor of Science

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。

■ 自然科学の理解…自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身に付けている。

■ 生物学の理解…専門とする分野にとどまらず、生物学一般に関する幅広い理解を深めるとともに、多様な生物学の研究手法を身に付けている。

■ 生物現象の分析能力…生物現象について実験・観察で得られたデータや膨大な生物情報を適切な手法により分析し、適確に記述し批判的に評価する能力を身に付けている。

■ 国際的コミュニケーション能力…国際的に活躍するために必須となる英語力、及び自分の考えや意見を正しく分かりやすく表現するコミュニケーション能力を身に付けている。

■ 論理的表現能力…卒業研究の研究課題に関連する英語学術論文を読み、その内容を研究レポートにまとめる等を通じて、学術論文の読み方と論理的表現能力を身に付けている。

■ 問題発見・解決型能力と自己表現能力…最終年次に卒業研究を行うことにより、主体的に問題を発見し、解決する能力を身に付けている。また、研究成果についてプレゼンテーションを行うとともに、要旨のWeb公開を通じて、科学的表現能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針

学士（理学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

基礎生物学分野からゲノム生物学などの先端分野、さらには農学や医学との境界領域にわたる科目群を開設し、幅広い生物学分野を修得させます。多くの実験・実習・演習科目を配置し、実践的・創造的能力を養います。

順次性に関する方針

■ 1年次には自然科学全般に関する基礎的知識を習得させるとともに、生物学全般にわたる基礎的知識と技術を概論科目と基礎生物学実験により身に付けさせます。

■ 2・3年次には個々の学生の関心の高い専門分野をチュートリアル学修等を通じて意識させ、それを中心に、多様な生物学の諸分野を2年間かけて学習させることにより、幅広い生物学の理解を基礎として卒業研究に取り組むことができる専門知識と技術を身に付けさせます。

■ 4年時には卒業研究を行い、主体的に問題を発見し、解決する能力や、科学的表

現能力を身に付けさせます。

実施に関する方針

■ 1年次の基礎生物学実験のほか、2・3年次の専門実験実習科目を4科目以上必修とし、4年次に卒業研究を各研究室で集中して行うことで、研究能力を養います。

■ 2・3年次の専門科目を中心に、およそ30科目の授業を英語で実施し、国際的に活躍できる能力を育成します。

学修成果の評価に関する方針

■ GPA等の修学状況、卒業研究の成果、資格・免許取得状況、進路状況等を指標に教育課程レベルの学習成果の達成状況を総合的・多面的に評価します。

■ シラバスで示した各科目の達成目標への到達度に基づく成績評価、レポートやアンケートなどの学修ポートフォリオ等を指標に科目レベルの学修成果の達成状況を総合的・多面的に評価します。

特色

国際的コミュニケーション能力強化のため、2・3年次の科学コミュニケーションの授業に加え、3・4年次に少人数での専門外国語の授業を必修としています。毎年数名の学類生を選抜し、1年間マンチェスター大学等に留学させ、国際的コミュニケーション能力の特に秀でた人材を育成します。

育成する能力とカリキュラムの構成

1年	2年	3年	4年
専門基礎科目 系統分類・進化学概論 生態学概論 遺伝学概論 分子細胞生物学概論 動物生理学概論 植物生理学概論 基礎生物学実験	専門科目 (含、専門実験・実習) 生物多様性領域科目 分子細胞領域科目 応用生物領域科目 人間生物領域科目 ：		生物学演習・卒業研究 系統分類・進化学分野 生態学分野 ゲノム情報学分野 分子細胞生物学分野 動物発生・生理学分野 植物発生・生理学分野 応用生物化学分野 農林学分野 科学コミュニケーション分野 人間生物学分野 ^{*2}
基礎科目 学問への誘い、データサイエンス、語学、関連科目…			
チュートリアル学修^{*1} 学問探究チュートリアル クラスセミナー 研究室特別実習	チュートリアル学修 生物寺子屋 研究室特別実習 専門語学(英語)		専門語学(英語)
教職科目・博物館科目履修による資格取得			

▲ 研究室選択

^{*1} 主に教員がチューターとなり、学生の学問的な問題意識を議論を重ねて育む環境を提供し、学生の自発的で学際的な学びを促します。

^{*2} 人間生物学分野は主に3年次で指定された専門科目の受講が必要です。また、定員(15名)があります。

人材養成目的

人間を含む多様な生物の生命現象、それを支える地球環境、さらには生物資源の保全や持続的活用の方法を総合的に理解し、豊かな人間性と問題発見・解決能力を有する、国際的視野に立って活躍できる未来創造型の人材を育成します。

生物資源学類

College of Agro-Biological
Resource Sciences

学士(生物資源学)

■ Bachelor of Bioresource Science

学士(農学)

■ Bachelor of Agricultural Science

人材養成目的

生物資源学類は、人類の生存と安全で豊かな生活の基盤である生物資源に関する総合的学習を通じ、地域的かつ地球的視野で、食料の安定供給ならびに環境と調和した生物資源の持続的な開発・保全利用に貢献できる人材を育成します。

求める人材

生物資源、農林業、環境保全に関心が強く、広範な学問を学ぶことができる柔軟な思考力を持ち、自ら問題を発見し解決に取り組むとともに、それを内外に伝え論理的に説明することができる意欲のある人材を望んでいます。

卒業後の進路

卒業生の約7割が大学院に進んでいます。大学院修了者も含め、一般企業、公務員、教員、自営業など、国内外で広く活躍しています。

大学院進学例

■筑波大学大学院…生命地球科学研究群、人間総合科学研究群、グローバル教育院、システム情報工学研究群

■他大学大学院…東京大学、東京工業大学、一橋大学、京都大学、北海道大学、東京農工大学、琉球大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、ボストン大学、イエール大学、イーストアングリア大学

就職先の例

企業・団体

■食品・飲料…日清食品、東日本フード、山崎製パン、永谷園、森永乳業、グリコ協同乳業、ネスレ日本、ブルボン、日清オイリオグループ、UCC、雪印メグミルク、マルコメ、イセ食品、キリン、明治グループ、サントリーホールディングス、日本ハム株式会社

■農林・水産…JA全農、農山漁村文化協会、全国森林組合連合会、日本園芸農業協同組合連合会、オリザ鹿児島ファーム

■機械・電機…日立製作所、ヤンマー、TOTO、パナソニック、ダイキン工業、コニカミノルタ株式会社

■化学…花王、サンスター、P&G ジャパン合同会社、日本ゴア、塩野義製薬、積水化学、資生堂

■建設…住友林業、日比谷アメニス、大成建設、伊藤忠建材株式会社

■金融・保険…三井住友銀行、ゆうちょ銀行、日本政策金融公庫、国民生活金融公庫、農林漁業金融公庫、農林中央金庫、住友生命保険、常陽銀行、八十二銀行、あおぞら銀行

■マスコミ・出版…NHK、中日新聞、博報堂、朝日新聞、日本経済新聞社

■運輸・電力…日本通運、京成電鉄、北海道電力、日本航空株式会社、富山地方鉄道株式会社

■情報・通信…NTTデータ、富士通アドバンストソリューションズ、日鉄ソリューションズ株式会社

学校教員

■国立…筑波大学附属坂戸高等学校

■公立…宮城県、茨城県、栃木県、埼玉県、神奈川県、山梨県、愛知県、熊本県、福島県

■私立…春日部共栄中学高等学校、八千代松陰高等学校

官庁・自治体

農林水産省、林野庁、環境省、経済産業省、文部科学省、警察庁、東京入国管理局、北海道庁、茨城県、群馬県、山梨県、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、新潟県、長野県、宮崎県、沖縄県、長崎県、石川県、香川県、富山県、京都市

独立行政法人等

産業技術総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、水資源機構、北海道総合研究機構、国立研究開発法人 理化学研究所

教育の質の保証と改善の方策

1、2年次クラス担任と授業担当者ならびに学類ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員とクラス代表者によるクラス連絡会を学期ごとに開催し、継続的なカリキュラム改善を実行します。

科目ごとに学生による授業評価を行い、その結果を授業担当教員に通知することにより、授業内容や教授法の改善を実行します。

FD活動の一環として、教員間の授業参観、授業資料の共有、授業間連携強化、授業改善の勉強会や打ち合わせを実施します。

1、2年次にコース説明会、3年次にコース内の研究室説明会を実施し、3年次でのコースへの進級と4年次での卒業研究が円滑に進むようサポートしています。

3年次コースへの進級及び4年次卒業研究の開始に必要な履修要件を設定し、厳格な成績評価に基づいて進級、卒業を認定します。

授業・カリキュラムの評価および改善体制

項目	学生	教員	学類
カリキュラム	カリキュラムに関する意見収集	カリキュラムの検討	
	クラス連絡会		
授業	授業評価アンケートの提出	授業内容・方法の検討	授業評価結果、教員対応のとりまとめ・学内公開
	授業の実施		
コース・研究室選択	コース、研究室選択と関連科目履修	研究内容の説明、履修指導	コース進級、卒業研究要件の設定
	コース説明会、研究室説明会		

学士（生物資源学）

Bachelor of Bioresource Science

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（生物資源学）の学位を授与します。

■ 自然環境と人間社会の関わりの本質を理解できる幅広い知識を修得している。

（関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源学に関する専門の基礎となる教養）

■ 多様な生物資源利用に関する体系的な専門的知識とそれを社会で活用できる能力、あるいは大学院でさらに高度な専門的探求ができる能力を修得している。

（関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源学に関する国際的な専門知識、生物資源学に関するICTの活用力、生物資源に関する問題意識の醸成力）

■ 生物資源の開発・利用分野における海外協力に必要な異文化理解能力とコミュニケーション能力を修得している。

（関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源学に関する国際的な専門知識）

■ 情報通信技術（ICT）を駆使して生物資源利用に関する情報や知識を分析し、それらを内外に受発信できる。

（関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源学に関する専門の基礎となる教養、生物資源学に関するICTの活用力）

■ 農林業の発展や食料・環境問題に対する貢献意欲を持ち、卒業後も自己成長を続ける力を備えている。

（関連するコンピテンス：生物資源学に関する体系的な専門知識、生物資源に関する問題意識の醸成力）

教育課程編成・実施の方針

学士（生物資源学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

生物資源科学主専攻の中に農林生物学、応用生命化学、環境工学、社会経済学の4つのコースを置き、教育課程の前半では専門分野の区分のないクラスで、幅広い教養の科目を修得するとともに、生物資源学の基礎となる共通の専門科目を学びます。後半ではコースに所属してそれぞれのコースの専門的な知識と分野横断的な知識を学び、それらの知識をまとめて卒業研究を行って専門性を深めます。

順次性に関する方針

■ 1年次では、基礎科目及び専門基礎科目を履修することによって、幅広い能力を持つ専門家としての基礎を築きます。特に、生物資源学の幅広い分野への興味を涵養するとともに、学類の必修科目を学んで生物資源学に対する理解を深め、課題解決のための問題意識を醸成します。

■ 2年次では、専門基礎科目と、基礎的専門科目である各コースの専門科目Ⅰを履修することによって、専門を深めるための手法を身につけます。3年次に選択するコースの科目を中心としますが、横断領域科目の専門科目Ⅰによって学際的視野を拓けます。

■ 3年次では、4つの中から1つのコースを選び、選んだコースの専門科目Ⅱを履修す

ることによって専門性を深めます。所属するコースの科目を中心としますが、横断領域科目の専門科目Ⅱによって関連分野の知識を拡げます。

■4年次では、引き続き専門科目Ⅱを履修すると同時に必修科目の卒業研究を実施し、一つの研究課題に対して、これまでに修得した専門的知識や手法を総合的に適用することにより、生物資源学をより深く理解します。

実施に関する方針

■1年次に「生物資源の開発・生産と持続利用」、「生物資源としての遺伝子とゲノム」、「生物資源と環境」、「生物資源学にみる食品科学・技術の最前線」、「生物資源科学演習」により生物資源学の基礎を学んだうえで専門科目を履修します。

■4つのコースでは、専門科目を体系的に履修して専門性を深めるとともに、実験・

実習・演習を履修することにより、問題発見・解決能力を養うことができます。

■「食料」、「環境」、「国際」をキーワードとした横断領域科目を履修することにより、学際的視野を深めることができます。

学修成果の評価に関する方針

シラバスに記載された評価方法に基づき、授業担当教員が厳正な教育評価を行います。また、学生が修得したコンピテンスを把握、確認することにより、コース選択、卒業研究、進路選択の指導に役立てます。

特色

■海外協定校での実地体験、国際協力機構筑波国際センター等で研修する「国際インターンシップ科目」、地域の企業や団体で活動する「食と緑のインターンシップ科目」により、国際性や社会貢献意欲を高めることができます。

育成する能力とカリキュラムの構造



学士（農学）

Bachelor of Agricultural Science

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（農学）の学位を授与します。

■ 自然環境と人間社会の関わりを理解できる幅広い知識を修得している。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農学に関する専門の基礎となる教養）

■ 多様な生物資源利用に関する体系的な専門的知識とそれを社会で活用できる能力、あるいは大学院でさらに高度な専門的探求ができる能力を修得している。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農学に関する国際的な専門知識、農学に関するICTの活用力、農業に関する問題意識の醸成力）

■ 生物資源の開発・利用分野における海外協力に必要な異文化理解能力とコミュニケーション能力を修得している。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農学に関する国際的な専門知識）

■ 情報通信技術（ICT）を駆使して生物資源利用に関する情報や知識を分析し、それらを内外に受発信できる。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農学に関する専門の基礎となる教養、農学に関するICTの活用力）

■ 農林業の発展や食料・環境問題に対する貢献意欲を持ち、卒業後も自己成長を続ける力を備えている。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農業に関する問題意識の醸成力）

■ 日本で農学の専門家として実務にあたるための基本的な知識・能力を修得している。

（関連するコンピテンス：農学に関する体系的な専門知識、農業に関する問題意識の醸成力）

教育課程編成・実施の方針

学士（農学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

教育課程の前半では幅広い教養的科目を修得するとともに、農学の基礎となる共通の専門科目を学びます。後半では専門的な知識と分野横断的な知識を学び、インターンシップに参加するとともに、それらの知識をまとめて卒業研究を行って専門性を深めます。

順次性に関する方針

■ 1年次では、日本語能力の修得・向上をはかるとともに、基礎科目及び専門基礎科目を履修することによって、幅広い能力を持つ専門家としての基礎を築きます。特に、農学の幅広い分野への興味を涵養するとともに、学類の必修科目を学んで農学に対する理解を深め、課題解決のための問題意識を醸成します。

■ 2年次では、専門科目のうち基礎的科目である専門科目Ⅰを履修することによって、専門を深めるための手法を身につけます。横断領域科目の専門科目Ⅰによって学際的視野を拓けます。

■ 3年次では、専門科目Ⅱを履修することによって専門性を深めます。横断領域科目の専門科目Ⅱによって関連分野の知識を拓けます。

■ 4年次では、引き続き専門科目Ⅱを履修すると同時に必修科目の卒業研究を実施

し、一つの研究課題に対して、これまでに修得した専門的知識や手法を総合的に適用することにより農学をより深く理解します。

■ 3、4年次にインターンシップにより農学に関する実務経験を積みます。

実施に関する方針

■ 1年次にJapan-Expertプログラムの日本語に関する授業を履修し、日本語能力の修得・向上をします。また、「生物資源の開発・生産と持続利用」、「生物資源としての遺伝子とゲノム」、「生物資源と環境」、「生物源学に見る食品科学・技術の最前線」、「生物資源科学演習」、2年次に専門基礎科目を履修することにより農学の基礎を学んだうえで専門科目を履修します。

■ 専門科目を体系的に履修して専門性を深めるとともに、実験・実習・演習を履修することにより、問題発見・解決能力を養うことができます。

■ 「食料」、「環境」、「国際」をキーワードとした横断領域科目を履修することにより、学際的視野を深めることができます。

■ Japan-Expert アグロノミストインターンシップを履修し、農学に関する実務経験を積むことができます。

学修成果の評価に関する方針

シラバスに記載された評価方法に基づき、授業担当教員が厳正な教育評価を行います。また、学生が修得したコンピテンスを把握、確認することにより、卒業研究、進路選択の指導に役立てます。

その他特筆すべき特色

海外協定校での実地体験、国際協力機構筑波国際センター等で研修する「国際インターンシップ科目」、地域の企業や団体で活動する「食と緑のインターンシップ科目」により、国際性や社会貢献意欲を高めることができます。

人材養成目的

人間を含む多様な生物の生命現象、それを支える地球環境、さらには生物資源の保全や持続的活用の方法を総合的に理解し、豊かな人間性と問題発見・解決能力を有する、国際的視野に立って活躍できる未来創造型の人材を育成します。

地球学類

College of Geoscience

学士(理学)

■ Bachelor of Science

人材養成目的

地球の誕生から現在に至る地球の進化、大気圏・水圏・岩石圏で起こる様々な現象とそのプロセス、そして地球環境を舞台に展開される人間活動についての総合的な知識と思考力を有する、社会の諸分野で国際的な視野に立って活躍できる人材を養成します。

求める人材

地球環境や地球進化に高い関心と探究心を持ち、問題解決に向けて自主的かつ積極的に取り組み、広い視野から事象を分析することができる人材。

卒業後の進路

卒業生の約7割は大学院に進学しています。大学院修了者も含め、国内外で広く活躍しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…地球科学学位プログラム、教育学学位プログラム

■他大学大学院…東京大学

就職先の例（大学院修了後も含む）

企業・団体

■気象…ウェザーニューズ、日本気象協会、伊藤忠テクノソリューションズ

■環境・地質・災害系…日本工営、パスコ、応用地質、ダイヤコンサルタント

■情報・通信…NTTデータ

■建設・不動産…清水建設、竹中工務店

■エネルギー…出光産業、東京電力、東北電力、日本製鉄、太平洋セメント

■運輸・旅行…日本航空(JAL)、全日本空輸株式会社(ANA)、JR東日本、JR東海

■金融・保険…みずほフィナンシャルグループ、野村證券、野村総研

学校教員

■公立…茨城県、岐阜県、埼玉県、群馬県、青森県

官庁・自治体・独立行政法人等

気象庁、経済産業省、海上保安庁、国土地理院、栃木県、山梨県、つくば市、高崎市、警視庁、都市再生機構、石油天然ガス・金属鉱産資源機構、鉄道運輸機構、宮崎県立博物館

教育の質の保証と改善の方策

教育指導体制の充実

入学時、進級時ごとに、適切な履修指導、進路指導を行っています。また、シラバスの内容を充実させ、学生への積極的な学習支援を図っています。

少人数制授業体制

専門語学、セミナー、演習等は少人数制を実施しています。個々の学生に対して教員がマンツーマンで対応し、きめの細かい親身な指導を行っています。

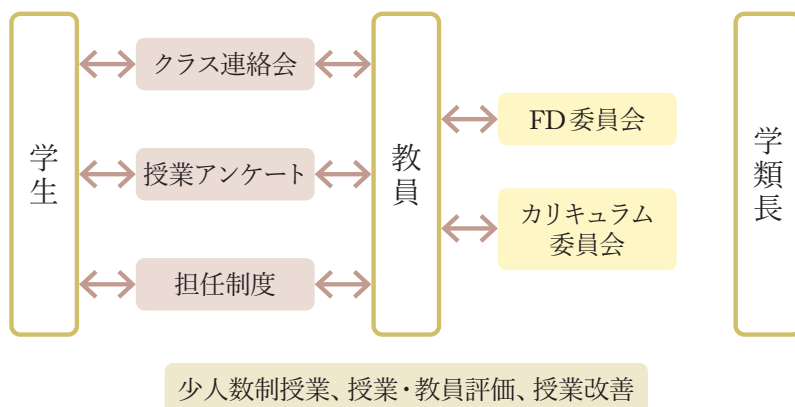
教員の研究教育能力の保証

教員のピアレビューにより高度な専門的能力を備えた教員を配置し、学生の様々な要望に応じたきめ細かい教育研究活動を展開しています。また、学生による授業評価、筑波大学の大学教員評価など、多様な観点から教員の教育・研究成果を評価検証し、継続的に質の高い教育の提供に取り組んでいます。

授業改善への取り組み

ファカルティ・ディベロップメント活動を組織的に実施し、授業内容の改善に向けて個々の教員や教員グループによる教材や教育指導法の主体的開発を行っています。

教育の質の保証と改善の方策



学士(理学)

Bachelor of Science

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、かつ生命環境学群地球学類の人材養成目的にかなう下記の専門コンピテンスを修得したものに学士(理学)の学位を授与します。

■ 専門とする分野にとどまらない、自然科学一般に関する幅広い知識について理解している。

■ 地球科学に関する高度な専門知識と多様な研究手法について理解している。

■ 科学的なデータ・情報を適切な手法で解析し、合理的な推論を導く能力を修得している。

■ 安全確保上の注意点を踏まえ、室内における実験機器や分析装置を使用する技能を習得している。

■ 安全確保や個人情報保護などに配慮しつつ、野外での観察・観測やデータ収集を遂行する能力を修得している。

■ 研究・調査を企画・遂行し、その成果を卒業研究論文・レポート等としての的確にまとめ発表する能力を修得している。

教育課程編成・実施の方針

学士(理学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

地球学類は、現在の地球環境を扱う「地球環境学主専攻」と、地球の変遷史を扱う「地球進化学主専攻」の二つの主専攻を設けています。各主専攻では、人文地理学、地誌学、大気科学、水文科学、地形学、環境動態解析学(以上、地球環境学主専攻)、地史・古生物学、地層学、地球変動科学、岩石学、鉱物学、地球資源科学(以上、地球進化学主専攻)の学問分野を学びます。

順次性に関する方針

1年次では、自然科学を中心に人文・社会科学を含む学問全般に関する基礎的知識を習得するとともに、地球学に関する専門導入科目の履修により、2年次以降に必要な基礎的な能力を身につけます。2年次では、地球学入門を意図した専門科目とともに、地球学に必要な数学、物理学、化学、英語などを学ぶことで、計算・資料整理・発表等にかかわるコンピュータや実験機器の利用能力を高めます。さらに、英文の読解能力や英語コミュニケーション能力を修得するための専門英語を受講します。3年次からは、主専攻に分かれ、専門科目を中心に履修します。講義、セミナー、室内実験、野外実験で構成された専門科目を受講することで、専門知識を深めます。また、現地での観察・測定・資料収集を通して、フィー

ルドの様々な課題を考察する野外実験を数多く開講しており、野外調査と室内作業を行う能力を修得します。また、主専攻の他に生命環境学際主専攻(留学生コース)を含めた副専攻を選択することができます。4年次では卒業研究が中心となり、教員や大学院生と議論をしながら調査・実験を進めることで、研究の企画・遂行・総括能力や研究成果の内容を第三者に的確に伝達する能力を高めていきます。

実施に関する方針

学生の主体的な学修を促すために、学類担当教員による教科書を準備するとともに、e-learningシステムを活用しています。産業界や地域との連携およびキャリアパス教育の一環としてインターンシップ科目を設けています。また、学類独自に、また学群や関連学類と共同で、実験室やコンピュータなど学修を支援する環境の整備を

行っています。さらに、国際化の推進のために、少人数制の専門語学や国際野外実験の開講、生命環境学際主専攻の英語講義の受講を推奨しています。

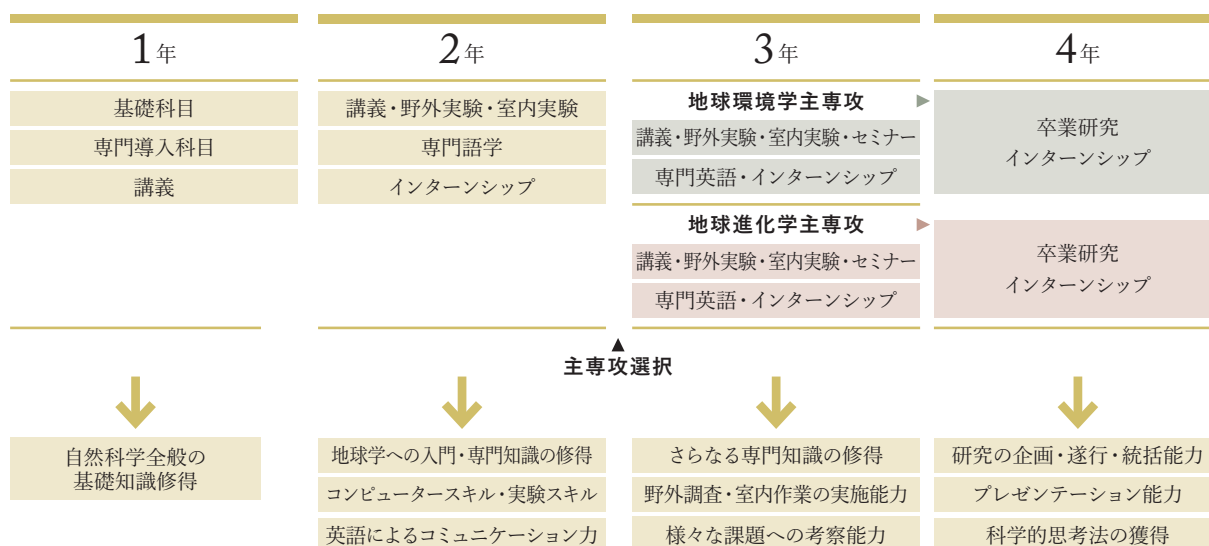
学修成果の評価に関する方針

講義・演習・実験・卒業研究といった各授業の内容にあわせて、試験(筆記・口述)やレポートを課し、その到達度に応じて評価します。

特色

本学類の特徴である野外実験は、本学附属研究センター、附属研修施設などと連携・協力して実施されており、大型水路や熱収支・水収支観測圃場などが研究教育目標を達成できるように整備されています。また、地学・地理オリンピックやジオパーク設立に向けた活動に協力することで、地球学類生が地球学を通じた社会との接点を持つ機会を設けています。

育成する能力とカリキュラムの構成



理工学群

School of Science and Engineering

数学類

College of Mathematics

学士(理学) ■ Bachelor of Science

物理学類

College of Physics

学士(理学) ■ Bachelor of Science

化学類

College of Chemistry

学士(理学) ■ Bachelor of Science

応用理工学類

College of Engineering Sciences

学士(工学) ■ Bachelor of Engineering

工学システム学類

College of Engineering Systems

学士(工学) ■ Bachelor of Engineering

社会工学類

College of Policy and Planning Sciences

学士(社会工学) ■ Bachelor of Policy and Planning Sciences

総合理工学位プログラム

Bachelor's Program in Interdisciplinary Engineering

学士(工学) ■ Bachelor of Engineering

人材養成目的

持続可能な社会に必要な幅広い教養、科学・技術の基礎から応用に至る専門性、柔軟な思考、知的創造及び問題発見・解決の能力を修得し、広い視野及び豊かな人間性を持ち、チームで仕事をするための協働能力を備え、国際社会に貢献できるグローバル人材を養成します。

数学類

物理学類

化学類

応用理工学類

工学システム学類

社会工学類

総合理工学位プログラム

数学類

College of Mathematics

学士(理学)

■ Bachelor of Science

人材養成目的

純粋数学から応用数学まで現代数学の基礎について幅広い知識を習得することにより、高度な論理性を身につけると同時に、問題を分析しその構造を読み取って解決するという数学的思考能力を身につけた、社会の様々な分野でグローバルに活躍できる人材を育成することを目的としています。

求める人材

数学が好きであり、分からないことがあれば、答えが出るまで根気強く考えることができる人材。また、論理的(数学的)思考能力を身につけたいと願っている人材を求めています。

卒業後の進路

卒業生の約半数は大学院に進学しています。大学院修了者も含め、国内外で広く活躍しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…数理物質科学研究群、システム情報工学研究群、人間総合科学研究群(教育)

■他大学大学院…京都大学、神戸大学、東京工業大学、東京大学(数理、経済)、名古屋大学、一橋大学、北海道大学、山梨大学、宇都宮大学、立教大学、ソウル大学

就職先の例

企業・団体

■情報・通信…アイヴィス、アウリガ・コンサルティング、インフィニット・フィールド、ヴィエムウェア、エス・ジー、NTTデータルウィープ、エヌデューデー、カトム、キャノンITソリューションズ、コムシス情報システム、コントロールテクノロジー、sizebook、ZEIN、Sky、ジャステック、日鉄ソリューションズ、ソフテス、デジタルデータソリューション、テックファーム、トータルシステムデザイン、トヨタシステムズ、ナンバーワンソリューションズ、日本アイ・ビー・エム・サービス、農中情報システム、パナソニックシステムソリューションズジャパン、フューチャーアーキテクト、ペンティオ、リーパー、ユー・エス・イー、UCOMなど

■金融・保険…野村證券、日興証券、日本政策金融公庫、かんぽ生命保険、損害保険ジャパン、太陽生命、ほけんの窓口、群馬銀行、静岡銀行、常陽銀行、千葉銀行、筑波銀行、茨城県信用組合、東邦銀行、東和銀行、栃木銀行、八十二銀行、福岡銀行、三菱東京UFJ銀行、山形銀行、りそな銀行など

■その他…アウトソーシングテクノロジー、コングレ、あしたのチーム、東京商工リサーチ、リクルートグループ、アクセンチュア、大和総研、ベイカレント・コンサルティング、エフエムナックファイブ、フジテレビジョン、オープンハウスグループ、三井不動産リアルティ【中国】、一条工務店、ISエンジニアリング、ソラスト、サティス製薬、花王、タカラスタンダード、打田製作所、昭和産業、三越伊勢丹、日本航空、数理進学予備校イーズ、早稲田アカデミーなど

中学・高等学校教諭

各都道府県の公立および私立の中学・高等学校教諭

公務員

国家公務員(国土交通省など)、地方公務員(各都道府県・市町村の役所、警察など)、国立障害者リハビリテーションセンター学院

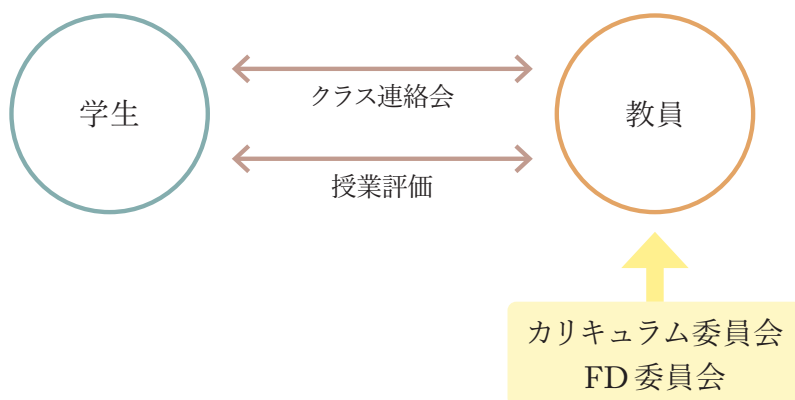
教育の質の保証と改善の方策

■研究室あたり数名の少人数による卒業研究だけでなく、2年次からも少人数のセミナー形式の授業があります。そこでは学生が準備し発表することによって、理解度を自ら確認するとともに、学生と教員との直接対話による理解度の深化を図っています。

■学生と教員との間の意思の疎通をはかるため、数学類クラス連絡会をおこなっています。学生による授業アンケート等に基づき、春と秋の年2回「学生と教員との懇談会(クラス連絡会)」を開催し、率直な意見交換を通して教育改善に努めています。

■微分積分や線形代数など複数クラスがある講義においては、科目連絡会を置くことにより、担当教員間で内容等について調整するほか、講義技術の改善に努めています。

概念図



学士(理学)

Bachelor of Science

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(理学)の学位を授与します。

■ 自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身につけている。
(関連するコンピテンス:自然科学の基礎知識)

■ 数学の基礎である「微分積分」と「線形代数」を自在に駆使できる。
(関連するコンピテンス:自然科学の基礎知識)

■ 数学的な論理展開の方法を理解し、数学的思考力・論理力と応用力を身につけている。
(関連するコンピテンス:数学の専門知識(代数学・解析学・幾何学・情報数学の理解))

■ 代数・幾何・解析・情報数学のいずれかの分野における専門知識を習得している。
(関連するコンピテンス:数学の専門知識(代数学・解析学・幾何学・情報数学の理解))

■ 専門分野に関する基礎的な英語能力および発表能力がある。
(関連するコンピテンス:数学の専門知識(代数学・解析学・幾何学・情報数学の理解)、数学英語力の養成)

教育課程編成・実施の方針

学士(理学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

数学は非常に体系化された国際的普遍性のある学問であり、先進国の主要大学においてはどこでもほぼ同様なカリキュラムとなります。これに沿って、基礎から専門、発展・応用へと順を追ってスムーズに進行出来るよう教育課程を編成・実施します。

順次性に関する方針

■ 1年次においては、自然科学全般に関する基礎的な知識を習得するとともに、専門数学を学ぶための基礎として、全ての数学の土台である微分積分学と線形代数学を専門基礎科目として学びます。これらには講義のほかに演習の時間が付随し、実際に問題を解いてみます。また、共通科目、関連科目として語学など専門外の分野を広く履修します。

■ 2年次は基礎からの発展の時期です。微分積分と線形代数のより深い理論と、集合と位相、曲線・曲面など、専門分野への準備を行います。語学力と発表能力のアップのため、セミナー形式の数学外書輪講Iもあります。

■ 3年次は専門分野の基礎科目を学びます。代数・幾何・解析・情報の4つの分野における基幹的知識を得るための講義と演習を行います。セミナー形式の数学外書輪講IIもあり、また4年次の卒業研究へのスー

ズな移行のための卒業予備研究があります。

■ 4年次では研究室に分かれて、研究室あたり数名の少人数セミナー形式による卒業研究を行います。同時に、専門的な話題に関する講義も開講されます。

実施に関する方針

■ 主要科目には演習の時間をつけ、学生自ら例題や発展問題を解くことにより講義の理解を深めます。

■ 数学概論や数学外書輪講など、興味や関心を促す科目を用意します。

■ 幾つかの授業やセミナーにてテキストに洋書を用い、表現力や語学力アップを図るとともに、国際性に配慮します。

学修成果の評価に関する方針

専門科目、専門基礎科目において、公正

かつ厳格に成績評価を行います。また、教育が効果的に実施されているかを検証するため、すべての専門科目・専門基礎科目について授業評価アンケートを実施します。

特色

■ 教育職員免許状(数学)がとりやすいカリキュラム設定がなされています。

■ 「数学手習い塾」を定期的の開講し、1年次の重要科目である微積分と線形代数に関することをはじめ、学生からの様々な疑問に答えられるようにしています。

■ 数学類キャリアパスセミナーでは、社会における数学のニーズの高さや、数学類卒業後の進路について幅広く学ぶために、企業の担当者に「数学専攻の強み」などを解説してもらいます。

育成する能力とカリキュラムの構造

1年	2年	3年	4年
専門基礎科目 数学概論 数学リテラシー1・2・3 微積分1・2・3 線形代数1・2・3	専門科目 線形代数統論 ベクトル解析と幾何 微分方程式入門 集合入門 代数入門 トポロジー入門 曲面論 関数論 計算機演習 統計学 数学外書輪講 I 数学類キャリアパスセミナー	卒業予備研究 数学外書輪講 II 代数学の主な科目 代数学 I A・I B 幾何学の主な科目 トポロジー A・B 多様体入門 解析学の主な科目 ルベーグ積分 偏微分方程式 関数解析入門 確率論 I・II 情報数学の主な科目 数理論理学 I・II 数理統計学 I・II 計算機数学 I・II	卒業研究 代数学 II・III・IV トポロジー C 微分幾何学 関数解析 複素解析
基礎科目 共通科目 関連科目			
自然科学全般に関する基礎的知識	より深い理論の習得 専門分野への準備	代数・幾何・解析・情報の4分野における基幹的知識	少人数セミナー形式による卒業研究
専門数学を学ぶための基礎力	語学力と発表能力の向上	語学力と発表能力の向上 卒業研究の準備	より専門的な知識

人材養成目的

持続可能な社会に必要な幅広い教養、科学・技術の基礎から応用に至る専門性、柔軟な思考、知的創造及び問題発見・解決の能力を修得し、広い視野及び豊かな人間性を持ち、チームで仕事をするための協働能力を備え、国際社会に貢献できるグローバル人材を養成します。

数学類

物理学類

化学類

応用理工学類

工学システム学類

社会工学類

総合理工学位プログラム

物理学類

College of Physics

学士(理学)

■ Bachelor of Science

人材養成目的

多様に発展する現代物理学について、しっかりとした基礎と高度な専門的知識を備え、かつ、真理を探究する過程を通して育んだ柔軟な思考力と、物事の本質を洞察し問題を根本から解決する力を持つ人材を育成します。そして、それらの人材がそれぞれの能力を生かして社会の様々な分野で活躍することを目指します。

求める人材

高等学校のさまざまな科目についての基礎学力を有し、大学において物理学を学んでゆく能力を持った人材を求めます。また、広い視野を持ち、自ら学び、未知の物事に対して柔軟に対応できることが要求されます。

卒業後の進路

卒業生の約8割が大学院に進学し、その約2割が博士後期課程に進んでいます。大学院修了者も含め、国内外で広く活躍しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…数理工学科学研究科、生命環境科学研究科、教育研究科

■他大学大学院…東北大学、東京大学、東京工業大学、総合研究大学院大学、名古屋大学、北陸先端科学技術大学院大学、サウサンプトン大学

就職先の例（大学院修了者を含む）

企業・団体

■機械・電機・化学…島津製作所、堀場製作所、東芝、富士通、古河電気工業、三菱電機、沖電気工業、日立製作所、富士ゼロックス、日本電気、ソニー、東芝メディカルシステムズ、日産自動車、東京計器、キャノン、日立メディコ、白井国際産業、旭化成、横浜ゴム、CAD、理化電子、東芝メモリ

■情報・通信…NTTデータ、ウィルコム、NECソフト、インフォテック、コーエー、東証システムサービス、情報技術開発、アイヴィス、ブレインパッド、Gunosy

■サービス…みずほ情報総研、セコム、日本エイム、東洋通商、オーガス総研、日鐵テクノロジー、日本電気航空宇宙システム、ソフトバンク・ヒューマンキャピタル

■金融・保険…野村証券、みずほフィナンシャルグループ、常陽銀行、ソニー生命保険

■マスコミ…NHKメディアテクノロジー、TBSラジオ&コミュニケーションズ

学校教員

■公立…茨城県、群馬県、千葉県、長野県、静岡県、兵庫県

官庁・自治体・独立行政法人等

農林水産省、高崎市、芳賀町、高エネルギー加速器研究機構

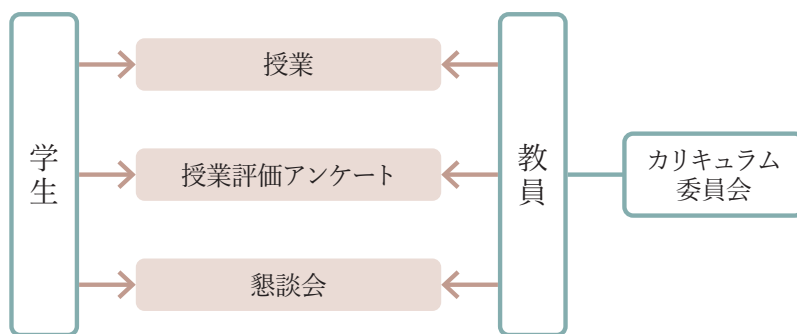
教育の質の保証と改善の方策

■厳格な成績評価…試験・レポート提出等に基づき、厳格な成績評価を行っています。

■カリキュラム委員会の常設…約10名の教員からなるカリキュラム委員会を各学期数回程度開催し、授業科目の内容の検討と改善に取り組んでいます。

■授業改善アンケートの実施と、教員と学生の懇談会…学生が主体となって、全ての専門基礎・専門科目のアンケートを実施し、その結果を公表しています。このアンケートの結果を基に教員と学生の懇談会を毎年実施し、授業改善に取り組んでいます。

概念図



学士(理学)

Bachelor of Science

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、本学群・学類の人材養成目的に基づき、以下の知識・能力(専門コンピテンス)を修得したものに、学士(理学)の学位を授与します。

■ 自然科学の基礎となる概念や考え方を理解し、問題を解く能力
(微積分、線形代数、および、化学、生物に関する科目など)
(関連するコンピテンス:自然科学の理解)

■ 古典物理学の基礎となる概念や考え方を理解し、問題を解く能力
(力学、専門電磁気学、解析力学、熱物理学など)
(関連するコンピテンス:古典物理学の理解)

■ 現代物理学の基礎となる概念や考え方を理解し、問題を解く能力
(量子力学、統計力学、相対性理論など)
(関連するコンピテンス:現代物理学の理解)

■ 各分野の専門的な物理学の概念や考え方を理解し、問題を解く能力
(卒業研究、各専門分野の物理学など)
(関連するコンピテンス:専門物理学の理解)

■ 計算プログラムを理解・実装し、その結果を物理学的に正しく考察できる能力
(卒業研究、計算物理学)
(関連するコンピテンス:計算分析能力)

■ 実験の原理および操作を理解し、その結果を物理学的に正しく考察できる能力
(卒業研究、物理学実験、実験物理学など)
(関連するコンピテンス:実験分析能力)

■ 物理学の内容を英語等で表現および議論する能力
(卒業研究、科学英語など)
(関連するコンピテンス:専門的対話能力)

■ 自ら物理学における課題を探究し、その課題を解く能力
(卒業研究、課題探究実習セミナーなど)
(関連するコンピテンス:課題解決能力)

教育課程編成・実施の方針

学士(理学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

自然科学全般に関する基礎的知識を習得するとともに専門コンピテンスを効果的に習得できるように、系統的なカリキュラムを編成しています。学生が能動的に学習に取り組めるように、最適な科目形式(講義、演習、実験)を選んでいきます。

順次性に関する方針

物理学は、先人が築き上げたものを元に、新たに見いだされたものを積み上げて行くという過程を繰り返して発展してきました。現代物理学は高度に発展し、それぞれの分野での専門性が高いですが、一方では、基本的な概念が広い領域で普遍的に用いられています。学群の4年間では、古典物理学から始まって、現代物理学の骨格を成す基礎的科目へ、さらには専門性の高い発展的科目を順番に学習することが必要です。それぞれの科目には標準履修年次を設定しています。

■ 1年次…古典物理学を質点と場の観点から理解するとともに、数学・化学・生物学・地球科学などの自然科学を幅広く学びます。

■ 2年次…古典物理学をさらに深く学ぶとともに、現代物理学の骨格を成す量子力学などの基礎を習得します。

■ 3年次…現代物理学についてより発展的な内容を学ぶとともに、専門物理学を学び

ます。

■ 4年次…専門物理学を学ぶとともに、研究室に所属して卒業研究を行います。

実施に関する方針

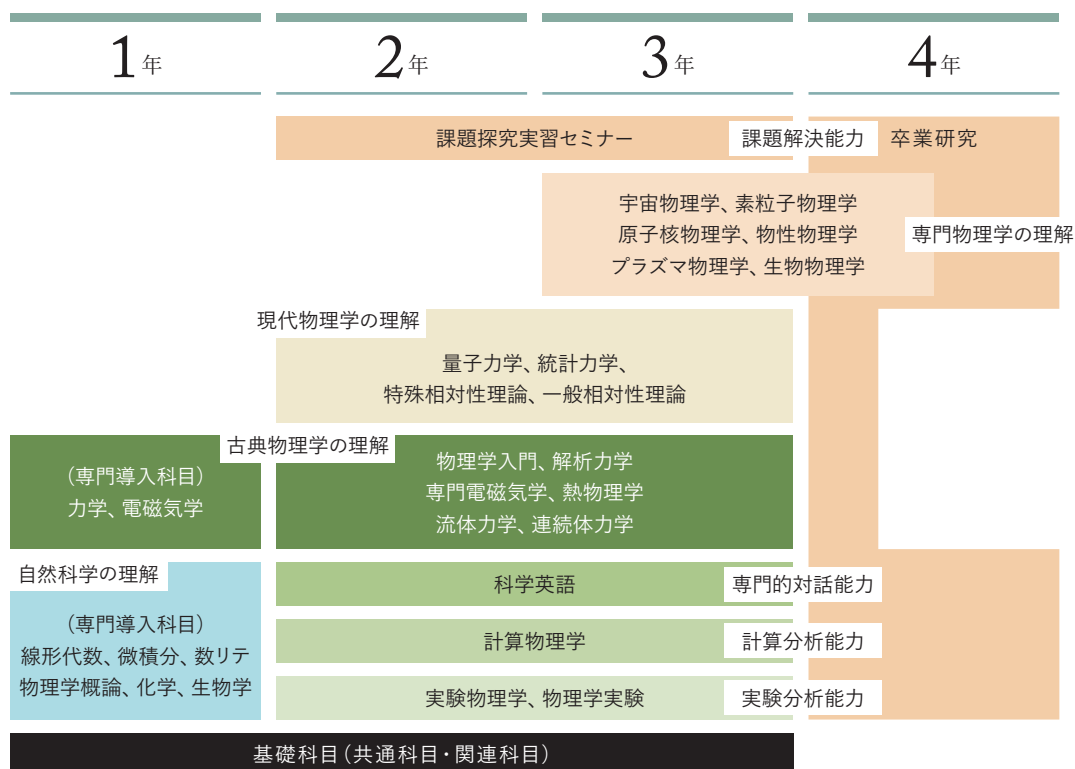
能動的な学習を促すためのe-ラーニングを活用した授業科目や創造性を育む課題探求的科目を開設しています。さらに、国際的な舞台で研究を行う人材を輩出する

ために、外国人教員による授業科目を設置しています。

学修成果の評価に関する方針

本学類の学修成果は、「学位授与の方針」に示す知識・能力の修得状況を基準として評価します。

育成する能力とカリキュラムの構造



人材養成目的

持続可能な社会に必要な幅広い教養、科学・技術の基礎から応用に至る専門性、柔軟な思考、知的創造及び問題発見・解決の能力を修得し、広い視野及び豊かな人間性を持ち、チームで仕事をするための協働能力を備え、国際社会に貢献できるグローバル人材を養成します。

数学類

物理学類

化学類

応用理工学類

工学システム学類

社会工学類

総合理工学位プログラム

化学類

College of Chemistry

学士(理学)

■ Bachelor of Science

人材養成目的

自然界における普遍的な法則と未知物質・未知現象の探求、機能性物質の創製と材料開発、環境問題やエネルギー問題の解決、生命現象の分子レベルでの解明などに必要な基礎的で幅広い化学の知識を有する人材を育成します。その上で、これらの知識と理解に裏打ちされた柔軟な思考力と、国際的に活躍できる能力を有する人材を育成します。

求める人材

化学に関する十分な学力と、関連する分野の基礎学力を有し、自然界における普遍的な法則の追求と、新規物質や未知現象を探究する意欲を有する人材を求めます。

卒業後の進路

卒業生の約9割は大学院に進学しています。大学院修了者も含め、国内外で広く活躍しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…数理物質科学研究科、教育研究科

■他大学大学院…東北大学、東京大学、東京工業大学、京都大学、大阪大学

就職先の例（大学院修了者を含む）

企業・団体

■化学・ゴム…三菱化学、三菱樹脂、住友化学、花王、サンスター、日立化成工業、クレハ、ダイセル化学工業、日本特殊塗料、リケンテクノス、トクヤマ、JSR、出光石油化学、エスケー化学、積水化学工業、スリーボンド、高田香料、ブリヂストン、信越化学工業、横浜ゴム、大同化成

■電機・金属…富士通、日立電線、富士電機、タムロン、キヤノン、コニカ、ダイキン工業、理想科学工業、三菱アルミニウム、JFEスチール

■製紙・繊維…三菱製紙、東洋紡績、日東紡績

■エネルギー…コスモ石油、出光興産

■食品・医薬品…カルビス、明治製菓、日本食研、ハウス食品、中外製薬、カワチ薬品、大正製薬、アステラス製薬、資生堂、ツムラ

■情報・通信…イー・アクセス、ジュビターテレコム、ガイアックス、サイネックス、サイバーエージェント、NTTデータ

■サービス…アビームコンサルティング

■金融・保険…三井住友銀行、SMBC日興証券、山梨中央銀行

■運輸…全日本空輸

■機械・自動車…デンソー、トヨタ自動織機、ホンダ、トヨタ中央研究所

学校教員

■公立…茨城県、千葉県、神奈川県、静岡県

教育・研究機関

東京大学、奈良先端科学技術大学院大学、カリフォルニア大学、ベイラー医科大学、産業技術総合研究所、理化学研究所、科学技術振興機構

自治体・独立行政法人等

秋田県、埼玉県、東京都、新潟県、大阪府、岡山県、川崎市、国民生活センター

教育の質の保証と改善の方策

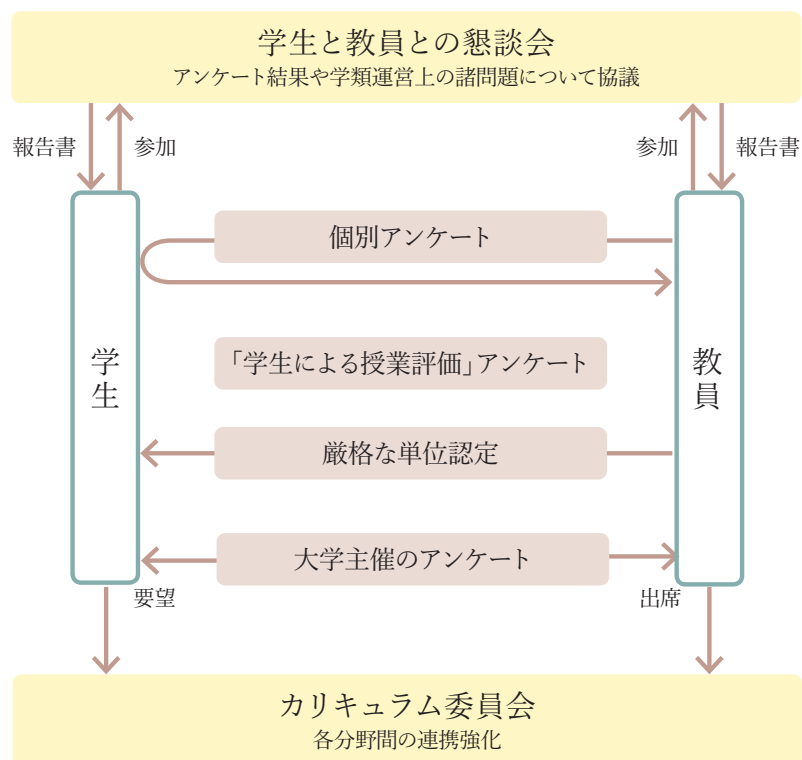
■毎年、学生による自主的な授業評価アンケートと、大学主催のアンケートの両方を行い、それらの結果や学類運営上の諸問題について、学生と教員が一堂に会す「学生と教員との懇談会」にて話し合っています。また、その内容は、報告書の形で毎年公開しています。

■各科目の担当教員が個別にアンケートを実施し、教育効果の向上に役立てています。

■上記アンケート等をもとに、教育内容と科目間の連携を化学の分野（無機、有機、物理化学）ごとに随時見直すとともに、カリキュラム委員会の場を活用して各分野間の連携を強化しています。

■期末試験、レポートなどの結果を総合的に評価し、厳格な単位認定を行っています。

学生と教員との懇談会とカリキュラム委員会



学士（理学）

Bachelor of Science

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。

■自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身につけている。
（関連するコンピテンス：1基礎化学の知識と理解力、2無機・分析化学分野の知識と理解力、応用力、3熱力学・統計力学分野の知識と理解力、応用力、4量子化学・分光学分野の知識と理解力、応用力、5有機化学分野の知識と理解力、応用力、6生物化学分野の知識と理解力、応用力、7化学実験の遂行能力）

■物質を、分子・原子・電子・化学結合レベルで理解している。
（関連するコンピテンス：1基礎化学の知識と理解力、2無機・分析化学分野の知識と理解力、応用力、3熱力学・統計力学分野の知識と理解力、応用力、4量子化学・分光学分野の知識と理解力、応用力、5有機化学分野の知識と理解力、応用力、6生物化学分野の知識と理解力、応用力）

■自然界における普遍的な法則と未知物質・未知現象の探求、機能性物質の創製と材料開発、環境問題やエネルギー問題の解決、生命現象の解明に必要な化学的基礎知識を持っている。
（関連するコンピテンス：1基礎化学の知識と理解力、2無機・分析化学分野の知識と理解力、応用力、3熱力学・統計力学分野の知識と理解力、応用力、4量子化学・分光学分野の知識と理解力、応用力、5有機化学分野の知識と理解力、応用力、6生物化学分野の知識と理解力、応用力、7化学実験の遂行能力）

■上述した化学に関する基礎的で必要不可欠な知識と理解に裏打ちされた柔軟な思考力と、国際的に活躍できる能力を持っている。
（関連するコンピテンス：1基礎化学の知識と理解力、8化学英語の理解力、表現力）

■他者と協調して化学に関する問題を解決することができる。
（関連するコンピテンス：専門コンピテンス全般）

教育課程編成・実施の方針

学士（理学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

4年間で化学の専門性を養うために、基礎から専門への積み上げ型の教育課程を編成・実施します。講義と実験を中心とした授業科目を設置するとともに、学生が能動的に学習に取り組めるようにするための実習・演習科目や、化学に関する総合能力を養うための卒業研究を設置しています。

順次性に関する方針

■1年次においては、自然科学全般に関する基礎的知識を修得するとともに、専門化学を学ぶための基礎を修得するために、講義を中心とした教育を行います。

■2、3年次においては、基礎から専門までの幅広い化学の知識や技術を身につけるために、専門化学の体系的な講義および講義の進行に合わせた実習、演習を行います。また、グローバルな化学情報の読解能力を修得するために、化学英語に関する講義を行います。

■4年次には、先端的化学の知識を学ぶとともに、真理を探究する方法およびグローバルな化学情報を探索する手法を修得させるために、卒業研究が課されます。

実施に関する方針

■年次に合わせて化学のレベルが順次上がるように、基礎化学と専門化学のバランスを取った講義を実施します。

■ 自然現象を理解するための実験手法を修得するために、各種実習を実施します。

■ 自然の真理、未知現象の解明を行うための研究手法を修得するために、卒業研究を実施します。

■ 化学分野で国際的に活躍するためにも必要不可欠な英語を習得するために、化学英語の講義を実施します。

学修成果の評価に関する方針

授業科目毎に到達目標を設定し、講義で

は、期末テストや小テスト、レポート、プレゼンテーション等により、実習では、レポートや実験に取り組む姿勢・質疑応答等により、総合的に達成度を評価します。

特色

講義で習った内容をより深く理解するために、3年次において通年の専門化学実験を開講し、理論ばかりではなく、実験方法の習得にも力を入れています。

教育計画				
	1年	2年	3年	4年
専門科目		化学実験	専門化学実験	卒業研究
専門科目基礎		基礎化学外書講読	専門化学外書講読	
科目基礎	共通科目、関連科目			
	自然科学全般に関する基礎的知識	基礎から専門までの幅広い化学の知識や技術	先端的化学の知識	
	専門化学を学ぶための基礎	グローバルな化学情報の読解能力	化学研究とグローバルな化学情報の探索の手法	

化学類授業科目				
	1年	2年	3年	4年
	化学概論 化学1 化学2 化学3 化学基礎セミナー	無機化学I 分析化学 物理化学I・II 有機化学I・II 生物化学 基礎化学外書講読 化学実験 化学実験II	無機化学II 無機元素化学 放射化学 分子構造解析 物理化学III・IV 有機化学III・IV 専門化学演習 専門化学実験I・II 専門化学外書講読	卒業研究 無機・分析化学特論 物理化学特論 有機化学特論 生体関連化学特論
共通科目	総合科目 英語 情報 体育	共通科目 総合科目 体育	計算化学 生物分子化学	

人材養成目的

持続可能な社会に必要な幅広い教養、科学・技術の基礎から応用に至る専門性、柔軟な思考、知的創造及び問題発見・解決の能力を修得し、広い視野及び豊かな人間性を持ち、チームで仕事をするための協働能力を備え、国際社会に貢献できるグローバル人材を養成します。

数学類

物理学類

化学類

応用理工学類

工学システム学類

社会工学類

総合理工学位プログラム

応用理工学類

College of Engineering Sciences

学士(工学)

■ Bachelor of Engineering

人材養成目的

われわれの社会を維持・発展させ続けるために必要な最先端工学の基盤となる科学・技術を原理から理解し、さらに発展させることができる、創造力豊かな技術者・研究者を養成します。

求める人材

先端科学技術を原理から理解するための基盤となる数学的・論理的思考力を有し、物理学・化学などの科学的基礎知識を備えたうえで、それらの先端的工学応用に興味を持つ人材を求めます。

卒業後の進路

卒業生の約9割が大学院に進学し、その約1.5割が博士後期課程に進んでいます。大学院修了者も含め、国内外で広く活躍しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…数理物質科学研究科

■他大学大学院…北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、九州大学、KAIST

就職先の例（大学院修了者を含む）

企業・団体

■機械・電機・化学…日立製作所、パナソニック、シャープ、東芝、ソニー、富士電機、キャノン、村田製作所、島津製作所、ローム、リコー、オリンパス、デンソー、京セラ、アルパック、半導体エネルギー研究所、TDK、東京エレクトロン、キーエンス、コニカミノルタホールディングス、トヨタ自動車、本田技研工業、いすゞ、富士重工業、川崎重工業、日立造船、レゾナック、富士フイルム、東洋紡、花王

■金属・素材…新日本製鐵、JFLスチール、住友金属工業、日東金属工業、三井金属鉱業、三菱アルミニウム、三菱マテリアル、古河電気、アプライド・マテリアルズ・ジャパン

■情報・通信…NTTデータ、NTTコムウェア、ソフトバンク、富士通ビー・エス・シー、オービック、三菱UFJインフォメーションテクノロジー

■医療・医薬品…テルモ、大塚製薬、P&G

■食品…サントリー、麒麟ビール、味の素、ミツカン、ハウス食品、マンナンライフ

■金融・保険…三菱UFJモルガン・スタンレー証券、大和証券グループ、全国銀行協会、中国銀行、野村総合研究所

学校教員

■公立…茨城県、千葉県

■私立…日出学園中学・高等学校

官庁・自治体

法務省、厚生労働省、特許庁、国土地理院、東京入国管理局、東京都庁、宇都宮市、越谷市、下妻市

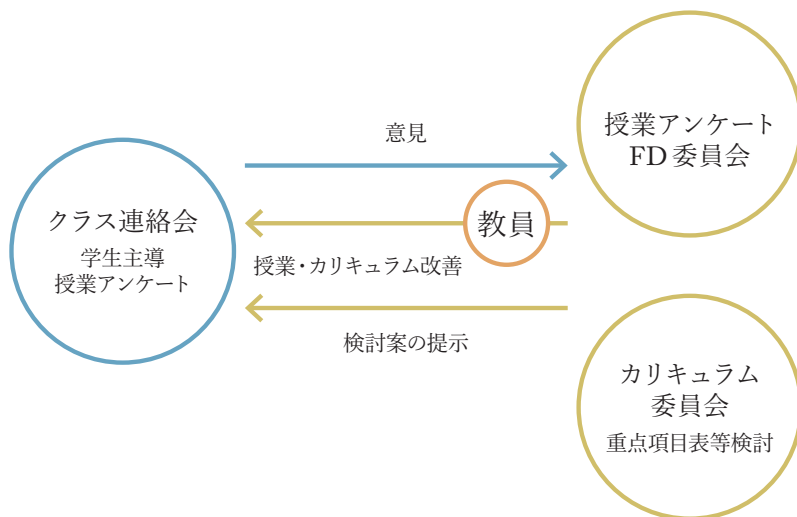
教育の質の保証と改善の方策

急速に進化し続ける先端技術を理解するためには、教育内容を随時見直すことが必須です。そこで、以下の方策により教育力の向上に努めています。

あらゆる工学分野の共通基盤となる数学・物理・化学の専門基礎科目と専門共通コア科目については、授業アンケートを実施し、年3回のカリキュラム委員会やFD委員会で教育改善に取り組んでいます。また、学生からのコメントをもとに議論し、アンケート結果を授業改善にフィードバックさせるとともに、教員の教育力向上に活用します。専門基礎科目から専門科目まですべての授業科目に対して、各授業で履修すべき重点項目表を作成し、この重点項目表に基づいて、授業間の連続性や授業内容の見直しをカリキュラム委員会で随時、検討します。また、学生主導授業アンケートの結果も参考にすることで、学生の視点に立った講義内容の充実を図っています。

また、4クラス制をとり、クラス担任を中心として学修不振者へのきめ細かなフォローをしています。

教育力向上への取組



学士(工学)

Bachelor of Engineering

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力(専門コンピテンス)として、工学分野の様々な問題に対応するための基礎的能力(物理・化学・生物現象の理解力と数学的な論理力・計算力)と専門的能力(「応用物理と計測」、「電子・量子工学とナノ科学」、「物性工学と材料工学」、「物質・分子工学と複合化学」の4つの内、いずれかまたは複数の知識と論理的思考能力)を獲得し、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(工学)の学位を授与します。

■最先端科学技術を原子・分子レベルで原理から理解できる基礎学力を備え、さらに発展・創造できる専門知識を身につけている

■科学技術で直面するさまざまな課題を物理、化学、生物の学際的で幅広い視点から論理的に思考できる

■チームのなかで活躍できる協調性や異分野の人とコミュニケーションして自己表現できる能力を身に付けている

■国際的に活躍することができる語学力やプレゼンテーション能力を備えている

教育課程編成・実施の方針

工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修成果が学士(工学)の到達目標に達するためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

高度に進化した現代社会において、自然科学の成果を技術面から社会に還元して貢献することを学類教育の使命とします。そのためには、最先端科学技術を原理に立ち返って理解、発展させるのに必須の基礎学力と、最先端科学技術の専門的知識や国際性を身につけるための教育カリキュラムを提供します。

順次性に関する方針

2年次までに、最先端科学技術を理解するための基礎的・論理的思考力を養成するため、数学と物理と化学を重点化した教育を実施します。特に、2年次では演習を十分に行い、論理的思考力に加えて計算能力や処理能力の養成を目標としています。基礎科学の体験的・実験的学習に加えて協調性を涵養する場として、物理学系と化学系の必修の実験を2年次に開講します。さらに、各専門分野の入門的・概論的講義を通じて、3年次以降の専門分野への導入教育も行います。3年次では、高度に発展し続ける科学技術に対応するために、4つの主専攻(応用物理、電子・量子工学、物性工学、物質・分子工学)への振り分けを行い、専門性の高い講義と実

験科目を提供します。主専攻振り分けは、学生の希望を最大限配慮して行います。4年次では、すべての学生が学類教員のいずれかの研究室に配属され、授業に加えて、卒業研究を行います。自ら新しい価値を見出すための研究という能動的学習の遂行能力を養成します。そして、問題提起・解決能力に加えて、研究発表等を通して情報発信力の養成を行います。

実施に関する方針

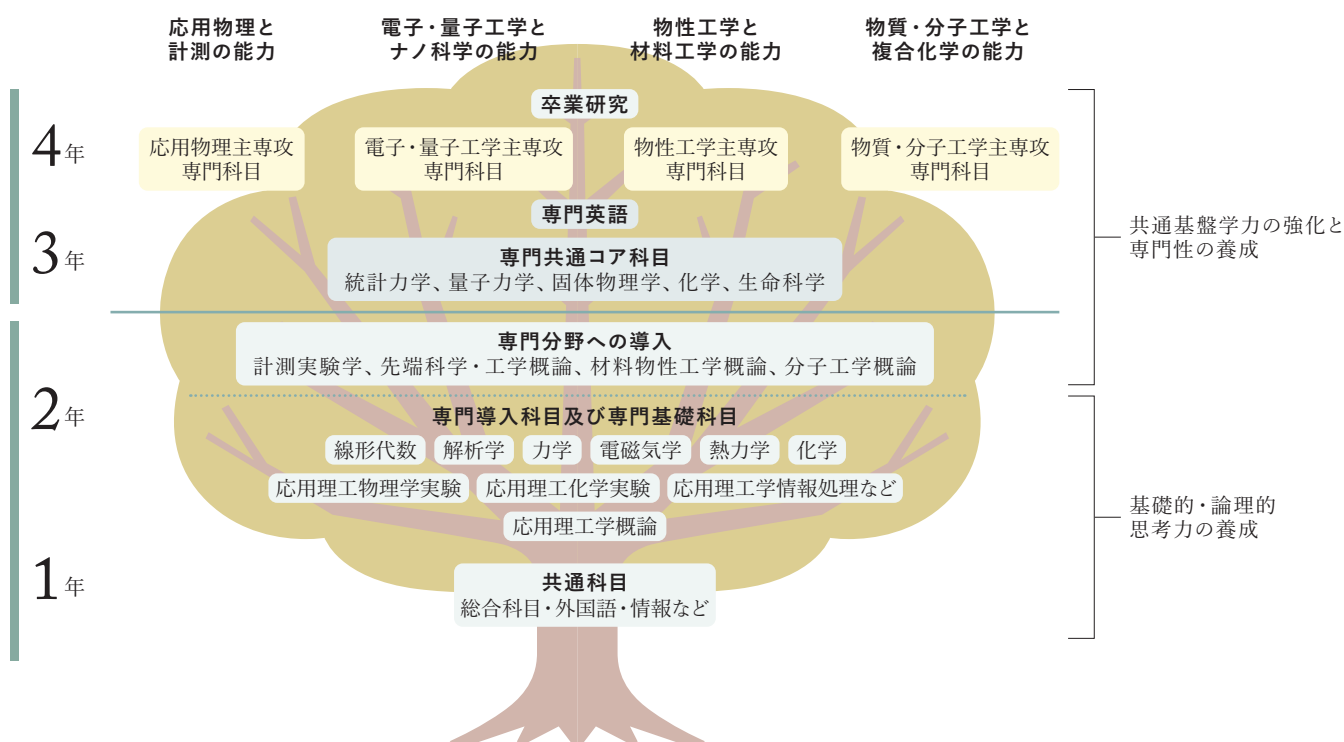
専門分野教育においては、各分野で基礎となる共通性の高い科目(物理・化学・生物)を専門共通コア科目とすることで、分野横断的に俯瞰できる広い視野を有する

学生を養成します。また、専門英語教育を3年次まで継続的に行うことで学生の語学力と国際性を高める教育をしています。

学修成果の評価に関する方針

カリキュラムに沿った科目の単位を取得し、汎用コンピテンス並びに専門コンピテンスが身に付き、学士(工学)にふさわしい見識、視野の広さ、問題解決能力を有しているか評価します。卒業研究では、課題の発見力、課題解決能力、研究実施能力などを評価し、卒業研究発表会においてプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、質問に対応する能力などを確認し、汎用・専門コンピテンスが養われているか総

育成する能力とカリキュラムの構造



学士（工学）

Bachelor of Engineering

合的に評価します。

特色

低学年からのアクティブラーニングの一環として、研究に興味ある3年次までの学生を支援する先導的研究者体験プログラム（ARE）への参加を促します。

人材養成目的

持続可能な社会に必要な幅広い教養、科学・技術の基礎から応用に至る専門性、柔軟な思考、知的創造及び問題発見・解決の能力を修得し、広い視野及び豊かな人間性を持ち、チームで仕事をするための協働能力を備え、国際社会に貢献できるグローバル人材を養成します。

数学類

物理学類

化学類

応用理工学類

工学システム学類

社会工学類

総合理工学位プログラム

工学システム学類

College of Engineering Systems

学士(工学)

■ Bachelor of Engineering

人材養成目的

安全で安心であり、快適で豊か、かつ持続可能な人間生活を工学面から支え牽引できる人材、すなわち、

1. 広い分野に応用できる基礎能力、
2. 広い視野を持った仕事の遂行能力、
3. 社会人・職業人としての人間基本力

を身につけた技術者・研究者を養成します。

求める人材

工学システム学類の入学者には以下のことを求めます：

- (1) 工学系に必要な基礎学力とセンスがあること。
- (2) 好奇心と学習意欲に溢れていること。
- (3) 技術者になるという明確な目的意識があること。
- (4) 優れた思考力、判断力、表現力とコミュニケーション能力を身につけていること。

卒業後の進路

卒業生の約15%は就職し、約85%はより高度で幅広い専門知識の修得と応用力の涵養を求めて、筑波大学大学院理工情報生命学術院システム情報工学研究群博士前期課程(以下修士課程)へ進学しています。修士課程修了後は、就職して産業界で活躍していますが、さらに高度で創造的な研究活動を求めて、引き続き博士後期課程(以下博士課程)へ進学する学生も多くいます。

学類卒業後の進路の例

トヨタ自動車、本田技研工業、日産自動車、三菱自動車、スズキ、ダイハツ工業、大成建設、川崎重工業、三菱重工業、ヤマハ発動機、IHI、JR東日本、全日本空輸、NTTソフトウェア、日本IBM、富士通、SCSK、三菱商事、丸紅等への就職のほか、本学大学院修士課程(知能機能システム/構造エネルギー工学/リスク・レジリエンス工学学位プログラム)等へ進学。また、毎年数名の早期卒業者がいます。

大学院(修士課程)修了後の進路の例

トヨタ自動車、本田技研工業、日産自動車、富士重工業、デンソー、マツダ、キャノン、富士フィルム、カシオ計算機、リコー、オムロン、シャープ、三菱電機、富士通、日本IBM、日立製作所、NEC、パナソニック、東芝、三菱重工業、川崎重工業、NTT東日本、NTTデータ、小松製作所、大和ハウス、竹中工務店、日本航空、野村総合研究所、任天堂、サントリー、キリンビール、JFEスチール、TDK、ボッシュ、IHI、日立建機、東京電力、NTT研究所、ソニー、ヤフー、楽天、サイバーエージェント等への就職のほか、本学大学院博士課程等へ進学。

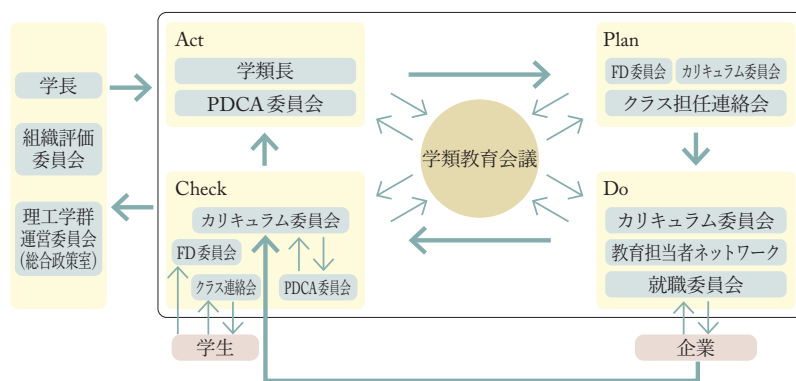
大学院(博士課程)修了後の進路の例

東北大学、筑波大学、東京大学、長岡技術科学大学、名古屋大学、京都大学、広島大学、島根大学、大阪府立大学、大阪工業大学、産業技術総合研究所、鉄道総合技術研究所、東芝、日立製作所、大日本印刷、アジレントテクノロジー、セコムIS研究所、オリエンタルモータ、構造計画研究所、日本テキサスインスツルメンツ、ソフトバンク等へ就職。

教育の質の保証と改善の方策

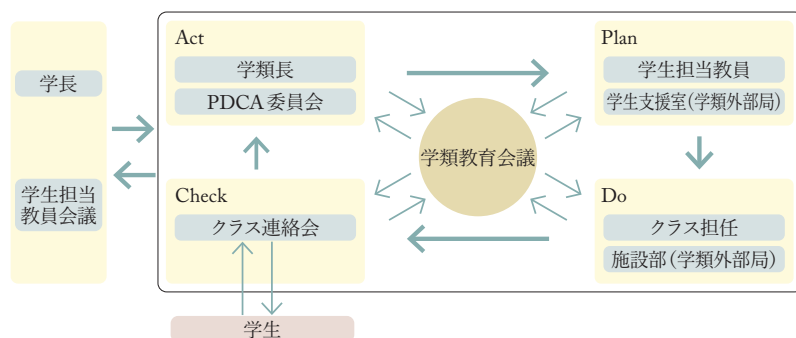
PDCAサイクル・FD活動の実践…教育目標を達成するカリキュラムを編成し(Plan)、シラバスに基づき授業を実施しています(Do)。講義終了時には授業アンケートを実施し(Check)、講義の効果の確認と内容の充実を検討します(Act)。このような教育点検システム(下図)を構築し、PDCAサイクルを循環させ、さらに授業方法向上を目指す学類ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動も加えて、絶えず教育全体の点検・改善を行っています。

教育点検システム



教育環境及び学習支援環境の改善…教育環境・学習支援環境改善システム(下図)を構築し、教育の実施及び履修生の学習支援のために、学生の意見も参考にして必要な施設、設備、体制を保有するとともに、それを維持・運用・更新するために必要な取り組みを行っています。

教育環境・学習支援環境改善システム



本学類は2004年度から2026年度まで「工学(融合複合・新領域)関連分野」における「JABEEプログラム『工学システム学類』」として日本技術者教育認定機構より認定されており、国際的水準(Washington Accord)の技術者教育修了者を輩出しています。

学士(工学)

Bachelor of Engineering

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)を習得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修の成果が以下に示す所定の水準に達したと認められる者に、学士(工学)の学位を授与します。

■ 広い分野に応用できる基礎能力については、数学・物理学・コンピュータなどに係る専門基礎科目を修め、これらの知識を応用して工学的な諸問題を分析できることを求めます。具体的には、論理的・数学的な思考力と解析力を身につけ、物理的な自然現象に対する理解を深め、コンピュータを利用し情報を取得・処理する能力を身につけることを求めます。

■ 広い視野を持った仕事の遂行能力については、各主専攻の専門科目を修め、これらの最新知識を獲得して、科学技術と社会・全世界・地球全体との関連を理解し、新たな技術を企画し、具体的なシステムを設計し運用できることなどを求めます。さらに、実験・卒業研究などで、同級生との協調・指導教員の指導などを経て、問題点に対する具体的な解決策を考案し、計画的に仕事を進められることなどを求めます。

■ 社会人・職業人としての人間基本力については、外国語・実験・卒業研究などの科目を修め、国際的にも活躍できるコミュニケーション能力と、自分の考えを筋道を立てて第三者へわかりやすく表現できるプレゼンテーション能力を身につけることを求めます。さらに、自主性と行動力を伴い、技術者としての社会性と責任感・倫理観を持つことなどを求めます。

教育課程編成・実施の方針

工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修成果が学士(工学)の到達目標に達するためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

きわめて広い工学分野をカバーしている本学類は、知的・機能工学システム主専攻とエネルギー・メカニクス主専攻の2主専攻で構成されています。各主専攻で学ぶ内容に多少の違いはありますが、他主専攻の科目の履修は容易であり、また最終学年における研究室配属において主専攻の壁は設けません。主専攻による専門性の違いをある程度は保ちながら、できる限り分野横断性を重視するカリキュラムを用意しています。

順次性に関する方針

■ 1・2年次は様々な専門分野を横断的に学ばせるカリキュラム体系により、工学システム学類のどちらの主専攻にも対応できる基礎能力を養うとともに、横断的に工学分野を捉えた「工学システム」の概念を学習します。

■ 2年次秋学期からは二つの主専攻に分かれ、様々な専門分野の特色ある科目を選択し、深い専門知識を習得します。

■ 2年次および3年次は各主専攻における基礎実験・専門実験・応用実験と関連の専門科目の履修を通して、様々なシステムの設計を行うために必要な統合・創造・解決能力を養います。また、全ての実験は数名の班を単位として実施されるため、チー

ムワーク力の涵養にも役立ちます。

■4年次は、主専攻分野に限定することなく学類内の希望する研究室の一つに配属させ、修得した基礎能力と幅広い専門知識を活かして、卒業研究を完成させます。これにより人々の生活に役立つ工学的なシステムを構築する能力をもった技術者を育成します。また、2年次までの成績が優秀な学生は、3年次に特別卒業研究を実施して早期卒業も可能です。

実施に関する方針

本学類では社会が要請する教育水準を確保するため、実務系などの複数の専門科目

において産業界からの非常勤講師を積極的に任用し、また外国人教員による専門英語科目を開設しています。更に、各学年で実施する実験・演習科目のために十分な数の実験室と装置、ならびに多数の学生が同時に利用可能な大規模なプログラミング演習室を用意しています。また毎学期、学生に対してクラス担任による個人面談を行い、学修をきめ細かく指導しています。

学修成果の評価に関する方針

成績評価はシラバスに記載された内容に従って厳密に実施し、成績評価の経緯を記録しています。

主専攻の構成

知的・機能工学システム

情報学
人工知能
リスク工学
電気電子工学
通信工学
制御工学
機械工学
システム工学
サイバニクス
ロボット工学

エネルギー・メカニクス

建築学
機械工学
土木工学
材料工学
航空宇宙工学
情報学
リスク工学
エネルギー学
電気電子工学
原子力工学

カリキュラムの構造

知的・機能工学システム主専攻

人工知能 通信 電気電子 制御・システム ロボット 機械 建築 土木 航空宇宙 リスク 材料 エネルギー

エネルギー・メカニクス主専攻

4年

卒業研究

工学者のための倫理

パターン認識 情報理論 数値解析 メカトロニクス機能要素概論 燃焼工学 鋼構造学 気体力学 防災工学 地圏気圏の環境論 電力工学
画像処理 情報通信システム論II 研究・開発原論 機械学習 信頼性工学 建築設備 地盤工学 環境リモートセンシング エネルギー機器学
知的情報処理 システムダイナミクス 応用プログラミング 計測工学 鉄筋コンクリート構造学 機器運動学 水素エネルギー工学

3年

知的・機能工学システム実験

エネルギー・メカニクス専門実験／応用実験

人工知能 通信工学 システム最適化 線形システム制御 フィードバック制御 伝熱工学 建築環境工学 設計計画論 複合材料学
情報通信システム論I ヒューマンインタフェース ロボット工学 工学システムをつくる 建築設計製図 土質力学 水環境論 パワーエレクトロニクス
デジタル信号処理 データ構造とアルゴリズム 専門英語演習 電子回路 流体工学 コンクリート工学 専門英語演習 エネルギー学入門
離散数学 プログラミング序論C,D コンピュータとネットワーク 電気回路 応用熱力学 熱工学 応用材料力学 物理化学概論
論理回路 バイオシステム基礎 メカトロニクス機構解析 機械設計 応用流体力学 電磁材料学 電磁力学 数値計算法
専門英語B 応用数学B 振動工学 構造力学 専門英語B

2年

工学システム基礎実験

数学科目

複素解析
常微分方程式
解析学総論
線形代数総論A,B
微積分1,2,3
線形代数1,2,3
数学リテラシー1,2

物理科目

材料力学基礎
流体力学基礎
熱力学基礎
力学総論
電磁気学総論
力学1,2,3
電磁気学1,2,3

プログラミング・他

プログラミング序論A,B
工学システム原論

確率統計 材料学基礎
応用数学A 専門英語A

コンテンツ工学システム
宇宙工学
つくばロボットコンテスト
コンテンツ表現工学
巨大プロジェクトエンジニア入門

情報リテラシー(講義・演習)
データサイエンス
工学システム概論
学問への誘い
英語, 体育(3年まで)
他学群・他学類の専門導入科目

共通科目・関連科目

専門基礎科目

1年

人材養成目的

持続可能な社会に必要な幅広い教養、科学・技術の基礎から応用に至る専門性、柔軟な思考、知的創造及び問題発見・解決の能力を修得し、広い視野及び豊かな人間性を持ち、チームで仕事をするための協働能力を備え、国際社会に貢献できるグローバル人材を養成します。

数学類

物理学類

化学類

応用理工学類

工学システム学類

社会工学類

総合理工学位プログラム

社会工学類

College of Policy and Planning Sciences

学士(社会工学)

■ Bachelor of Policy and Planning Sciences

人材養成目的

人間行動が複雑に絡み合う社会的諸問題を工学的・実践的・戦略的に分析するために必要な文理融合型思考能力とデータ分析・活用能力を持ち、総合的な問題解決のためのシステムを設計できる人材を養成します。

求める人材

社会・経済、企業・経営、都市・地域において生起する多種多様な社会問題を認識し対処するために必要な学際的思考力を修得し、国際社会に貢献できることを希望する人材。

卒業後の進路

卒業生の約2/3が大学院に進学し、その約6%が博士後期課程に進んでいます。大学院修了者も含め、企業・団体、公務員、教員など、国内外で広く活躍しています。

大学院進学例

■筑波大学大学院…システム情報工学研究群

■他大学大学院…東北大学、東京大学、東京工業大学、一橋大学、京都大学、大阪大学、マサチューセッツ工科大学、スタンフォード大学

就職先の例（大学院修了者を含む）

企業・団体

■金融・保険…三菱UFJ銀行、ゴールドマン・サックス証券、三井住友銀行、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン、みずほ信託銀行、りそな銀行、みずほフィナンシャルグループ、ドイツ証券

■商社・流通…三菱商事、丸紅、三井物産、双日、豊田通商、日鉄物産、日本出版販売

■調査・コンサルティング…大和総研、三菱総合研究所、野村総合研究所

■運輸・旅行…JR東日本、JR西日本、JR北海道、東急電鉄、商船三井、楽天トラベル、JTBトラベランド

■情報・通信…NTTデータ、日本IBM、ソフトバンク、KDDI、楽天、日本テクノシステム、日本情報通信

■建設・不動産…鹿島建設、大成建設、清水建設、長谷工コーポレーション、東京技術計算コンサルタント、東急不動産、三菱地所、日立ビルシステム、東急コミュニティー

■サービス…電通、博報堂、ADK、監査法人トーマツ、EY新日本監査法人、リクルート、伊藤忠テクノソリューションズ、フューチャーアーキテクト

■機械・電機…本田技研工業、日産自動車、小松製作所、NEC、三洋電機、日立製作所、日本電子計算、エス・エス・ビー、三益半導体工業

■化学・エネルギー…ライオン、ブリヂストン、新日本石油、出光興産、石油資源開発

教育・研究機関

筑波大学、一橋大学、東京工業大学

官庁・自治体

経済産業省、国土交通省、環境省、関東財務局、東京国税局、東京都、千葉県、長野県、静岡県、福島県警

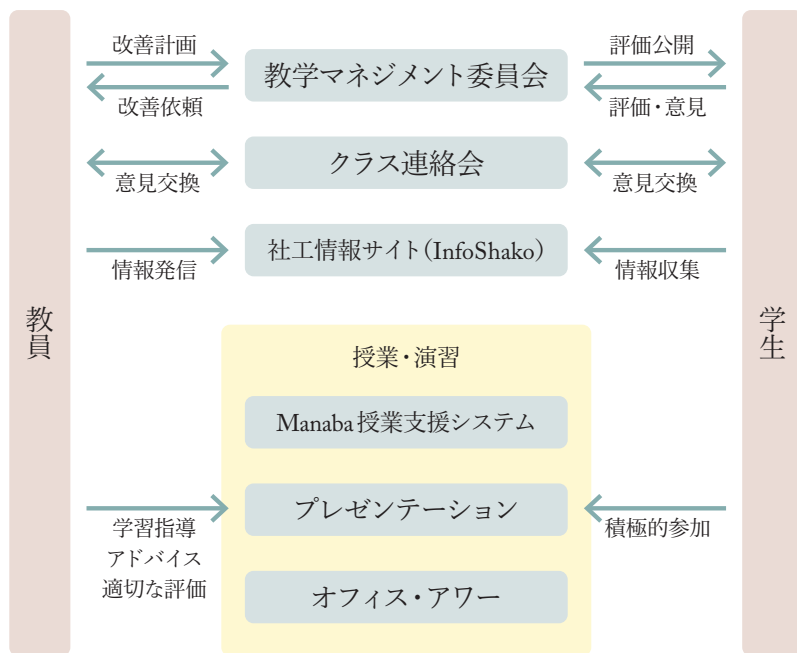
教育の質の保証と改善の方策

■各授業科目の授業概要・教育目標・授業計画をシラバスで提示するとともに、客観的な成績評価により、卒業時まで習得する専門性と学際性の水準を保証しています。

■すべての講義及び演習科目について授業評価を実施し、その結果を全教員だけでなく学生に対しても公開しています。授業評価項目ごとに評価が40点以下（100点満点）である場合には、授業改善計画の提出を該当教員に義務付けています。また、授業の内容充実と方法改善のために、学生との意見交換会を学期ごとに1回程度開催し、ファカルティ・ディベロップメントに努めています。

■複数教員が1つの科目を担当する場合は、授業内容の深度と進み具合の調整・試験問題の共通化を行い、担当教員間の評価にばらつきが生じないように工夫しています。

教育の質の保証と改善の方策



学士（社会工学）

Bachelor of Policy and Planning Sciences

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ理工学群社会工学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（社会工学）の学位を授与します。

■ 経済・企業・都市などの社会システムに関する基礎的理解と洞察力を有し、社会環境における不確実性を縮減するためにエビデンスに基づいた具体的政策を提言することができる。

（関連するコンピテンス：社会システムの基礎的理解と洞察力）

■ 複雑な社会が直面する諸問題を解決するために、数学（微積分・線形代数）・統計学（データ解析）・情報技術（プログラミング）に関する知識をツールとして用いることができる。

（関連するコンピテンス：複雑な社会問題解決のための数学・統計学・情報技術）

■ 現代社会が直面するグローバルな問題の本質を見極めることができる。

（関連するコンピテンス：グローバル課題の分析能力）

■ 経済学・経営工学・都市計画等の多面的な視点から社会的要請に柔軟に対応できる。

（関連するコンピテンス：社会的要請への対応力）

■ 経済学・経営工学・都市計画分野における専門家・技術者としての職業倫理を遵守できる。

■ 客観的で説得力のあるコミュニケーション・スキルを持つ。

（関連するコンピテンス：コミュニケーション・スキル）

■ 英語を用いた基礎的なコミュニケーション・スキルを持つ。

■ チームによる協働が必要な場合は、その一員として協調的に行動できる。

■ 主体的に課題を探索し、自主的・継続的に学習することができる。

（関連するコンピテンス：課題探索能力）

教育課程編成・実施の方針

学士（社会工学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

現代社会が直面する複雑・多様な諸問題は、もはや伝統的な学問の個別領域が単独で解決することが困難となってきました。このような現状に対処するため、社会経済システム・経営工学・都市計画の3つの主専攻分野を設け、政府・地方自治体・企業組織・地域社会が策定する政策や計画の決定過程における科学性・実証性を重視し、専門性と学際性の両面に優れた能力を身に付けられることを目標としています。このため、入学時には主専攻を決めず、2年次春学期の履修をふまえた上で、2年次秋学期に自己の専門性を高めるための主専攻を決める仕組みとしています。また主専攻に加えて副専攻の選択も可能としています。

順次性に関する方針

■ 2年次春学期までは主として当学類の専門科目を学ぶために必要な専門基礎科目を履修します。その中には3主専攻の専門科目への入門的な性格を持つものも含まれています。

■ 2年次秋学期から主専攻に所属し、専門科目を履修します。専門領域の構造を分かり易く示すために、各主専攻の専門科目をエリアという科目群に分けて、学生が学際的な専門性を身につけることを奨励して

います。さらに、成績優秀者の場合、3年次で卒業が可能なプログラムとなっています。

■ 4年次進級後、1年間を通して卒業研究を行います。工学、経済学、経営学、統計学、心理学、社会学など多彩な専門分野の研究者の中から指導教員を選び、理論的・実践的な研究を行います。

実施に関する方針

■ 各主専攻の全エリアに演習を開設し、学生が主体的に理論と実践の学習に取り組めるように工夫しています。また、プレゼンテーションやディスカッションのスキルを演習を通じて徹底的に訓練することにより、実社会で生起する諸問題を工学的・実践的・戦略的に解決するために必要なスキルを身に付けられるようにしています。

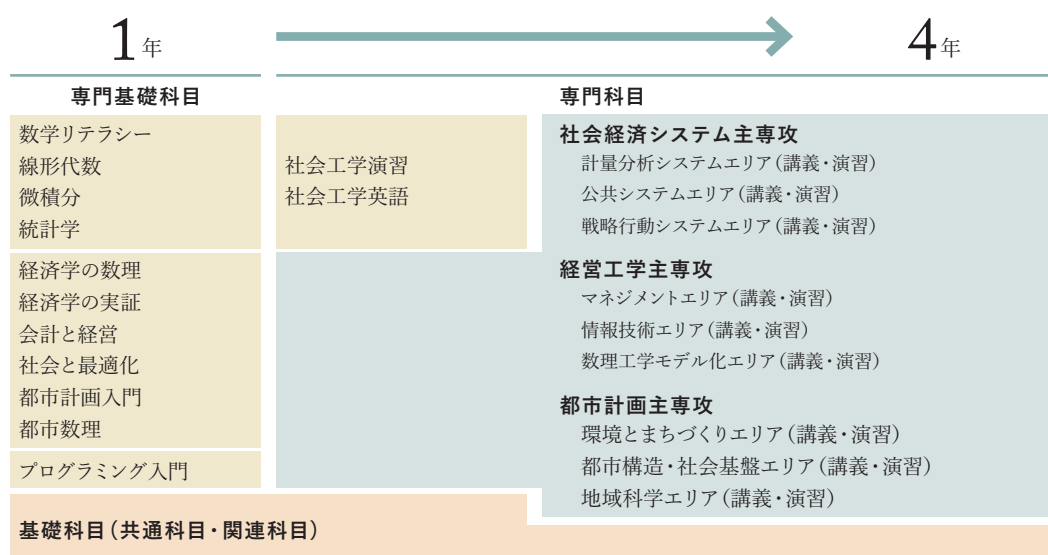
学修成果の評価に関する方針

学位授与の方針に掲げる9つのスキルについて基準を定めており、科目ごとにスキルの達成目標をシラバスにおいて示しています。スキルの修得状況の評価については、これらの科目の単位取得状況に基づき、達成度を測定しています。学位授与の可否については、卒業研究の評価と、卒業要件単位数充足の判定により、総合的に評価を行います。

特色

■ 実社会が直面する諸問題について政府・地方自治体・企業組織・地域社会と連携した問題解決型の学修機会を設けています。また、各主専攻の特性に応じたデータ分析・活用の演習を設けており、実践的なデータ活用人材を育成するための基盤が整っています。

カリキュラムの構造



人材養成目的

持続可能な社会に必要な幅広い教養、科学・技術の基礎から応用に至る専門性、柔軟な思考、知的創造及び問題発見・解決の能力を修得し、広い視野及び豊かな人間性を持ち、チームで仕事をするための協働能力を備え、国際社会に貢献できるグローバル人材を養成します。

数学類

物理学類

化学類

応用理工学類

工学システム学類

社会工学類

総合理工学位プログラム

総合理工学位 プログラム

Bachelor's Program in Interdisciplinary Engineering

学士(工学)

■ Bachelor of Engineering

人材養成目的

工学教育の基盤となる数学と物理の確固たる基礎学力を備えて、モノを扱うマイクロからマクロスケールにわたる分野横断的工学分野の課題を原理的な視点から理解・分析し、創造的解決に結びつけることのできるグローバル人材を育成します。

求める人材

総合理工学位プログラムの入学者には以下のことを求めます。

- (1) 超スマート社会における次世代のモノづくりを牽引するための志があること。
- (2) 工学分野の学修に専念するために必要な英語能力があること。
- (3) 広範な工学分野の学修を行うための数学の基礎学力があること。
- (4) 工学分野の勉学に対する適性と意欲があること。

卒業後の進路

より高度で幅広い専門知識の修得と応用力の涵養を目的に国内外大学院に進学したり、自動車、航空宇宙、ロボット、電気・電子、建設関連等のグローバル企業に就職して工学の分野横断的課題に挑む技術者として活躍します。

教育の質の保証と改善の方策

すべての科目に対して授業アンケートを実施し、定期的開催されるカリキュラム委員会やFD 委員会で教育改善に取り組みます。また、教員に授業アンケート結果や学生のコメントなどをフィードバックして、授業改善・教員の教育力向上に活用します。専門基礎科目から専門科目の殆どの授業科目で世界標準の教科書に基づいて授業を実施することで、授業内容の世界水準の維持に努めるとともに、授業間の連続性や授業内容の見直しをカリキュラム委員会で随時検討します。

学士（工学）

Bachelor of Engineering

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ理工学群総合理工学学位プログラムの学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（工学）の学位を授与します。

■ 数学と物理学の確固たる基礎学力を身につけていること。

（関連するコンピテンス：

- ・数学的な論理力と計算力
- ・物理現象の理解）

■ 分野横断的工学分野の課題を原理的な視点から理解・分析し、創造的に解決できること。

（関連するコンピテンス：

- ・化学・生物現象の理解、物理学実験・システム工学実験の分析力
- ・マイクロ工学・ナノ科学の能力
- ・マクロ工学・システム工学の能力
- ・課題探求・解決能力）

■ 多文化・多分野のチームの中で活躍できる協調性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけていること。

（関連するコンピテンス：

- ・課題探求・解決能力）

教育課程編成・実施の方針

学士（工学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

広範の異分野に渡って学際化している現代工学分野で活躍できるためには、これらの分野で共通基盤となる数学と物理の確固たる基礎学力と、最先端科学技術において分野横断的な視野をもって自発的かつ創造的に課題解決できる能力が必要です。本学位プログラムではこれらの能力を養成するためのカリキュラムを提供します。

順次性に関する方針

1、2年次では理工系のすべての分野で基礎となる数学と物理を重点化した教育を実施します。特に、コンピュータを併用した演習を十分に行うことで、論理的思考力に加えて、基礎概念を実際に使える能力にまで昇華することを目標としています。また、基礎実験・専門実験を通して実験的学習と協調性を涵養します。3年次からは、マイクロ工学とマクロ工学の共通コアを形成する重要な専門科目を学修するとともに、すべての学生が2つの研究室に配属されて研究（PBL）を能動的に行うことで、より深い専門性と創造的能力、分野横断的能力をを養います。

実施に関する方針

数学および物理の専門基礎科目および専門科目の多くで、世界標準の教科書を使用することで教育内容の世界水準を確保するとともに、コンピュータを用いた演習を行うことで情報処理能力やプログラミング能力の養成にも配慮しています。3年次と4年次のPBLでは2つの研究室に所属して、マイクロ工学とマクロ工学の両分野で研究を遂行し分野横断的能力を養成します。さらに、学生自身の専門分野の意義や、他分野との関連における専門分野の位置づけについての理解を深めるために、他学群・他学類の授業の履修を必修としています。

学修成果の評価に関する方針

授業科目では課題や中間試験および期末試験を用いて適正かつ厳正に評価することで学習達成度を検証します。実験や実習科目、PBLにおいては、実験や研究成果のプレゼンテーションや課題レポート等で能動的な学習遂行能力を評価します。

その他特筆すべき特色

日本人学生との交流や国際的協調性、日本語能力涵養のために、実験および実習科目は応用理工学類および工学システム学類の当該科目との共同開講にしています。最先端分野の研究に興味ある2年次までの学生には先導的研究者体験プログラム(ARE)の参加を促し、完了した学生には単位を認定します。国内大学院への進学のための早期卒業も可能です。

情報学群

School of Informatics

情報科学類

College of Information Science

学士(情報科学) ■ Bachelor of Information Science

学士(情報工学) ■ Bachelor of Information Engineering

情報メディア創成学類

College of Media Arts, Science and Technology

学士(情報メディア科学) ■ Bachelor of Science in Media Sciences and Engineering

知識情報・図書館学類

College of Knowledge and Library Sciences

学士(図書館情報学) ■ Bachelor of Arts in Library and Information Science

人材養成目的

知識と情報の記録、蓄積、共有、加工、利用といった諸活動にかかわる様々な情報技術やその原理となる科学を理解し、それらを使いこなす「21世紀の創造を担う人材」を養成します。また、科学的、技術的な側面だけでなく、人間の知的活動や社会的・文化的基盤についても十分な知見を身につけることを目指します。

情報科学類

College of Information Science

学士(情報科学)

■ Bachelor of Information Science

学士(情報工学)

■ Bachelor of Information Engineering

人材養成目的

現代社会の原動力である情報を収集・分析・理解・伝達・変換・活用するための工学的な技術やその原理となる数理や自然科学を理解し、それを実社会における様々な問題に適用して解決する実践力を備え、グローバルな視点に立って情報技術の発展を主体的に担うことができる人材を養成することを目的とします。

求める人材

情報技術や自然科学・工学に強い好奇心と探究心を持ち、その学習のために必要な基礎学力を有し、修得した知識を創造的に活用・発展させて新しい課題に積極的に取り組み、情報化社会の中核を担う意欲のある人材を求めます。

卒業後の進路

卒業生は卒業研究の継続や新たな分野の課題に挑むなど約7割が大学院へ進学をしています。

過去10年間の大学院への進学率の実績

2023年度 69%

2022年度 65%

2021年度 78%

2020年度 74%

2019年度 86%

2018年度 63%

2017年度 75%

2016年度 76%

2015年度 65%

2014年度 73%

大学院進学例

■筑波大学大学院…情報理工学位プログラム、リスク・レジリエンス工学学位プログラム、グローバル教育院、情報学学位プログラム、教育学学位プログラム、生物学学位プログラム

■他大学大学院…東京大学、東北大学、東京工業大学、電気通信大学、名古屋大学、慶應義塾大学

学んだ情報通信技術を即戦力に活かして企業や官公庁に就職し、活躍している卒業生もいます。

就職先の例(大学院修了者を含む)

企業・団体

■情報・通信システム…NTTコムウェア、NTTデータ、NTTドコモ、大塚商会、サイバーエージェント、ナビタイムジャパン、日本マイクロソフト、楽天、日本ユニシス、富士ソフト、等

■電機…TDK、アルパイン、オリンパス、キーエンス、ソニー、パナソニック、日本電気、日立製作所、富士ゼロックス、富士通、任天堂、等

■通信サービス・生活サービス・鉄道…クックパッド、JR東日本、セガ、ディー・エヌ・エー、ドワンゴ、ヤフー、日鉄ソリューションズ、日本郵政、良品計画、等

■自動車・機械・エネルギー…スズキ、トヨタ自動車、マツダ、東レ、本田技研工業、等

■マスコミ・出版・銀行保険など…NHK、スルガ銀行、セゾン情報システムズ、つくば都市振興財団、ノジマ、三菱UFJ投信、三菱商事、新生銀行、東京海上日動火災保険、日本総研、野村證券、野村総研、リクルート、等

官庁・自治体

陸上自衛隊、桜川市役所、栃木市役所、古河市役所、航空自衛隊、台東区役所、会計検査院、新潟県庁、茨城県庁、岐阜県庁、城里町役場、等

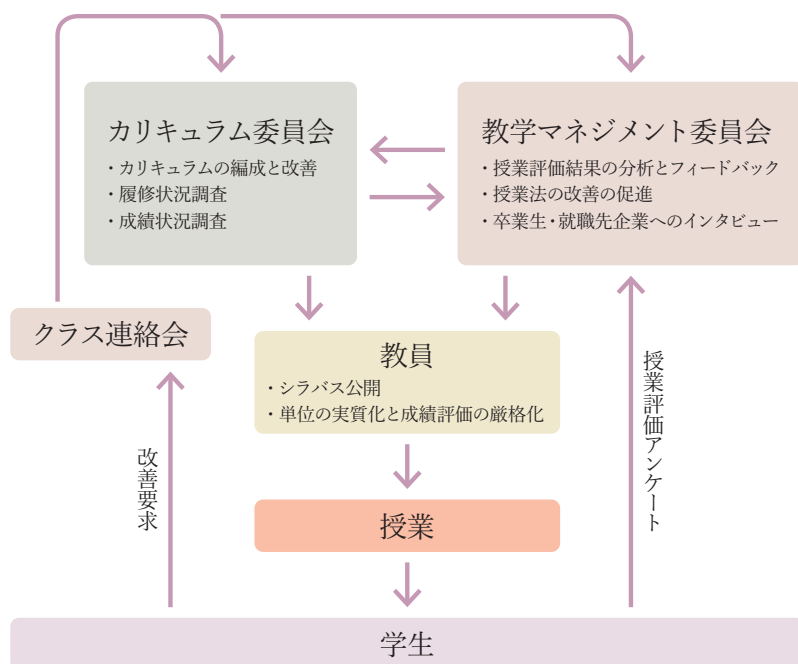
教育の質の保証と改善の方策

■授業評価とフィードバック 全ての授業に対して、教学マネジメント委員会が行う授業評価アンケートを実施します。アンケートは定型質問と自由書式からなり、授業内容・進め方に関する包括的データと学生の意見を効率的に収集すると共に、学生自身にも授業への向き合い方を考える機会を与えます。教学マネジメント委員会はアンケート結果を分析し、教員とカリキュラム委員会へのフィードバックと改善の勧告などを行います。

■外部意見の聴取・意見交換 教授法の改善のため、卒業生や就職先企業へのインタビューを適宜行い、教員にフィードバックします。また、学生と教員の直接的な意見交換の場としてクラス連絡会を定期的に行き、カリキュラム委員会及び教学マネジメント委員会が要望等に対応します。

■教員自身による向上 教員相互による授業参観や講演会を適宜実施し、特に新人・若手教員の教育スキル向上に努めます。

教育力向上への取組



学士（情報科学）

Bachelor of Information Science

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（情報科学）の学位を授与します。

■ 情報科学を支える基礎知識を身につけている

（関連するコンピテンス：情報科学の基礎）

■ 数理モデリングとプログラムの構成原理および手法を理解し、質の高いソフトウェアを作り出す高い能力を備えている

（関連するコンピテンス：ソフトウェアサイエンス分野の専門能力）

■ ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術を体系的に把握し、情報システムをデザインすることができる能力を備えている

（関連するコンピテンス：情報システム分野の専門能力）

■ 多様な知能情報処理技術ならびにメディア処理技術を体系的に理解・応用できる能力を備えている

（関連するコンピテンス：知能情報メディア分野の専門能力）

■ 情報科学に関する専門英語能力とグローバルな視野をもとに国際的に活躍できる能力を備えている

（関連するコンピテンス：専門英語コミュニケーション力）

■ 情報科学に関する未知の問題を解決する実践力、問題解決能力とイノベーション創出能力を備えている

（関連するコンピテンス：実践的技術力と問題解決能力）

■ 情報倫理、セキュリティ、知的所有権を理解している

（関連するコンピテンス：専門技術者としての情報倫理）

教育課程編成・実施の方針

学士（情報科学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

ハードウェア・ネットワークからソフトウェア・知能メディアまで、情報分野における国際標準のカリキュラムを包含し、最新の技術動向を反映した質の高いカリキュラムを提供します。情報科学・工学に関する幅広い知識とともに、プログラム言語理論や数理モデリング、ソフトウェア科学、知能インタフェースなどの情報科学分野における高度な専門性を身につけることができるようバランスのとれた教育を実施するとともに、学生が自ら選択し学ぶことを重視します。

順次性に関する方針

■ 1・2年次には、英語を含む外国語、幅広い分野から自ら選択して学習する科目、体育などを通じて、社会人として活躍するための教養を身につけます。また、数学など情報科学・工学の基礎となる科目群を修得するとともに、ハードウェア、プログラミング、アルゴリズムなど情報分野全般にわたる基盤となる事項を実習や実験を交えて学習します。

■ 3年次には、ソフトウェアサイエンス主専攻のカリキュラムのもとで、数理モデリングとソフトウェア科学などを中心とした授業により、情報科学に関する知識と高い専門性を獲得します。さらに、ソフトウェアサイ

エンス実験により、実践的技術力と問題解決能力を獲得します。また、情報システムや知能情報メディア分野を含めた広範な情報科学・工学における専門的学修により、幅広い専門知識と専門技術を獲得します。

■ 4年次においては、上記の学修に加えて、卒業研究・専門語学により情報科学における革新的技術を生み出せる創造力とチャレンジ精神を滋養するとともに、国際的な視点からの発想力とコミュニケーション能力、協調性を身につけ、実社会で通用する能力を獲得します。

実施に関する方針

情報科学・工学の専門科目のみならず、数学、英語などの基礎となる科目においても、演習やコンピュータによる実習・実験を多く取り入れ、講義で得た知識や技術への理解を深める教育を実施します。また、学生が自らテーマ設定・計画立案をして学

習する科目など、学生の自主性を引き出すための科目群を用意します。

学修成果の評価に関する方針

■ 評価方法：学生の成績および卒業要件達成状況、アンケート調査、卒業論文などの成果物、学会発表・課外活動成果等を通じて、教育プログラム全体を通じた学修成果の達成状況を評価します。

■ 評価指標（在学時）：単位修得状況、GPA、英語試験成績、進級・留年率、休学・退学率、課外活動状況等。

■ 評価指標（卒業時）：GPA、学位取得率、卒業論文・卒業研究発表、就職・大学院進学率、卒業時アンケート、課外活動成果等。

特色

「組み込み技術キャンパスOJTプログラム」では、企業で製品開発に携わる講師による実践的教育を受けることができます。

育成する能力とカリキュラムの構造

1年	2年	3年	4年
専門基礎科目 数学、専門英語基礎など、情報学の基礎を修得します。	専門基礎科目（学類共通） 情報科学・工学の基盤となる理論と技術を学び、豊かな情報学的素養と高い社会的倫理感を身につけます。	専門科目（ソフトウェアサイエンス主専攻） プログラム言語理論、数理モデリング、ソフトウェア科学、知能インタフェースなどの情報科学分野に関する専門的授業と実験により、深い専門性、実践的技術力、問題解決能力等を獲得します。	卒業研究・専門語学 創造力、問題解決能力、コミュニケーション能力等を修得します。
共通科目 外国語、体育、情報など社会人として活躍する素養を身につけます。			
関連科目 他学群・学類科目から自由に選択し、幅広い教養を獲得します。			

学士（情報工学）

Bachelor of Information Engineering

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（情報工学）の学位を授与します。

■ 情報科学を支える基礎知識を身につけている

（関連するコンピテンス：情報科学の基礎）

■ 数値モデリングとプログラムの構成原理および手法を理解し、質の高いソフトウェアを作り出す能力を備えている

（関連するコンピテンス：ソフトウェアサイエンス分野の専門能力）

■ ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術を体系的に把握し、情報システムをデザインすることができる高い能力を備えている

（関連するコンピテンス：情報システム分野の専門能力）

■ 多様な知能情報処理技術ならびにメディア処理技術を体系的に理解・応用できる高い能力を備えている

（関連するコンピテンス：知能情報メディア分野の専門能力）

■ 情報科学に関する専門英語能力とグローバルな視野をもとに国際的に活躍できる能力を備えている

（関連するコンピテンス：専門英語コミュニケーション力）

■ 情報科学に関する未知の問題を解決する実践力、問題解決能力とイノベーション創出能力を備えている

（関連するコンピテンス：実践的技術力と問題解決能力）

■ 情報倫理、セキュリティ、知的所有権を理解している

（関連するコンピテンス：専門技術者としての情報倫理）

教育課程編成・実施の方針

学士（情報工学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

ハードウェア・ネットワークからソフトウェア・知能メディアまで、情報分野における国際標準のカリキュラムを包含し、最新の技術動向を反映した質の高いカリキュラムを提供します。情報科学・工学に関する幅広い知識とともに、ハードウェア・ネットワーク・基盤ソフトウェアから知能メディア・メディア情報学などの情報工学分野における高度な専門性を身につけることができるようバランスのとれた教育を実施するとともに、学生が自ら選択し学ぶことを重視します。

順次性に関する方針

■ 1・2年次には、英語を含む外国語、幅広い分野から自ら選択して学習する科目、体育などを通じて、社会人として活躍するための教養を身につけます。また、数学など情報科学・工学の基礎となる科目群を修得するとともに、ハードウェア、プログラミング、アルゴリズムなど情報分野全般にわたる基盤となる事項を実習や実験を交えて学習します。

■ 3年次には、情報システム主専攻・知能情報メディア主専攻のカリキュラムのもとで、基盤ソフトウェア・システム構築や知能情報・メディア工学などの授業により、情報工学全般に関する知識と専門性を獲

得します。さらに、情報システム・知能情報メディア実験により、実践的技術力と問題解決能力を修得します。また、ソフトウェアサイエンス分野を含めた広範な情報科学・工学における専門的学修により、幅広い専門知識と専門技術を獲得します。

■4年次においては、上記の学修に加えて、卒業研究・専門語学により情報工学における革新的技術を生み出せる創造力とチャレンジ精神を滋養するとともに、国際的な視点からの発想力とコミュニケーション能力、協調性を身につけ、実社会で通用する能力を獲得します。

実施に関する方針

情報科学・工学の専門科目のみならず、数学、英語などの基礎となる科目においても、演習やコンピュータによる実習・実験を多く取り入れ、講義で得た知識や技術への理解を深める教育を実施します。また、学

生が自らテーマ設定・計画立案をして学習する科目など、学生の自主性を引き出すための科目群を用意します。

学修成果の評価に関する方針

■評価方法：学生の成績および卒業要件達成状況、アンケート調査、卒業論文などの成果物、学会発表・課外活動成果等を通じて、教育プログラム全体を通じた学修成果の達成状況を評価します。

■評価指標(在学時)：単位修得状況、GPA、英語試験成績、進級・留年率、休学・退学率、課外活動状況等。

■評価指標(卒業時)：GPA、学位取得率、卒業論文・卒業研究発表、就職・大学院進学率、卒業時アンケート、課外活動成果等。

特色

「組み込み技術キャンパスOJTプログラム」では、企業で製品開発に携わる講師による実践的教育を受けることができます。

育成する能力とカリキュラムの構造

1年	2年	3年	4年
専門基礎科目 数学、専門英語基礎など、情報学の基礎を修得します。	専門基礎科目(学類共通) 情報科学・工学の基盤となる理論と技術を学び、豊かな情報学的素養と高い社会的倫理感を身につけます。	専門科目(情報システム・知能情報メディア主専攻) ハードウェア・ネットワークシステム、基盤ソフトウェア・システム構築、知能情報・メディア工学を中心とした情報工学分野に関する専門的授業と実験により、深い専門性、実践的技術力、問題解決能力等を獲得します。	卒業研究・専門語学 創造力、問題解決能力、コミュニケーション能力等を修得します。
共通科目 外国語、体育、情報など社会人として活躍する素養を身につけます。		専門科目(その他) ソフトウェアサイエンス分野の学習、インターンシップを通じて、情報分野に関する幅広い知識と技術を獲得します。	
関連科目 他学群・学類科目から自由に選択し、幅広い教養を獲得します。			

人材養成目的

知識と情報の記録、蓄積、共有、加工、利用といった諸活動にかかわる様々な情報技術やその原理となる科学を理解し、それらを使いこなす「21世紀の創造を担う人材」を養成します。また、科学的、技術的な側面だけでなく、人間の知的活動や社会的・文化的基盤についても十分な知見を身につけることを目指します。

情報メディア 創成学類

College of Media Arts,
Science and Technology

学士(情報メディア科学)

■ Bachelor of Science in Media Sciences and Engineering

人材養成目的

これからのネットワーク情報社会を発展させるために不可欠な基盤的技術分野や、Web・映像・音楽などの多種多様な情報をコンテンツとして扱い流通させる分野などにおいて、革新的技術や科学的理論を創造的に生み出すことができる技術者、研究者を養成します。

求める人材

理数系の素養と文化や芸術に対する豊かな感性を兼ね備え、ネットワーク情報社会における各種の技術や学問分野に強い興味と学習意欲を持ち、創造的に社会貢献することを目指す人材を求めます。

卒業後の進路

進学率は年度によって異なりますが、平均約6割が大学院に進学しています。就職先は、ネットサービスや情報・通信関係の企業が半分程度を占めます。それ以外の様々な業種にも幅広く就職しており、公務員や学校教員になる者もいます。また、中には自ら起業する者もいます。

大学院進学例

■筑波大学大学院…理工情報生命学術院 システム情報工学研究群、人間総合科学学術院 人間総合科学研究群、グローバル教育院
■他大学大学院…東京大学、京都大学

就職先の例

企業・団体

■ネットサービス…楽天、サイバーエージェント、ナビタイムジャパン、セブテーニ、Donuts、ラクスル、カバー、メタップス

■情報・通信…アクセンチュア、任天堂、スクウェア・エニックス、NECソリューションイノベータ、コナミデジタルエンタテインメント、PwCコンサルティング、ビッグツリーテクノロジー&コンサルティング、セルシス、ヤマトシステム開発、GA technologies、コムチュア、テプコ・ソリューション・アドバンス、KSK、TBSテレビ、NRI ネットコム、ASAHI ネット、フィックスターズ、シティ・コム、ノースサンド、ACCESS、テレコムクレジット、バンフィックスシステム、シンプレクス、イーソル、ソーバル、SOFTG

■その他…パーソルクロステクノロジー、商船三井、日本放送協会(NHK)、ソニーミュージックグループ、毎日放送、ジェイエア、TBSスパークル、シグマ、ティーアンドエス、IDOM、流

■起業…TOKIUM (BearTail から社名変更)、Pixie Dust Technologies

官庁・自治体・学校等

防衛省、海上自衛隊第1術科学校、埼玉県庁

教育の質の保証と改善の方策

■授業担当者は学生の理解度に応じた授業進度を調整し、アクティブラーニングを指向した授業を推進し、オフィスアワーを十分にとることで個別対応にも努めます。また、これらの啓蒙のための教員のセミナー等を開催します。

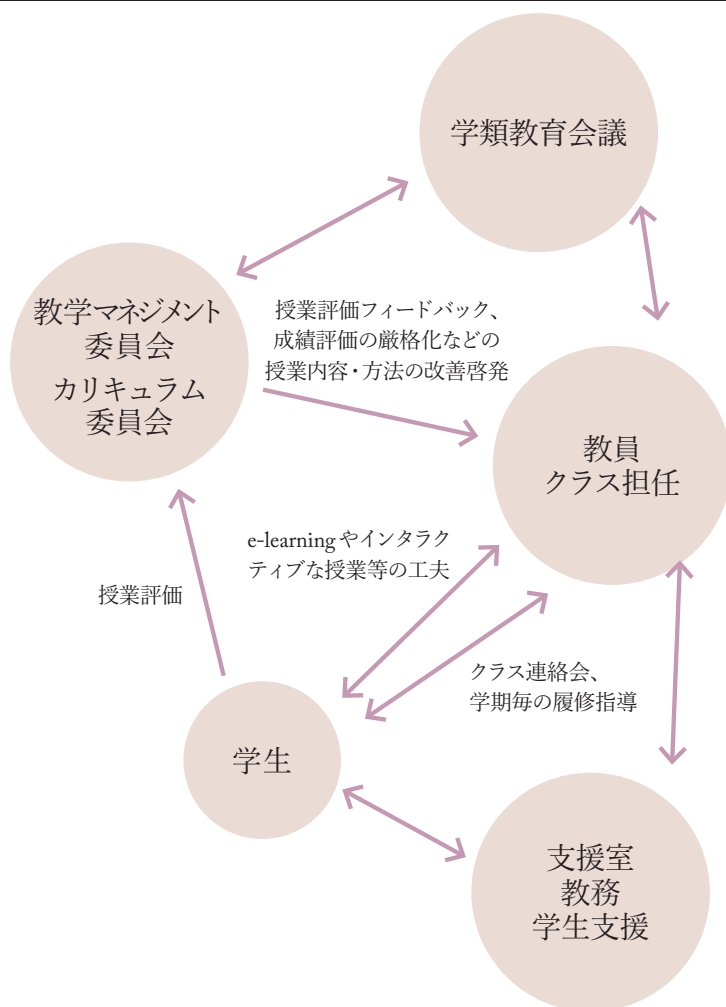
■クラス担任が授業担当者と協力して、学生に対し授業に関するきめ細かいアフターケアを行います。特に履修状況が思わしくない学生を学期ごとにチェックし、クラス担任等による履修指導を徹底します。

■学生の復習等の自主的学習を促進するため、授業資料の電子化、eラーニング化の整備を促進します。

■成績評価の厳格化に関するガイドラインを設定し、単位の実質化を図ります。

■教学マネジメント委員会が毎学期、全学アンケートを一部に含む学類独自の授業評価アンケート(自由記述を含む)を実施します。教学マネジメント委員会はその結果を分析し、授業担当者へフィードバックすることで効果的な授業改善を行います。

教育力向上への取組



学士(情報メディア科学)

Bachelor of Science in Media Sciences and Engineering

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に掲げられた知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(情報メディア科学)の学位を授与します。

■ 専門性…情報メディア科学に関する概念、原理、理論、技術を体系的に理解し、それらに関する研究開発を行うことができる。

(関連するコンピテンス: デジタルコンテンツ、ネットワークサイエンス、情報メディアとインタラクション、コンピューティングとシステム、数理的基盤、人間の認知と社会)

■ デザイン力…工学・科学における機能美や実現可能性を論理的思考に基づいて客観的に判断できる審美眼的素養を備え、それに基づいて実システムとして設計できるデザイン力を身につけている。

(関連するコンピテンス: 情報メディアとインタラクション、数理的基盤、デザインと創造性)

■ ヒューマンスキル…プロジェクトチームで協働できるコミュニケーション能力、課題発見能力、問題解決能力を身につけている。

(関連するコンピテンス: 情報メディアとインタラクション、人間の認知と社会、デザインと創造性)

■ 倫理観…知的財産保護や個人情報保護等に代表される技術と社会における倫理観を備えている。

(関連するコンピテンス: 人間の認知と社会)

教育課程編成・実施の方針

学士(情報メディア科学)に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

コンテンツの蓄積や流通を支えるネットワークメディア・テクノロジーと、コンテンツの活用・製作にかかわるコンテンツテクノロジーの2領域を中心に、これら2領域に欠かすことのできない情報科学・技術分野の教育を融合した情報メディア科学のカリキュラムを提供します。幅広い知識と高度な専門性を学生の主体的選択により身につけることができるような科目群を提供します。

順次性に関する方針

1年次では、線形代数や微分積分といった数学科目とリテラシーやプログラミングの情報技術科目を中心に、情報科学・技術分野における基礎力を身につけるとともに、コンテンツ処理に関する導入科目でアートの素養などを身につけます。

2年次では、データやアルゴリズム、ネットワークに関する科目、人・文化・社会に対する広い視野と教養を養うための人間の科学やネットワーク社会とビジネスに関する科目などにより、1年次の基礎力に幅をもたせ情報科学に関する確かな技術力と応用力、倫理観を身につけます。

3、4年次では、情報メディア科学に関する6つの分野(インターネット・通信技術、コ

コンテンツの蓄積・流通技術、インタラクショ
ン技術、コンピュータサイエンス、コンテン
ツ処理・活用技術、コンテンツ製作基盤技
術)の専門科目が幅広く提供されており、
また長期にわたって1つのテーマを追究す
る実験科目の履修とあわせて、専門性はも
とより、ヒューマンスキルや実践力なども身
につけます。そして、4年次の卒業研究に
より、情報メディア科学における専門知識、
技術力などの総仕上げを行い、革新的技
術や科学的理論を創造的に生み出すこと
ができる実践力を身につけます。

実施に関する方針

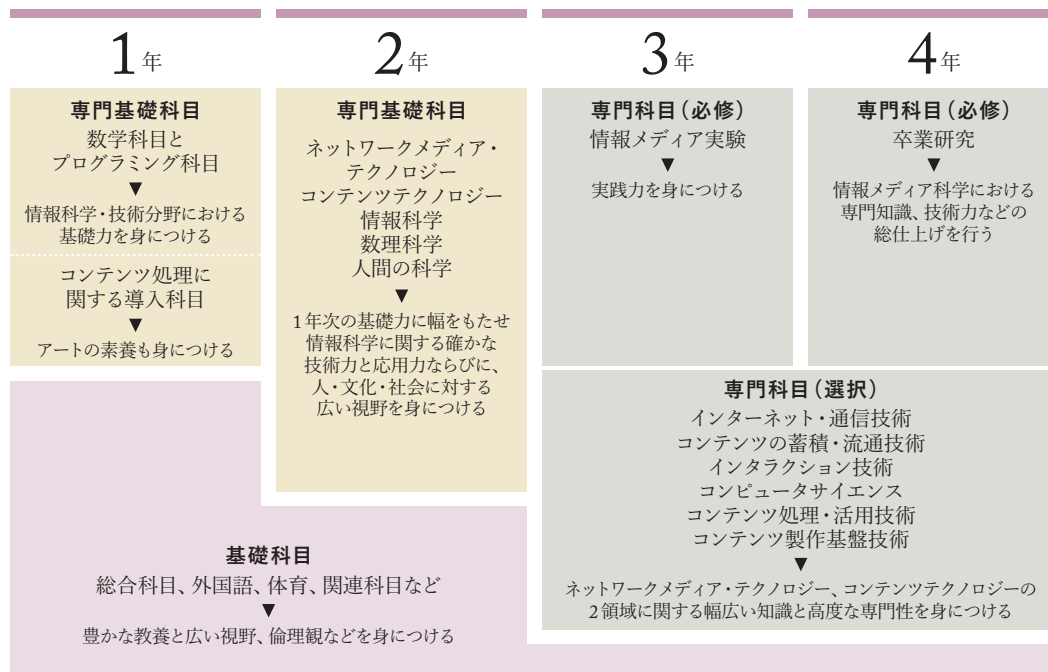
履修計画やモチベーションに応じて、共通
する基礎を修得した上で、自由に科目を選
べるカリキュラムとなっています。これによ

り、学生自身の希望や適性に適合した多
様な履修計画が可能となり、社会のニー
ズに応じた様々な進路に対応できます。ま
た、ダイナミックに変容しているネットワ
ーク情報社会の現状、未来を見据え、産業
界から招聘した講師陣による、実体験を踏
まえた指導も生かしています。それらを通
じて時代のニーズに合うカリキュラム構成
となるよう、不断に見直し、改変を進めて
いきます。

学修成果の評価に関する方針

卒業論文・卒業研究の成果、GPA、単位
修得状況や履修状況に基づく面談等から
カリキュラム全体における学習成果の達成
状況を評価します。

育成する能力とカリキュラムの構成



学士（情報メディア科学）

Bachelor of Science in Media Sciences and Engineering

また、各授業科目においては、成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学習成果を公正に評価します。

特色

「組み込み技術キャンパスOJTプログラム」を始めとして、先端IT企業（ベンチャー企業も含む）等との連携により、実社会で真に必要とされる技術の修得を目指す演習・実験科目を実施しています。

人材養成目的

知識と情報の記録、蓄積、共有、加工、利用といった諸活動にかかわる様々な情報技術やその原理となる科学を理解し、それらを使いこなす「21世紀の創造を担う人材」を養成します。また、科学的、技術的な側面だけでなく、人間の知的活動や社会的・文化的基盤についても十分な知見を身につけることを目指します。

知識情報・ 図書館学類

College of Knowledge
and Library Sciences

学士(図書館情報学)

■ Bachelor of Arts in Library and Information Science

人材養成目的

知識や情報を活用する能力を育み、関連する社会制度と技術の専門教育を行います。これらの教育を通じて、知識資源の形成、加工、流通、利用の発展に寄与する専門家と人間、社会、技術にわたる総合的視野や問題解決能力を持った職業人を育成します。

求める人材

知識スペシャリストにふさわしい豊かな発想と表現力をもった人材、知識ゼネラリストにふさわしい論理的思考力とコミュニケーション力をもった人材を求めます。

卒業後の進路

知識資源の形成、加工、流通、利用に関する仕事はあらゆる職種に存在しており、本学類の卒業生は、知識スペシャリストとしてその力をいかんなく発揮しています。また、知識基盤社会を支えるには人間、社会、技術にわたる広い視野が不可欠であり、知識ゼネラリストの出番が増えています。さらに、知識共有現象は学問対象として魅力的であり、大学院に進んで研究者を目指す人もいます。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…人間総合科学研究群 情報学学位プログラム、人文社会科学研究群、システム情報工学研究群 情報理工学位プログラム、グローバル教育院(一貫制博士課程)

■他大学大学院…東京大学大学院、広島大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、立命館大学大学院

就職先の例

企業・団体

■マスコミ・出版…日本放送協会(NHK)、テレビ東京、吉本興業、朝日新聞社、西日本新聞社、読売新聞、紀伊國屋書店、丸善雄松堂、くまざわ書店、パピレス、大日本印刷、DMM.com、TOPPAN、ブックオフコーポレーション

■情報・通信…NTTドコモ、NTTデータ、NTTコミュニケーションズ、KDDI、ヤフー、ソフトバンク、サイバーエージェント、Twitter UK、ナビタイムジャパン、ダウンロード、Amazonジャパン、日本電気、富士通、富士通ゼネラル、富士ゼロックス、富士ゼロックスアドバンストテクノロジー、日立製作所、京セラコミュニケーションシステム、大塚商会、電通国際情報サービス、インターネットイニシアティブ

■コンサル…アクセンチュア、大和総研

■商社・流通…楽天、丸紅、内田洋行、トーハン、図書館流通センター(TRC)、ファーストリテイリング、カスミ、ローソン、ニトリホールディングス、双日

■運輸・旅行…ANAウイングス、九州旅客鉄道、阪急阪神ホールディングス

■金融・保険…ゆうちょ銀行、三菱UFJ銀行、みずほフィナンシャルグループ、三井住友カード、りそな銀行、常陽銀行、八十二銀行、千葉銀行、大和証券、日本生命、損保ジャパン日本興亜保険サービス

■サービス…リクルートホールディングス、広芸インテック、東京ドームホテル、河合塾、アパホテル

■製造販売…トヨタ自動車、資生堂、YKK、東京エレクトロングループ

官庁・自治体・図書館・学校等

厚生労働省、東京国税局、国立印刷局、国土交通省、デジタル庁、宇宙航空研究開発機構、青森県、岩手県、宮城県、茨城県、群馬県、神奈川県、鳥根県、愛媛県、長崎県、北広島市、喜多市、宇都宮市、坂東市、牛久市、水戸市、つくば市、柏市、市川市、川崎市、草加市、板橋区、武蔵野市、上越市、静岡市、藤枝市、沼津市、浜松市、小松島市、福山市、岡山市、東京都立図書館、調布市立図書館、岡山市立図書館、香美市立図書館、宇治市立図書館、筑波大学、岩手大学、新潟大学、東京大学、東京学芸大学、東京工業大学、お茶の水女子大学、横浜国立大学、信州大学、福井大学、京都大学、秋田県立大学、筑波大学附属高等学校、千葉県公立高等学校

教育の質の保証と改善の方策

教育の質の保証に関する考え方と方策

本学類は、無計画に修得単位数を増やすことよりも、受講する科目で高い到達度を得ることを期待しています。クラス担任や指導教員には、定期的に学生と面談することを義務づけ、学修指導にGPAを活用しています。初年度からPROG (Progress Report On Generic Skills) テストを実施することで、学生は自身の強みや弱点を理解し、大学での人間形成の方向性を考えることができます。3年次ではTOEICを受験し、グローバル社会に備えます。

教員の教育力向上の方策

- 学生による授業評価を実施しています。
- 受講者数および成績分布の調査を公表しています。
- シラバスの内容を点検しています。

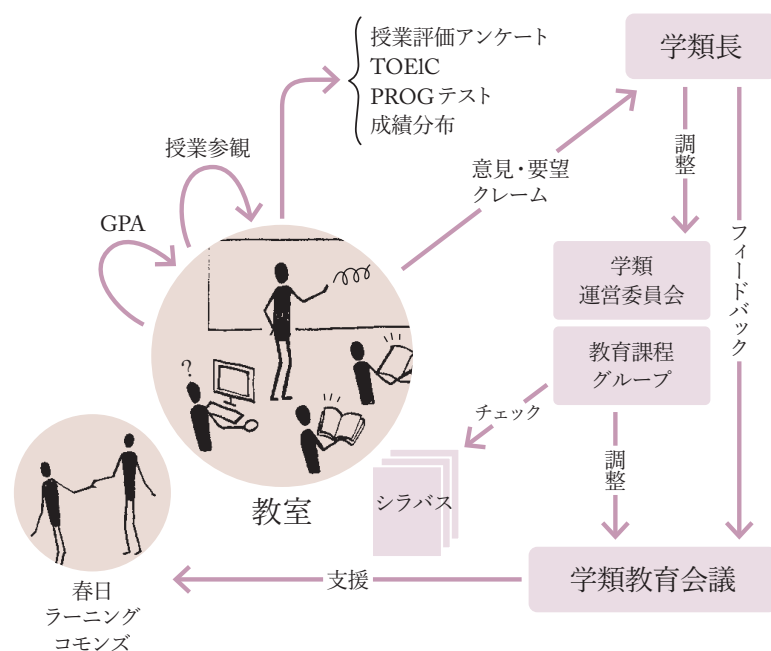
教育改善のための体制

教育課程グループでカリキュラム全般に関する企画・実施を行っています。

カリキュラム改善の方策

教育課程グループが中心となって、科目間の内容調整など、カリキュラムの内容の定期的な見直しを行っています。

学修環境の整備と教育力向上のサイクル



学士（図書館情報学）

Bachelor of Arts in Library and Information Science

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ情報学群知識情報・図書館学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（図書館情報学）の学位を授与します。

■ **文理融合型基礎の獲得**：情報学分野に関する文理にわたる幅広い基礎知識と視野を獲得していること

■ **知識共有現象の理解**：知識を生成・加工・蓄積・伝達・利用する知識共有現象を多様な学問的観点から理解していること

■ **調査研究能力**：量的調査、質的調査、統計解析などのさまざまな調査分析手法を習得し調査研究を遂行できること

■ **知識基盤構築能力**：情報技術を駆使して知識資源やデータ基盤を形成・活用する能力を有していること

■ **知識伝達能力**：さまざまな情報源から適切な情報を検索し蓄積された知識を適切に加工・表現して伝達する能力を有すること

■ **多様性の理解と倫理性の獲得**：文化や価値観の違いを理解し、倫理観と公共心を備えていること

教育課程編成・実施の方針

学士（図書館情報学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

三つの主専攻に分け、知識科学主専攻では「人間」、知識情報システム主専攻では「情報技術」、情報資源経営主専攻では「社会」をキーワードに教育を行います。どの主専攻においても幅広い視野を養い、専門領域の内容に即して、人間、情報技術、社会・文化の結合と相互の役割を理解するための科目を展開します。

順次性に関する方針

1年次では、総合科目、外国語や体育などの基礎科目に加えて、知識情報、情報システムなどについての概論や、プログラミング入門などの専門基礎科目を通して、基礎的知識や技術を学びます。2年次では、1年次に得た知識や技術をさらに深めていくため、主要なテーマごとに設定された講義と、技術を修得する知識情報演習などからなる専門基礎科目を履修します。3年次では三つの主専攻のいずれかに属して、専門科目を履修します。多様な視点を育成するため、所属する主専攻の専門科目だけでなく、他の主専攻の専門科目も履修することが要求されます。4年次では、

研究室に所属して卒業研究を行い、論文を執筆します。

実施に関する方針

科目数を厳選し、その多くを必修とすることですべての学生が一定水準以上の文理融合型の基礎を身につけるよう配慮しています。各年次に必修として演習・実習を配し、応用的・実地的な文脈で総合的に理解する仕組みを提供しています。また、図書館や企業における「インターンシップ」及び海外研修科目として「国際インターンシップ」を実施しています。

学修成果の評価に関する方針

学類が開設する個々の科目においては、到達目標とそれに対応した評価基準をシラバスに明記し、科目の到達目標の達成を保証するよう単位を授与します。

成績評価を厳格化・透明化するために、成

績分布の目標値を定めるとともに、科目ごとの成績分布を公表します。

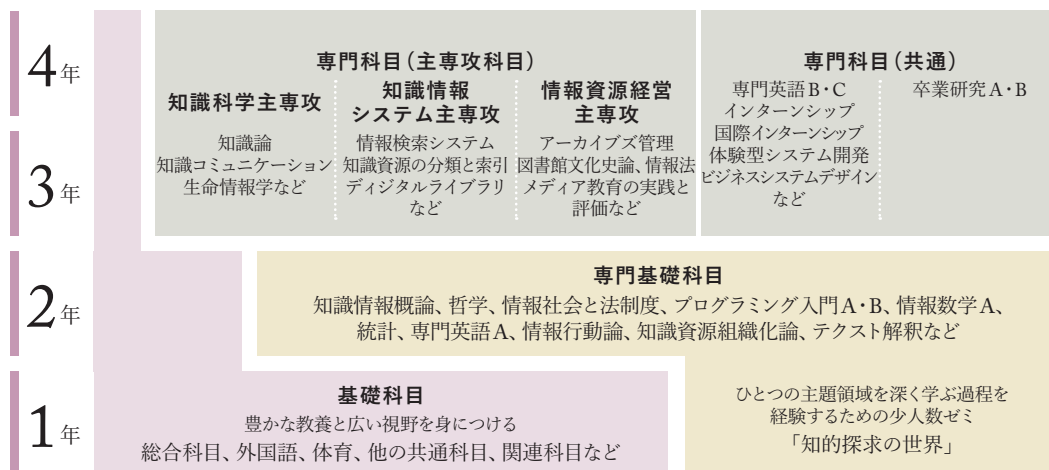
教育課程全体では、学位授与の方針に記載した知識・能力を獲得できるよう卒業要件を構成しています。

特色

先輩が色々な相談にのってくれる「春日ラーニングコモンズ」を図書館情報学図書館に設置しています。ここでは履修計画の立て方、学生生活の過ごし方、授業で出された課題のヒント、レポートの書き方、図書館の使い方などが教えてもらえます。

「組み込み技術キャンパスOJT」や「分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク(enPiT)」ではシステム・ソフトウェア開発の実践的教育も受けることができます。

カリキュラムの構成



医学群

School of Medicine and Health Sciences

医学類

College of Medicine

学士(医学) ■ Doctor of Medicine

看護学類

College of Nursing

学士(看護学) ■ Bachelor of Science in Nursing

学士(ヘルスケア) ■ Bachelor of Science in Healthcare

医療科学類

College of Medical Sciences

学士(医療科学) ■ Bachelor of Medical Sciences

学士(国際医療科学) ■ Bachelor of International Medical Sciences

医学群

School of Medicine
and Health Sciences

人材養成目的

良き医療者、すなわち優れた医療技術のみならず、しっかりしたコミュニケーション能力に裏打ちされた全人的対応のできるグローバルスタンダードに則った医療人、さらには医学、看護学、医療科学の分野における世界レベルの研究者を養成します。

医学類

College of Medicine

学士(医学)

■ Doctor of Medicine

人材養成目的

将来優れた臨床医、医学研究者、医学教育者あるいは保健・医療・福祉の専門家として、それぞれの分野でグローバルな活躍をもって地球規模課題の解決に挑み、社会に奉仕し貢献するために、基本的な臨床能力と医学研究能力を備え、高い問題解決能力と良好なコミュニケーション力をもって、患者の立場に配慮した医療および医学研究を生涯にわたり推進する人間性豊かな医師を養成します。

求める人材

自然科学、語学等の十分な基礎学力と豊かな創造性、探求心を有し、高い倫理観、協調性、コミュニケーション能力を持って、生涯にわたり人類の健康と福祉に貢献する強い意志を持つ人材を求めています。

医学類

看護学類

医療科学類

卒業後の進路

医師にとって生涯教育は必須のことであり、様々なキャリアパスがあります。卒業直後の2年間臨床研修とその後に続く専門研修に進み、ほとんどの卒業生が医師として活躍しています。途中大学院に進み学位を取得する者や、そのまま基礎研究分野へ進む者の他、一部は保健所や厚生労働省などの行政に進む卒業生もいます。茨城県内への就業は約半数になっています。卒業生フォローアップ調査では、専門分野は臨床医学90%、基礎医学4%、社会医学5%、卒業後10年以上の卒業生の学位取得率は65%、認定医・専門医取得率は90%でした。

臨床研修(初期研修)

筑波大学附属病院…19%
一般研修病院…67%
他大学付属病院…13%

—
大学院…2%

専門研修(後期研修)

筑波大学附属病院
一般病院
他大学付属病院



筑波大学大学院
他大学大学院

病院

診療所

大学教員・研究者(大学院生含む)

行政(厚生労働省、県等)

保健所・福祉関係

その他

※四捨五入により合計が100%にならない場合があります。

教育の質の保証と改善の方策

■教育の質の向上のために、医学教育企画評価室を設置し、医学類教育推進委員会と連携しながら、教育の調整役としての役割を担っています。カリキュラム策定への提案、各プログラムの実施支援、授業評価からフィードバックの一連のプロセスを通して改善を図ることに加え、社会のニーズに対応するための新たなプログラムの企画を行っています。

■教授法の向上のため、教員ファカルティ・ディベロップメント(FD)を実施しています。全教員必修の初任者研修、更新研修に加えて、担当教員を対象にPBLテュートリアルシナリオ作成およびブラッシュアップなどのテーマで、例年のべ200名ほどの教員が参加しています。

■学生からのプログラム評価及び教員からの評価を全てのコース終了時および学年末などに実施し、カリキュラム作成にむけたフィードバックを行い、着実な改善につなげています。

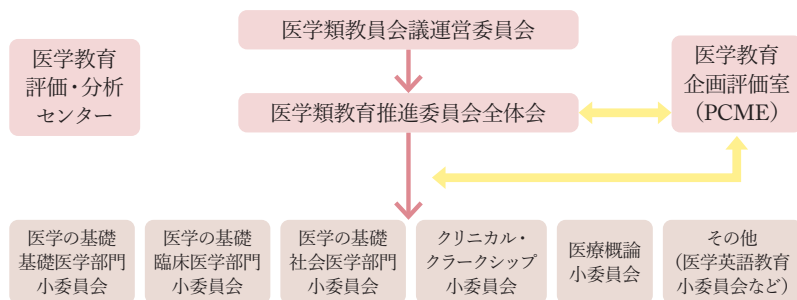
■独立した評価部門として、医学教育評価・分析センターを設置し、教育成果の分析を行っています。

■全国医学部共通で医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する共用試験の他に、医学類各部門の責任教員で組織される医学類運営委員会において単位認定、進級・卒業判定を行い、社会に向けて卒業生の水準を保証しています。

国際基準に基づく医学教育分野別認証

筑波大学医学群医学類は、2023年11月7日～10日に自己点検評価報告書を基に医学教育評価機構(JACME)による実地審査を受け、適合の認定を受けました(認定期間2024年10月1日～2031年9月30日)。(医学類HPに実地審査における自己点検評価書を掲載しています)

教育の質の保証と教育力向上への取組



*医学類教員会議運営委員会…カリキュラム、成績に関する承認を行う

*医学類教育推進委員会…カリキュラムの問題点、改善を検討する

*医学教育企画評価室(PCME…Planning and coordination for medical education)…各学年のカリキュラム開発への助言、実施支援、授業評価、カリキュラム評価(学生・教員・卒業生・外部組織からの評価)、評価結果のフィードバックと改善への提案、FDの企画実施

*医学教育評価・分析センター…医学類直轄の機関として、教育成果の情報収集・分析を行う

学士(医学)

Doctor of Medicine

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、かつ医学類卒業時コンピテンシーを修得したと認められる者に、学士(医学)の学位を授与します。

プロフェッショナリズム

豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識と倫理観を有し、人の命と健康を守る医師になる者としての自覚と責任感をもって医療を実践できる。常に向上心を持ち、省察を行い、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。

科学的思考

事象について、好奇心・探究心を持って科学的な視点でとらえたとともに、未知の問題を解決するための科学的な方法を理解できる。

コミュニケーション

多職種を含むチームで連携し患者中心の医療を提供するために、患者やその家族、およびチームメンバーとの間で適切にコミュニケーションをとることができる。

診療の実践

医療の基盤となっている基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を有し、それを応用して、患者の問題を全人的に理解し、それを解決するための適切な診療を実践できる。

医療の社会性

人間個体はもちろん、地域・社会あるいは人類全体のグローバルな問題を広くとらえ、保健・医療・福祉の関連法規、制度、システム、資源を理解した上で、社会基盤に基づく地域・社会の健康を支える活動を実践できる。

未来開拓力

自身の未来を切り拓き、広く社会に貢献するために、グローバルな視野を持ち、困難な状況においてもたくましくしなやかに、積極果敢に挑戦する姿勢を示す。また、「教育の筑波」としての伝統を継承し、情熱をもって教育を実践し、周囲と協働してリーダーシップを発揮できる。

教育課程編成・実施の方針

学士(医学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

全国の医学部に先駆けて、開学当初より基礎医学・臨床医学・社会医学を統合した6年間一貫教育を取り入れており、自己学習能力・問題解決能力の涵養を重要視していること、体験型プログラムが充実していることが特徴です。

順次性に関する方針

1～3年次…医学の基礎コース

8～9人の少人数グループに分かれ、チューター教員のファシリテートを受けつつ、事例を用いた討論や自習により自ら問題解決を行う学習方式「PBLテュートリアル」が中心です。基礎・臨床・社会医学の分野が統合された28コースから構成されます。

4～6年次…診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)

従来の見学を中心とする臨床実習とは異なり、医療チームの一員のStudent doctorとして参加型の臨床実習を行います。前半の1年間は大学病院を中心とした内科、外科などの必修診療科での実習を行い、後半では選択実習の他に、茨城県内の地域の医療機関における実習も行います。実習の前には、医療系大学間共用試験実施評価機構が行う、CBT(コンピューターを用いた知識の評価)とOSCE(基本的診療技能・態度の実技に関する客観的評価)

に合格しなければなりません。

■ 1～6年次…医療概論

医療倫理、チーム医療、地域医療(プライマリ・ケア)、ヘルスプロモーション、医師患者関係など、上記の臓器系統別のプログラムでは修得が難しい領域を体系的に学びます。

■ 6年次…アドヴァンスト・エレクトィブズ

各自の希望により、大学内外・国内外の医療機関、研究室、行政などで実習を行います。

■ 1～6年次…研究室演習・実習

自分が興味を持った分野の研究室で教員のアドバイスを受けながら、最先端の医学研究を行います。5年次後半には、将来の医学研究につながる「新医学主専攻」を選択することができます。また、6年次には新

医学主専攻の学生のうち、卒業後直ちに大学院博士課程へ進学する者を対象とした「国際的医学研究人養成コース」も用意されています。

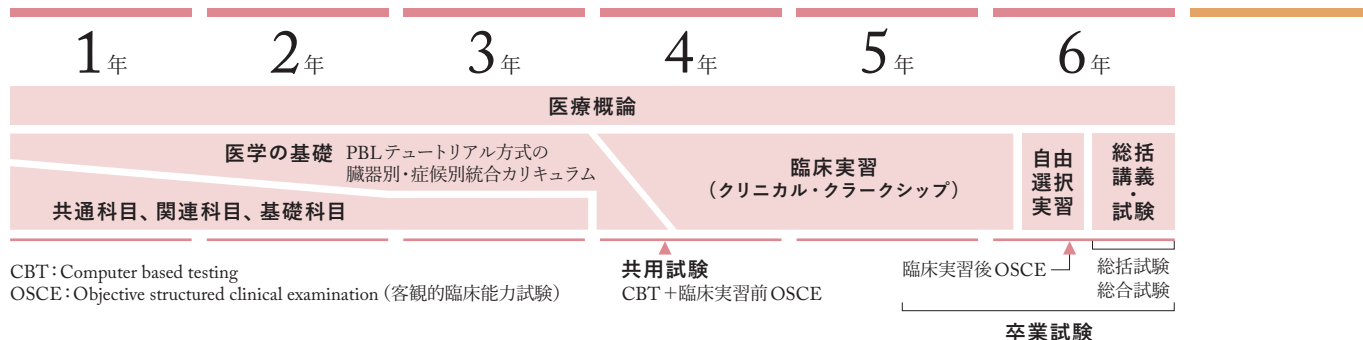
実施に関する方針

自ら学ぶ態度と習慣をつけ、未知の問題を解決する能力を身につけさせるために、低学年では、少人数制によるチュートリアル方式を全面的に採用しています。この学習を支援するために、リソースパーソン(教員)を配置、e-learning環境など学習サポート体制を整備し、教授法の向上を目指した教員研修会を定期的実施しています。

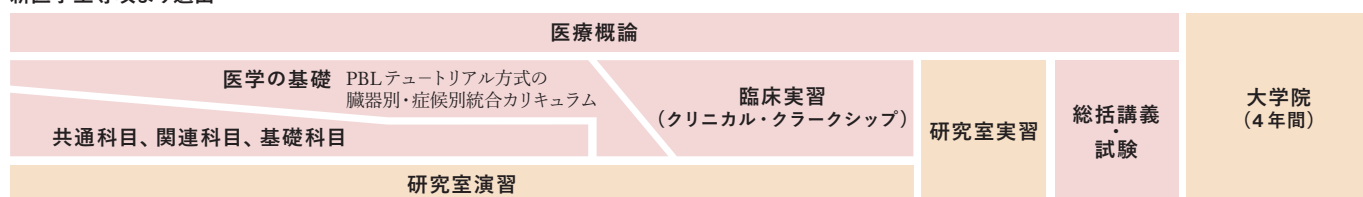
臨床実習は、大学附属病院各診療科を中心に行う他に、大学教員が茨城県内の地域医療の現場で直接指導を行う地域医療教育センター・ステーション制度も活用

カリキュラム

(医学主専攻)



新医学主専攻より選出



*国際的医学研究人養成コース支援奨学金

・6年次(通算1年間) 50,000円/月

・人間総合科学研究群(医学の課程)在学中(通算4年間) 80,000円/月

医師国家試験

学士（医学）

Doctor of Medicine

して行います。

学修成果の評価に関する方針

各科目では、到達目標に達しているかをシラバスに記載されている方法を用いて公正に成績評価を行います。4年次には全国共用試験であるCBT、臨床実習前OSCEを受験し、合格した者がStudent Doctorの認証を受け病院実習に進むことができます。6年次には臨床実習後のOSCEが行われ、卒業に必要な要件となっています。進級・卒業判定は各学年の客観的判定基準に基づき、医学類教育会議運営委員会が厳格に行います。

その他特筆すべき特色

英語教育改革や国際バカロレア特別入試を実施するなど、広く世界から国際感覚豊かな学生を募り、世界で活躍できる医師を養成しています。

人材養成目的

良き医療者、すなわち優れた医療技術のみならず、しっかりしたコミュニケーション能力に裏打ちされた全人的対応のできるグローバルスタンダードに則った医療人、さらには医学、看護学、医療科学の分野における世界レベルの研究者を養成します。

看護学類

College of Nursing

学士(看護学)

■ Bachelor of Science in Nursing

学士(ヘルスケア)

■ Bachelor of Science in Healthcare

人材養成目的

広い教養と深い人間理解を基盤に、人々のニーズに合った質の高い看護を提供し、保健・医療・福祉チームの一員として協働できる優れた看護職を育成するとともに、保健医療分野における行政官、国際的な視野に立った看護職、学際的な研究や後進を育てる教育者など、広く社会に貢献する人材を養成することを目的とします。

求める人材

■ 科学的な知識や語学力などの十分な基礎学力を有し、看護学に関する深い興味と関心が有り、保健医療福祉を支えるための看護について探求し、新しい看護学を開拓できる能力と意欲を有する人材を求めています。

■ 科学的な知識や語学力などの十分な基礎学力を有し、ヘルスケアに関する深い興味と関心が有り、国際的にヘルスケアサービスについて探求し開発できる能力と意欲を有する人材を求めています。

卒業後の進路

卒業生の約59%が看護師等として病院等の医療施設へ就職、約19%が保健師や養護教諭として行政・教育機関・企業へ就職、約20%が大学院等に進学しています。尚、約2%の学生が卒業時の段階で進学準備中、又は、就職活動中でした。病院で働きながら大学院で学んでいる方もいます。看護師・保健師国家試験合格率は100%です(令和5年度)。

職業人養成(看護師、保健師)

看護学類(学士課程)

4年

研究者・教育者、高度専門職業人養成

大学院進学例1

▼
看護実践経験
3～5年

▼
看護科学学位
プログラム
(博士前期課程)
2年

大学院進学例2

▼
看護科学学位
プログラム
(博士前期課程)
2年

▼
看護実践経験
3～5年

教育者・研究者養成

看護科学学位プログラム
(博士後期課程)

3年

就職先の例

筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター病院、虎の門病院、国立がん研究センター病院、聖路加国際病院、行政保健師、産業保健師、養護教諭

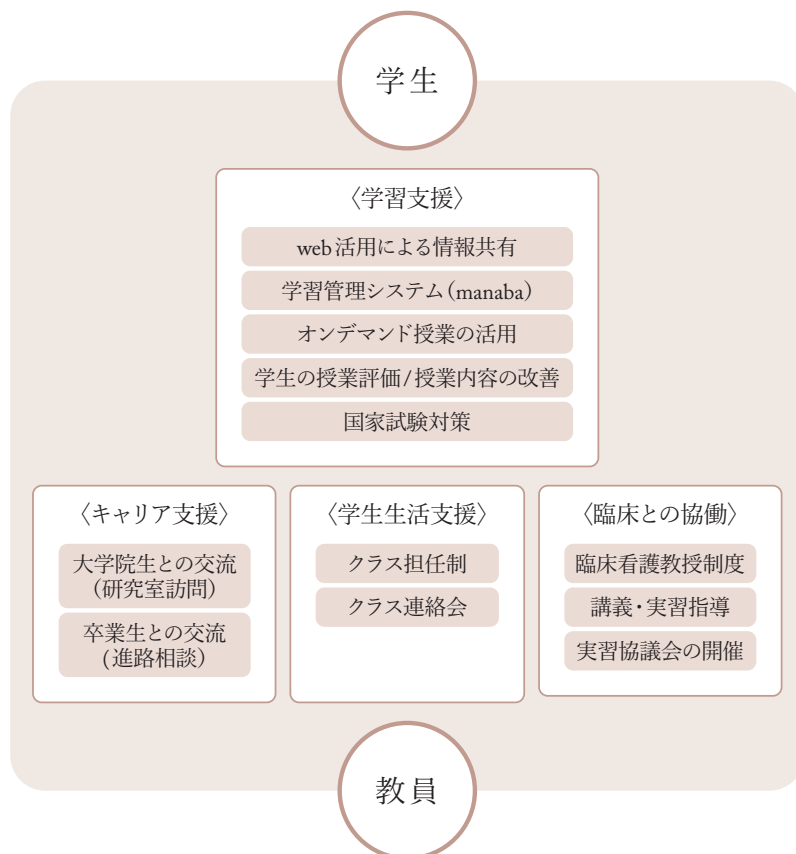
*大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群看護科学学位プログラムでは、筑波大学附属病院との教育・実践連携を行っており、働きながら看護科学学位プログラム博士前期課程を修了可能なコースを設けています。

教育の質の保証と改善の方策

学生主体の授業評価を実施し、学生からの意見を、クラス連絡会(クラス担任制を行っているため可能となる)を通じて教員にフィードバックし、教育の改善に役立てています。

また、教育の質を保証するために「医学教育企画評価室」を設置し、専門の職員を配置してカリキュラムのプランニング、各種教育プログラム実施支援、評価などの支援を行っています。具体的には、社会のニーズに対応するための新たなプログラムの企画(チーム医療に関する医学群3学類合同コースなど)、評価結果に基づく現行のプログラムの改善、チューター養成、教員研修会、卒業生のフォローアップ調査などを実施しています。

看護学類における教育の質の保証



学士（看護学）

Bachelor of Science in Nursing

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（看護学）の学位を授与します。

■ 教養教育（リベラルアーツ）の学習に裏付けられた専門科目を修得している。

（関連するコンピテンス：看護における対象理解、看護の専門知識・技術）

■ 科学的根拠に基づいた知識・技術、および高度看護専門職にふさわしい倫理観と態度を身につけている。

（関連するコンピテンス：科学的根拠に基づく看護の実践力、看護倫理とケアリング）

■ 自ら新たな知識・技術を学ぶ態度と習慣を身につけ、未知の問題を解決する能力を獲得している。

（関連するコンピテンス：科学的根拠に基づく看護の実践力）

■ 生涯にわたって自己学習を継続する能力を備えている。

（関連するコンピテンス：看護職としてのキャリア形成力）

■ 国際的な動向の理解、多様な視点から看護の役割を探究する能力を身につけている。

（関連するコンピテンス：医療における連携・協働、国際的な看護の視点）

教育課程編成・実施の方針

学士（看護学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

総合大学の特性を生かして、他学類の学生と総合科目・専門導入科目などを通じて学習交流できる場を提供しています。理論と実践が乖離しないように、学内の演習では、現職の臨床看護スタッフを招き、現状での最先端技術に対応できるような、現実即した実践能力の向上を目指した教育を行なっています。また、実習においては附属病院、県内の施設との連携を深め、最新の医療・ケアの体験を通して学ぶ機会をつくっています。

順次性に関する方針

1年次・2年次では、看護の専門的な役割理解を中心に、看護の基盤となる基本的な看護技術を学習し、専門分野の学修に結びつくようなカリキュラム構成としています。また、看護の専門基礎科目を充実させ、広い視野に立って看護学の専門性が理解できるような工夫も行っています。3年次から4年次にかけては、臨床看護学、精神看護学、高齢者看護学、ウィメンズヘルス看護学、小児・発達支援学を学習することで、各分野のエビデンスに基づいた高度な専門技術を学修します。学修支援として、客観的臨床実技試験（OSCE）などを実施し、技術習得の向上を図っています。また、地域看護、在宅看護の学びによって、保健

医療福祉行政などの知識を修得します。さらには、グローバルな人材育成を目指すため、国際保健学、国際看護学、国際看護研修などの学びを通して、国際的な視野に立った看護実践を学ぶ機会を提供しています。4年次は看護の専門領域について、これまでの学習を活用し、さまざまな指導教員の下看護実践について探求する科目を行っています。

実施に関する方針

自ら学ぶ態度と習慣をつけ、未知の問題を解決する能力を養うために、少人数制によるチュートリアル方式を採用した演習・実習を行っています。これらの学習を支援するために、いつでもどこでもコンピューター

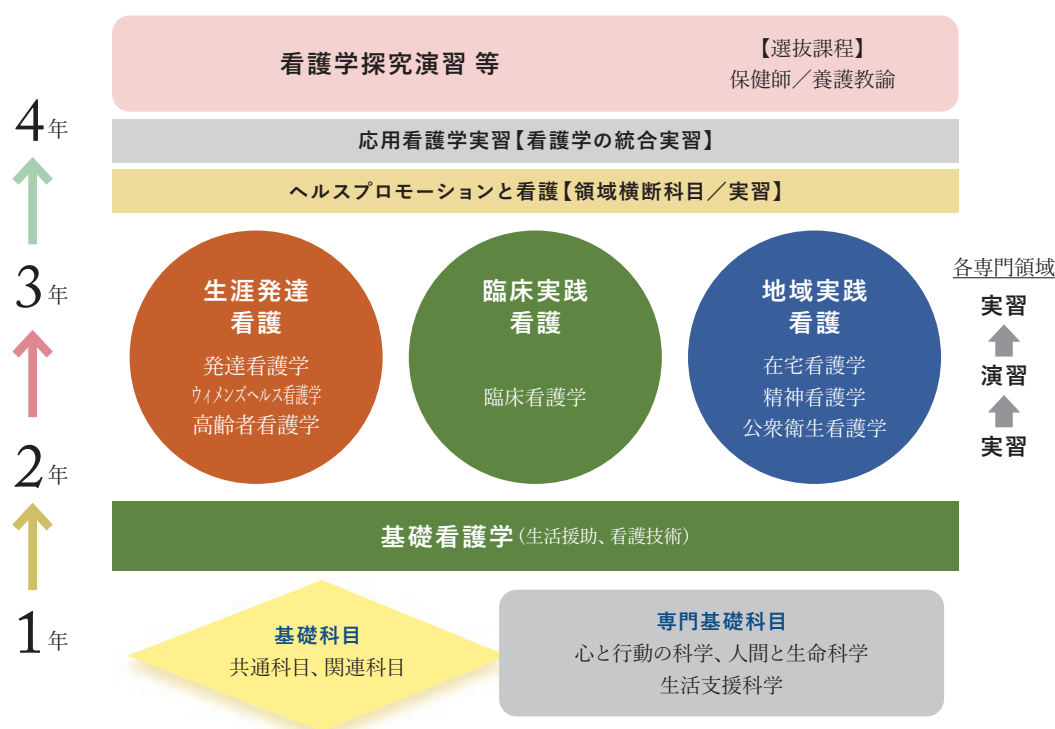
ネットワークを通じて、効果的な学習支援が可能なe-learningをとりいれ、それらの学習成果を自己点検できるように、インターネットを通じて試験が可能なIBTなどの導入を図り、情報環境の活用による学習のサポート体制を整備しています。また、教員の教育力のアップを図る目的で、ファカルティ・ディベロップメント(教授法の向上を目指した教員研修会)を積極的に実施しています。

学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、担当教員が厳正な教育評価を実施しています。

科学的根拠に基づいた知識や技術は、専門基礎、専門科目の講義での学習成果に

カリキュラムの構造



学士（看護学）

Bachelor of Science in Nursing

ついて、試験やレポート等によってその到達度を客観的に評価します。

高度看護専門職にふさわしい倫理観と態度は、専門基礎、専門科目の講義、演習も試験やレポート等により客観的な評価を行い、また実習のなかでは複数人の担当教員により到達度を評価します。

学習に対する主体性や未知の問題の解決能力、生涯にわたる自己学習を継続する能力は、専門科目である看護学の発展領域の科目の学習成果ならびに看護学探究演習で評価します。

国際的な動向の理解、多様な視点から看護の役割を探究する能力は、国際保健学、国際看護学等の試験やレポート等により客観的に評価します。

特色

看護の専門性に合わせてコース選択を行うことができます。つまり看護師免許の受験資格は基本的資格要件として全員が資格取得可能なカリキュラムとし、その他、保健師コース、養護教諭コースを選抜制で設けています。また、助産師免許を取得したいと思い、本学大学院看護科学学位プログラムに進学する学生や、教育・研究職を視野に入れ、大学卒業と同時に看護科学学位プログラム（博士前期課程）に進学する学生や、卒業後臨床の場で経験を積んでから大学院に進学する卒業生もいます。看護学類の卒業生のキャリアアップを支援できるようにしています。

学士（ヘルスケア）

Bachelor of Science in Healthcare

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ医学群学位プログラムの学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（ヘルスケア）の学位を授与します。

■ 教養教育（リベラルアーツ）の学習に裏付けられた専門科目を修得している。

（関連するコンピテンス：ヘルスケアのニーズに対する理解、ヘルスケアの専門知識・技術）

■ 科学的根拠に基づいた知識・技術、およびヘルスケアサービスの専門職にふさわしい倫理観と態度を身につけている。

（関連するコンピテンス：学際的視点に基づいたヘルスケア、ヘルスケアと倫理）

■ 自ら新たな知識・技術を学ぶ態度と習慣を身につけ、未知の問題を解決する能力を獲得している。

（関連するコンピテンス：学際的視点に基づいたヘルスケア）

■ 生涯にわたって自己学習を継続する能力を備えている。

（関連するコンピテンス：ヘルスケアの場に対するキャリア形成力）

■ 国際的な動向の理解、多様な視点からヘルスケアサービスの専門職としての役割を探究する能力を身につけている。

（関連するコンピテンス：ヘルスケアにおける連携力、国際的なヘルスケアの視点）

教育課程編成・実施の方針

学士（ヘルスケア）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

総合大学の特性を生かして、他学類の学生と総合科目・専門導入科目などを通じて学習交流できる場を提供しています。理論と実践が乖離しないように、学内の演習では、現職のスタッフを招き、現状での最先端技術に対応できるような、現実に即した実践能力の向上を目指した教育を行っています。また、実習においては高齢者施設、附属病院等との連携を深め、最新のヘルスケアサービスに関する体験を通して学ぶ機会をつくっています。

順次性に関する方針

1年次は主に日本語を学修します。2年次から看護学類生と共に、ヘルスケアの基盤となる生活援助科学に関する科目を学習の起点とし、専門分野の学修に結びつくようなカリキュラム構成としています。また、看護の専門基礎科目の他に、広い視野に立ってヘルスケアサービスが理解できるような工夫も行っています。3年次から4年次にかけては、国際ヘルスケア概論、ヘルスケア実習等の学びによって、各分野のエビデンスに基づいた高度専門技術を学修します。また、地域看護、在宅看護の学びによって、日本ならびに国際的な保健医療福祉行政などの知識を修得します。さらには、グローバルな人材育成を目指すため、

学士（ヘルスケア）

Bachelor of Science in Healthcare

国際保健学、国際看護学などの学びを通して、国際的な視野に立ったヘルスケアサービスについて学ぶ機会を提供しています。また、これまでの学習を活用し、ヘルスケアサービスについて探求する科目を行っています。

実施に関する方針

自ら学ぶ態度と習慣をつけ、未知の問題を解決する能力を養うために、少人数制によるテュートリアル方式を採用した演習・実習を行っています。これらの学習を支援するために、いつでもどこでもコンピューターネットワークを通じて、効果的な学習支援が可能なe-learningの充実を実施し、それらの学習成果を自己点検できるように、インターネットを通じて試験が可能なIBTなどの導入を図り、情報環境の活用による学習のサポート体制を整備しています。また、教員の教育力のアップを図る目的で、ファカルティ・ディベロップメント(教授法の向上を目指した教員研修会)を積極的に実施しています。

また、ヘルスケアコースでは、日本人看護

学生によるチューター制度を設けています。

学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、担当教員が厳正な教育評価を実施しています。

■ 科学的根拠に基づいた知識や技術は、専門基礎、専門科目の講義での学習成果について、試験やレポート等によってその到達度を客観的に評価します。

■ 高度看護専門職にふさわしい倫理観と態度は、専門基礎、専門科目の講義、演習も試験やレポート等により客観的な評価を行い、また実習のなかでは複数人の担当教員により到達度を評価します。

■ 学習に対する主体性や未知の問題の解決能力、生涯にわたる自己学習を継続する能力は、専門科目である看護学の発展領域の科目の学習成果ならびに看護学の探究演習で評価します。

■ 国際的な動向の理解、多様な視点から看護の役割を探求する能力は、国際保健学、国際看護学等の試験やレポート等により客観的に評価します。

医学群

School of Medicine
and Health Sciences

人材養成目的

良き医療者、すなわち優れた医療技術のみならず、しっかりしたコミュニケーション能力に裏打ちされた全人的対応のできるグローバルスタンダードに則った医療人、さらには医学、看護学、医療科学の分野における世界レベルの研究者を養成します。

医学類
看護学類
医療科学類

医療科学類

College of Medical Sciences

学士(医療科学)

■ Bachelor of Medical Sciences

学士(国際医療科学)

■ Bachelor of International Medical Sciences

人材養成目的

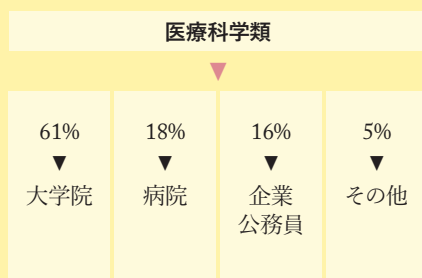
医学・医療の様々な分野で活躍するために必要な医科学の基礎的な知識、技能を修得し、医療人としての使命感と責任感を身に付け、将来、医療の向上と発展に貢献する医科学領域の研究・教育を推進する人材および診断や治療に必要な新たな技術の開発とその実践にかかわって高度専門医療を担う人材を養成します。

求める人材

医科学の分野に強い関心をいだき、医科学分野の研究や医学・医療分野の検査技術において国際的に活躍する意欲を持つとともに、チーム医療での役割を理解し、行動することができる柔軟性を持った人材を求めています。

卒業後の進路

卒業生は病院をはじめ、検査センターなどにおいて第一線の臨床検査技師として活躍しています。また、製薬、食品、化学関連の企業に就職し、その研究所で商品開発や研究で活躍することもできます。国際医療科学主専攻の学生は、卒業時に学士(国際医療科学)の称号が与えられます。また、3年次編入学生を除き、希望に応じ自由科目を選択することで、臨床検査技師国家試験受験資格を得ることもできます。なお、臨床検査技師の国家試験の合格率(新卒)は、令和2年度97%、令和3年度97%、令和4年度97%、令和5年度89%でした。



就職先の例

企業

GEヘルスケア・ジャパン株式会社、株式会社NTTドコモ、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、エドワーズライフサイエンス社、アークレイ株式会社など

病院

筑波大学附属病院、医療生協さいたま生活協同組合、埼玉県立病院機構、総合病院土浦協同病院、医療法人社団哺育会白岡中央総合病院など

官庁・自治体

茨城県警察本部

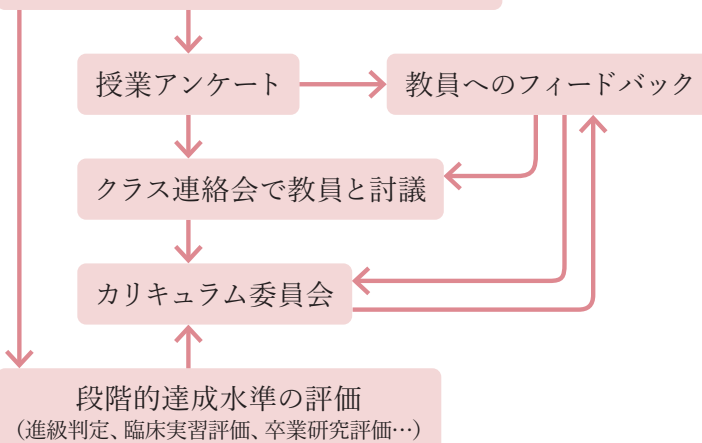
教育の質の保証と改善の方策

学生の学修目標の達成度を小テストと確認テストで評価するとともに、学期終了時に行う授業アンケートにより教育課程の評価を継続的に実施し、それに基づいて学生との教育の課程や内容の検討会を行い、教育の質を改善する材料としています。さらに年度ごとに具体的に設定した教育の質の改善を目的としたFDによる教育の改善の方策を実施し、その成果を評価しています。

教育の質の保証のため、主専攻を選択する3年進級時において進級判定を行い、学生の教育課程の達成度の確認を行っています。さらに臨床実習前に学修の達成度を確認するとともに、客観的臨床能力試験にて技能と態度を評価し、臨床実習を履修する能力を保証しています。医療科学主専攻においては学内模擬試験による臨床検査技師の国家試験への対策と個別指導を行い、卒業時には臨床検査技師としての能力を保証しています。国際医療科学主専攻では英語で専門科目を履修する能力の水準と医科学研究の基礎学力を確認しています。

教育の質の保証と改善の方策

授業・実習内容、成績評価法の明確化



学士（医療科学）

Bachelor of Medical Sciences

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ医学群医療科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（医療科学）の学位を授与します。

■ 人間に関する幅広い知識を身に付け、生命の尊厳と倫理を尊重する人間観を学んでいる。

■ 人間科学の学習に必要な基礎知識と技能ともに、人間の健康と疾病に関する医学的知識を修得している。

■ 臨床検査技術に関する基礎的な知識、技能を身につけ、臨床検査技師に必要な専門科目を修得して、臨床検査技師として備えるべき基礎学力、臨床能力ならびに倫理性を身につけている。

■ 医科学分野における研究開発を経験し、自ら研究を推進する幅広い基礎学力、情報収集能力ならびに自学自習能力を獲得している。

■ チーム医療の役割を理解し、臨床検査技師として行動する基礎能力と医療コミュニケーション能力を獲得している。

教育課程編成・実施の方針

学士（医療科学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

臨床検査分野の基礎的知識と専門知識、関連技能、倫理性、臨床検査技師として社会に貢献する姿勢と基礎能力を養うことを目的として、臨床検査技師教育に必要な科目を中心に広い検査技術分野の科目を配した教育課程を編成・実施しています。

順次性に関する方針

教養、理系基礎科目で構成する基礎科目および医科学の基礎科目で構成する専門基礎科目を学修した後に専門科目の学修にすすむようにしています。専門科目では臨床検査技師として必要な専門知識と技能の修得を目的とした科目を中心に授業、実習で構成し、その履修を終えた後、病院における臨床検査技師の実践力を養うために病院実習を、さらに医療人としてのチームワークを形成するための医学類、看護学類との合同科目を置いて医療人としての能力を学修するようにしています。また、臨床検査分野に加えて広く医科学各分野の研究の基礎を学ぶための卒業研究を設定しています。

実施に関する方針

医療科学主専攻へは3年次進級の際に選択します。基礎科目、専門基礎科目、一部の専門科目の学修状況により、進級判定を行います。病院実習は臨床検査技師として必要な専門知識、技能の科目修得を条件として認めています。

学修成果の評価に関する方針

医療人としての倫理性と人間性は、基礎科目の講義での学習成果について、試験等によってその到達度を客観的に評価します。人間の健康と疾病の理解は、専門基礎科目の講義・実習の学習成果について、試験やレポート等によってその到達度を客観的に評価します。臨床検査の知識

と実践力は、専門基礎科目の講義・実習の学習成果について、試験やレポート等によってその到達度を客観的に評価します。さらに臨床実習で学習成果の評価もあわせて行います。医科学の研究推進能力は、卒業研究の学習成果を面談、卒業研究発表及び卒業研究論文で評価します。チーム医療の理解と実践能力は、ケア・コロキウムと臨床実習での学習成果を評価します。

特色

検査技術を中心に医療分野での専門知識と技能、臨床・チームワーク能力を養う授業・実習を中心とした教育を提供しています。

カリキュラムの構造

	1年	2年	3年	4年
基礎科目	共通科目 専門科目			
専門基礎科目	人体構造学 人体機能学 医科生化学 医科分子生物学 電磁気学など	人体構造学実習 人体機能学実習 生化学実習 微生物学 保健衛生論など	医療科学主専攻 生理機能検査学実習 輸血学 凝固・線溶学 臨床薬理学 遺伝子検査学実習 病原微生物学実習 病態検査学など	卒業研究 臨床実習 医学検査学フロンティア
専門科目	医療科学概論	医学検査学 臨床病態学 細胞検査学 病理組織学 生化学成分検査学 血液検査学 免疫検査学 遺伝子検査学 医学物理学概論など		
国際医療科学主専攻				

▲
主専攻選択

学士（国際医療科学）

Bachelor of International Medical Sciences

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ医学群医療科学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（国際医療科学）の学位を授与します。

■ 人間に関する幅広い知識を身につけ、生命の尊厳と倫理を尊重する人間観を学んでいる。

■ 人間科学の学習に必要な基礎知識と技能とともに、人間の健康と疾病に関する医学的知識を修得している。

■ 医科学分野における研究開発を経験し、自ら研究を推進する幅広い基礎学力、情報収集能力ならびに自学自習能力を獲得している。

■ 医科学研究の原理と基本的な技術を身につけている。

■ 医科学の分野において世界的に活躍できる基礎学力、技能、研究コミュニケーション力を修得し、国際的な問題を解決するために学ぶ態度と探索能力ならびに対応立案能力を獲得している。

教育課程編成・実施の方針

学士（国際医療科学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

医科学分野の基礎的知識と専門知識、関連技能、想像力、倫理性、社会に医科学研究者としてグローバルに貢献する姿勢と基礎能力を養うことを目的として、医科学研究とコミュニケーション能力を養うための科目を中心とした教育課程を編成・実施しています。

順次性に関する方針

教養、理系基礎科目で構成する基礎科目および医科学の基礎科目で構成する専門基礎科目を学習した後に専門科目の学修に進むようにしています。専門科目では医科学研究に必要な研究法と英語での研究コミュニケーション能力を養うため英語による専門科目を多く配置しています。これらの専門科目を履修しながら研究とコミュニケーション能力の実践力を養うために長期間の卒業研究を設定しています。

実施に関する方針

国際医療科学主専攻への3年次進級の際には、基礎科目、専門基礎科目、一部の専門科目の学修状況と英語力により、進級判定を行っています。専門英語の修得と討議能力を養うため専門科目を留学生とともに履修し、医科学研究の基礎能力と

将来を先見した専門能力を養うために早期のうちから指導者について、長期間の研究演習と卒業研究を行います。

学修成果の評価に関する方針

生命科学の倫理性と人間性は、基礎科目の講義での学習成果について、試験等によってその到達度を客観的に評価します。人間の健康と疾病の理解は、専門基礎科目の講義・実習の学習成果について、試験やレポート等によってその到達度を客観的に評価します。医科学分野の知識と技術は、専門基礎科目の講義・実習の学習成果について試験やレポート等によってその到達度を客観的に評価します。医科学の

研究推進能力は、研究演習、卒業研究の学習成果を定期面談、卒業研究発表及び卒業研究論文で評価します。国際課題の理解と対応立案能力は、健幸医科学グループワーク、国際生命医科学研修、国際生命医科学、実践英語及び医科学専門語学での学習成果を評価します。

特色

国際医療科学主専攻は、留学生と共に英語の授業・実習により学び、医科学に関する専門知識と技能、想像力と学力を国際性の日常化の場面で身につけていく教育を提供しています。

カリキュラムの構造

	1年	2年	3年	4年
科目基礎	共通科目 専門科目		医療科学主専攻	
専門基礎科目	人体構造学 人体機能学 医科生化学 医科分子生物学 電磁気学など	人体構造学実習 人体機能学実習 生化学実習 微生物学 保健衛生論など	国際医療科学主専攻 医科学専門語学 医療科学特論Ⅰ&Ⅱ 医科学演習 研究演習など	卒業研究 臨床実習（選択）
専門科目	医療科学概論	医学検査学 臨床病態学 細胞検査学 病理組織学 生化学成分検査学 血液検査学 免疫検査学 遺伝子検査学 医学物理学概論など		

▲
主専攻選択

体育専門学群

School of Physical Education, Health and Sport Sciences

体育専門学群

School of Physical Education, Health and Sport Sciences

学士(体育学) ■ Bachelor of Health and Physical Education

体育専門学群

School of Physical Education, Health and
Sport Sciences

学士(体育学)

■ Bachelor of Health and Physical Education

■ 人材養成目的 ■

優れた運動技能と幅広い運動経験を基盤に体育・スポーツ、健康、コーチングに関する総合的な知識と最新の科学的知見を活かしながら、組織を的確にマネジメントして諸々の問題解決を図ることのできる知・徳・体を具備した体育・スポーツ界のリーダーを育成することを目的とします。

■ 求める人材 ■

体育・スポーツ、健康、コーチングに関する分野に強い関心があり、教養を高め運動経験の幅を広げるだけでなく、これまで身につけた運動技能や関連する知識をさらに高めて、体育・スポーツの国内的・国際的発展に貢献する情熱と意欲を持った人材。

卒業後の進路

卒業生の約25%が大学院に進学しています。大学院修了後も含め、教員、企業、公務員、NPO・NGOなど、体育・スポーツ界はもとより、幅広く各界に進出し国内外で活躍しています。

大学院進学例

■筑波大学大学院…人間総合科学研究群
■他大学大学院…東北大学、金沢大学、埼玉大学、上越教育大学

就職先の例

企業・団体

■スポーツ関連企業・クラブ…ミズノ、アシックス、横浜マリノス、清水エスパルス、ベガルタ仙台、水戸ホーリーホック、千葉ロッテマリーンズ、日本野球連盟(JABA)

■マスコミ・出版…NHK、フジテレビジョン、TBSテレビ、テレビ朝日、読売テレビ、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、ベースボール・マガジン社

■金融・保険…三井住友銀行、三菱UFJ信託銀行、みずほ銀行、常陽銀行、野村証券、日本生命保険、明治安田生命保険

■運輸・旅行…JR東日本、JR西日本、全日本空輸、日本航空、JTB法人東京

■商社・流通…丸紅、伊藤忠商事、住友商事、住金物産、双日、豊田通商、三越伊勢丹

■食品・医薬品…キリンビール、味の素、ロッテ、大塚製薬、アステラス製薬、資生堂

■機械・電機…トヨタ自動車、ヤマハ発動機、日立製作所、東芝、富士通、日本電気

■情報・通信…NTT東日本、NTTドコモ、ソフトバンクグループ、楽天、ヤフー

■建設・不動産…積水ハウス、清水建設、大東建託、タマホーム

■サービス…電通、博報堂、セコム、総合警備保障、国際警備保障

学校教員

■公立…全国各地の公立中学校・高等学校

■私立…茗溪学園中学校・高等学校、開成高等学校、ラ・サール高等学校・中学校、立命館中学校・高等学校

官庁・自治体・独立行政法人等

国立スポーツ科学センター、警視庁、県警、自衛隊、東京消防庁、つくば市、横浜市

教育の質の保証と改善の方策

■学生の学習意欲向上のための成績評価観点と基準を設定し、シラバスに明記して、教員と学生双方の共通理解の上に、授業の運営並びに成績の評価を行います。

■体育専門学群FD委員会を中心に、学生による授業評価と教員相互による授業参観などを実施し、その結果を授業改善の基礎資料として、担当教員にフィードバックします。また実技の映像や基本的な学習内容を特定のホームページにアップし、いつでも学生が自学自習できるようにしています。

■幅広い実技・指導能力と学力の修得状況を学生と教員が相互に確認し合い、教育と学習の方向性を明確にするため、実技検定を実施し、各自の運動能力と指導力の向上を支援する体制を整えています。

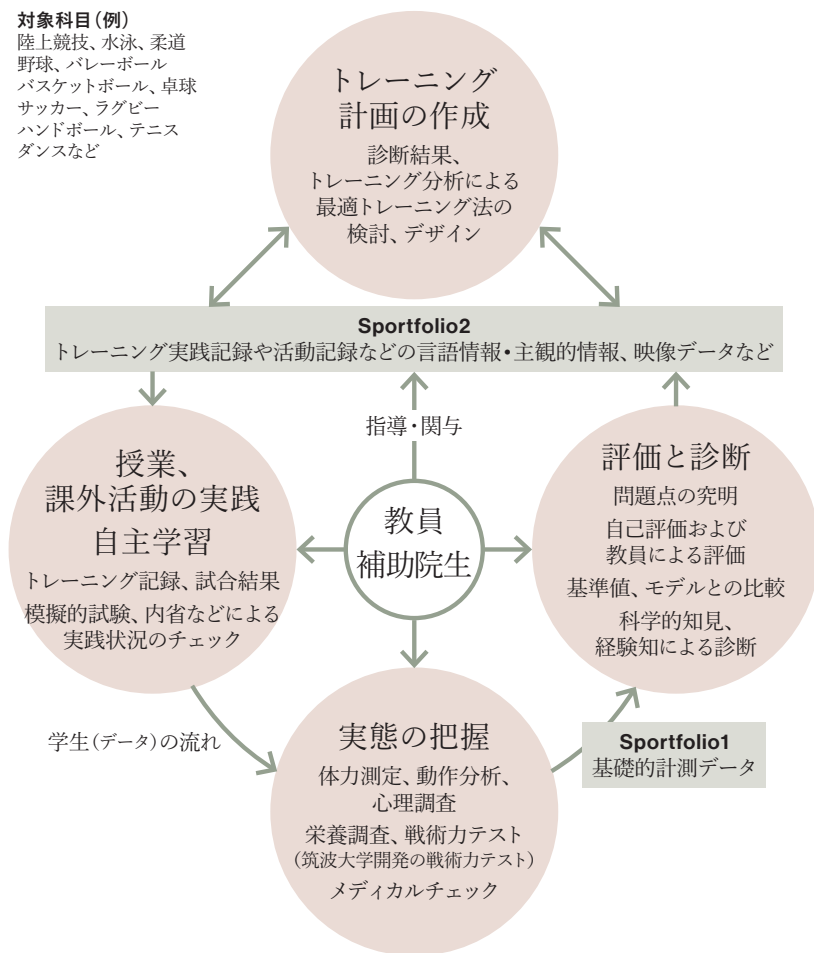
■大学院生と連携した演習を通して、質の高い授業を展開するとともに、大学院進学への意識を啓発します。

■大学と協定を結んでいる外部団体と連携して研修会等を実施し、国際交流や国際開発への意識を高めます。

ループ型教育システム(データ活用・実践的指導力向上へ対応)

対象科目(例)

陸上競技、水泳、柔道
野球、バレーボール
バスケットボール、卓球
サッカー、ラグビー
ハンドボール、テニス
ダンスなど



学士(体育学)

Bachelor of Health and Physical Education

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、かつ学群の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(体育学)の学位を授与します。

■幅広い運動に関する基本的な技能と初心者に対する指導力を身に付けている。

(関連するコンピテンス:コーチング学の理解、コーチング学の応用展開力)

■特定の運動種目に関する高い運動能力とアスリートに対する指導力を身に付けている。

(関連するコンピテンス:コーチング学の理解、コーチング学の応用展開力)

■体育・スポーツ、健康、コーチングに関する幅広い知識と理論を身に付け、それらを今後の社会との関係から体系づける能力を身に付けている。

(関連するコンピテンス:体育・スポーツ学の理解、健康体力学の理解、コーチング学の理解)

■体育・スポーツ、健康、コーチングに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる能力を身に付けている。

(関連するコンピテンス:体育・スポーツ学の分析能力、健康体力学の分析能力、コーチング学の応用展開力)

■嘉納治五郎先生の「精力善用・自他共栄」「一世化育」の理念を理解し、体育・スポーツ組織をマネジメントするためのリーダーシップやコミュニケーション力(外国語能力を含む)を身に付けている。

(関連するコンピテンス:キャリア形成力)

教育課程編成・実施の方針

学士(体育学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

主専攻は体育学1専攻です。体育・スポーツ、健康、コーチングに関する知識や理念の学習と運動実践や健康科学に関する演習を通して、体育・スポーツ界のリーダーに必要な知・徳・体を身に付けます。体育学を創設した嘉納治五郎先生の理念に触れつつ、これからの社会に必要な体育・スポーツのあり方についても追究します。

順次制に関する方針

■1年次及び2年次には、専門基礎科目を中心に、体育・スポーツ、健康、コーチングの分野にかかわる理論的な授業と臨海実習などの実技授業を通して、基礎的・総合的な知識と技能を身に付けます。嘉納治五郎先生の理念と行動についても学びます。また、運動実践に関する自身の課題を科学的データに基づいて分析するという学習を行います。この学習成果に基づいて、自らの履修計画やトレーニング実践を設計するとともに、自身の課題の解決のためのプログラムを創り出して、課題解決に取り組めます。

■3年次には、それまでに修得した実技レベルや学科レベルを自己評価・点検しつつ、体育・スポーツ、健康、コーチングに関するより専門的な理論を社会との関係と絡めて学修し、知識・技能および指導力のさらなる向上を図ります。また、自分自身の関

心の高いテーマを学問的に追究するために、卒業研究領域(38領域)の一つを選び、当該分野の最新の科学的知見を学修し、3、4年次で卒業論文を完成させることとなります。これは学群教育の到達点であると同時に、大学院進学への足がかりにもなります。

実施に関する方針

卒業研究領域の選択を含めて、各授業科目の選択は学生の自主性に任せられていますが、基本的な履修モデルを作成し、学修プロセスを示しています。本学群では、教育課程全体を通じて学生の課題解決学習が重視されており、特に実技授業においては映像データなどの豊富なデータベースが用意され、自学自習できるように工夫されています。

学修成果の評価に関する方針

学群全体としては、単位修得状況、卒業

研究、GPA、免許・資格の修得状況から、学群としての学修成果の達成状況を評価します。各授業科目については、試験、レポート、毎回のコメントペーパーの結果から、シラバスに設定された授業の目的および到達目標に照らして学修成果の達成状況を評価します。

特色

夏には、海外からの研究者の講義を英語で学ぶ機会が提供されているとともに、海外からの学生との交流も行われます。さらに本学群では課外活動としての運動部活動による教育も重視しています。課外活動では、自らの競技力の向上を図るとともに、専門性の高い科学的指導法を学びます。また、豊かな人間性と国際交流に貢献する姿勢を身に付けることも目指しています。

育成する能力とカリキュラム構成

1年	2年	3年	4年
専門基礎科目(約40単位) 体育学を専門的に学ぶ全ての学生に必要な最低限の基礎的知識と運動技能を学修する科目群		専門科目(約50単位)	
体育・スポーツ学関連科目(10単位) コーチング学関連科目(4単位) 健康体力学関連科目(10単位) 実技理論・実習(8単位)ほか		キャリア支援科目(10単位) 体育・スポーツの職業領域で活用される実践的な知識・技術を習得する科目群	
		分野別専門科目(10単位) 体育学を構成する個別専門諸学の専門的知識を発展的に学習する科目群	
		卒研究領域科目(14単位) 選択した研究領域の最新の知見や研究方法を習得する演習・実習型科目及び卒業研究	
		実技系科目(3単位) 専門とする運動種目の実技力と指導力のレベルアップを目的とする科目群	
基礎科目(約30単位) 総合科目、外国語、情報処理、国語など			
教職科目			

芸術専門学群

School of Art and Design

芸術専門学群

School of Art and Design

学士(芸術学) ■ Bachelor of Art and Design

芸術専門学群

School of Art and Design

学士(芸術学)

■ Bachelor of Art and Design

■ 人材養成目的 ■

学際的・国際的な視野と確かな学力を持ち、かつ柔軟な発想力と豊かな表現力を備え、創造的活力に満ちた美術及びデザインの専門家を養成することを目的とします。

■ 求める人材 ■

芸術を追求する熱意のある人材、社会的・国際的観点から創造活動にチャレンジする意欲のある人材、多領域に関わる知識や方法に基づいた美術・デザインによる表現によって社会に貢献する意欲のある人材を求めています。

卒業後の進路

卒業生の数だけ進路はあります

卒業生は、大学院への進学、企業への就職、あるいは独立した作家、デザイナーなど、様々な分野において自己を実現していきます。その一方で、社会から学群・大学院へと、再教育のため大学を訪れる者もいます。海外協定校への留学生の派遣など、芸術専門学群は開かれた大学として、社会との絶え間ない還流を促し、創造の場を活性化していきます。

就職先の例（大学院修了者を含む）

作家・デザイナー等

絵本作家、画家、各種デザイナー、建築家、書家、造形作家、彫刻家、都市計画家、プロデューサー、漫画家 他

企業

NEC、NHK、NHK出版、NTT Docomo、花王、兼松、カリモク家具、サイバーエージェント、サンリオ、シャンソン化粧品、松竹、SEGA、積水ハウス、任天堂、ソニー、ソフトバンクモバイル、ダイハツ、高島屋、デンソー、電通、東芝、凸版印刷、戸田建設、トヨタ自動車、日建設計、日産自動車、日本航空、乃村工藝社、パナソニック、バンダイナムコ、フレーベル館、ベネッセ、ホンダ、三越伊勢丹、森永製菓、リクルート、ロレアルジャパン 他

行政・自治体

国土交通省、特許庁、都市再生機構、横浜市、千葉市、つくば市、土浦市 他

大学教員・学校教員

筑波大学、東京藝術大学、東京学芸大学、千葉大学、信州大学、岡山大学、広島大学、高知大学、熊本大学、鹿児島大学、公立はこだて未来大学、秋田公立美術大学、多摩美術大学、京都精華大学、福岡教育大学、筑波大学附属駒場中・高等学校、茗溪学園中・高等学校、上野高等学校、他各県の高등학교 他

学芸員・研究員

福島県立美術館、茨城県近代美術館、東京国立博物館、東京国立近代美術館、奈良国立博物館、九州国立博物館 他

留学

アメリカ、カナダ、ドイツ、イタリア、スウェーデン、スイス、イギリス、オランダ、中国、台湾、オーストラリア、スペイン 他

教育の質の保証と改善の方策

教育の質の保証

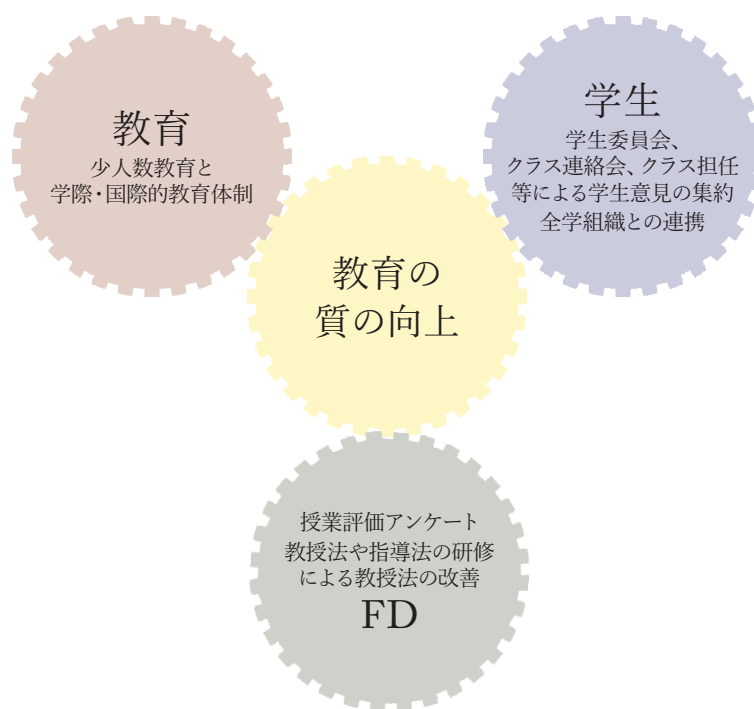
学内外の展覧会・研究会において積極的に作品や研究の発表を行うことを奨めています。その結果、学生は自身の力を認識し、教員は教育を客観視することができ、教育の質の向上につながっています。

教育改善への学生意見の反映

芸術ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会を中心に、学生による授業評価アンケート、教授法や学生指導法の研究・研修を行い、継続的に教育方法を改善しています。

また、芸術専門学群学生委員会、クラス連絡会、クラス担任、卒業研究指導教員によって丁寧に教育等に関する学生の意見集約を行い、全学組織のチューデントサポートセンター、保健管理センターなどと連携して、健康で有意義な学生生活がおくれるように支援しています。

教育の質の保証と改善の方策



学士（芸術学）

Bachelor of Art and Design

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ芸術に関する学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（芸術学）の学位を授与します。

創造的表現力

芸術に関する独創的で柔軟な発想や思考を、美術・デザインの専門的知識・技能を駆使して適切に表現できる。

問題解決能力

現代における美術・デザインに関する諸問題を自発的に見出し、習得した知識・技能を活用して柔軟な考察と的確な判断によって解決できる。

幅広い知識に基づく論理的思考力

学際的・国際的な教育による幅広い視野と専門的な知識・経験に基づき、多様な諸課題に対して論理的な思考ができる。

感性豊かなコミュニケーション能力

形による感性の発信力や感性を共有し協働する能力を培い、豊かでクリエイティブな人間関係を形成するコミュニケーションができる。

自律的・社会的な創造活動のための基礎力

社会における芸術の意義と役割を理解し、美術・デザインの専門家として自律的に創造活動を継続できる。

教育課程編成・実施の方針

学士（芸術学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

総合大学における芸術教育の場という特色を活かし、広く学際的な知性（汎用智）と、深い専門能力（専門智）に芸術的感性を統合した統合智を醸成し、創造性に溢れた美術及びデザインの専門家を育成します。

美術・デザインの諸領域の基礎を横断的に履修する専門基礎科目と、専門科目によって芸術の専門的基盤を形成します。さらに、学年や専門分野の枠を超えた横断的科目を配置することによって感性豊かなコミュニケーション能力を養います。

順次性に関する方針

基礎と専門が統合されたカリキュラム

1・2年次では、多様な専門に繋がる基礎科目を必修とし、芸術に関する創造的表現力、問題解決能力、論理的思考力を柔軟に使いこなす基盤を養います。また、専門領域の基礎を学ぶと同時に学際的・国際的な講義・演習を選択的に履修することで専門的な知識の活用力を養います。

3年次以降に、諸領域におけるより高度な専門科目の講義や演習・実習を通じ、多様な諸課題に対する論理的思考力と横断的知識を活かす卓越した表現力や説得力を養い、卒業研究へと結びつけます。

卒業研究

4年間の集大成である卒業研究は学生の自

立を保証するものです。卒業研究の指導では、学生自ら研究テーマを見出し、思考し、表現することにより、美術・デザインの専門家として自律的・社会的に創造活動を行う基礎力を養い、感性溢れる表現能力や感性を共有し豊かでクリエイティブな人間関係を形成するコミュニケーション能力を磨きます。基本的にすべての卒業研究は学外の公立美術館等で公開展示され、卒業研究作品集の公刊とともに社会の評価を仰ぎ、優秀作品は顕彰され大学に收藏されます。

実施に関する方針

■ 学生の個性を尊重した教育

芸術教育において学生の個性は最大限に尊重されるべきものです。諸領域における専門教育は可能な限り少人数クラスとし、対話を通して個性を伸ばす指導を行います。

■ 「現場」と繋がる授業

全学の学生・教員や市民と協働する学際的カリキュラムを配置し、企業、行政、美術館、教育現場等との協働や教育交流など、実務と直結した教育を実施し、時代に即した高いコラボレーション力と学際的な視野を持つ学生を育成します。

■ 創造的表現力と論理的思考力の両立

制作と論文執筆の二つを卒業要件とすることで、ものづくりの実践による創造的表現力と、客観的・論理的な思考方法を基盤とした確実な文章表現力の習得をめざします。

■ 世界的視野に基づく創造力の育成

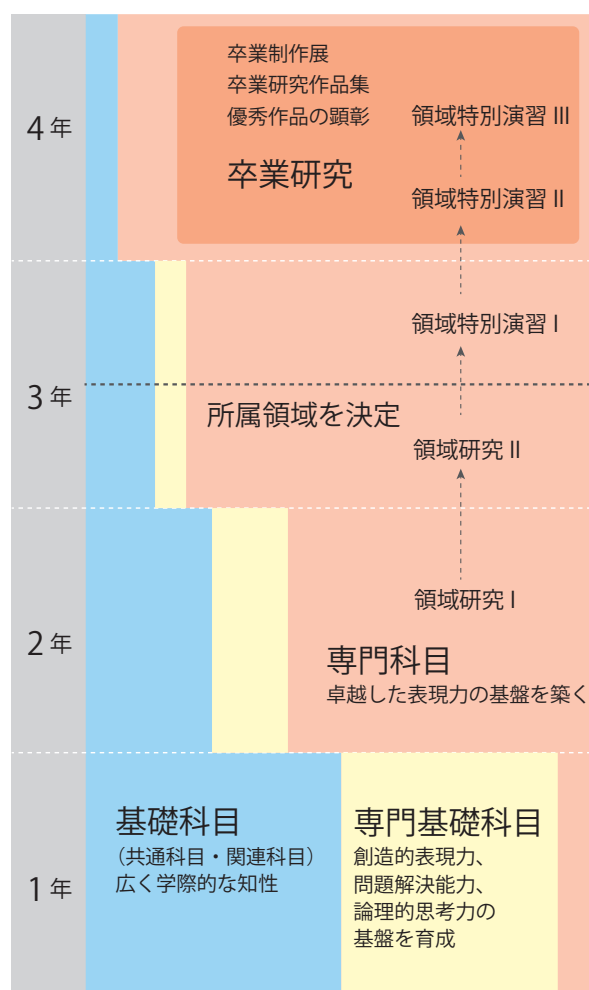
国際交流協定等に基づく交換留学や研究交流、作品交流展、国際インターンシップなどの機会を活用し、国際的コミュニケーション能力と世界的視野に立った創造力を育成します。

学修成果の評価に関する方針

学修の成果を集約または発展させた卒業研究（「論文」および「作品」、もしくは「論文」）によって評価する。また、卒業研究の公開展示や卒業研究作品集の公刊によって学外の評価を仰ぐ。

学際的な知性と深い専門能力に芸術的感性を統合した創造的人材

汎用智と専門智による総合智の醸成



学際サイエンス・デザイン専門学群(マレーシア校)

School of Transdisciplinary Science and Design (University of Tsukuba, Malaysia)

学際サイエンス・デザイン専門学群(マレーシア校)

School of Transdisciplinary Science and Design (University of Tsukuba, Malaysia)

学士(学術) ■ Bachelor of Arts and Science

学際サイエンス・ デザイン専門学群 (マレーシア校)

School of Transdisciplinary Science and Design
(University of Tsukuba, Malaysia)

学士(学術)

■ Bachelor of Arts and Science

人材養成目的

データサイエンスを基軸とし、自然科学、人文社会科学の考え方、技術を広く環境・社会問題等に適用し、デザイン思考を踏まえつつ創造的に地球規模課題解決に貢献する人材を育成します。

求める人材

1. マレーシア及び東南アジア域等において顕在化する地球規模課題とその解決に、強い関心と意欲を持っている。
2. 地球規模課題解決のために自然科学及び人文社会科学を学ぶことに関し、関心と意欲を持っている。
3. 客観的なデータや資料に基づき情報の適否を判断し、自身の考え方を合理的にまとめることに関し、関心と意欲を持っている。
4. 日本語や日本文化に関心を持つとともに、多様な価値観や考え方を尊重することができる。

想定される卒業後の進路

- ・日本国内、あるいはマレーシア国内の大学院(情報科学、人文社会科学、生命科学、環境科学、教育学、スポーツ科学、理工学等)へ進学する。
- ・マレーシアの日系企業、あるいは日本国内の企業に就職する。
- ・マレーシア国内の政府系機関・団体・企業等に就職する。

教育の質の保証と改善の方策

本専門学群における自己点検・評価を行うPDCA 委員会を設置しています。この組織は、本専門学群の教育研究活動の改善及び質の向上を図るため、

- ① 教学マネジメント室が実施する教学関係の評価項目に関する自己点検及び質向上提案
- ② 本学の組織評価委員会が実施する組織評価項目に関する自己点検及び質向上提案
- ③ 質保証に関する定量的・定性的データの継続的な収集
- ④ その他必要と考えられる事項についての取組

を行います。上記①及び②の質向上提案は、本専門学群内において対応する事項を担当する委員会に対して行われ、当該委員会はその提案に基づき改善アクションをとります。このようにして、本専門学群内における質の保証と向上に関するPDCA サイクルを確立します。

学士（学術）

Bachelor of Arts and Science

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本専門学群の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（学術）の学位を授与します。

■ データサイエンスを理解し利活用できる能力が身についている。

■ 地球規模課題解決の観点から、自然科学、人文社会科学を理解し利活用できる能力が身についている。

■ 環境学を理解し地球規模課題解決のために利活用できる能力が身についている。

■ 多様な他者に敬意を払いつつ円滑なコミュニケーションをとる能力が身についている。

■ 日本文化や伝統の理解を通じた多様な価値観に基づき思考する能力が身についている。

教育課程編成・実施の方針

学士（学術）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

■ 人文社会科学の基礎、日本文化と社会の理解、自然科学の基礎、データサイエンスの基礎学理となる数学やプログラミング、統計の基礎と応用に関する授業科目を設定する。特に、データサイエンスを基軸として思考・実践できるようにするための配慮として、情報リテラシー及びデータサイエンスを1年次に配当した後、これらの科目で修得した内容を、課題解決型学修を行う科目で利用・応用するようにして経験を積むことでデータサイエンスを深く理解するためのレディネスを涵養し、3年次でデータサイエンスに関連して基礎となる数学を配置することで理解を深められるようにする。

■ 時事課題に関する論考や課題解析、課題解決法の提案などに関する演習を、課題解決型学修で実施する授業科目として構成し、十分な学修量（単位数）を確保して設定する。これらの演習は入学当初から3年次まで配当する。4年次は3年次までに涵養した能力と、学生各自が選択した問いを探究すべく卒業研究を実施する。

■ 本学で定める共通科目として必要な総合科目3科目、体育、外国語、情報リテラシーとデータサイエンスを配当し、本学学士課程において共通に修得すべき能力を涵養する。

■ マレーシアにおける高等教育政策に基づき、マレーシアの社会や言語等に関する科目を配当する。

■ データサイエンスを基軸として各授業科目間の連携を明確にし、自然科学基礎、人文社会科学基礎、日本語と学問等の専門基礎科目で学んだ知識、技術が、時事課題解析演習、時事課題解決法提案演習等の課題解決型学修において有用であることを学生が理解できるようにする。

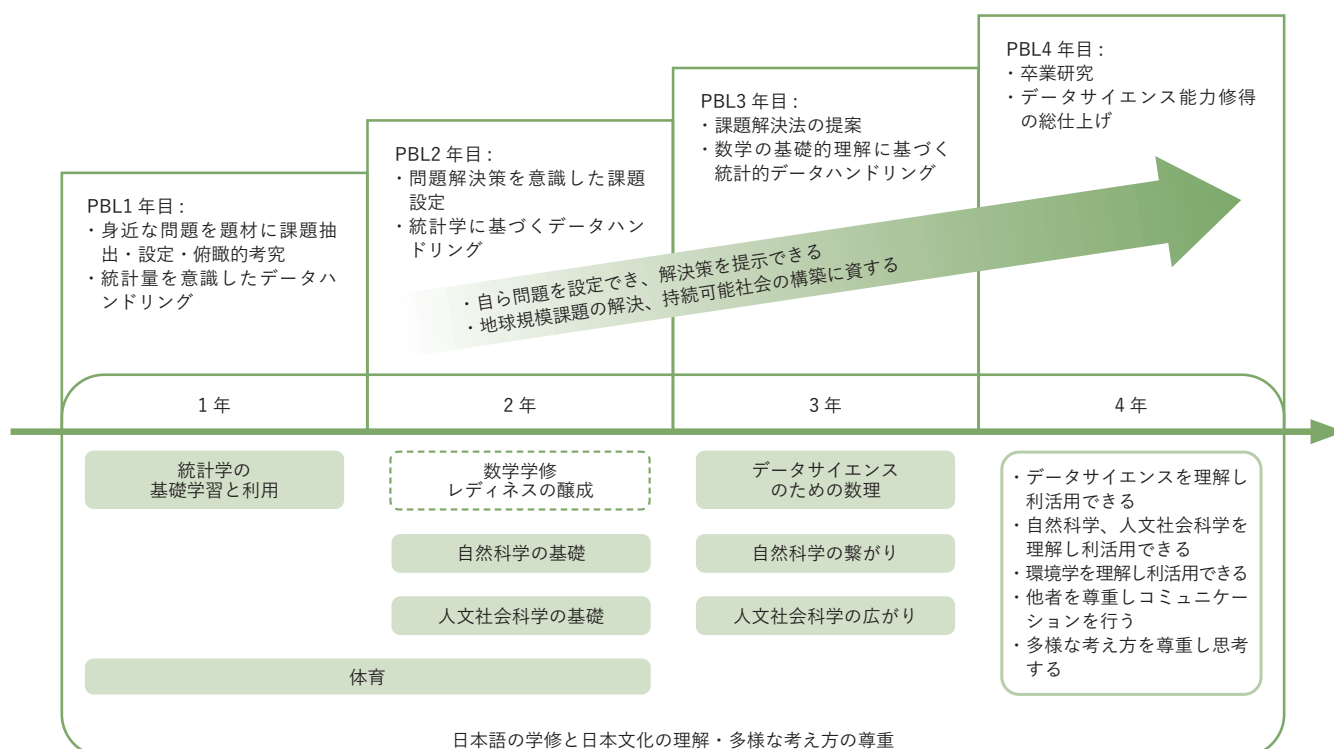
■ 課題解決型学修を行う科目及び卒業研究の各年次末において、学修成果を報告する発表会を実施する。各学生には、学修成果が可視化できるレポートを提出させ、また学修成果に関する口頭発表を課す。

これらの内容により各学生の学修成果を評価する。

教育課程の特色

本専門学群の人材養成目的を達成するため、特にグローバリズムの世界において地球規模で生起する諸課題に対して解を見つけられるように、科学的エビデンスに基づきデータサイエンスによって抽出・特定する能力を涵養するべく、課題解決型学修(Problem Based Learning: PBL)を教育課程の中で多く取り入れます。こうして実社会での実装も視野に入れた具体的な解決策を提示できる能力を育成することに重点を置きます。

課題解決型学修 (PBL: Problem Based Learning) を中心にしたカリキュラム



グローバル教育院

School of Integrative and Global Majors

地球規模課題学位プログラム

Bachelor's Program in Global Issues

学士(学術) ■ Bachelor of Arts and Science

地球規模課題 学位プログラム

Bachelor's Program in Global Issues

学士(学術)

■ Bachelor of Arts and Science

■ 人材養成目的 ■

本学位プログラムは、地球規模課題全般を俯瞰する幅広い基礎知識を身に付け、人間と環境に関する課題を解決するために分野を超えて必要な情報・技術を自ら意欲的に求めていく姿勢を持ち、多くの選択肢の中から最適な解決を意思決定できる人材を養成します。

■ 求める人材 ■

地球環境(気候変動、自然破壊、公害等)、人類社会(食糧、貧困、長寿社会等)の問題に関心を持ち、文系及び理系の知識を活用しながら、将来、国内外のグローバル企業、国際機関等で社会に貢献できる、又はイノベーションに貢献できる人材を求めます。

卒業後の進路

卒業生の約3割は筑波大学を含む国内外の大学院に進学しています。また、商社、製造業、コンサルティング、教育系の企業に就職しています。

教育の質の保証と改善の方策

運営体制

プログラム全体の活動を統括する教育会議の下に運営委員会を置き、さらに下部組織として入試委員会、カリキュラム委員会、広報委員会、学生委員会、国際連携委員会を置き、各種の課題に対応します。

教育指導体制

学位プログラムに参画する教員は、Faculty Development (FD)・Staff Development (SD) 研修会において、学位プログラムの人材養成目的、カリキュラムポリシー、教育指導法、成績評価等について意見交換・討論を行い、共通認識を持って教育に当たります。また学位プログラムに関係する教職員の協力関係の構築及び学生指導活動の一層の充実を図ります。

教育指導

授業は英語による少人数教育で行い、課題解決型学習 (Problem Based Learning) を主体とした授業を多く取り入れています。また、国際基督教大学との連携により、同大学で英語による基礎科目 (教養教育科目) を履修します。なお、学生が科目を履修するにあたっては、事前に履修モデルを提示するとともに、学生個々にきめ細かい履修指導を行います。

学生の意見反映

プログラムコーディネーターが日々学生と接しており、各学生の意見を頻繁に聴取する機会があります。課題については各種委員会等で検討のうえ、改善を図ります。

地球規模課題学位プログラム (学士) の専門分野

領域	柱となる視点	専門分野
環境	地球環境	環境学、地球科学、地理学、社会科学
	リスク・安全	社会工学、安全システム科学、総合工学
人間	社会共生	人文学、社会科学、哲学、言語学、政治学
	人の健幸	スポーツ科学、衛生学、社会医学

学士（学術）

Bachelor of Arts and Science

学位授与の方針

筑波大学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ地球規模課題学位プログラムの人材養成目的に基づき所定の年限在学し、所定の単位数を修得した者に学士（学術）の学位を授与します。学位プログラムの卒業にあつては、以下の各号に到達していることを目標とします。

■ 文理融合の立場から、地球規模課題を俯瞰できる幅広い知識を修得していること。

（関連するコンピテンス：基礎的知識、情報解析力、専門的知識）

■ 地球規模課題に関して、体系的な専門知識を身に付け、多角的な視点から総合的に分析し、創意工夫によって課題解決に取り組む能力を修得していること。

（関連するコンピテンス：基礎的知識、情報分析力、専門的知識、問題発見・解決能力）

■ グローバル社会において自分自身の見解を論理的かつ説得的に主張しつつ、他者の意見にも十分耳を傾ける柔軟なコミュニケーション能力を有し、異分野・異文化の環境において積極的にリーダーシップを発揮し、社会に貢献できる能力を修得していること。

（関連するコンピテンス：論理的コミュニケーション能力、問題発見・解決能力、提言力）

■ グローバル社会における高い倫理観及びダイバーシティに関する理解能力を修得していること。

（関連するコンピテンス：基礎的知識、専門的知識、問題発見・解決能力）

教育課程編成・実施の方針

学士（学術）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

教育課程編成方針

地球規模課題を俯瞰するという明確な目的をもった総合的な知識を修得し、課題解決のために必要な情報を自ら収集し分析する能動的姿勢を身に付け、グローバルな交渉力とマネジメント力を培う教育課程を編成します。

総合的な方針

身近な事柄から環境と人間に関する地球規模課題に取り組む姿勢を身に付け、演習・実習を通じて課題解決に必要な専門知識と汎用スキルを学び、卒業研究あるいは長期実習により社会に貢献できる発信力のある専門研究を深めます。

順次性に関する方針

■ 1年次は共通科目、専門基礎科目の履修を通じ、地球環境、人類社会の幅広い基礎知識を学んでいきます。

■ 2年次では、基盤演習・実習の履修により、地球環境、リスクと安全、共生社会、健幸課題に関する基礎的知識・応用スキルを身に付け、グローバル化する地域社会の諸問題を分析できるようにします。

■ 3年次では、発展演習・実習の履修により、地球環境、リスクと安全、共生社会、健幸課題に関する専門知識・応用スキルを深め、世界の諸問題を分析できるようにします。

■ 4年次では、総合演習・実習および卒業研究または長期実習を通じて、各自が特定プロジェクトに取り組み、決断力と発信力を鍛え、卒業後のキャリアを準備します。

実施に関する方針

1年次は「地球規模課題リテラシー」の涵養により地球規模課題の共通基盤を作ります。2年次、3年次は4つの主課題の課題解決型学習(Problem Based Learning)とオンザジョブトレーニング(On-The-Job Training)により専門知識・スキル、汎用知識・スキルを修得していきます。4年次は各自の適性を生かした専門性の高い特定プロジェクトを立て実行します。

学修成果の評価に関する方針

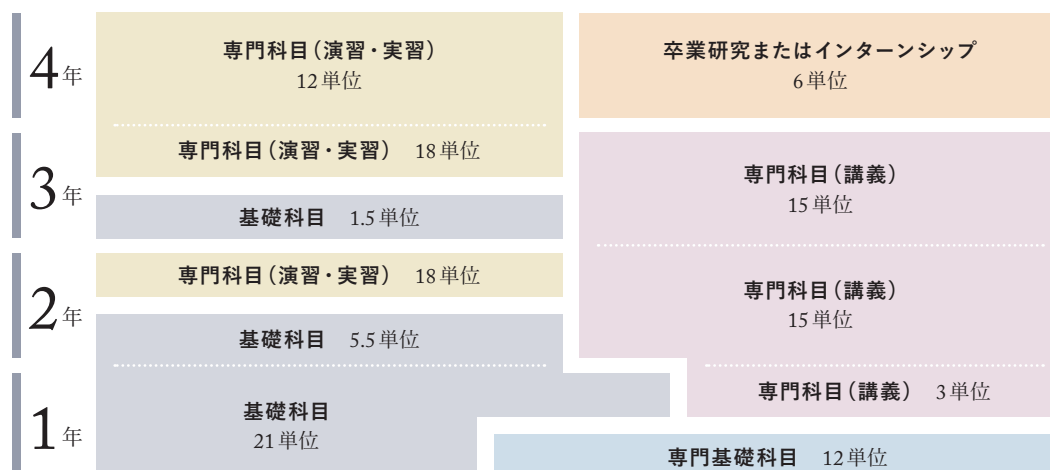
カリキュラムに沿った科目の単位を取得し、汎用コンピテンス並びに専門コンピテンスが身に付き、地球規模課題に取り組む学

士(学術)にふさわしい見識、俯瞰的に把握する能力、課題を解決に導く能力を有しているかを評価します。卒業研究または長期実習では、課題の発見力、課題解決能力、研究または実務実施能力などを評価し、卒業研究発表会においてプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、質問に対応する能力などを確認し、汎用・専門コンピテンスが養われているか総合的に評価します。

特色

本プログラムは、すべて英語で課題解決型学習(Problem Based Learning)を実施します。専門科目は全学群から幅広く履修ができます。また、国際基督教大学との連携により、同大学において英語による基礎科目(教養科目)を履修します。

カリキュラムの構成



筑波スタンダード

筑波大学は、学士課程教育と大学院教育に係る2つの「筑波スタンダード」を策定し、本学の教育宣言として広く社会に公表しています。

Ⅰ学群スタンダード

学士課程の教育目標とその達成に向けた全学的方針を掲げるとともに、教養教育の目標とその達成に向けた具体的な教育内容、各教育組織における学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針、教育の質の保証の方策等を明示しています。

Ⅱ大学院スタンダード

大学院の教育目標とその達成に向けた全学的方針を掲げるとともに、各教育組織における学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、教育の質の保証の方策等を明示しています。

筑波大学

ホームページ <http://www.tsukuba.ac.jp/>
住所 〒305-8577
茨城県つくば市天王台1-1-1

学群スタンダード

発行日 令和7(2025)年4月
編集・発行 筑波大学教育推進部



筑波大学

University of Tsukuba